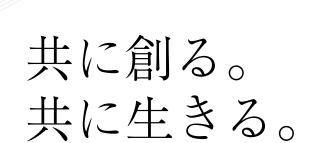
# **Daiwa House** Group

Corporate Social Responsibility Report 2009 Detailed Version





大和ハウスグループ **CSRレポート2009** 詳細版



# 大和ハウスグループのCSR活動のご報告にあたって

## 大和ハウスグループのCSR活動

# 「共に創る。共に生きる。」を テーマに、CSR活動を 推進しています。

当社グループは、「共に創る。共に生きる。」をテーマに、当社グループに関わるさまざまなステークホルダー(利害関係者)を意識し、企業市民として社会の要請に応え続けることで、社会から求められるCSR活動を推進しています。当社グループは持続可能な社会の構築に向け、社会的課題の解決に積極的に取り組んでいます。

#### 共に創る。共に生きる。

建築を通じて社会と共にあること、生活の サービスを通じて暮らす人と共にあること。

私たちはこの「共創共生」の精神を基本姿勢に、社会と向き合うことが大切であると考えています。この精神こそ当社グループの原点であり、「人・街・暮らしの価値共創グループ」として、住宅をはじめ商業建築、ホテル、リゾート、医療介護などを通じ、社会に新しい価値を築きます。

## CSR活動をご報告するための方針

# 冊子とwebサイト一体で、 大和ハウスグループの CSR活動についてご報告します。

昨年度に引き続き、冊子(ダイジェスト版)とwebサイト(詳細版)に分けることで、それぞれの特性を活かした情報開示を目指しました。

冊子では「読みやすさ」を追求し、当社グループが特に 大切であると考えているテーマについて掲載しています。

webサイトでは具体的な取り組み内容やデータなど、より詳細な情報を掲載することで幅広いステークホルダーに対応できるご報告に努めました。

活動の 詳細情報 重要度の高い 活動テーマ

# 活動の改善へ

## 皆さまからのご意見

当社グループへのご意見・ご要望を、 今後のCSR活動やご報告の改善に 活かしています。

CSR活動の指標である「CSR自己評価指標」は、ステークホルダーミーティング等でいただいたご意見・ご要望をもとに適宜改定を行っています。本冊子の特集2(P.49~P.55)では今回の改定内容とともに、同指標の各分野に沿った取り組みをご報告しています。

# 報告の改善へ

#### 社外からのご意見を聞く機会の一例



- ●ステークホルダーミーティング
- ●社団法人 企業研究会 CSR推進フォーラム
  - →本冊子 P.51~P.52に掲載
- ●本レポートへの第三者意見 →本冊子P.213~P.214に掲載





# http://www.daiwahouse.co.jp/csr/

#### webサイト(詳細版)

詳細な情報・データを



#### PDF(詳細版)

冊子形式での閲覧・



## 詳細を webサイトでご報告



重要度の高い テーマについて 冊子でご報告

冊子(ダイジェスト版)

#### 想定している読者対象

お客さま、株主・投資家、お取引先、従業員、地域社会、NPO・NGO、行政など幅広いステークホルダー(利害関係者)を対象としています。

#### 報告対象組織

大和ハウス工業を中心に大和ハウスグループ全体(2009年3月31日現在、連結子会社56社および持分法適用関連会社13社)について報告しています。

#### 報告対象期間

2008年度(2008.4.1~2009.3.31)を基本として、必要に応じて2007年度以前・2009年度以降の活動内容も掲載しています。

#### 発行日

2009年7月 (次回発行予定:2010年7月)

#### 参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2007年度版)」、GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティリポーティングガイドライン第3版」 \*本レポートとこれらのガイドラインとの対照表を、webサイトに掲載しています。

#### 将来の見通しに関する注意事項

本レポートには当社グループの過去から現在までの実績や事実のみならず、経営方針に基づく将来予測・計画などが含まれています。これらは、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、実際の業績や活動結果はその後の経営環境の変化により将来予測や計画と異なったものとなる可能性が含まれます。読者の皆さまには、以上をご了承いただきますようお願いします。

#### |本レポートについてのお問い合わせ先

#### 大和ハウス工業株式会社

CSR推進室 TEL:06-6342-1435 / 環境部 TEL:06-6342-1346

# 大和ハウスグループCSRレポート2009 詳細版 目次



CSR経営の基盤	CSRマネジメント
■ トップコミットメント	■ CSR自己評価指
●会長から皆さまへ ———— □ P.5~	■ 指標改定のプロ
●社長から皆さまへP.7~	CSR自己評価指
■ 理念体系 ————————————————————————————————————	課題と改定ポイ
■ 従業員一人ひとりが支える	社外からのご意
コーポレート・ガバナンス	■ CSR自己評価指 2008年度実績と
■ CSR推進組織体制	分野別の実績
■ コンプライアンス・リスクマネジメント	■お客さまとの共和
■ クライシスマネジメント	●特集:個客思
■ サプライチェーン・マネジメント	→ 小来・岡石心 ~ハット
	●CS理念、CS
東帯なるだと社会的調照の紹介	●品質へのこだ
事業を通じた社会的課題の解決	•品質保証体
■ 特集:ストック型社会の形成に向けて	・設計品質と放
~長期優良住宅~	・設計品質と放
■ 建物の安全と長寿命化に向けて —	・設計品質と放
●[地震から建物を守る]	●長期保証とア
●[物理的劣化から建物を守る]	・長期保証と
●[社会的劣化から建物を守る]	・長期保証と
■ 防犯に配慮した住まいと街づくり —	・アフターサー
●防犯配慮の住まいづくり	●お客さまとの!
<ul><li>●防犯配慮の街づくり</li><li>■ 住宅の資産維持につながる街並み保全をサポート — □ P.32~</li></ul>	・ダイワファミ
●[事例]阪南スカイタウンB1地区	<ul><li>オーナー会(</li></ul>
●[事例]	<ul><li>テナント会(</li></ul>
●札幌駅前再開発	■ 株主・投資家と
<ul><li>● 小院が前内開光</li><li>■ 少子高齢社会に向けた住まいと施設づくり- ○○ P.34~</li></ul>	●特集:IR活動を
●フレンドリーデザイン	●積極的なIR活
●少子高齢社会の多様なニーズへの対応	●決算の方針
●少子高齢社会に向けた産官学連携	■ 取引先との共創
●ロボットスーツ事業への参画	●特集:取引先
■ 健康に配慮した住まいづくり — P.38~	~大和
●空気環境への配慮	●資材調達先と
●健康管理支援への取り組み	●施工協力先と
●睡眠環境の向上に向けて	●設備機器調達
■ 通信インフラの構築に向けて — P.42~	●作業環境の労
●「サービスインフラ」として住まいのあり方を追究	●適正な支払い
~ホームサーバーの研究と開発~	■従業員との共創
■ 食の安全・安心に向けて	●特集:ワークラ
●食品衛生技術顧問団との連携サポート	~いき!
●HACCP(ハセップ)高度化認定支援	●雇用と処遇
■ 健康や自然を志向したスローライフをサポート — <u> </u>	●人権尊重
●田舎暮らしの定住サポート(森林住宅)	●健康への配慮
●健康志向のライフスタイルを支援(スポーツクラブ事業)	●人財育成
●カンボジア井戸掘りツアー	●働きやすい職
■ 中国における取り組み — □ P.47~	■社会との共創共
●「住まい」の質の向上	●特集:地域密
	~浜松

	V
CSRマネジメント	
■ CSR自己評価指標とは ————	— ∭ P.49~
■ 指標改定のプロセス ――――	— ∏ P.50~
CSR自己評価指標の設定方法、	
課題と改定ポイント	
社外からのご意見	
■ CSR自己評価指標 2008年度実績 ——	— ∭ P.53~
2008年度実績と2009年度目標	
分野別の実績	
■ お客さまとの共創共生	— ∭ P.56~
●特集:個客思考のソフト提案	
~ハッピーハグモデル~	
●CS理念、CS委員会	
●品質へのこだわり	
• 品質保証体制	
・設計品質と施工品質(戸建住宅・賃貸	住宅)
・設計品質と施工品質(マンション)	
・設計品質と施工品質(商業施設・業務	孫施設)
●長期保証とアフターサービス	
・長期保証とアフターサービス(戸建住宅	·賃貸住宅)
・長期保証とアフターサービス(マンショ	
・アフターサービス体制(商業施設・業績	
●お客さまとのリレーション体制	
・ダイワファミリー倶楽部(住宅)	
<ul><li>・オーナー会(集合・流通)</li></ul>	
<ul><li>・テナント会(流通)</li></ul>	
■ 株主・投資家との共創共生 ————	—
●特集:IR活動を推進するためのコミュニケー	
●積極的なIR活動	7 47 2215
●決算の方針	
■ 取引先との共創共生	—
●特集:取引先とのWin-Winの関係を深	
∼大和ハウス工業協力会連合会~	
●資材調達先との関係	
●施工協力先との関係	
●設備機器調達先との関係	
●作業環境の労働安全	
●適正な支払い	
	— ∭ P.86~
●特集:ワークライフバランスの推進	LL P.00.
~いきいきと働くために~	
●雇用と処遇	
●人権尊重	
●健康への配慮	
● 人財育成	
●人別自成 ●働きやすい職場	
■ 社会との共創共生	_ Mass
● 柱芸との共創共生 ●特集:地域密着型の社会貢献活動	— ∭ P.96~
●特集・地域出有型の社会員駅店期 〜浜松支店の取り組み〜	
●社会貢献活動の総括	

# http://www.daiwahouse.co.jp/csr/

- ●社会貢献活動【環境】
- ●社会貢献活動【福祉】
- ●社会貢献活動 【教育】
- ●社会貢献活動【その他】
- ●義援金·募金活動
- ●今後に向けて
- 環境との共創共生 -

P.112~

- ●特集:持続可能な都市基盤のために
  - ~環境に配慮した建築~
- ●環境ビジョン
- ●環境マネジメント
  - ・環境マネジメント体系
  - ・ 社長表彰制度の創設
  - ・環境マネジメントシステムの拡大
- ●環境負荷マテリアルフローと環境会計
- ●エンドレス グリーン プログラム2010の実績と自己評価
  - •基本方針
- ●地球温暖化防止への取り組み
  - ・考え方、実績・自己評価
  - ・事業活動プロセスの取り組み

考え方、実績・自己評価

自社施設への自然エネルギーの導入

(事務・建設系部門)

事務部門の取り組み

車両部門の取り組み

生産部門の取り組み

輸送部門の取り組み

施工部門(住宅事業、商業建築事業)の取り組み グループ会社(大和リース・ダイワラクダ工業)の取り組み

(サービス部門)

リゾート・スポーツ施設の取り組み ホームセンターの取り組み

ショッピングセンターの取り組み

都市型ホテルの取り組み

物流サービスの取り組み

・商品・サービスの取り組み

考え方、実績・自己評価

戸建住宅事業の取り組み

賃貸住宅事業の取り組み

マンション事業の取り組み

住宅リフォーム事業の取り組み

商業建築事業の取り組み

環境エネルギー事業の取り組み

- ●廃棄物削減への取り組み
  - ・考え方、実績・自己評価
  - ・生産部門の取り組み
  - ・施工部門(住宅事業、商業建築事業)の取り組み
  - ・グループ会社(大和リース・ダイワラクダ工業)の取り組み
- ●資源保護(水)への取り組み
  - ・考え方、実績・自己評価
  - リゾートホテルの取り組み

- ・都市型ホテルの取り組み
- ・スポーツ施設の取り組み
- ●有害化学物質削減への取り組み
  - ・考え方、実績・自己評価、マテリアルバランス
  - ・生産部門(住宅事業、商業建築事業)の取り組み
  - ・グループ会社(大和リース・ダイワラクダ工業)の取り組み
- ●グリーン購入・調達への取り組み
  - ・考え方
  - ・グリーン購入の取り組み
  - ・グリーン調達(住宅事業、商業建築事業)の取り組み
- ●自然環境との調和~生物多様性保全に向けて~
  - ・考え方

豊かな自然環境の維持保全 サプライチェーンを通じた森林育成 自然と調和した街づくり

・住宅事業の取り組み

環境共生住宅の推進

- ・商業建築事業の取り組み
- ●環境コミュニケーション
  - ・考え方

環境行動スローガンの策定

- ・環境情報の発信
- ・展示会、環境関連イベントへの出展
- ・次代を担うこどもたちとの対話
- ●環境リスク低減
  - ・考え方、法規制管理のフロー
  - 廃棄物管理
  - •土壌汚染対策
  - •大気汚染防止
  - •水質汚濁防止

#### サイトレポート

東北工場/新潟工場/栃木二宮工場/竜ヶ崎工場/中部工場/三重工場/奈良工場/堺工場/岡山工場/ 九州工場/鹿児島工場

#### <u>グループ会社の活動</u>

P.217~

大和リビング/ダイワハウス・リニュー/日本住宅流通/ ダイワラクダ工業/大和リース/大和情報サービス/ダイワロイヤル/ 大和小田急建設/大和リゾート/ダイワロイヤルゴルフ/ 日本体育施設運営/ロイヤルホームセンター/大和物流/エネサーブ/ 大和エネルギー/伸和エージェンシー/大阪マルビル/ロック開発

第三者意見

P.213~

ガイドライン対照表

業績ハイライト

P.227

CSR活動のあゆみ

大和ハウスグループの概要

**Ⅲ** P.215~

主な受賞歴



#### Commitment 1

# 量的確保から質的充実へ、住み継がれる住まいと街を創る

米国の金融危機に端を発した世界同時不況は、雇用 情勢の悪化をはじめ日本経済に大きな打撃を与えました。また高齢社会の到来や温暖化に代表される地球環境 問題など、多くの社会問題が顕在化しています。

そのようななか、大和ハウスグループはさまざまなステークホルダーと共に新しい価値を創造していく「人・街・暮らしの価値共創グループ」として、社会的課題の解決を目指した事業活動に注力しています。

これまでの日本の住宅産業は、経済成長を背景としてスピーディーに効率よく住宅を供給していく住まいの「量的確保」に重点を置いていました。しかし、いまや日本では住宅戸数が世帯数を上回り、今後は人口の減少も予想されていることから、住宅供給の力点を「量的確保」から一層の「質的充実」へと移していく必要があります。また、それには耐震強度やメンテナンスしやすい構造など建物単体の問題だけに取り組むのではなく、環境共生や美観を備えた街づくりなど総体的な視点も必要です。これら社会的課題に対し事業を通じて答えを出していくことは、まさに当社グループにとってCSRの実践そのものであると考えています。

当社グループは、住宅産業におけるこのような課題を解決するため、"住み継ぎ"をコンセプトに『長期優良住宅』の創出に取り組んでいます。(詳細は特集1/P.22~P.26)「いつまでも愛着をもって世代を超えて住み継いでいける」あるいは「建物自体の資産価値を維持したまま第三者への転売を可能にする」そういったモデルを具現化するために、耐久性・耐震性・省エネなどハード面での基本性能を重視するとともに、家族構成やライフスタイルの変化に対応できる住宅にも注力しています。このような私たちの提案は、国土交通省が推進する「長期優良住宅先導的モデル事業」としても採択されました。

# 社会にとって必要と

当社グループは、暮らしのさまざまなシーンに関わる事業を展開して、住まいづくり・街づくりに取り組んでいます。今後も「長期優良住宅」の計画的な普及に努め、豊かなコミュニティを構築できる自然環境と調和した持続可能な街を創造します。併せてリフォーム事業を強化することで、良質なストック社会の構築を進めていきます。

#### Commitment 2

# 社会的課題を見据えた新しい価値を創造する

当社グループは、住宅だけではなく、近い将来求められるであろう社会のニーズに応えていくため新規事業の拡充にも取り組んでいます。

特に深刻さを増す「地球温暖化」に対する取り組みの一つとして、2009年4月に「環境エネルギー事業部」を新たに発足させました。現在、CO2排出量を大幅に削減できる「白色LED照明システム」や、既存の蛍光灯とセットで活用する「高効率反射板」などの省エネ・省CO2商品の普及を進めています。

今後は、これらの商品に加えて、太陽光発電システムやエネルギーの「見える化」サービスなどの拡充を図るとともに、既存事業との連携を強化することによって、「環境負荷の低減」と「快適な暮らし」の両立に貢献していきます。(詳細は特集2/P.113~P.116)

また、以前からの取り組みである「リチウムイオン電池」や「ロボットスーツ」、「農業の工業化」をさらに推し進めるなど、 今後もお客さま視点に立った新分野の開拓を通して、社会から求められる価値の創造に挑戦していきます。

#### Commitment 3

## 人財(人材)を育成し、CSRを実践する

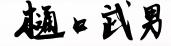
創業者・石橋信夫は、社会に貢献できる事業を開拓する という「夢」を生涯持ち続けました。そして、そのためには「積 極精神」をもった従業員が中心となって会社を支えてくれる 必要があると感じていたのです。

私は、常々「凡事徹底」というキーワードで、従業員に対して日々の積み重ねの大切さを説いてきました。仕事の知識はもちろん大切なのですが、「謙虚に教えを請う、周りに感謝する」といった人としての道を踏み外さないこと、「あいさつや約束を守る」といった当たり前のことを実践できる、日頃の心構えや姿勢が重要なのです。

特に、経営者には「先見力・判断力・決断力・統率力」といった総合的な「人間力」が必要不可欠ですが、グループ全体を見渡して「人間力」を備えた人財を見極め育てるのは非常に難しいことです。そこで、2008年度に「大和ハウス塾」という場を設けました。塾生は40代が中心で、経営の基礎知識を学ぶ講習だけでなく、戦略立案に向けたディスカッションや面接も実施しています。こういった過程のなかで「人間力」を見極めながら、次代を託す人財の発掘・育成に努めていきます。

当社グループは創業以来「事業を通じて社会に貢献する」というCSRの実践を日々の事業活動を通じて続けてきました。 未来を見据えた新規事業の展開による雇用の創出や地球環境 との共生も、社会にとってなくてはならない企業の使命であり、 私たちは「夢」と「人間力」で、その使命に挑戦し続けます。

代表取締役会長





# される企業グループであり続けます。

# トップコミットメント 社長から皆さまへ

#### Commitment 1 今紀業昌会加刑の企業紹

# 全従業員参加型の企業経営で「いい会社」を創る

私が考える「いい会社」とは、お客さまや地域社会をは じめとするステークホルダーの皆さまから、愛され評価さ れる会社です。そうした会社を創る上で、必要不可欠な要 素となるのが、従業員一人ひとりの高い志です。常に夢を 持ち続け、働きがいと生きがいを感じながら目標に向かっ て邁進できる。そして、自分の会社のことを家族をはじ め、周りの人々に誇りをもって話ができる。そんな従業員 を一人でも多く育て、「人間力」をしっかりと備えた従業員 と共に、大和ハウスグループをもっと「いい会社」にしてい きたいと考えています。

そこで重要となってくるのが、全従業員参加型の企業経営の推進です。2005年には当社グループの新しいシンボルマーク「エンドレスハート」を導入し、グループの一体感の醸成を図りました。今では組織の枠を越えて、お互いに連携し合うことの大切さが企業文化として定着しつつあります。さらに従業員の士気を高めることを目的に、以前より実施していた「優秀社員社長賞」の対象範囲を2007年度から拡大しました。受注実績に優れた従業員だけでなく、仕事と家庭を両立している女性従業員やスパンの長い開発事業の担当者など、事業所で一生懸命頑張っている人にスポットライトを当て、数値では示すことができない個々の努力も表彰しています。またCSR活動をより一層浸透させるために、社会貢献活動や環境改善活動で優れた取り組みを行ったチームや事業所を顕彰することを始めました。(詳細は特集2/P.97~P.98)

私は、「入社して良かった」と思える会社を従業員と一緒に創っていきたいと考えています。これからも、従業員との対話を通じて現場の声を反映させ、一人ひとりが経営参画の意識を持ちながら、ステークホルダーの皆さまと共に新しい価値を創造していく「人・街・暮らしの価値共創グループ | として成長していきます。

# ステークホルダーの皆さま

#### Commitment 2

## 「攻めと守りのバランス経営」で CSRを実践する

私は社長に就任して以来、一貫して「攻めと守りのバランス経営」という考え方を大切にしています。「攻め」とは、文字通り、現状に立ち止まることなく、真に価値ある商品・サービス・技術を創出し、新しいお客さまとの出会いを積極的に広げていくこと。そして、既存のお客さまに対しては、継続的な提案活動と充実のサポート体制を通して、エンドレスな関係を構築していくことを意味しています。一方、「守り」とは、透明性の高いコーポレートガバナンスの確立はもとより、従業員一人ひとりが三識\*(意識・認識・知識)を踏まえたコンプライアンスや企業倫理の徹底、また個人情報の保護など、企業の発展に欠かせない信頼性の向上に努めることを意図しています。「攻め」だけではなく「守り」の姿勢を大事にし、社会から高い評価をいただけるよう日々努力を重ねています。(詳細はP.11~P.12)

また、次世代のリーダーを見据えた人財(人材)育成に加え、 従業員がいきいきと快適に働ける職場環境を実現するための ワークライフバランスの充実にも力を入れていく考えです。

※【三識】私たちの企業活動は、多くのリスクに囲まれているという「意識」 小さな不祥事が会社全体を揺るがせることもあるという「認識」 不祥事を防ぐための、プロとしての「知識」

#### Commitment 3

# 「CSR自己評価指標」の継続的改善で、 社会の要請に応える

当社グループは、「事業を通じて社会に貢献する」という創業精神の具現化と同時に、ステークホルダーの想いに応えていく「共創共生」に向けたCSR活動を積極的に展開して

います。そして、2006年4月から当社独自の仕組みとして、「CSR自己評価指標」を導入しています。これは、「お客さま」「株主」「取引先」「従業員」「社会」「環境」という6つの分野を主軸に据え、トータルで34項目の指標を定めたものです。1年ないし半年ごとの成果を数値として「見える化」し、全社的に活動の進捗を共有できるようにしています。

私が重視しているのは、目標値の100%達成に固執するのではなく、達成できなかった項目に対して、その原因を深く掘り下げていく過程です。つまり、今まで見えなかった問題点を洗い出すことにより、「社会から求められているレベル」と「大和ハウスグループの現状」とのギャップを着実に埋めていくことが重要だと認識しています。そして、時代の変化に合わせ社会的課題を指標に組み入れることで、より時代に適合した社会的責任を果たしていきたいと考えています。

「CSR自己評価指標 |への取り組みは特集2でご紹介しています。

#### ●CSR自己評価指標

「お客さま」との共創共生「個客思考のソフト提案」 「株主」との共創共生「IR活動を推進するためのコミュニケーション強化」 「取引先」との共創共生「取引先とのWin-Winの関係を深める」 「従業員」との共創共生「ワークライフバランスの推進」 「社会」との共創共生「地域密着型の社会貢献活動」 「環境」との共創共生「持続可能な都市基盤のために」

当社グループの従業員一人ひとりが、社会からの要請に応えるため、ステークホルダーの皆さまと共に考え・共に行動しながら、よりよい未来の創造に挑戦していきます。

代表取締役社長

村上健治



# から、愛され評価される企業を目指します。

# CSR経営の基盤



#### 理念体系



大和ハウスグループの理念体系は、企業理念(社是)、経営ビジョン、社員憲章の3つで構成されています。その理念体系をもとにCSR指針を策定しています。

→P10

#### ▋コーポレート・ガバナンス



大和ハウスグループは、迅速かつ適正な意思決定と透明性が高く効率的な経営、法令遵守を推進する内部統制システムを確立し、コーポレート・ガバナンスを強化しています。

#### ■CSR推進組織体制



当社グループでは、CSRの推進を積極的に 行うための組織体制を構築しています。

→P15

#### コンプライアンス、リスクマネジメント



大和ハウスグループは、法令遵守はもちろんのこと、「倫理的に問題のない正々堂々とした行動」を目指し、日々、コンプライアンスやリスク管理について積極的に取り組んでいます。
→P16

#### クライシス・マネジメント



お客さま、地域の安全を第一に活動し、BCPを中心としたシステムを導入することにより「災害に強い会社」を目指します。

→P19

#### サプライチェーン・マネジメント



資材・設備調達から、施工まで幅広いサプライヤー・協力会社の皆さまと良い関係を築き、お客さまに品質の高い商品をお届けする体制を構築しています。

→P20

→P11

## 理念体系

大和ハウスグループの理念体系は、企業理念(社是)、経営ビジョン、社員憲章の3つで構成されています。 その理念体系を元にCSR指針を策定しています。

> 企業理念 (社是)

グループの根幹を成す考え方であり、 将来にわたって私たちが共有していくものです。

経営ビジョン

私たちが時代に必要とされる存在となるために打ち出した グループの方針であり、各々の事業において実践しているものです。

社員憲章

私たちの行動の指針であり、 日々の活動において常に意識しているものです。

#### 企業理念(社是)

- 一.事業を通じて人を育てること
- 一.企業の前進は先づ従業員の生活環境の確立に直結すること
- 一.近代化設備と良心的にして誠意にもとづく労仂(ろうどう) の生んだ商品は社会全般に貢献すること
- 一.我々の企業は我々役職員全員の一糸乱れざる団結とたゆま ざる努力によってのみ発展すること
- 一.我々は相互に信頼し協力すると共に常に深き反省と責任を重ん じ積極的相互批判を通じて生々発展への大道を邁往すること

#### 経営ビジョン

#### 心を、つなごう

私たちは「人・街・暮らしの価値共創グループ |として、 お客様と共に新たな価値を創り、活かし、高め、 人が心豊かに生きる社会の実現を目指します。 そして、お客様一人ひとりとの絆を大切にし、 生涯にわたり喜びを分かち合えるパートナーとなって、 永遠の信頼を育みます。

#### 計員憲章

#### 私たちは、「人・街・暮らしの価値共創グループ」の社員として

- 一.品質、技術、情報力の向上に努め、環境に配慮した安全で確かな商品、安らぎとくつろぎの空間を提供します。「企業の視点」
- 一.誠意をもってお客様と向き合い、感動と喜びを分かち合います。[お客様の視点]
- 一. 社会規範に基づく公明正大な行動により、社会的評価を高め、企業価値の向上に努めます。 [株主の視点]
- 一.感謝の気持ちを忘れず、公正であることに努め、取引先と共に成長・発展を図ります。[取引先の視点]
- 一.仕事を通じて自らの成長と幸せを追求します。[社員の視点]
- 一.「共創共生 | を基本姿勢に、心豊かに生きる暮らしと社会の実現を目指します。 [社会の視点]

### 大和ハウスグループCSR指針

社会性・環境性・経済性の3つの側面から、バランスのとれた事業活動を意識するとともに、 ステークホルダー(利害関係者)と誠実に向き合い、企業市民として社会の要請に応え続ける。

- 1. 独自技術・ノウハウにより事業を通じて社会に貢献する。
- 2. ステークホルダー (利害関係者)との関わりや対話を通じて当社に対する要請を理解し、企業市民としてそれに 応えるよう努める。
- 3. 企業倫理・コンプライアンスの確立に努める。

私たち大和ハウスグループは、

事業を通じて社会と共にあること、

そして商品やサービスを通じ、暮らす人と共にあること。

この「共創共生」の姿勢を持ち続け、

誠実に社会と向き合うことが大切であると考えています。

大和ハウスグループシンボル 「お客さまとの絆、永遠の信頼」「大和ハウスグループの連帯感と エンドレスハート 絆」を意味します。また、「メビウスの輪」を想起させるとともに、 この正円は原点である"和"を表現しています。



# 従業員一人ひとりが支える コーポレート・ ガバナンス

考え方と 今後の課題 従業員の意識向上を図り、 「もっといい会社」を 目指します。

大和ハウスグループでは、継続的な企業価値向上やステークホルダーの信頼を高めるという観点から、コーポレート・ガバナンスの強化を経営上の重要課題と位置づけています。そして、2006年5月に定めた「内部統制システム構築の基本方針」のもと、経営の透明性・健全性・遵法性のより一層の向上を図っています。

コーポレート・ガバナンスの仕組みを有効に作用させるためには、事業活動の担い手である従業員の当事者意識が必須です。当社グループでは、2004年に企業倫理綱領・グループ行動指針を制定し、それらに基づく各種研修の実施や、教育用冊子の配付、さらには独自の「CSR意識調査」を1年単位で実施するなど、従業員の意識改革を推進しています。2008年度には、意識調査から一歩発展させた「職場の総合満足度調査」も行いました。

昨今報道されている企業不祥事を見ますと、「遵法意識の欠如」「職場の風通しの悪さ」「仕事に対するモチベーションの低さ」など、「職場に対する満足度」が強く影響していると感じます。当社グループでは、不祥事防止策の一つ、ならびにコーポレート・ガバナンスの強化策として、「職場の総合満足度を高めるために何から対策をとるべきか」を職場ごとに抽出し、具体的な改善に結びつけています。

2009年4月に旧札幌工場において重油漏れ事故が判明し、適宜対応をしておりますが、反省すべき点・改善すべき点はまだまだ残されています。今後も引き続き、グループ全従業員の三識(意識・認識・知識)の向上を図り、ステークホルダーの皆さまの期待にお応えできる「もっといい会社」を目指していきます。



代表取締役副社長経営管理本部長

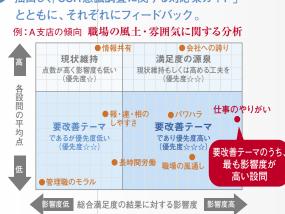
本冊子では、2008年度に実施した「CSR意識調査」 と「職場の総合満足度調査」を中心にご紹介します。そ の他のコーポレート・ガバナンスへの取り組みに関して は下記のページでご紹介しています。

・コーポレート・ガバナンス →P11 ・企業倫理 →P10 ・コンプライアンス →P16 ・リスクマネジメント →P16

# グループを含めた全従業員の意識向上を図り、コーポレート・ガバナンスを強化します。

当社グループは、コーポレート・ガバナンスの確立について、監査体制の強化などによる組織的な活動はもちろん、従業員一人ひとりが当事者意識をもってCSRに取り組む「ボトムアップ型」の企業風土づくりが重要と考えます。





#### ●大和ハウスグループが実践するコーポレート・ガバナンス

大和ハウスグループの コーポレート・ガバナンス

○取締役会 ○監査役会 ○内部統制システム ○リスク管理体制

不祥事を 起こさないための 職場環境の改善



各種教育 •研修

#### 大和ハウスグループの従業員

CSR意識の高い従業員一人ひとりの 日々の業務/経営参加

- ○大和ハウスグループCASE BOOK
- ○企業倫理ヘルプラインの運用
- ○CSR意識調査と改善策の実施

#### 「職場の総合満足度調査 |を新たに実施

企業倫理綱領への理解度を確認するため、当社グループの全従 業員(パート・アルバイト含む)を対象に、2004年度から「CSR意 識調査」を行ってきました。5回目となる2008年度は、その意識調 査に加え、「職場の総合満足度調査」を実施。各職場が抱える課題 を抽出し、具体的な改善に結びつけることを目的としています。

今回の調査では、従業員一人ひとりの意識レベル・満足度レベ ルを把握するため、「P=プラン」からではなく「C=チェック」から 始める「CAP-Do」サイクルの考え方を取り入れました。各職場に よって異なるさまざまな課題を抽出することで、より効果的な対策 を展開できると考えます。社長が常に口にしている「もっといい会 社」をつくっていくため、従業員一人ひとりが能力を十二分に発揮で きる、働きやすい職場環境を構築していきます。

#### 事業所でのPDCAサイクル





職場環境の改善、従業員意識の ボトムアップで「もっといい会社 |へ



各事業所は、「要改善テーマ」と「CSR意識調査に 関する対応策ガイド」をもとに、職場単位の改善 計画を策定し、「職場環境の改善対策報告書」 としてCSR推進室に提出。

#### 例:A支店の職場環境の改善対策報告書

「従業員が今の職場でやりがいを感じる」ための改善策

理由・原因	目標を達成した従業員がいてもあまり「誉める」 ということをしていない。
改善策	目標を達成した従業員を朝礼等で「誉める」 機会を作る。 また、小さいことでも「誉める」ことを意識する。
いつまでに、 どのくらいやるか	2009年4~9月中に、毎月の契約者の発表を 行う機会を作る
実施担当者	B所長

※【CSR意識調査に関する対応策ガイド】 全国の事業所で実施されているさまざまな 取り組みを掲載し、具体的な事例として 活用できるようにしています。

例:「仕事のやりがい」への対応策 やりがいを感じるシーンを上司が積極的に作ることで、 部下はモチベーションを高めて働くことができます



各事業所は、「職場環境の改善対策報告書」の 完遂に向け、取り組みを実行。

例:B所長が、目標を達成した従業員を朝礼で発表。 イントラネット等で取り組み事例を紹介、情報を共有。

# Employee's Voice

もっと働きやすい会社を目指して

倉敷支店 経理総務課 課長 嘉多山 学



働きやすい会社については、人事制度面の拡充など、会社側 が努力しなければいけない部分もありますが、従業員一人ひとり が考え、行動することが重要です。CSR意識調査にて自分の職 場の改善点を認識し、「誰かがやってくれるだろう」ではなく、み んなで考え、みんなで実施していくことが大切だと思います。

当支店においても改善点の一つに「コミュニケーションの活性 化 | があります。組織を横断した委員会活動の活性化や、上司への 傾聴訓練などを実施し、風通しのよい職場を醸成していきます。

#### 旧札幌工場敷地内での重油漏れについて

2009年4月、当社の旧札幌工場(北海道恵庭市)の敷地内におきまして、地中配管から施設暖房用の重油約5万7千リットルが漏れ出していた ことが判明しました。札幌工場は2008年3月の操業停止後、設備解体工事を行っておりましたが、その際、誤って地下に埋設した重油を送る配管 を損傷させたことが原因でした。

当社では直ちに恵庭市消防本部に報告、重油の汲み取り及び敷地外への流出防止処置を行うとともに、地下水、周辺河川への影響調査を実 施し、敷地外への重油の流出がないことを確認しています。

なお、漏洩した重油を速やかにかつ安全に回収するため、旧札幌工場内に常駐組織として「生産部 環境対策プロジェクト室」を設置し、恒久 対策の実施を進めています。また再発防止として、他工場においても地下埋設配管及び地下タンクの地上化を行うとともに、施設解体の際の事 前調査基準を整備し、リスク評価を実施いたします。 ・重要なお知らせ

\*重要なお知りで http://www.daiwahouse.co.jp/importantnews/index.html

#### コーポレート・ガバナンス

## コーポレート・ガバナンスの推進

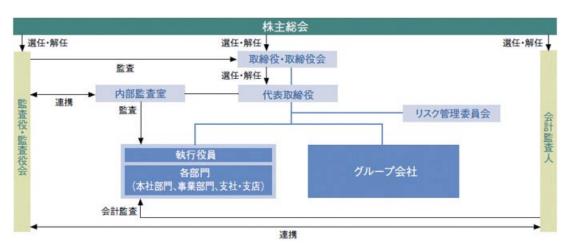
大和ハウスグループは、迅速かつ適正な意思決定と透明性が高く効率的な経営、法令遵守を推進する 内部統制システムを確立し、コーポレート・ガバナンスを強化しています。

#### ガバナンス強化への取り組み

#### 取締役への監督機能を強化し透明性の高い経営を推進しています。

当社グループでは、継続的な企業価値向上や株主の皆さまをはじめとするステークホルダー(利害関係者)の信頼を高めるという観点から、コーポレート・ガバナンスを経営上の重要課題と位置づけています。迅速・適正な意思決定と業務執行、並びに監督・監視体制を構築し、効率性と透明性の高い経営体制を確立することを基本姿勢としています。

また、2006年5月に定めた「内部統制システム構築の基本方針」に基づき、コーポレート・ガバナンスの一層の強化に努めています。



#### ●取締役会

取締役会は2009年4月1日現在、取締役18名で構成。法令で定められた事項や当社の経営に関わる重要な事項について意思決定するとともに、代表取締役および業務執行取締役による業務執行を監督しています。経営責任の明確化を図るため、取締役の任期を1年としています。また、2007年4月より、取締役と執行役員の役割・機能・職務等を明文化し、取締役の監視機能強化を図るため、新たな執行役員制度を導入しています。

#### ●監査役会

当社は監査役制度を採用しています。監査役6名(うち、社外監査役3名:2009年4月1日現在)は、監査の方針および業務の分担などに従い、取締役会やその他の重要な会議に出席するほか、取締役などからの報告を聞き、重要な決裁書類などを閲覧しています。また、本社や主要な事業所の業務・財産の状況を調査し、必要に応じて子会社から営業の報告を求めています。そのほか、取締役の競業取引、利益相反取引、会社が行った無償の利益供与などに関して監査するほか、必要に応じて取締役などから報告を求め、当該取引の状況を詳細に調査します。なお、当社と社外監査役との間には、特別な利害関係はありません。

#### ●合同役員会

取締役会で決定した当社の経営に関わる重要な事項についての報告をもとに、取締役、執行役員および監査役をメンバーとする合同役員会は、具体的な実行・推進・フォロー策を討議しています。

#### ●内部監査

当社は、社内の業務活動および諸制度が適正に遂行されているか否かを確認し、是正勧告を行う内部監査室を設置しています。必要に応じて改善指示を行い、改善状況を報告させ、適正かつ効果的な監査を実施しています。

#### ●リスク管理委員会

経営管理本部長を委員長に、本社各部門長などで構成されるリスク管理委員会は、大和ハウスグループのリスク管理体制の構築・維持・管理全般を、毎月1回開催される会議で討議しています。

# コーポレート・ガバナンスの推進

#### 企業倫理綱領・行動指針の徹底

グループ

#### グループ全従業員に、意識の共有と周知徹底を図っています。

当社グループでは、2004年4月に、経営理念・方針を実現するための基礎となる行動原則を明文化した「企業倫理綱領」および、それをより細かく補足した「行動指針」を策定しました。

2008 年4月には、企業倫理綱領・行動指針・89のケーススタディ・企業倫理ヘルプライン通報窓口を掲載した「大和ハウスグループ CASE BOOK」(教育用小冊子)を第三版として作成し、グループ全従業員に配付しています。また、冊子を改訂した際には配布の都度、従業員より「企業倫理綱領に則って業務を行う「誓約書」」を受領しています。

今後は、従業員が企業倫理綱領を「知っている」というだけではなく、企業倫理綱領に沿って「行動する」よう、従業員に対し周知徹底、 推進活動に取り組んでいきます。

#### 基本原則

#### 人権の尊重

お客様・取引先・役職員をはじめ、あらゆる人の尊厳と基本的人権を尊重して行動すること。

#### 法令の遵守

各事業に関連する法律はもとより、全ての法令を遵守 することを企業倫理の最下限と認識すること。

#### 環境保全

地球環境の保全に積極的に取り組むこと。

第一条 お客様の信頼を得られる行動

第二条 調達先等との適切な関係構築

第三条 働きやすい職場環境づくり

第四条 倫理観の向上

第五条 公正な事業競争

第六条 反社会的勢力との関係遮断

第七条 環境への取り組み

#### (大和ハウスグループ)企業倫理ヘルプラインの運用

グループ

#### さまざまな職場・業務における課題の 早期発見に役立てています。

当社グループでは、パートタイマーや派遣従業員を含むグループ全従業員が利用できる内部通報窓口「企業倫理ヘルプライン」を2004年4月に開設。同時に、通報者が通報によって不利益な取り扱いを受けることがないよう、「企業倫理ヘルプライン・内部通報者保護規程」を制定・運用しています。

2008年度は職場環境や人間関係に関する相談・問題を中心に年間191件の情報を吸いあげることができました。また、職場の早期適正化のため、「1ヶ月以内の解決率80%」を目標としていましたが、80.7%を1ヶ月以内に解決することができました。こうした声をもとに、解決すべき課題の早期発見に努めています。

引き続き2009年度も「1ヶ月以内の解決率80%」を目標に、相談員のレベルアップや関連部署との連携促進を図り、制度を運用していきます。

#### ▮企業倫理ヘルプライン体制図



# CSR推進組織体制

CSR推進組織体制

#### 当社グループでは、CSRの推進を積極的に行うための組織体制を構築しています。

CSRに関する方針や実施事項の立案・調整機能は、当社の CSR推進室が担っており、その中で重要な事項は取締役会にて 決定します。

2005年より全事業所で各1名「CSR推進委員」を選任し、委員を中心として、事業におけるCSRの基礎知識や企業倫理・コンプライアンスの周知徹底を図っています。

さらに2006年より地域社会とのつながりをより深めるべく、 全事業所で各1名「社会貢献推進委員」を選任し、社会貢献活動 における知識啓発や活動の企画・運営を行っています。

また、グループ各社においても2005年から「CSR推進責任者」を選任し、CSR活動を推進する体制を整えています。グループ会社のCSR推進責任者は当社のCSR推進室と連携し、半期に1度情報交換を行うなど、相互のレベルアップや社会貢献活動の協働実施に努めています。

#### ●大和ハウスグループのCSR推進組織体制



## コンプライアンス、リスクマネジメント

大和ハウスグループは、法令遵守はもちろんのこと、「倫理的に問題のない正々堂々とした行動」を目指し、 日々、コンプライアンスやリスク管理について積極的に取り組んでいます。

#### リスク管理委員会の活動

グループ

#### 企業リスクを低減し、内部統制の強化を進めています。

当社は、お客様からのお申し出に対する適正・迅速な処置および再発防止策の立案、業務改善の提案を目的とし、1999年9月に「リスク管理委員会」を立ち上げました。

2002 年4月には、当社グループのリスク管理体制に関する「グループ・リスク管理規程」を制定。「リスク管理委員会」は同規程においてリスク管理の統括機関と位置づけられており、経営管理本部長を委員長、本社各部門長を委員とし、リスク事案の情報集約、具体的措置、業務上の問題点の改善などを検討しています。

現在は、2006年5月に定めた「内部統制システム構築の基本方針」に基づき、リスク管理委員会を中心に、当社グループ全体の内部統制システムの構築に取り組んでいます。

#### 不祥事が起こらない職場環境を目指して

グループ

#### 不祥事防止を目的にCSRに関する研修を実施しています。

当社グループでは「不祥事を起こさないための考え方」を推進するために、2006年より従業員に対するCSR・企業倫理の研修・啓発活動を実施しています。2008年度中に大和ハウス工業の全事業所、主要グループ会社にて修了することを目標とし、予定通り実施しました。

(2008年度・実施状況)

大和ハウス工業:計31回 1,646名受講 グループ会社:計62回 3,109名受講

また、第2段階のCSR研修として「働きやすい職場環境づくり」をテーマに研修を開始しました。これは「風通しの良い職場を作り、不祥事を未然に防止すること」「良好な人間関係を構築し、いきいきと働いてもらうこと(従業員に対する社会的責任)」を目的に実施しているものです。

(2008年度・実施状況)

大和ハウス工業:計40回 1,606名受講

いずれの研修も終了後のアンケートにおいて、受講生の理解度を80%を目標に実施しましたが、83.7%の理解度を得ました。2009年度も引き続き80%の理解度を目標に従業員に対する研修を実施していきます。



CSRの考え方の解説



グループディスカッションの様子

### 個人情報の漏洩防止

グループ

#### さまざまな施策を継続して実施しています。

当社グループは、個人情報保護の重要性を認識し、個人情報を適切に利用し保護することが、事業活動の基本かつ社会的責任であると考えています。この考えに基づき、各社が事業内容に応じて個人情報保護方針(プライバシーポリシー)を定め、社内外に公表するとともに、社内規程の策定、個人情報管理者の設置など組織的な管理体制を整備しています。

当社役職員に対しては、eラーニングなどの社内教育を通じて規程類を詳細に周知しています。また、ネットワークセキュリティーの強化やパソコンのハードディスクパスワードの設定、暗号化、保管場所の施錠、携帯電話用ネックストラップの装着徹底など、物理的・技術的な安全管理体制の強化を図るほか、車上荒らしによる盗難被害やファクシミリの誤送信などの事故を防ぐため、指導を徹底し、あらゆる観点から個人情報漏洩の防止に取り組んでいます。

WEB

』 個人情報の紛失・盗難が起きた際には、当社ホームページで公表しています。 ♥️ (http://www.daiwahouse.co.jp/info-privacy/index.html)

# コンプライアンス、リスクマネジメント

#### 知的財産室のミッション

グルーフ

#### 企業競争力の源泉である「競争優位性」を確保し、「競争秩序」を維持する。

知的財産室は、特許権・実用新案権・意匠権・商標権の産業財産権をはじめ、著作権、不正競争防止法など知的財産権全般を扱う専門部署です。これらは開発部門に特化しているイメージがありますが、全事業所から発信されるチラシ、広告や、マンション名、分譲地名などのチェック部署としての全社的な活動を展開し、当社グループ全体のチェック機能を果たしています。

昨今、知的財産権は企業経営に資するものとして位置づけられ、かつての権利獲得だけを目的としたものから、獲得した権利の活用が課題となっています。そこで私たちは、事業の継続基盤となる技術を権利として確保し、事業の成長手段である技術の自由度を確保することを第一の目的としています。

知的財産権のうち産業財産権(特許・実新・意匠・商標)は、最先で出願した者にだけ権利を与える制度です。したがって、できるだけ早く出願することが重要となり、そのため技術開発部門に密着し、開発テーマの技術水準と技術動向を情報として提供しながら、より良いものを社会に提供するための開発支援を行っています。その結果、多くの独自技術が開発されていますが、当社にとって真に必要な技術、具体的には「事業の成長が見込まれ、当社の強みを生かせ、大和ハウスらしさを追求できるもの」を基準にして出願をしています。また、社内での「発明コンクール」などにより、知的財産権の意識向上と、改善意欲が停滞しないような工夫を心がけています。

企業間の競争にもルールが在りますが、他者の権利を知り、それを尊重することは、そのルールを守る第一歩になります。そのために各事業部から社会に提供する情報が、他者の権利に抵触していないかのチェックをしています。また、開発部門への情報提供も同じ意味を持っています。これら地道な努力が、コンプライアンスの基盤となり、「競争優位性の確保」と「競争秩序の維持」が、企業の両輪として正しく機能して、はじめて事業が継続されるものと考えています。

#### ■知的財産権管理体制

#### (1)知的財産室の位置づけ

知的財産室は管理本部法務部内の組織ですが、開発部門との連携を見据えて総合技術研究所内に、分室としてメンバーを常駐させています。

知的財産権は、決して開発部門に特化した権利ではありません。また近年増加傾向にある企業間の権利衝突などへの素早い対応や訴訟など、専門部署と連携がとりやすいポジションをとることで、最適な対応ができると考えます。

#### (2)知的財産権の取得フロー

社内で発案された発明に対して、私たちは右のような業務フローで対応しています。特に受領した発明考案届書の内容は、全件先願調査をしています。これは単に特許出願の可否を判断するだけでなく、他社権利を尊重するとの意思のもとに行われ、少しでも近い先行技術がある場合は、設計変更を開発部門に要求しています。

#### (3)発明委員会

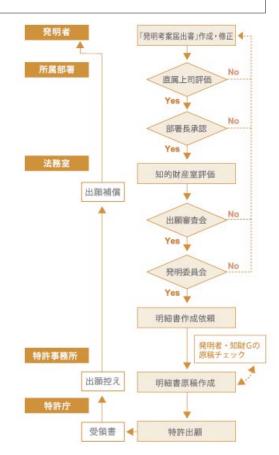
全ての知的財産権に関し、その権利取得、権利化、権利維持、権利放棄などの決定は発明委員会が行っています。メンバーは研究開発、商品開発、生産開発に関わる各部門長で構成され、委員長は技術本部長が兼任いたします。

本委員会は毎月開催され、知的財産室は同委員会の事務局となります。

#### (4)発明考案規程

平成2年に当社に知的財産権の専門部署を設立すると同時に、権利の取扱いを 定める規程も制定しました。その後、数度の改定を経て、現在のものは平成18年 度に制定されたものです。

この改定は、平成16年の職務発明の取扱いに関する改正法に対応したもので、 特許出願と登録における特許補償金(譲渡対価を含む)以外に、特許実施による 会社が利益を得ている場合に特許実施報奨金が支払われることを新たに定めま した。



## コンプライアンス、リスクマネジメント

#### ■グループ会社との連携

#### (1)特許法

グループの経営ビジョンである「人、街、暮らしの価値共創グループ」を実現するためには、グループ各社の相互連携はもちろん、知的活動の成果を共有化することが必要です。したがって、大和ハウスの知的財産室が中心となりグループ全体の特許権の確保と維持管理を目標に掲げた活動展開をしています。これまで、各グループ会社での知財管理体制構築と大和ハウス知的財産室との連携強化を図るため、職務発明規程の統一や管理方法についての点検確認もしてきました。今後は、知的財産権管理データベースの共同利用も計画しています。

このような取り組みは、グループ全体の特許保有件数を増加させることが目的ではなく、グループ全社員の知的財産権の意識向上を図ることを第一の目的としています。これが他社権利の尊重につながり、特に他社の知的財産権を侵害することがないようコンプライアンス意識の徹底につながります。そのうえで、自社の独自技術を完成させ、事業を成長させる手段の自由度を確保することが重要と考えています。

#### (2)商標法

グループ会社は様々な事業活動を行い、またいくつかの事業に関する商品を設定しています。その商品に名称を付けて他社との識別を図っています。

この商品名が、他社の商標に抵触していないかを確認するため、一昨年、全グループに対して商品名の棚卸を行いました。全グループに は、商品名として使用する場合、必ず商標登録していることを条件としており、これも競争秩序を維持する取り組みの一環です。

現在、グループ間での商標を融通して使用することを視野にいれた「ネーミングバンク」を立ち上げ、グループの全ての商標管理を強化しています。

#### ■活動の成果

#### (1) 概要

当グループでは、工業化住宅の建築技術をコアコンピタンスとして、「総合技術研究所」で生まれた技術を戦略的に特許出願しています。特許取得件数は、全技術分野で1999年から2003年の5年間で115件、2004年から2008年の5年間で304件で、164%の増加となっています。中核技術の建築分野である「固定構造物」(国際特許分類Eセクション)では、2004年から2008年の5年間で257件の特許権を取得しています。

また、特許公開件数は、全分野で1999年から2003年の5年間で777件、2004年から2008年の5年間で868件で、12%の増加となっています。中核技術の建築分野である「固定構造物」(国際特許分類Eセクション)では、2004年から2008年の5年間で611件の公開となっています。

#### (2)過去5年間の特許推移



# クライシス・マネジメント

**●**BCP

大和ハウス

当社では、大規模な災害やその他甚大な被害をもたらす危機が生じた場合、会社の被害を最小限に抑え、お客さまをはじめとするステークホルダーへの社会的責任を果たすため、従来の防災計画を見直し、事業活動を支える重要業務を継続させる計画 (BCP) を策定して、「災害に強い企業」を目指し活動しています。

※BCP(Business Continuity Plan):事業継続計画

#### ●グループ各社のBCP

グループ

大和ハウスグループ14社を対象に、「グループBCM連絡会」を立ち上げ、当該連絡会で、グループ会社各々の事業活動を継続させる計画 (BCP)の策定を促し、また、BCPに係る情報交換をグループ内で行い情報共有を図るなど、グループ全体で「災害に強い企業」を目指しています。

#### ●安否確認システム

大和ハウス

当社は、地震発生時に社員とその家族の安否状況を把握するため、「安否確認システム」を導入しています。安否確認システムは、事前に決めた震度(当社は震度6強)以上を観測した地域に勤務または居住している社員の携帯電話等に、電子メールを送り安否状況を確認するものです。2008年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震の際には、このシステムを利用し、社員の安否・施設被害状況を正確・迅速に把握することができました。

#### ●緊急地震速報システム

グループ

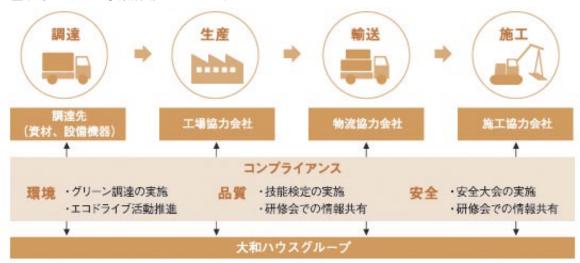
当社では、大規模な地震発生に備え「緊急地震速報システム」の導入を全支店・工場に展開しています。「緊急地震速報システム」は、 気象庁の地震計が感知した地震情報をいち早く受信し、大きな揺れが発生する前※に地震発生を音声によりアナウンスするシステム で、支店・工場内のお客さまや社員の安全確保、地震発生時の適正な初動対応に役立てています。

※震源地から近い場所や直下型地震の場合は、速報が間に合わない場合もあります。

# サプライチェーン・マネジメント

資材・設備調達から、施工まで幅広いサプライヤー・協力会社の皆さまと良い関係を築き、 お客様に品質の高い商品をお届けする体制を構築しています。

■ 大和ハウスの事業活動におけるサプライチェーン





# サプライチェーン・マネジメント

#### お取引先との協働体制

#### 4つのサプライチェーンの会とともに、環境・品質・安全活動を推進しています。

当社グループは、住宅から商業施設まで、さまざまな建物を手掛けています。住宅の建設ひとつとっても、材料や設備、施工などさまざまな会社の協力がなければ、完成しません。当社グループでは、公正な評価によって条件を満たすお取引先を選定し、サプライチェーン全体を通して協力会社との信頼関係の構築に努めています。

その一環として、当社グループでは、サプライチェーンを支えるネットワークを構築し、これまでに資材調達先、設備機器調達先、事務用品・機器調達先、施工協力会社との会を組織し、事業に欠かせないお取引先と共に発展することを目的として、さまざまな活動を行なっています。

例えば、「環境」に関しては、グリーン購入基準の運用やエコドライブ活動の推進、「品質」に関しては、技能検定の実施や各種研修会の 開催、「安全」に関しては、安全大会の実施や各種研修会の開催など、幅広いお取引先との交流・親睦を深めると共に、情報共有を図り、 互いに協力してお客様に満足いただける建物を提供しています。

当社グループは、これからも良きパートナーとして、お取引先との関係を大切にし、共に社会の要請に応えながら、発展してくための独自のサプライチェーン・マネジメントに取り組んでいきます。

# 事業を通じた社会的課題への貢献

# <sup>特集</sup> ストック型 社会の形成 に向けて

~長期優自住空~



#### 建物の安全と長寿命化に向けて



当社では、災害等に対して住まう方の安全を確保し、良質なストックを未永くお使いいただける技術開発に取り組んでいます。

→P27 `

#### ■防犯に配慮した住まいと街づくり



安全で幸せな暮らしを守るため、あらゆる 角度から防犯に配慮した住まいと街づくり をご提案します。

→P30

#### 住宅の資産維持につながる街並みの保全をサポート



良い住環境を守り、資産価値を維持するために戸建住宅も一つのコミュニティと捉えて管理組合を結成し、街並の保全に取り組んでいます。

→P32

#### 都市の再生~市街地再開発の取り組み



札幌市の都市計画事業の一環として、周辺整備を目的とした街づくりをご紹介しています。「高機能オフィス」や「都市型住宅」等を設けることで都市の機能性を高め、新しいビジネス創造の場を提供しています。

→P33

#### 少子高齢社会に向けた住まいと施設づくり



「より快適で豊かな自分らしい暮らし」を感じていただくため、多様化した暮らしに柔軟に対応できるライフスタイル提案を展開しています。また、産・官・学・医と広く連携をとりながら研究活動を進めています。

#### ▋健康に配慮した住まいづくり



当社では、快適で暮らしやすい住宅はもちろん、その住まい手が健康であることが大切であると考えています。そこで、住まい手の健康をサポートすべく、健康をキーワードにした商品をご提案しています。

→P38

#### 通信インフラの構築に向けて



住宅内のサービスを統括するホームサーバーの開発や緊急地震速報実証試験など、 誰もが安心して使える通信インフラや、それを活用した生活サービスの研究に取り組んでいます。

#### 食の安全・安心に向けて



食品衛生のエキスパートと連携し、食品の「安全・安心」に関する全ての事にお応えします。また、事業に添ったあらゆる業種・業態の企業様に対してハード・ソフト両面からしっかりとサポートします。

→P43

#### <u>(健康や自然を志向した) スロ</u>ーライフをサポート



当社グループでは、「環境共生」をテーマとした森林住宅事業をはじめ、自身の体力にあった健康づくりを促す生活改善プログラムに取り組んでいます。

→P44

#### 中国における取り組み



中国における住環境のニーズが多様化し、「量」から「質」への転換期を迎えていることから、当社のノウハウと技術を活かし、「快適な住まい」の提供に貢献します。

→P47

# 特集 1 社会的課題への対応

# ストック型社会の形成に向けて ~長期優良住宅~

#### 社会的課題に対する大和ハウスグループの考え方

「少子高齢化の進展」「福祉負担の増大」「廃棄物の増加」など、さまざまな社会的課題を抱える現在の日本。住宅の供給戸数は潤沢とはいえ、平均すると30年程度で建て替えられています。これまでの"つくっては壊す"フロー消費型が次世代に及ぼす経済的・環境的負担を軽減するためには、住宅産業が積極的にストック型社会の形成に貢献していくことが重要と考えます。

当社グループは、年間1万戸を超える住宅を供給する立場から、住宅を社会の資産として循環利用し、豊かな住生活の実現を目指す「長期優良住宅の普及・啓発」の取り組みを始めています。

今回の特集では、この「長期優良住宅の普及・啓発」の考え方を、政府・国土交通 省主導の「長期優良住宅先導的モデル事業\*\*」に採択された提案内容を主軸に、従 業員の声を通じて紹介しています。また、社外ステークホルダーの声として、長期優 良住宅を実際に購入された東山様と、住宅産業の専門誌「ハウジング・トリビューン」 の中山編集長からコメントをいただいています。



営業本部 住宅事業推進部 事業戦略グループ 主任 字杉 大介



営業本部 住宅事業推進部 販売推進グループ 主任 田子山 順明



技術本部 大阪デザイン事務所 街づくりグループ グループ長 柴垣 保平



日本住宅流通(株) ソリューション事業部 総合企画部 部長 間宮 昭次





共に創る~"長期優良住宅"について~

## "住み継ぐ"をテーマに、 長く愛される住宅を提供する。

字杉 私たちは、長期優良住宅によって成熟社会にふさわしい豊かな暮らしの実現に寄与するため、「一度建てた家を"住み継ぐ"」という考え方を住まいづくりに取り入れています。

"住み継ぐ"とは、住みにくくなったら 建替えるのではなく、きちんと手入れを し、家の間取りを変化させながら次世 代にわたって長く大切に使おうという考 え方です。

そしてこの考え方を「目に見えるプラン」として具現化したのが、国と協働して取り組んでいる「長期優良住宅先導的モデル事業」です。そこには、「耐久性」「耐震性」「省エネ」という優れた基本性能を備えた当社の基幹商品「xevo(ジーヴォ)」が最大限に活かされています。

●大和ハウスグループが提供する長期優良住宅

田子山 まず初めの提案では、「どのような住み継ぎがあり得るのか」に焦点を当て、「住宅の新築(戸建)部門」に2プランを応募しました。

一つ目のプランは世代を超えて「いつまでも愛着を持って住み継いでいける可変性のある暮らし」を想定した「家族間住み継ぎ住宅」です。これは、東山様宅の場合のように、ライフステージの変化に伴い、家族構成や住まい方が変化しても、高齢者住宅や三世代同居住宅として柔軟にプランニング="可変"していくという内容です(右上図参照)。

柴垣 二つ目のプランは住宅の資産価 値を維持しながら第三者へ転売すると いう「第三者間住み継ぎ住宅 | です。「い つまでも新しく、誰にでも住むことができ る普遍的な住宅 | として、不特定多数の 人々から受け入れられる汎用性の高いプ ランニングを行っています(右下図参照)。 また、一団の分譲地においては、住宅 の機能性だけでなく、街全体の資産価 値を高めていくために、「街並みに配慮 していること」「住宅を含めて街並みの 維持管理が容易であること | にも重点を 置いています。そのために、当社独自の 「街づくりガイドライン」を基準として外 構や植栽などの設計を行っています。住 まわれている方々がお互いの暮らしを尊 重し、いつまでも美しい街・誰もが住み やすく愛される街が自然なカタチで育ま れることを目指しています。

東山様「家族の暮らし方を広げる

フレキシブルな間取りが理想でした。|

#### 「住み継ぎ~家族間~」

例:東山様宅の場合

あらかじめ、ミニキッチン用の配管や壁・ クローゼット・エアコンの設置を想定し、 比較的安価にリフォームできる「可変性」の 高い設計をしています。



#### 「住み継ぎ~第三者間~

資産価値を維持しながら第三者へ転売できるよう、汎用性のあるプランニング、 美観の維持、設備機器の入れ替えなど、 スムーズに対応できるようインフラを整備しています。



#### ストック社会

いいものを

「xevo」 耐久性・耐震性・省エネ

長期優良住宅の 提供

長く 大切に使う

良い物が正しく評価される 仕組みを作る

きちんと

適切なメンテナンスや

●長期優良住宅先導的モデル事業への提案内容

平成20年度(第1回)超長期住宅先導的モデル事業

住宅の新築 「住み継ぎ〜第三者間〜」分譲モデル棟全国展開・ (戸建)部門 「住み継ぎ〜家族間から」街角期間限定モデルハウス全国展開

平成20年度(第2回)超長期住宅先導的モデル事業

「情報提供及」 び普及部門 体感型モデルハウス「時を愉しむ家」提案

平成21年度(第1回)長期優良住宅先導的モデル事業

住宅の新築 (戸建)部門 住まい手実効型家づくり提案「時を育む家」(鉄骨造/木造)

維持管理・ 流通等部門 既存マンション情報蓄積及び流通時の情報活用

本文中の呼称は、「長期優良住宅」に統一しています。

CSR レポート 2009 詳細版 事業を通じた社会的課題への貢献



家族の健康を「見える化」する「インテリジェンストイレ」。使用する際に尿糖値や血圧等を手軽に確認できます。

田子山 大和ハウス工業の"住み継ぎ" という考え方を反映した長期優良住宅を 広く社会に普及させるため、第2回目の 提案では、「情報提供及び普及部門」に「住み継ぎを疑似体験できる体験型モデルハウス」という内容をご提案しました。 家の購入時は、数十年先の家族構成や住まい方の変化を現実的にイメージしづらいと思います。そのため、長期優良住宅の価値を伝えるには、この点を実感していただく必要があると考えました。

柴垣 一般的な展示場では5年ほど同じカタチのまま公開されていますが、この提案では、展示場を約半年周期で改修し、住まいの変化の過程を映像等で記録する計画を立てました。つまり「リフォームを体感」していただける工夫を施しているのです。また、「長期優良住宅」への理解促進のためイベントや見学会を開催し、地域のコミュニティスペースとしても機能させていく予定です。

●「体験型モデルハウス~時を愉しむ家~」平面図イメージ 環実的な広さの 居住スペース 「フレキシブルノーン」 展示や説明に 使うスペース 「ライブラリーゾーン」

#### 共に生きる ~"ライフサイクルコスト"について~

#### 住宅を多角的に捉え、長期的 にお客さまをサポート。

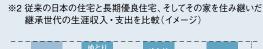
**宇杉** 日本の一般的な生涯支出入の 比較<sup>\*2</sup>を見れば、「お金が住まいのあ り方に随分と左右される」ことが分か ります。この視点から新たな提案を行 いました。

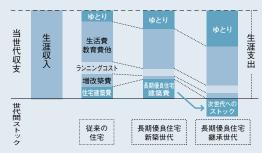
田子山 これは、「住宅の新築(戸建)部門」への応募で、長期優良な「暮らし」のためのライフサイクルコストをテーマにしています。当社の営業担当は、住宅メーカーの意識から、どうしても建物中心のご提案になってしまいがちです。それを避けるために、住宅購入や維持管理がどれだけ家計を圧迫するのか、家以外のライフサイクルコストまでも包括的に考えられるようなシミュレーションソフトなどをご提供し、お客さまの長期的な「ゆとりある暮らし」をサポートしようと考えています。

字杉 先導モデル事業対象物件では、 住まいの維持・管理や環境対策、毎日 の健康管理を「見える化」するシステム を導入しています。 太陽光発電システムの発電量・消費電力量・売買電力量などを、リアルタイムで"見える化"する「カラー電力モニター」。



その一つである、当社独自の「住宅履歴システム\*\*3」は、「住まいの履歴書」といった意味合いを持っています。引き渡し時の竣工図面やメンテナンス記録の更新、点検時期の確認などを住まい手自身が手軽に閲覧でき、住まいの維持・管理費を踏まえたライフサイクルコストの見当をつけやすくするためのものです。





※3【住宅履歴システム】 SMILEプロジェクト (http://www.kke.co.jp/smile/) 東京大学生産技術研究所 野城研究室と共同で検討した システムモデルをベースに開発。

この住宅履歴は、主要住宅メーカー 9社が主体となり発足された「優良ストック住宅推進協議会」が優良ストック住宅として認定する住宅「SumStock(スムストック)」ブランドの基準項目の一つでもあります。

#### Stakeholder's Voice

大和ハウスさんとは、こどもたちの代になっても 信頼できる関係が続くといいなと思っています。

東山 英司 様 真紀子 様

私たちの住まい方のビジョンは、その時々の家族のありように合わせて間取りを変化させながら、一生暮らしていくことです。"住み継ぎ"をテーマにしたこの家に足を踏み入れた時は、私たちが想い描いていた間取りがカタチになっていると思いました。

気に入っている間取りの一つは2Fの壁や扉のないファミリースペースという広間が、将来の個室はもとよりミニキッチンや物入れを設置できる基礎を備えているところです。両親を迎えたりこどもが増えるといった将来の可能性を受け止めてくれる。そんな懐の深い間取りであることに安心感があります。

暮らし始めてからは、住まい方に対する新たな価値観が生まれました。そのひとつは、「家負けしないこと」です。家負けしないとは、

長もちする家の機能性に頼り切らず、きちんと掃除や整頓をして丁寧に暮らしていこう、という私たち夫婦の心がけのようなものです。

また、エコロジーやエコノミーに対する意識も高まりました。これは、太陽光発電と共に搭載されているカラー電力モニターで、発電量、電力消費量などをタイムリーに確認できることが影響していると思います。

営業の瀬戸口さんは、真面目で一生懸命に私たちに接してくれました。共働きでなかなか打ち合わせの時間を取れないなかでも、メールでの報告や日程変更に応じていただくなど、誠実な対応に感謝しています。

私たちは、これから何十年と住み続けている限り、ずっと大和ハウスさんのユーザーであると思っています。ですから、大和ハウスさんには建てて売りっぱなしではない対応をしていただき、私たちのこどもの代に渡っても良い関係を継続していただくことを期待しています。

#### 「長期優良住宅」の普及に 努めます。

瀬戸口 東山様のお住まいは、「長期優良住宅」の先導的モデル事業の一環で設計された分譲住宅です。ご夫妻は「長期優良住宅」という言葉を念頭に住まいを探しておられたのではありませんが、住まい方に対するお考えが私たちの提供する「家族間住み継ぎ住宅」とぴったりだと思い、ご紹介したのです。

今後も、「長期優良住宅」の普及 に尽力していきます。 | 大阪北支店 住宅営業所 営業課 法人・不動産担当 瀬戸口 裕大 | Stakeholder's Voice |

この住宅履歴は、今後の中古物件の 流通において「優良な住まいが備えてい る価値の目安」としても非常に重要な役 割を果たすと考えています。

今後の想い

ストック型社会の形成に向け、取り組みを強化していきます。

間宮 私ども日本住宅流通は、従業員の「教育」を課題としています。一人ひとりのスキルアップを図り、ストック住宅の価値を広く社会へアピールしていきます。田子山 海外に比べて、日本では中古住宅の価値がなかなか認められないのが現状です。「住まいを創る」時はもとより、「住まいが生きる」間にも目を向け、良い住宅が正しく評価される仕組みづくりに取り組むことこそが、当社グループ

らしい社会的課題への対応になるので はと考えます。

柴垣 いくら「家」が高機能でも、治安 面・美観面に環境の悪い街では、その住 宅の資産価値は下がってしまいます。

「全ての住民が安心して長く住み継げる街」を築くために、自主的に街を維持管理する仕組みづくりのサポートを行っていきます。

字杉 私たちは、「人・街・暮らしの価値共創グループ」として、お客さまと共に、よろこびをつないでいきます。"戸建住宅事業"という企業視点からではなく、"暮らしの中の住宅"という「個客」視点から住宅に関するさまざまな接点でサポートし、グループ全体が長期的にお客さまとつながっていくことを目指しています。

株式会社 創樹社 ハウジング・トリビューン 編集長 中山 紀文 様



弊誌「ハウジング・トリビューン」では、 住生活産業の総合ジャーナル誌として、 住生活産業のみならず、住まいや生活をさ まざまな角度から論じようとしています。

長期優良住宅の背景には、単に住まいの耐久性を向上させるだけでなく、より良質な住まいを長く大切に使っていくことで、将来世代の居住費負担や地球環境負荷を軽減しようという狙いがあります。換言すれば、住宅を通じて成熟社会にふさわしい豊かさを実現しようというわけです。それだけに、住宅事業者の長期優良住宅の普及促進に向けた取り組みは、将来の社会や地球環境問題に対して重要な意味を持っているのです。

# 地震から建物を守る

#### ■地震対策システムDAEQT[ディークト]

大和ハウス

日本の住まいに欠かせない地震対策。xevoは耐震技術を標準に、制震技術、免震技術をご用 意。お客さまのご要望に応じた地震対策をお選びいただけます。建物の資産価値を高め、「安 心」「安全」な住まいをお届けします。



DAEQT[ディークト]

#### ■鋼管杭「D-TEC PILE(ディーテックパイル) |

大和ハウス

近年では良好な宅地ばかりではなく軟弱な地盤でも建物を建てる場合が多くなっていま す。D-TEC PILEは、そのような地盤においても安心して建物を建てていただくために様々な 性能確認試験を行い開発した安全・安心で環境にやさしい地盤補強工法です。

特に、施工時の廃土が少ないことから環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと評価さ れ、財団法人日本環境協会より低廃土鋼管杭としてエコマークの認定を受けています。



#### ■非常時電源切り替えシステム

大和ハウス

地震などの災害に遭遇したとき、建物は大丈夫でも電気が使えない状態に陥ったら、たち まち生活に支障をきたします。当社は、そうした万が一の事態に備えて、停電時にリビングの 照明やコンセントなど最小限必要な電力を別途用意した発電機から確保できる住宅用非常 時電源切替システムを開発しました。

停電時に、電源切替盤のスイッチを手動で「平常時」から「非常電源」に切り替えると、発電 機の電気がリビングで使えるようになります。また、発電機の電気が盤内に流れると、運転ラ ンプが点灯するため、建物内にいながら発電機の状態が分かります。

※利用できる電気の回路は分電盤の1回路のみとなります。



#### ■座屈※しないブレース「D-TEC BRACE(ディーテックブレース) |

大和ハウス

通常のブレース(筋かい)は大きな圧縮力が作用すると座屈し、耐力が著しく低下しますが、当社は、大きな圧縮力が作用しても座屈し ない「D-TEC BRACE」を開発・実用化しました。大地震時にも安定した性能を発揮し、耐震設計では座屈しないブレースとして扱うこと ができ、また、ブレースのエネルギー吸収能力に期待した制振設計に用いることもできます。制振設計とすることで、大地震時の揺れと変 形を低減することができます。

また、ブレースの総本数を減らすこともできるため、プランの自由度が上がり、建物コストを抑える効果も期待できます。

現在(2009年5月現在)までに大型物流施設を中心に17棟の採用実績があります。

※屈折:細長い棒や柱などが縦方向に圧縮荷重を受けたときに、ある限度を超えると横方向に曲がる現象。









#### ■コンクリート・鉄骨混合構造「DANBEL(ダンベル)構法 |

大和ハウス

圧縮力に強いコンクリート部材を柱に、軽量で曲げ性能が高い鉄骨部材を梁に用いる混合構 造は、材料の特性を部材の特性に応じて使い分ける合理的な構造形式と言えます。DANBEL(ダ ンベル) 構法は混合構造の一種であり、梁の中央部を鉄骨造、材端部を鉄筋コンクリート造とす る複合構造梁構法で、都市居住評価センターによる構造評定を取得しています。梁の中央部を 鉄骨造とすることによって自重が軽くなり、比較的大きなスパンをとりやすい構造形式です。

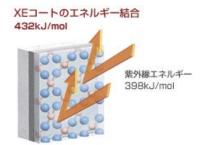


# 物理的劣化から建物を守る

#### ■外壁塗装「XE(ジー)コート |

大和ハウス

住宅は建築時だけでなく、居住してから、維持管理や改修、廃棄に至るまで、エネルギーを消費し、環境負荷を生じます。これを低減するには、建物のメンテナンスの必要性を極力抑えることが重要です。そこで当社のxevoには、紫外線の影響による外壁の劣化を抑止し、長期間にわたって美しい塗装状態を保つ「XE(ジー)コート」をコーティング処理。外壁のメンテナンスサイクルが長くなり、住宅のライフサイクルコストを大きく削減できます。また、このXEコートは時間の経過とともに親水性が増すため、外壁の表面に付着した汚れや黒ずみを雨水が浮かせて洗い流します。過酷な環境に耐えながら、自然の力で新築時の美観を維持し、住宅のメンテナンス負担と環境負荷を同時に低減できます。



#### ■外張り断熱通気外壁

【大和ハウス】

当社は省エネ性と耐久性を追求した独自の「外張り断熱通気外壁」を開発し、xevoに標準装備\*しています。これは、柱と柱との間に断熱材(高性能グラスウール)を入れる充填断熱に加え、構造体の外側に当社独自の断熱材(高密度グラスウールボード)を施し、外気温の影響をさらに受けにくくした新技術。室内空間を快適に保つとともに、一般的な新省エネルギー基準の住宅と比較して年間の冷暖房費を約1/3削減できます。

外張り断熱通気外壁では、外壁表面の1次防水に加え、壁の中にも2次防水を施す、二重防水を採用。その結果、業界最高水準の防水保証15年を実現しています。さらに壁体内に施した「アルミ蒸着防湿フィルム」が室内からの湿気をシャットアウト。万が一、壁の中にわずかな湿気が浸入した場合にも通気層の空気の流れにより外部に排出する二重の対策で壁体内の結露発生を抑制します。

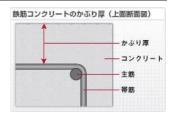
※「xevo WE」は外壁構成が異なります。



#### ■独自の設計基準による劣化対策(マンション)

大和ハウス

劣化対策等級は部材の劣化のしにくさを評価するもので、いかに品質の高いコンクリートが使用され、鉄筋コンクリートの中性化対策が施されているかにあります。コンクリートの品質はコンクリート中の単位水量、コンクリートの水セメント比によって変わり、中性化を防ぐ策として鉄筋を包むコンクリートの厚さ「かぶり厚さ」を厚くする事が考えられます。それらの基準を当社独自の設計基準を設定し、品質を確保するよう取り組んでいます。



#### ■リフォーム事業への取り組み(戸建住宅、集合住宅)

グループ

これまでに約133万戸の住宅(ストック)を建築してきた当社は、その資産価値を守り、愛着をもって長く住み続けていただくために、リフォーム事業に取り組んでいます。

主な取り組みとして、「エコキャンペーン」、「住まいの健康診断 $^{*1}$ 」、「引渡し後10年・15年の統合点検 $^{*2}$ 」を実施しています。

Renew 9/70/10/2 U=1-

また、2009年度から営業所を12カ所新設し(全国81カ所)、担当者を約200名増員しました。

戸建住宅のお客様と共に、集合住宅のオーナー様にも、専門家としてベストなリフォームを ご提案することで、資産価値の維持・向上、資源の有効活用並びに環境負荷低減に努めます。

※1 住まいの健康診断: 戸建住宅において、毎年、建物の引渡し月ごとに、お客様のご希望に沿って実施する点検及び診断
※2 統合点検: 戸建住宅において、お引渡し後10年目、15年目に当社点検・保証システムに基づいて、お客様相談センターとリフォーム営業所が連携して実施する点検及び診断



リフォームのためのお役立ちWEB (http://www.daiwahouse.co.jp/renew/index.html)



v イベント・キャンペーン情報 ♥ (http://www.daiwahouse.co.jp/renew/cp/index.html)

#### ■賃貸住宅のリフォーム

大和ハウス

オーナー様にとって建物の資産価値を高め、長期にわたり経営ができるように、そして、ご入居者にはライフプランにあった間取りと良質な設備が備わった賃貸住宅をご提供するために、リフォーム営業所と集合住宅営業所が効果的なリフレッシュ提案を実施しています。

#### 建物の安全と長寿命化に向けて

## 社会的劣化※から建物を守る

#### ※社会的劣化:

機能的な劣化を伴う物理的劣化に対して、消費者の意識等の変化によって耐用年数に満たない場合でも社会的ニーズに対応することができず、陳腐化すること。

#### ■給水・給湯ヘッダー工法※

大和ハウス

当社は生活シーンの変化に対応しやすい、ヘッダー工法を採用しています。

ヘッダー工法には、お湯や水を同時に使用した時の水量や圧力の変化を和らげ、安定して供給する効果があります。ヘッダーと器具を1対1で接続し、ヘッダーには給水先を表示しているため、用途の特定とメンテナンスが簡単に行えます。

配管の材質は樹脂を使用しているため劣化による赤錆びの発生がなく、また塩素を含んでいないためダイオキシンの発生もありません。 リフォームやメンテナンス時の廃材も環境に優しい部材です。 また、ヘッダー方式にすることで、将来の増設への対応も可能です。

※ヘッダー工法:給水・排水の配管をそれぞれ一箇所に集める工法。



#### ▮排水ヘッダーシステム

大和ハウス

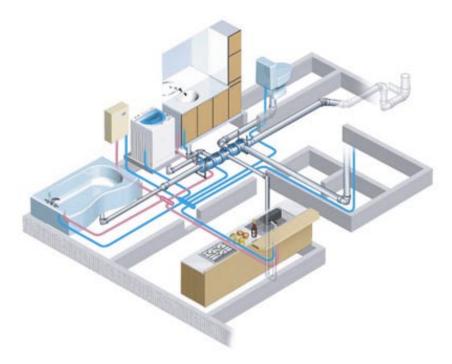
当社は、複数の排水を合流させスムーズな排水を行う排水ヘッダーシステムを採用しています。

断面構造は、管底が狭い逆三角形をしています。卵型管は、少ない水量でも汚物の搬送能力を落とすことがありません。また、各流入口とヘッダー部分に落差を設けることで、複数の同時排水でも流れを妨げることがありません。

上部に点検口があり、本体が透明ですので管理やメンテナンスが簡単 に行えます。

※自治体の指導により使用出来ない場合があります。





# 防犯配慮の住まいづくり

#### ■防犯性能の標準化

大和ハウス

自然災害などの被害から住まう人・財産を守るための住宅性能は、住宅性能表示制度の基準に適応させることでその危険率及びダメージを低減することができます。

#### 当社は.

1.防犯性能も、住まう人・財産を守る上で基本性能の一つと認識せねばならない。 2.基本性能である以上、住宅を提供する側の判断で必要と思われる防犯仕様を標準化すべきである。 という考え方に基づき、2003年5月より、『防犯配慮住宅』を全戸建住宅の標準仕様としました。

また、2005年1月以降、「防犯性能の高い建物部品(CPマーク部品)」を1階全開口部※に標準採用しています。

※公的に侵入不可と定義される小開口を除きます。

# P

**■**CPマーク

#### ■防犯環境設計に基づく外構提案

大和ハウス

防犯に関してはドアや窓などの開口部自体の対策が中心ですが、侵入盗から開口部を狙う機会をより少なくするためには、外構計画も重要な役割を担います。当社では「防犯環境設計」に基づき、「入りにくく」「逃げにくい」外構提案を盛り込んでいますが、一般の住宅では近年はオープン外構が主流であり、見た目には無防備な計画も多く存在します。オープンな外構であっても住まう方が防犯に配慮している事を示す事が重要であり、綺麗に手入れをされたガーデニングはその家の建物を含む維持管理の能力を示します。犯罪者は維持管理が行き届いた空間での犯行を避ける傾向を踏まえ、住まう方とともに良質な外構計画を提案していきます。



維持管理が行き届いた外構

#### ■防犯だけで終わらない防犯対策を

大和ハウス

防犯性能はもはや住宅が備えねばならない基本性能です。

しかし、一般的に、常時侵入盗に狙われる住宅は存在しません。そのような中で、標準化すべき防犯対策を選ぶ際に重要なことは、その仕様が防犯以外に、長きにわたり日々の生活に役立つ特性を兼ね備えていることと考えています。

例えば、防犯ガラスは家庭内ガラス事故を防ぐ、紫外線をカットする、遮音性能を向上させる、など多くの長期的メリットがあります。 また、防犯センサー付の玄関灯は、暗くなると家人の帰宅時に反応し明るく出迎えてくれます。その他、開口部の防犯建物部品を頑強に することで、長期的に故障や動作不良を軽減できると考えています。

#### ■防犯センサー付の玄関灯



暗くなるとほんのり点灯



家人が帰ればふわっと明るく、 家に入れば再びほんのり



一定時間以上とどまる人を 不審者と認知してフラッシング

# 防犯配慮の街づくり

#### 事例紹介 東旭が丘88

大和ハウス

三重県鈴鹿市の戸建住宅団地「東旭が丘88」では88世帯の安全、安心な街づくりを進めるた め、団地の出入口3箇所に防犯カメラを設置し、地域全体に不審者を寄せ付けない環境づくり を実施しています。

カメラは内蔵のハードディスクに一週間分の画像を撮影し、更新します。システムの運営は 警備会社に委託し、10年分の維持管理費とイニシャルコストは当社が負担し、自治会へ移管し ています。

10年以降については、自治会の総会にて継続等を決定していただきます。今後も自治会と協 力し、この街にお住まいのオーナー様、近隣にお住まいの方々の防犯意識の向上や事故等の抑 止力向上を目指します。



団地の出入口に設置された防犯 カメラにより、不審者を寄せ付け ない環境づくりを実施。

#### 事例紹介 レイクタウン美環(みわ)の杜

大和ハウス

レイクタウン美環の杜では、全132戸にホームセキュリティを標準装備し、住宅自体の防犯 性能を高めるのはもちろんのこと、街全体を見守るタウンセキュリティも行っています。街の 中に警備会社の緊急発進拠点を配置し、緊急対処員が日々、タウン内の巡回を行います。また街 の出入口付近8箇所と集会所1箇所の計9箇所に防犯カメラを設置しています。カメラは近く設 立される管理組合で維持管理され、132家族の暮らしをしっかりと守ります。



自然環境との調和[事例紹介]レイクタウン 美環の杜 →P199

# 阪南スカイタウンB1地区

#### 事例紹介 阪南スカイタウンB1地区

大和ハウス

阪南スカイタウンB1地区では、良い住環境を守り資産価値を維持していくために建築協定を制定し、戸建住宅でありながら管理組合を結成しています。

管理組合の運営は、グループ会社の株式会社ダイワサービスがサポートしています。

街並の景観保全を図るために、集会所やコモンなどの共有部分や、住宅の道路際の外構植栽は、管理組合が管理する対象物になっています。

また、景観の維持のために、管理の対象物となる植栽メンテナンス(薬剤散布3回/年、剪定1回/年)は管理組合が一括して行っています。

今後は、当物件のような戸建住宅での、管理組合による街並保全の実績づくりと 展開を目指します。

#### ■阪南スカイタウンB1地区の街路景観



住宅の道路沿い植栽等は管理組合の管理 対象物として美しく維持管理されている

#### ■阪南スカイタウンB1地区のコモン



共有部分であるコモンの植栽は管理組合の管理 対象物として美しく維持管理されている

## 札幌駅前再開発

#### 札幌駅前再開発事業の考え方

大和ハウス

札幌駅北口再開発は中心市街地の空洞化傾向を背景に、豊かな公共空間の創出や街区整備等を行うことで人が街に住み、かつ働く場としてより楽しく安全に生きる事を目的とした都市計画事業です。開発事業が長年進まない中、単独でいくつかの建築工事が進められようしていましたが、札幌の玄関としての役割をになう場所として、景観と安全に配慮した街区形成および施設建築物の計画が必要と判断しました。

そこで当社では、札幌駅北口周辺の街づくりとして「高機能オフィス」と「都市型住宅」等といった建築物を提供し、周辺の街区改造や公共地下歩道・交流広場の整備等を行うことで、活気に満ちた都市への再開発を目指しました。



公開空地



住宅棟・エントランスホール



全景

#### ■事業の概要(札幌北8西3東地区第一種市街地再開発事業)

大和ハウス

周辺街区全体の景観に配慮しながら、札幌駅北口のシンボルとなるタワー型の住宅棟(40階建て336戸)及び業務棟による複合施設を2棟に分棟化し、その性質の異なる2棟を融合させ、整備することで、土地の高度利用や都市機能の更新を図りました。

レジデンス(集合住宅)は、超高層住宅棟に最新のセキュリティシステムを導入する一方でパーティルームなど共用部を充実させ、安心で魅力ある空間を実現しています。

オフィスは産・官・学が集積する立地特性と交通利便性を活かし、ロングスパンによる自由度の高い執務空間の形成や省エネシステムの導入など、機能性を高めることで、新しいビジネス創造の場をご提供しています。

#### VOICE 担当者の声

全国的な中心市街地の空洞化が進む中で、優良な住宅を提供しつつ都市計画事業としての街づくりと組合員(地権者)の資産形成・利活用を高い次元で調和・成立させることに最大の注力を致しました。

こういった大規模プロジェクト事業こそ、特出した能力を持った一人の人間の力や特別なノウハウよりも「基本に忠実な仕事の積み重ね」が必要であると考え、関係スタッフ全員の知恵と知識の共有化に重きを置いて実践しました。

事業が終了した今はこの事業をいろんな立場で支えて下さった方々への感謝と、権利者の皆さまにいつまでも健康で幸せに暮らして戴きたいと願う気持ちでいっぱいです。

本社 東京都市開発部 部長 島 恵一



# フレンドリーデザイン

#### ■フレンドリーデザイン

大和ハウス

当社では、ユニバーサルデザインの基本用件である「使いやすさ」「わかりやすさ」「安全性」に「美しさ」を加えた4つの基本性能を「フレンドリーデザイン」とし、様々なフレンドリーデザインアイテムをカタチにしています。

フレンドリーデザインは使い勝手や安全性に関わる機能の満足に加え「住空間との調和」を目指した「美しさ」を兼ね備えたものづくりを目指しています。例えば使わない時には、しまうことができるスライドベンチ付シューズボックスもその1つです。また、昨年度は更に安定したフレンドリーデザイン性能の確保を目指し「フレンドリーデザイン評価会」をスタートさせました。そこでは独自の社内基準に基づいて新しいアイテムの評価を行い、特に優れたものをフレンドリーデザインアイテムとして認定しています。開発したアイテムに客観的な評価を加えることで、フレンドリーデザイン性能の向上に継続的に取り組んで参ります。





スライドベンチ付シューズボックス



フレンドリーデザイン

(http://www.daiwahouse.co.jp/lab/friendly/index.html)



ダイワハウスのキッズPJ「子どもを元気にする住まいPJ|

(http://www.daiwahouse.co.jp/jutaku/about/keyword/kidsproject/index.html)



「第2回キッズデザイン賞(コミュニケーションデザイン部門)」を受賞

(http://www.daiwahouse.co.jp/release/20080722121209.html)

「フィンガーセーフドア(指はさみ防止配慮ドア)」、「シンクロ引分け戸/フレンドリーデザイン引手」、更に「ファミリースイッチ」をはじめとするフレンドリーデザイン研究が「第2回キッズデザイン賞(商品デザイン部門/リサーチ部門)」を受賞いたしました。なかでも、住宅内での指はさみ事故防止を目的として開発された「フィンガーセーフドア(指はさみ防止配慮ドア)」は審査委員奨励賞を頂きました。





フィンガーセーフドア

# 少子高齢社会の多様なニーズへの対応

#### 事例紹介『HAPPY HUG(ハッピーハグ)モデル』

【大和ハウス】

当社の戸建住宅商品「xevo(ジーヴォ)」と株式会社ベネッセコーポレーションの妊娠・出産・育児ブ ランドの「たまひよ |とのコラボレーションにより、子育て層向けの新しい住宅プラン『HAPPY HUG モデル』が誕生しました。

『HAPPY HUGモデル』は、家族の「コミュニケーション」と「成長」をキーワードに、子育て層向けの様々な 空間やアイテムの提案を盛り込み、誕生に合わせて実物の建物を活用したキャンペーンを開催しました。

従来からある一般的な間取りの考え方にとらわれない『HAPPY HUGモデル』を多くの方にご覧頂 き、「コンセプトが分かりやすい |「こどものことがよく考えられている |「住まいを考えるうえで参考 になった」など、多くの貴重なご意見をいただきました。

なお、2009年7月には「たまひよ」とのコラボレーション第二弾となる『ハッピーハグモデルIIIを開発。

子育て家族にとって重要なキーワードである「コミュニケーション」と「成長」はそのままに、「"日本 の子育で"のよさ |をテーマに新たな特長を付加しています。



■コミュニケーションキッチン



キッチンから全体が見渡せる空 間により、こどもの様子を自然と 把握できる工夫をしています。

WEB お客さまとの共創共生『HAPPY HUGモデル』



『HAPPY HUG(ハッピーハグ)モデル』オフィシャルホームページはこちら (http://www.daiwahouse.co.jp/jutaku/lifestyle/happyhug/)

#### |事例紹介||近居・育孫(きんきょ・いくまご)プロジェクト

大和ハウス

「近居・育孫」とは、「親・子・孫」3世代間のよりよい暮らしとコミュニケーションを育む、 当社の新たなライフスタイル提案です。車や電車、自転車など交通手段を問わず比較的気 軽に行き来できる約30分以内の距離に「親世帯 |と「子世帯 |の住まいがあり、お互いが日 常的にサポートし合い、交流を楽しめる暮らし方です。

当社の研究所を中心に実施した各種調査の結果から導き出した、子育て支援、女性の就 労継続支援、そして将来的な介護対応を見据えたプランをご提案するものです。

現在、戸建住宅、マンション、集合住宅、リフォームなど、お客様の希望される親子の距 離感や様々な居住パターンに対応した提案を展開しています。



戸建住宅:近居・育孫生活提案

(http://www.daiwahouse.co.jp/jutaku/lifestyle/kinkyoikumago/index.html)



分譲マンション:プレミスト南千里(標準プランに「近居・育孫プラン」を提案)

(http://www3.daiwahouse.co.jp/mansion/kinki/52100/senreal/index.html)



#### |事例紹介||子育てマンション「プレミスト東大阪 森河内」

大和ハウス

プレミスト東大阪 森河内は家族の交流を大切にし、かつさまざまな世代のライフスタイルにお応えするため、当社の研究部門におい て調査を行っています。その中でも、ご家族の絆を大切にする子育て期ファミリーへは生活者の視点で暮らしを見つめ、さまざまなリ サーチや研究を重ねることで、新しい住まいの価値を創造・ご提案しています。

またミキハウス子育て総研株式会社における、100項目の評価基準を体系化した「子育てにやさしい住まいと環境 |マンションとして認定を受 けました。当社独自のフレンドリーデザインを採用し、こどもと住まいの仲のいい関係をテーマにさまざまな住まいの工夫をご提案しています。





### 少子高齢社会の多様なニーズへの対応

### ■シルバーエイジ研究所

大和ハウス

シルバーエイジ研究所は日本の高齢社会と介護のさまざまな問題を考え、医療・介護施設のあり方や施設プランの企画提案等を総合的にプロデュースする、当社独自の研究機関です。

高齢者の方々が安心して穏やかに過ごせるために、日本の医療・介護環境の整備と拡充を通して、高齢者の方々の「住まい」をサポートしていきたいと考えています。

### | 事例紹介|| 高齢者専用賃貸住宅 「スカイステーション」

大和ハウス

医療・介護の連携ノウハウを活かして、診療所と介護・看護ステーションを誘致した高齢者住宅を開設したのは株式会社アイシマ様です。グループホームの運営に定評のある株式会社アイシマ様と、グループホームなどの施工に実績がある当社で高齢者用賃貸住宅「スカイステーション」を建設しました。

生活レベルも様々な高齢者の方に、一人ひとりに適した高齢者住宅を提供したいという 株式会社アイシマ様のお考えから、今後、多様なタイプの高齢者住宅を開設予定であり、そ の第一弾が「高級志向のシニアのための高齢者住宅」をコンセプトとした「スカイステー ション」です。

### ■ 高齢者専用賃貸住宅 「スカイステーション」



WEB

高齢者住宅スカイステーション

| 「同断自止せヘル・ヘノ・ノーン (http://www.daiwahouse.co.jp/business/silver/medical\_corp/case04/01.html)

### 事例紹介 住宅型有料老人ホーム「杉の子」

大和ハウス

株式会社イヤスコ様が「もっと自由に、利用者に寄り添った、多様な要望に応えるサービスを提供したい」という思いで開設された住宅型有料老人ホーム「杉の子」。

隣接する介護老人保健施設、診療所、訪問介護事業や居宅介護支援事業所などと連携することで、生活の中に医療と介護がある先駆的住宅モデルを実践しています。

住環境におけるコンセプトは「脱・介護施設」です。

### ■住宅型有料老人ホーム「杉の子」



### 少子高齢社会に向けた産官学連携

### ■高齢者いきいき居住アイデアコンテスト

大和ハウス

大阪市立大学大学院生活科学研究科との産学連携体制による共同研究をきっかけに、2007年より「高齢者いきいき居住」アイデアコンテストを実施し、高齢者やその暮らしに関わる方、医療・介護に携わる方や学生の皆様から、たくさんの応募をいただいています。

2008年秋に実施した第2回「高齢者いきいき居住アイデアコンテスト」の第二次審査では、応募者自らがプレゼンテーションを行った後、公開審査により優秀作品を決定しました。

第2回「高齢者いきいき居住アイデア コンテスト」第二次審査



、 高齢者いきいき居住アイデアコンテスト (◇ (http://www.daiwahouse.co.jp/iki2/)

WEB

### 少子高齢社会に向けた住まいと施設づくり

### ロボットスーツ事業への参画

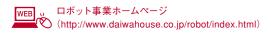
### ■ロボットスーツ「HAL™」福祉用リース販売開始

グループ

2008年10月にサイバーダイン株式会社のR&Dセンターが竣工し、ロボットスーツ 「HALTM」福祉用の市場投入ができる体制が整いました。2009年1月に初出荷し、2009年度からは首都圏・近畿圏での限定販売から全国展開へと販売エリアを拡大するなど本格的な普及を目指しています。

ロボット技術を通じて「人が心豊に生きる理想の社会」の実現に向けて、チャレンジを 続けます。

※ロボットスーツ「HAL™」の研究・開発・生産をてがけているサイバーダイン社の国内総販売代理店として、足に障がいをお持ちの方や脚力が弱った方の自立動作をサポートします。





「HAL™」福祉用の介護・福祉施設及び、 医療機関向けに、リース販売を行っています

### 空気環境への配慮

### ■健康住宅仕様の採用について

大和ハウス

大和ハウス工業では建材から放散されるホルムアルデヒドやVOC (揮発性有機化合物)が原因となり、住宅に入ると頭痛などが発症する シックハウス問題に対して、業界に先駆けて取り組んできました。 住む人の健康を考え、フローリング材や壁紙、壁紙接着剤などには、 JIS、JAS最高等級のF☆☆☆☆を標準採用にする等、VOC対策を実施 した健康住宅仕様を採用しています。

### ■ホルムアルデヒドの放散量と表示ランク

放散量	表示ランク	内装仕上げ材の使用制限
少ない	F☆☆☆☆	制限なし
4	F☆☆☆	/+ III == 1 + + + + + + + + + + + + + + + + +
1	F☆☆	使用面積を制限
多い	F☆	使用禁止

ホルムアルデヒドを放散する建築材料については、建築基準 法でその放散量について区分され、区分により使用できる面 積が制限されています。

■ 健康住宅仕様(鉄骨系戸建住宅、集合住宅) 積が制限されています。 (2009年7月					
部位		建材•施工剤	対象VOC	ダイワハウスの対策内容	
			ホルムアルデヒド	F፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟	
		<sub>クロス</sub>	トルエン、キシレン	不使用	
天井	仕上材 	762	可塑剤	エコロジークロス(非塩ビ)は可塑剤非	
		クロス用接着剤	室内空気質指針値策定13物質	不使用	
			ホルムアルデヒド	FXXXX	
		252	トルエン、キシレン	不使用	
	仕上材	クロス 	可塑剤	エコロジークロス(非塩ビ)は可塑剤非 含有	
D#		クロス用接着剤	室内空気質指針値策定13物質	不使用	
壁		化粧面材	ホルムアルデヒド	F&&&&	
	インテリアドア	<b>//</b> a 物本で、   1	トルエン、キシレン	不使用	
		化粧シート	可塑剤	不使用(オレフィン系シート)	
	巾木・窓額縁	化粧シート	トルエン、キシレン	不使用	
	川小・芯領豚		可塑剤	不使用(オレフィン系シート)	
	仕上材	   カラーフロア	ホルムアルデヒド	F☆☆☆☆	
床			トルエン、キシレン	不使用	
	下地材	合板	ホルムアルデヒド	F&&&&	
	床下	大引・床束	クロルピリホス、木材保存剤	鋼製大引、鋼製床束を採用のため不使用	
床下	土壌	防蟻シート	クロルピリホス(防蟻剤)	非有機リン系薬剤使用防蟻シートを採用 のため不使用	
内部階段	階段材	合板、MDF、化粧シート	ホルムアルデヒド	F&&&&	
内部階段	階段例	合板、MDF、1C桩シート 	トルエン、キシレン	不使用	
	キッチンセット 洗面化粧台 シューズボックス		ホルムアルデヒド	F☆☆☆☆	
住設機器・収納	トイレ収納カウン ター 押入 中段・枕棚 住設機器	扉・キャビネット・棚板 	トルエン、キシレン	不使用	
その他		現場施工用接着剤 (カラーフロア、キッチン前 化粧板等)	室内空気質指針値策定13物質	不使用	
		工場生産品用接着剤 (外壁、床、屋根、間仕切り等)	室内空気質指針値策定13物質 不使用	不使用	

### ■VOC(揮発性有機化合物)放散建材に対する取り組み

大和ハウス

当社では室内空気質改善のため、建材の検証試験を実施しています。

各建材について、書類による放散等級の確認を実施するだけでなく、主な建材についてはホルムアルデヒド放散量のデシケーター試験<sup>※1</sup>、 及びチャンバー試験\*2を定期的に実施、データを集積して改善に活かしています。

今後、社内の分析技術を活かして、VOC放散量についても検証を進め、より一層の室内空気質改善に取り組んでいきます。

※1 デシケーター試験: 下部に純水を入れたシャーレを置き、発生するホルムアルデヒドを吸収させる試験方法。純水の中のホルムアルデヒド 濃度(mg/L)を測定し、等級分けする。

※2 チャンバー試験: 20Lのチャンバーを用い、2時間に1回、チャンバー内の空気が入れ替わるように空気を供給する(換気回数0.5回/hr)。チャ ンバー出口から排出されてくる空気を捕集し、建材から放散される化学物質を分析する。



小型チャンバー法によるVOC放散量試験実施状況



分析試験の状況(ガスクロマトグラフ質量分析装置)

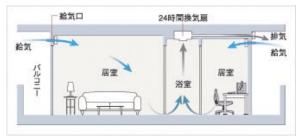
### 空気環境への配慮

### ■24時間換気システムの標準化

大和ハウス

近年、シックハウス症候群や化学物質過敏症といった住宅をとりまく空気に起因した健康障害のほか、花粉症やアレルギー性疾患、ぜん息など、空気そのものに起因した健康障害も増加しています。そこで当社では、いつでも清潔な空気を実現する空気環境をご提案しています。

24時間低風量換気システムでは、空気清浄フィルターを通して屋外から新鮮な空気を取り込み、室内の汚れた空気を排出する24時間駆動の換気システムを採用しています。そのため、結露の防止やカビ・ダニ対策としても効果的です。

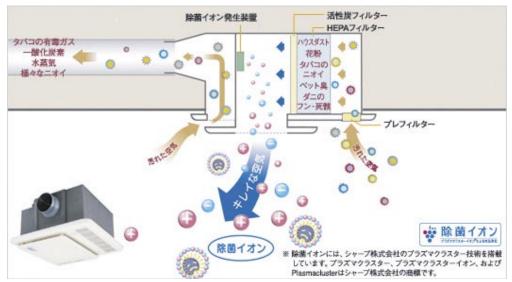


24時間低風量換気システム概念図

### ■空気清浄機「換気浄化ef(イーエフ:Excellent Fresh) | の開発

大和ハウス

2003年に建築基準法が改正され、24時間換気設備の設置が義務化されました。また、健康に関する社会的ニーズ、特に室内の空気質に対する関心も年々高まっています。ハウスダスト等に起因する健康面やペット臭などを気にされるお客様のニーズに応え、一歩進んだ健康配慮をご提案するために当社オリジナルの空気清浄機「換気浄化ef(イーエフ: Excellent Fresh)」を開発しました。



換気浄化efの仕組み 概念図

### **COLUMN** 建築物件のタイルカーペット施工における空気環境への配慮

大和ハウス

タイルカーペットをコンクリート下地に直接貼り付ける場合、タイルカーペット裏面にある塩ビ製のバッキング材(裏打ち材)とコンクリート中に含まれるアルカリ水が反応し、異臭(2-エチルヘキサノール)が発生することが確認されています。この異臭の原因物質について国内では室内濃度指針値の策定物質に挙げられていない化学物質でありますが、吸入した場合、咳・めまい・頭痛等の症状が発症する場合があります。

そのため、当社が施工するオフィスなどの建築系の物件では、原則としてフィルム捨て貼り工法を採用し、コンクリート上面にフィルムを貼り付けてからタイルカーペットを施工しています。



当社福岡支店ビル新築時のフィルム施工状況

### 健康管理支援への取り組み

### ■インテリジェンストイレII

大和ハウス

当社は生活習慣病の改善をサポートする『インテリジェンストイレ』をTOTO株式会社と共同開発し、販売を行ってきました。

新たに"女性の美容と健康"と"お子様の健康管理"に役立つ機能を付加した『インテリジェンストイレII』を商品化し、2008年12月より販売を開始しました。

『インテリジェンストイレII』では、従来の「尿糖値」、「体重」、「血圧」に加えて、「尿温度 (深部体温)\*」の測定機能を追加して、女性ホルモンのバランスを知ることができるよう にするとともに、光る採尿部に尿をかけると音が出る機能によって、お子様が楽しみな がら体温測定できる工夫もしています。

また、測定したデータの変化は、トイレ内の「表示パネル」で確認できますが、付属のパソコンソフト「健康かんりくん」に測定したデータを自動転送すれば、食事のカロリー計算など健康生活をサポートする機能を利用することもできます。

※尿温度(深部体温):体の中心の体温。

WEB インテ

インテリジェンストイレII

(http://www.daiwahouse.co.jp/jutaku/lifestyle/intelligencetoilet/)

# 『インテリジェンストイレII』外観

### ■寄附講座「住居医学」講座の開設

大和ハウス

住宅における健康配慮をさらに充実させるために、建築学的見地からの健康配慮だけではなく医学的見地からも住まいにおける健康を考えています。その一環として現在、奈良県立医科大学にて寄附講座「住居医学」講座を開設しています。今後は、同講座を通じて住宅商品の開発に関連付けて反映させて行く予定です。またインテリジェンストイレなどにも関連しますが、住宅を「生活サービスを受けるためのインフラ」として捉え、情報通信技術を含めて更なる分野を超えた取り組みを続けています。



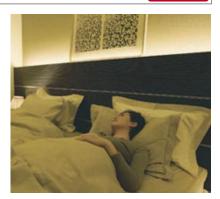
### 睡眠環境の向上に向けて

### ■快眠のための照明技術

大和ハウス

厚生労働省の「保健福祉動向調査」によると、日本人の5人に1人は睡眠障害を抱えてい るとされています。良質な睡眠は健康の要。そこで当社はあらゆる角度から睡眠環境の向 上に取り組んでいますが、中でも影響の大きい「光環境」についていくつかの提案をしてい ます。

その例として、スムーズな眠りを促す「入眠ライト」や、夜間目が覚めてもほんのりした あかりでトイレまで誘導する「ナイトガイドライト」が挙げられます。この他にも照明用コ ントローラーの「おやすみモード」を活用し、入眠に配慮した寝室の提案を行っています。



xevoE (http://www.daiwahouse.co.jp/jutaku/shohin/xevo/xevoE/concept\_03.html)

### 「サービスインフラ」として住まいのあり方を追求

### ■ホームサーバーの研究と開発

大和ハウス

近年では携帯電話による留守宅の見守りや情報家電の遠隔操作など、インターネットを活用した様々なサービスが実用化されています。しかし、サービス毎に専用の通信機器や加入申し込みが必要になるなど、住宅全体で最適化されているとは言えません。

当社はNTTグループと共同で、住宅内のサービスを統括するホームサーバーの開発に取り組んでいます。オープンな通信環境と、適切な管理システムの普及により、住宅をサービスインフラとして活用できるよう研究を進めていきます。

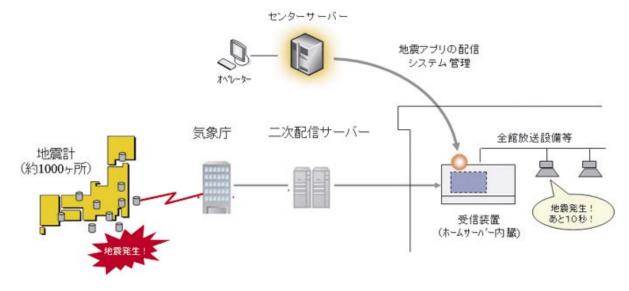


### ■ホームサーバーの実用化(緊急地震速報システムの社内展開)

大和ハウス

ホームサーバーを活用した生活サービスの第一弾として緊急地震速報システムの開発を行い、当社の全支店・工場に展開しました。 このシステムは、OSGi<sup>※</sup>に準拠したホームサーバーとセンター設備の整備によって、遠隔管理が容易という特長を持っています。

**※OSGi:**標準化団体である「OSGiアライアンス」において仕様が策定されたJava言語に基づくオープンなソフトウェア部品化技術です。この技術を使用することで、ネットワークを介して様々な端末のソフトウェアを動的に追加・更新することが可能となります。



### ■ホームネットワークを活用した生活サービスの研究と開発

大和ハウス

せっかく整備された通信インフラも、その上で提供される魅力的なサービスがなければ意味がありません。当社では業界に先駆けて開発した「留守モニ」や、緊急地震速報実証試験など、サービスそのものの開発にも取り組んでいます。今後はインテリジェンストイレを活用した健康支援や省エネモニターなど、サービスの充実を図っていきたいと考えています。



### 食品衛生技術顧問団との連携サポート

### ■食品衛生技術顧問団との連携サポート

大和ハウス

当社では食品衛生のエキスパートである食品衛生技術顧問団と連携し、食品施設に携わるお客様に最適かつ最新の衛生管理システムや生産管理システムの構築をコンサルティング(相談)&コンストラクション(施工)することでトータルにサポートしています。食品の「安全・安心」を確保する施設づくりはもちろん、食品施設に関するあらゆる事業のお手伝いをしています。

■食品物流施設(冷凍・冷蔵・常温倉庫)

### 食の安全・安心に向けて

### HACCP(ハセップ)高度化認定支援

### ■HACCP(ハセップ)※高度化認定支援

大和ハウス

高度化認定とは、「食品の製造過程の管理の高度化に関する臨時措置法」に基づいて長期低利融資や税制上の特別償却等の支援を受けることで、HACCP導入を促進するための第三者による認定制度です。

高度化認定取得は、施設・設備の改善、衛生面・品質面のレベルアップ、従事者の衛生意識の向上、納入先・消費者からの信頼性アップにつながるなど事業展開に効果的です。

当社では、このように事業に添ったあらゆる業種・業態の企業様に対してハード・ソフト両面からしっかりとサポートします。

**※HACCP:** Hazard Analysis and Critical Control Point の略で危害分析・重要管理点方式と訳されている。食品の安全性を保証する衛生管理の手法の一つ。

### ■ 食品製造施設(ごま油)



### 田舎暮らしの定住サポート(森林住宅)

### ■管理サービスの充実で自然との共生をサポート

大和ハウス

当社の森林住宅地の大きな特色の1つとして、管理サービス体制の充実があげられます。自然に囲まれた森林住宅地の住環境を守る為に、分譲地内の日常的な巡回点検サービスの実施と、上下水道・温泉・道路といったインフラ施設の、ライフサイクルコストを組み入れた専門業者によるきめ細かな施設管理を実施しています。

また、快適な住環境を整えるとともに管理に掛かる不測の事態と費用発生の低減にも努めています。また管理担当者には地元出身者を採用し、他の地域から移住して来るオーナー様の地域アドバイザーの役割も担っています。



巡回点検サービスの様子

### 自然との共生

当社の森林住宅地は、自然の植生を出来るだけ活かしつつ、都会並の インフラを整える開発を行っています。

また、管理規約等において建べい率を30%、容積率を60%以下に設定することで建築を制限し、伐採の面積を制限することでできる限り森林を保全し、自然に囲まれた住環境の確保を図っています。

更に、塀などの人工構造物を極力作らないようにするなど、自然と調和した街並みづくりを推進しています。



ロイヤルシティ大山リゾートの豊かな自然

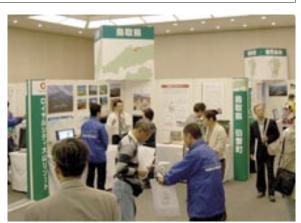
### ■地域活性化の定住促進への取り組み

大和ハウス

「大和ハウス」

当社の森林住宅地は人口滅の傾向にある地域に立地する事から、地元自治体と協力体制をとって森林住宅地への定住促進を進めています。

ほとんどのオーナー様は仕事や子育てを終えられた方や都会から移住された方ですが、森林住宅地は生活レベルを変えずに豊かな自然に囲まれた生活しやすい住環境にあるといえます。都会で養った経験と視点を持って地方に暮らすことで、地域に新しい文化を作るきっかけにもなります。当社では地元地域の方々との交流のサポートと同時に、第2の人生を自然あふれた地で暮らそうとお考えの方へ、友の会活動を通じて定住促進に取り組んでいます。



セカンドライフセミナーを開催

### 健康志向のライフスタイルを支援(スポーツクラブ事業)

### ■スポーツを通じて皆さまの健康増進に寄与します

グループ会社

近年、過食と運動不足により健康を害する方が増加しているなか、運動の重要性は従来にも増して高くなってきています。スポーツクラブ NASでは健康余暇事業を通じて、全てのお客さまが心身ともに健康で豊かな生活を過ごしていただけるよう尽力しています。

運動への一歩が踏み出せない多くのお客さまのために、NASオープンカレッジ<sup>\*1</sup>をご提供し、多くのお客さまよりご好評を頂いています。今後は、より高い目標に向かって運動を継続されるお客さまのご要望に応え、新たにNASドリームチャレンジ<sup>\*2</sup>を提案するなど、より多くの皆さまの健康増進に貢献します。

**※1 NASオープンカレッジ**:誰もが気軽に様々な運動レッスンを楽しめるもので、スタジオ・ジム・プール、に於ける様々なレッスンを短期・安価・分かり易い、内容で提供。

**※2 NASドリームチャレンジ**:フルマラソン・マスターズ(水泳)・名峰登山、を目指し基本的なトレーニングから指導。

# NASジムカウンセリング風景

会員に対しNASスタッフが運動の方法を教示(イメージ)

WEB NASホームページ (http://www.nas-club.co.jp/)

### ■生活改善プログラムの提供

グループ会社

東京都多摩市では、健康・体力チェックを実施し、市民にご自分の体力・年齢に見合った健康づくりを選択してもらうことを目的とした「けんこう多摩手箱スポーツまつり」を2006年度より実施しています。

運動を習慣づけるきっかけとして様々な体験コーナーを設け、聖蹟 桜ヶ丘店と、永山店の合同で「ストレッチ&筋カトレーニング」のブースを担当。イベント参加者260名のうちNASのブースには130名が参加され、楽しみながらも真剣な表情がとても印象的でした。

### ■ストレッチ・健康体操



健康増進として、生活習慣に繋がる軽運動を指導

### カンボジア井戸掘りツアー

### ■カンボジアのこどもたちに綺麗な水を~カンボジア井戸寄贈プロジェクト

グループ会社

株式会社伸和エージェンシーツーリスト事業部が企画する海外旅行ブランド「ロイヤルツアー」では、インドシナ半島の旅行プランの中で、カンボジア(シェムリアップ)での井戸寄贈ボランティアに取り組んでいます。

また、同プロジェクトを外部企業・団体に広く紹介し、協賛をお願いしたところ、数社のご賛同を頂き、大和ハウス20基と合わせ、多くの井戸を寄贈することができました。今後も継続的に同地域を支援し、井戸掘りツアーの企画を通じ、カンボジアのこどもたちに綺麗な水を提供します。



### 寄贈した井戸とこどもたち 「共に創る。共に生きる。」エンドレスハート入り井戸



カンボジア・シェムリアップ コンプルグ村の寄贈井戸、看板に日本語・英語・クメール語で「共に創る。共に生きる。」と記載されています

### 井戸寄贈式



井戸を寄贈したコンプルグ村での寄贈式の様子

### 中国における取り組み

### 住宅の質の向上

当社が中国において進めている不動産開発事業では、日本での経験や技術を活かして『住環境』への取り組みを行なっています。

### ■分譲マンション事業へ取り組む背景

グループ

当社は1983年より中国での事業に取り組み、中国での事業基盤を築いてきました。中国はこれまで住宅ストックの充足を優先してきましたが、量から質への転換期を迎えると同時に、今後は省エネルギー・環境負荷を軽減することが求められます。

当社は、施工品質のばらつき・入居後のアフターメンテナンス・瑕疵に対する責任分担といった、これまで中国の住宅事情が抱えていた 問題点を、日本で培ったノウハウと技術を応用して改善し、中国の住宅産業に貢献することを目指しています。

### ■商品づくりへのこだわり

グループ

今回は、具体的に二件のプロジェクトの事例を紹介しながら、当社の取り組みをご報告します。当社が特に重要しているポイントは以下の3点であり、今後も快適な住環境の提供を目指したプロジェクトの推進を図っていきます。

- ・住宅としての基本性能にこだわり、細部まで配慮された安全で安心な住宅を提供。
- ・中国の伝統的な間取りを活かしながら、日本的な生活習慣(玄関・独立式トイレ・収納等々)を提案。
- ・省エネルギー、環境対策への取り組み(断熱サッシ、太陽熱温水器、共用部LED照明等々)。

### ■蘇州プロジェクト



09年7月着工、11年6月竣工予定

### ■大連プロジェクト



07年3月着工、09年6月竣工

### ■蘇州プロジェクトの事例

グループ

蘇洲プロジェクトでは、以下のように『間取り』と『設備』を中心に独自のアイデアと技術によって当社独自の取り組みを進めています。

また、2009年5月2日に行われた住宅展覧会(年二回開催)において、当社のブースでは、独自性の高い技術や品質を実体験してもらえるコーナーを企画・展示して、大勢のお客様にご紹介しました。

	取り組みの具体例	キーワード
間取り	独立式玄関の採用 収納スペースの充実 独立式トイレの採用 空調室外機置き場の配備 家事動線の重視	健康・快適 人に優しい 健康・快適 人に優しい 健康・快適 人に優しい 省エネ・環境 安心・安全 人に優しい
建材や設備	サッシ性能の向上 省エネルギー型空調機(エアコン)の採用 配水管性能の向上と同層排水システムの採用 太陽熱温水器の採用 給湯器性能の向上 節水型衛生機器の採用 省エネルギー型照明器具 VOC対策の実施	省エネ・環境 健康・快適 安心・安全 省エネ・環境 健康・快適 安心・安全 省エネ・環境 省エネ・環境 省エネ・環境 省エネ・環境 省エネ・環境 安心・安全

### 住宅の質の向上

### ■大連プロジェクトの事例

グルーフ

大連プロジェクトでは、以下のように地域性を考慮しながら、お住まいいただく方の快適性を追及することをメインテーマとして取り組みを進めています。

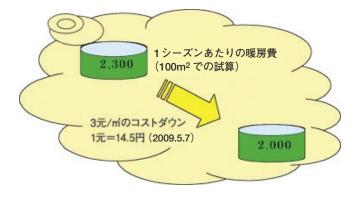
### ■硬質ウレタンフォーム工法による外断熱



■3枚ガラス(2層の9mmの空気層)



	取り組みの内容
耐震性の高い構造設計	08年5月に四川省で発生した大地震では多くの犠牲者を出しましたが、本物件は $M5.5 \sim 6.1$ に耐える構造としています
高い断熱性による省エネ設計	外壁:断熱吹き付けによる外断熱工法 現場吹付け硬質ウレタンフォーム工法により、複雑な形状な場所にも継目のない断熱層を形成します。 サッシ:樹脂サッシ(PVC)仕様 ガラス:3枚ガラス 4mmのガラス3枚の間に9mmの空気層を2層設けることで、熱伝導率を下げました。防音、遮音にも効果があります。
熱量精算方式を採用した床暖房	大連市は寒冷地のため、冬季(11月中旬~3月中旬)は地域暖房が各家庭に供給され、24時間部屋は暖かい状態になっています。 当社では不在時の暖房の無駄を減らすことを目指して、室内に室温コントロールパネルを設置することにより、 大連市では初めての使用熱量計算による精算方式を採用しました。





室温コントロールパネル

# CSRマネジメント



大和ハウスグループは、今まで以上に持続可能な社会に貢献する企業グループとなることを目指し、企業市民として社会の要請に応え続けるCSR活動に取り組んでいます。

そこで、CSR活動の成果を定量的に測定し、「見える化」を図るため2006年4月に「CSR自己評価指標」を策定し、活動を推進しています。CSR自己評価指標は、ステークホルダー(6分野)別に具体的指標を定め、バランスのとれた事業活動(経営)ができているかどうかを測り、社会的課題解決への取り組み成果を自己評価する内容になっています。

この指標は、得点を上げることだけにこだわるのではなく、結果から現状把握、課題抽出、改善をするために活用することを目的としています。

今後も「もっといい会社になる」ことを従業員一人ひとりの胸に刻み、ステークホルダーと誠実に向き合い活動することで、社会から必要とされ信頼される企業であり続けるよう努めていきます。

### ▋指標改定のプロセス

社会からの要請に応えるため、社外有識者を含むステークホルダーからのご意見を反映し、大幅な改訂を行いました。
→P51

### 【CSR自己評価指標2008年度実績(詳細版)】

各指標の評価方法などの詳細データを掲載しています。

→P53

### ステークホルダー(6分野)別に、優先実施項目を設定しています。

大和ハウスグループでは、当社グループと関わりの深いステークホルダー(6分野)別に優先実施項目(34指標)を定め、CSR活動を推進しています。具体的指標を定め目標を数値化し目標の達成度合いを明確にすることにより、ステークホルダー別に取り組み状況の進捗を確認し、PDCAサイクルに則った改善を推進しています。

### お客さま

→P56

取引先



社会

→P96

- ○住まいの質的充足 ○住まいの安全・安心
- ○住まいの安全・安心 ○住まいの長寿命化



○サプライチェーン(労働安全衛生の充実)

- ○サプライチェーン(環境への取り組み)
- ○公正な取引の実施
- ○有事の際の事業継続
- ○事業活動の客観的評価の確保
- ○情報セキュリティ (個人情報の保護)
- ○リスクへの対応
- ○情報発信・対話機会の充実

○地域社会・国際社会への貢献

### 株主

→P70

### 従業員

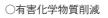
→P86



→P112

- ○財務の収益性
- ○財務の成長性
- ○財務の安全性
- ○財務の健全性・効率性
- ○事業活動の客観的評価の確保
- - ○ダイバーシティーの推進
  - ○人財の育成
  - ○ワークライフバランスの推進
  - ○福利厚生制度の充実(従業員の持家取得推進)
  - ○事業活動の客観的評価の確保





○自然環境との調和○環境活動の輪の拡大



CSR自己評価指標(CSRインディケーター) 2008年度実績 <詳細版> 各指標の実績・目標欄における上段数値は実数を記載、下段の( )内点数はその実数を当社の評価方法に従い点数化したものです。

### 2008年度実績のふりかえりと2009年度目標に向けての取り組み

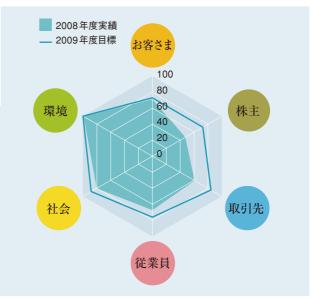
2009年度の取り組みを開始するにあたって「CSR自己評価指標」の制度改定を行い、新たな指標(10指標)を追加しました。2008年度は制度の移行期間に当たるため、2009年度より新制度の目標設定を行っています。

そのため、今回は新制度での2008年度実績と2009年度目標についてご報告します。

2008年度実績に関し、ステークホルダー(分野)別では「お客さま」・「社会」・「環境」分野の得点比率(満点に対する実績得点の比率)が高い一方で、「株主」・「取引先」・「従業員」の3分野は得点比率が70%を下回る結果となりました。

·CSR自己評価指標の分野別得点比率

各分野の満点を100とした場合の得点比率 (満点に対する実績得点の比率)





## より社会からの要請に応えるため、指標を改定しました。

指標の内容や測定方法は、さまざまな要因で常に変化する社会からの要請に伴い適宜改定しています。

3度目の評価年にあたる2008年度は、社会からの要請を客観的に捉えるため、社外有識者を含むステークホルダーのご意見をヒアリングし、社内関連部門と協議を行い、大幅な改定を行いました。

### CSR自己評価指標の基本的な設定方法

●各分野(ステークホルダー)にとって代表的な指標であること

●社会・環境面だけでなく経済性(業績)も含む指標であること

- ●結果が毎年定期的に公開されるか、または把握できること
- ●会社の努力で数値を向上させることができること



●参加ステークホルダー(計24名):企業のCSR・環境担当者7名、NPO・NGO3名、学生8名、取引先2名、教育・研究機関1名、従業員2名、その他一般消費者1名)

step 改定前 さまざまな機会を通して、社外から指標に対するご意見の収集を行いました。 CSR自己評価指標の改定にあたっていただいたご意見の一部をご紹介します。

### ステークホルダーミーティング

ディスカッションテーマに挙げ、さまざまな方からのご意見をいただきました。

下記はCSR自己評価指標の改定にあたっていただいたご意見の一部です。 その他のご意見と当社からの回答は、webサイトに掲載しています。

### ■ ご意見/ 配点や評価基準が不明確である。(指標間の格差)

■ 回答 / CSR自己評価指標では分野(ステークホルダー)ごとに代表的な指標を設定したため、「指標の数」が分野によって異なっています。分野ごとの満点は一律であるため(200点満点×6分野)、指標数が多い分野は個々の指標の配点が低く、指標数が少ない分野は個々の指標の配点が高くなる傾向があります。したがって「指標によって配点が大きく異なる(指標間の格差がある)」などのご意見をいただいたものだと思います。

配点・評価基準に関しては、「CSRレポート2008詳細版」(webサイト)にて掲載していますが、配点方法を見直すとともにその決定プロセスについても今後公開したいと考えています。

### ■ ご意見/ 目指す姿が見えない。(達成したらどういう企業になるのか)

■ 回答 / CSR自己評価指標の得点をバランスよく上げる(目標達成する)ことで、「経済性」・「社会性」・「環境性」の3つの領域(トリプルボトムライン)をより拡充することができ、その結果、当社は今まで以上に「持続可能な社会に寄与する会社」になっていくものと考えています。これが当社の社長が常に口にしている「もっといい会社を実現する」に近づくことであると捉えています。

### (社)企業研究会 CSR推進フォーラム

社外有識者およびCSRご担当者 (12社)とKPI\*設定に関する ワーキング(討議)を行いました。

### ■CSR自己評価指標を1テーマとした際に いただいたご意見(抜粋)

- ・女性活躍のための指標(女性役員登用、 女性管理職比率など)を新設してはどうか。
- ・ISO26000 や SRI評価などにもっと目を 向けるべきではないか。
- ・社内CSR意識調査で重要視する設問が あれば、それをKPIとして採用してはどうか。
- ・事業所の優れた取り組みはCSRレポート などで社外にも公開してほしい。
- ・自己評価結果をもとに、どう改善を進める のか(進めたのか)説明が必要。
- ※【KPI】(Key Performance Indicator: 重要業績評価指標)業務の達成度を 定量的に把握するための指標のこと。

step 2 改定実施

社外からのご意見を踏まえてCSR自己評価指標の課題を抽出し、 指標の改定を行いました。

### 改定前の課題 A

ステークホルダー(6分野)別に具体 的指標を設定し運用するなかで、ス テークホルダーにとって「指標選定の 理由 | が分かりづらいものでした。

### → 改定ポイントA

ステークホルダー(6分野)別に考えられる「社会的課題」を洗い出し、その社会的課題に対して当社グループが推進すべき事項を指標として設定することで、「指標選定の理由付け」を行いました。

### 改定前の課題B

一分野を200点満点とし指標数に応じて点数配分を 行っていましたが、分野によって指標数が異なるため、 指標の配点に大きなバラつきがありました。また、配点 と重要度のバランスが不均衡で、「配点の高い指標」が 必ずしも「重要度の高い指標」ではありませんでした。

### → 改定ポイントB

「各分野200点満点」を廃止し、一指標の配点を基本60点に統一したうえで重要視する指標の配点を100点に設定しました。重要度の高い指標の配点ウエイトを高めることで「見える化」を行いました。

### 

具体的指標の選定にあたり、社外のステークホルダーの声を充分に反映できていませんでした。

### → 改定ポイント ()

2008年度のステークホルダーミーティングのテーマの一つに取り入れるなど、制度改定にあたってさまざまなお立場のステークホルダーのご意見をヒアリングしました。社外からいただいたご意見を参考にしながら社内関連部門と協議を行い、具体的指標を改定しました。

step **3** 改定後

改定後の指標に対して、ご意見をいただきました。

### (社)企業研究会 CSR推進フォーラムのワーキングメンバー(他社CSRご担当者)

■ Gさんのご意見/企業研究会のワーキングで一年間KPIに関して勉強させていただき、たいへん参考になりました。

御社は、KPIを他社に先駆けて継続して公開しただけでなく、設定した指標をステークホルダーの声や社会的な課題解決の点から改定するなど、本業とCSRの関係を定期的にチェックする指標としてKPIを上手に活用していることが、たいへん素晴らしいです。

御社は、国内の市場を中心にKPIを組まれていますので、今後は海外展開を考えた場合のKPIの設定に 是非トライしていただけたらと思っています。 ■ Aさんのご意見 / KPIの公開は、企業のCSR活動の"見える化"の促進につながります。御社のKPIの特徴はわかりやすさだと思います。KPIをステークホルダーごとにカテゴライズし、主要指標で構成する方法は、それぞれのステークホルダーに対して何を大切にしているかが直感的に理解できます。指標の中に、「30歳以上の従業員持家取得率」「環境共生住宅認定率」など、住宅会社ならではのユニークなものを設けていることも、"企業の顔"が見えることにつながっていると思います。また新たに改定した指標では、社会的課題ごとに整理が行われた結果、バランスがよくなり、一層理解しやすくなりました。今後も経年変化がわかる形で掲載を続けていただければ幸いです。

今回の改定ではすべてのご意見に応えることはできませんでしたが、さまざまなご意見をいただくことにより 多面的に制度改定を行うことができました。その他のご意見に対しても真摯に受け止め今後の改定に活かしていきます。

# CSR自己評価指標(CSRインディケーター) 2008年度実績 <詳 各指標の実績・目標欄における上段数値は実数を記載、下段の( )内点数はその実数を当社の評価方法に従い点数化した

### お客さま

<2009年度に向けた考察>

昨今の景気悪化による市場の冷え込みを受け、2009年度は「販売戸数」に関し ては前年度に比べマイナスの目標になっています。「オーナー様(入居者)満足度」 による「住まいの質的充足」など、他の指標に関してさらなる向上を図ります。





社会的課題	具体的指標 (★は重点実施指標 new は新規指標)	各指標の 配点(満点)	<b>評価方法</b> (2008年度実績が該当する箇所を <mark>赤字</mark> で示しています)	2008年度 実績	2009年度 目標	補足
	●販売戸数*2 (住宅、アパート、 マンション)★ (前年度増減率)	100点	当社販売戸数の前年度増減率 △10%未満 0、△10%~△5%未満 20、 <u>△5%~ 0%未満 40</u> 、 0%~十1%未満 60、十1%~十3%未満 80、十3%以上 100とする	△1.8% (40点)	△8.4% (20点)	2007年度 44,029戸、 2008年度 43,239戸、 2009年度 (見込) 39,600戸 ※国内景気の低迷を受け、2009年度の 販売戸数は前年度比マイナスで予測
住まいの質的充足	●オーナー様(入居者) 満足度★ (アンケート評価による満足率)	100点	お客さまアンケート評価で「大変良かった」「良かった」が全体に占める比率 この比率を100点満点に換算	95.6% (96点)	100% (100点)	
	new ●オーナー様(入居者)からの 紹介販売率(住宅・アパート) (前年度増減率)	60点	オーナー様(入居者)からの紹介販売率の前年度増減率 △15%未満 0、△15%~△10%未満 10、△10%~△5%未満 20、 △5%~0%未満 30、0%~十5%未満 40、十5%~十10%未満 50、 十10%以上 60とする	+4.3% (40点)	+4.2% (40点)	
住まいの 安全・安心	new ●耐震性能(住宅)*3 (最高等級取得率)	60点	住宅性能表示制度に基づく耐震等級(構造躯体の倒壊等防止)の最高等級取得率 この比率を60点満点に換算	90.4% (54点)	95.0% (57点)	
住まいの長寿命化	new ●リフォーム事業の受注高 (前年度増減率)	60点	リフォーム事業の受注高の前年度増減率 △10%未満 0、△10%~△5%未満 10、△5%~ 0%未満 20、 0%~十1%未満 30、 <u>+1%~+3%未満 40</u> 、+3%~+5%未満 50、 +5%以上 60とする	十2.2% (40点)	十57.9% (60点)	

<sup>※2</sup> 販売戸数については当社の販売している主力商品が耐震仕様などの性能を 備えていることから質的充足に分類しています。

### 株主

<2009年度に向けた考察>

当社グループが目標とする経営指標(売上高・営業利益・営業利益率・ROE) をもとに指標を設定しており、「お客さま」分野同様、市場の冷え込みが2008 年度実績に大きく影響しました。2009年度においても、当社グループの中期経 営計画に則って経営の改善を進めていきます。



		4	L	4					
(%) 100		(4	<b></b>	比	率)				
80					73				
60		47							
40									
20									
0									
	20	08年	度	2009年度					

			U CONTRACTOR CONTRACTO			
社会的課題	具体的指標 (★は重点実施指標 new は新規指標)	各指標の 配点(満点)	評価方法 (2008年度実績が該当する箇所を <mark>赤字</mark> で示しています)	2008年度 実績	2009年度 目標	補足
財務の 収益性	●収益性★ (営業利益率より計算したものを 点数化)	100点	①過去3年の総資本営業利益率の平均 ②過去3年の売上高営業利益率の平均 ①・②を点数化し算出	60点 (60点)	70点 (70点)	2008年度連結実績
財務の 成長性	●成長性★ (売上高、営業キャッシュフローの 成長率を点数化)	100点	①過去3年の売上高の年平均成長率 ②過去3年の営業CFの年平均成長率 ①・②を点数化し算出	45点 (45点)	55点 (55点)	2008年度連結実績
財務の 安全性	●安全性★ (金利負担能力を点数化)	100点	金利負担能力比率=(税引前利益+支払利息)/支払利息	60点 (60点)	65点 (65点)	2008年度連結実績
財務の 健全性・ 効率性	●ROE*4★ (自己資本利益率)	100点	1.0%未満 10、1.0%~2.0%未満 20、2.0%~3.0%未満 30、3.0%~4.0%未満 40、4.0%~5.0%未満 50、5.0%~6.0%未満 60、6.0%~7.0%未満 70、7.0%~8.0%未満 80、8.0%~9.0%未満 90、9.0%以上 100とする	0.7% (10点)	9.0% (100点)	2008年度連結実績
事業活動。 客観的評価 確保		60点	外部機関による調査得点(100点満点)を60点満点に換算	72.0点 /100点 (43点)	73.0点 /100点 (44点)	証券アナリストによるディスクロージャー 優良企業選定

<sup>※4</sup> ROE9.0%は、「大和ハウスグループ第二次中期経営計画」最終年度 (2010年度)の目標数値です。

<sup>※3【</sup>耐震性能(最高等級取得率)】お客さまの住まいに対するご要望や建設場所・ 積雪条件によって、最高等級に対応できない場合があります。

### CSR自己評価指標(CSRインディケーター) 2008年度実績 <詳細版>

評価方法

50%未満 0.50%~ 60%未満 10.60%~ 65%未満 20.65%~ 70%未満 30.70%~ 75%未満 40.75%~ 80%未満 50.80%以上 60とする

(回答率 50%未<u>満</u>0,50%~60%未満5,60%~70%未満10、 70%~80%未満15,80%以上20とする (当社社員の行動に関し、お取引先に対しアンケートを実施 |問題ない]の回答が全体に占める比率 50%未満0,50%~60%未満20、6<mark>0%~70%未満40、</mark> 70%~80%未満60、80%以上80とする ①・②の合計にて算出

この比率を60点満点に換算

各指標の実績・目標欄における上段数値は実数を記載、下段の( )内点数はその実数を当社の評価方法に従い点数化し

### 取引先

社会的課題

サプライ

(労働安全

衛生の充実

サプライ

(環境への

取り組み)

公正な取引の

有事の際の

事業活動の

客観的評価の

確保

事業継続

実施

<2009年度に向けた考察>

具体的指標

(★は重点実施指標 new は新規指標)

●労災件数(施工現場)★

●環境マネジメントシステム

(パートナーズ・ホットライン)

への通報対応※5 (解決率)

●BCM(事業継続管理) ※5

●当社社員の行動に関する

(調査結果を点数化)

お取引先アンケート調査★

(安否確認システム報告率)

(前年度増減率)

(前年度増減率)

導入工場率

●お取引先通報窓口

new

●労災件数(工場)★

2009年度より新規に実施する取り組み(2項目)を指標設定しました。2009年 7月からお取引先を対象とした通報窓口(パートナーズ・ホットライン)を社内 に新設し、お取引先とのWin-Winの関係を強化していきます。

各指標の 配点(満点)

100点

100点

60点

60点

60点

100点





### 従業員

<2009年度に向けた老察>

2009年度は有給休暇取得率を前年度比十10%にする目標を掲げました。取得 率向上だけにとらわれるのではなく、ワークライフバランスの推進に一層取り 組むことで結果として取得率が上がるものと考えています。



(%) 100

1)50%

②70%

(65点)

76

協力会連合会 会員会社

1)42.0%

262.59

			40 20 0			
社会的課題	具体的指標 (★は重点実施指標 new は新規指標)	各指標の 配点(満点)	評価方法 (2008年度実績が該当する箇所を <mark>赤字</mark> で示しています)	2008年度 実績	2009年度 目標	補足
ダイバーシティの 推進	●障がい者雇用率*6★	100点	翌年度の6月1日現在の障がい者雇用率 1.80%未満 0、1.80%~1.85%未満 20、1.85%~1.90%未満 40、 1.90%~1.95%未満 60、1.95%~2.00%未満 80、2.00%以上 100とする	1.84% (20点)	1.80% (20点)	2009.6.1現在
	●従業員人権研修受講者率	60点	従業員の人権研修受講者率 この比率を60点満点に換算	96.3% (58点)	100% (60点)	のベ受購人数の1/2を期末人員で除して 受講率を算出
人財の育成	●有資格者数★ (一級建築士、一級建築施工 管理技士、宅建主任者)	100点	①一級建築士 1,200名未満0,1,200名~1,400名未満10、1,400名~1,600名未満15、 1,600名~1,800名未満20、1,800名~2,000名共満25、2,000名以上30とする ②一級建築施工管理技士 1,200名未満0,1,200名~1,400名未満10、1,400名~1,600名未満15、 1,600名~1,800名未満20、1,800名~2,000名未満25、2,000名以上30とする ③宅地建物取引主任者 3,600名未満03,600名~3,900名未満10、3,900名~4,200名未満10、 4,200名~4,500名共満20、4,500名以上30とする ①・②・③の合計にて算出(①・②・③とも満点であれば10点加算し100点とする)	①1,820名 ②2,245名 ③4,584名 (85点)	①1,900名 ②2,300名 ③4,700名 (85点)	2009.3.31現在(正社員のみ)
ワークライフ バランスの推進	●有給休暇取得率★	100点	20%未満 0、20%~ 25%未満 20、25%~ 30%未満 40、 30%~ 35%未満 60、35%~ 40%未満 80、40%以上 100とする	34.3% (60点)	38.0% (80点)	有休取得日数を年度の有休付与日数で 除して算出
福利厚生制度 の充実 (従業員の 持家取得推進)	●30歳以上の 従業員持家取得率	60点	46%未満 0,46%~ 48%未満 10,48%~ 50%未満 20、 5 <u>0%~ 52%未満 30</u> 、52%~ 54%未満 40、54%~ 56%未満 50、 56%以上 60とする	55.4% (50点)	56.0% (60点)	2009.4.1現在
事業活動の 客観的評価の 確保	new ●職場の総合満足度調査 (社内CSR意識調査実施時に調査)	60点	55%未満 0、55%~ 60%未満 10、60%~ 65%未満 20、 65%~70%未満 30、70%~75%未満 40、 <u>75%~ 80%未満 50</u> 、 80%以上 60とする	78.8% (50点)	80% (60点)	

<sup>※6</sup> 障がい者雇用率は、法定雇用率1.80%を最低基準として設定しています。

<sup>※5 2009</sup>年度より新規実施のため、2008年度実績(得点)は満点の60%をベースに 設定(配点)しています。

# CSR自己評価指標(CSRインディケーター) 2008年度実績 <詳細版 各指標の実績・目標欄における上段数値は実数を記載、下段の() )内点数はその実数を当社の評価方法に従い点数化したものです

### 社会

<2009年度に向けた考察>

社内に社会貢献活動の輪が広がり、各事業所での活動件数やボランティア休 暇取得率が年々増加しています。経団連1%クラブ<sup>※7</sup>に入会している企業グ ループとして、今後も社会貢献活動を全従業員に広め、継続的に活動を行っ ていきます。



			20 0			
社会的課題	具体的指標 (★は重点実施指標 new は新規指標)	各指標の 配点(満点)	評価方法 (2008年度実績が該当する箇所を <mark>赤字</mark> で示しています)	2008年度 実績	2009年度 目標	補足
地域社会・ 国際社会 への貢献	●社会貢献活動、NPO・ NGOとの 協働活動、 社会貢献活動費用★	100点	①社会貢献活動 本社活動件数 25件未満0.25件~30件未満10.30件~35件未満20.3 <u>5件以上30</u> とする。 事業所実施割合(年2回以上実施) 60%未満0.60%~65%未満10. 65%~70%未満20.70%以上30とする ②NPO・NGOとの協働活動 本社活動件数 0件0.1件~5件未満3.5件~10件未満6.10件以上10とする 事業所実施割合(年1回以上実施) 0%60.0 <u>%記</u> 6年1回以上実施 0%60.0 <u>%記</u> 6年10以上実施 07%0.00%記 (社会貢献活動費用 (社会貢献活動費用 (社会貢献活動費用が経常利益(前年度までの過去5年間の平均)に対して占める比率) 0.7%未満0.0.7%~0.8%未満5.0.8%~0.9%未満10.	①本社 37件 事業所 79.2% ②本社 13件 事業所 3.1% ③1.3% (93点)	①本社 40件 事80% 2本件 5% 31.0% (96点)	①本社 37件、 事業所 76支店/96支店(79.2%) ②本社 13件、 事業所 3支店/96支店(3.1%) ③社会賣献活動費用 796百万円/61,147百万円(経常利益) (1.3%)
	●ボランティア休暇取得率	60点	5%未満 0、5%~10%未満 15、10%~15%未満 30、 <u>15%~20%未満 45</u> 、 20%以上 60とする	16.2% (45点)	17% (45点)	取得日数 2,219日 (期末人員(13,660名)で除して取得率を算出)
	●寄付、募金活動(従業員参加率)	60点	25%未満 0、25%~ 30%未満 10、30%~ 35%未満 20、 <mark>35%~ 40%未満 30</mark> 、 40%~ 45%未満 40、45%~ 50%未満 50、50%以上 60とする	37.2% (30点)	50% (60点)	エンドレス募金・ハート募金参加者(実人数)5,083名 (期末人員(13,660名)で除して参加率を算出)
情報セキュリティ (個人情報の保護)	new ●個人情報の盗難・紛失事故 件数の前年度増減率★	100点	△5%未満の滅少率 0、△5%~△10%未満 10、△10%~△15%未満 20、 △15%~△20%未満 40、△20%~△25%未満 60、 <u>△25%以上の滅少率 80</u> (0件が満点) とする	△40.7% (80点)	△25%以上 (80点)	
リスクへの 対応	●企業倫理ヘルプラインへの 通報対応(解決率)	60点	50%未満 0、50%~60%未満 10、60%~65%未満 20、65%~70%未満 30、 70%~75%未満 40、75%~80%未満 50、 <u>80%以上 60</u> とする	80%以上 (60点)	80%以上 (60点)	1ヶ月以内の解決率 80.7%
情報発信・ 対話機会の 充実	new ●ステークホルダーミーティング (参加者満足度)	60点	当社ステークホルダーミーティングへの参加者アンケート結果 ()ディスカッション 「発言しやすい雰囲気であった」が全体に占める比率 (②当社の説明内容 「分かりやすい」が全体に占める比率 をそれぞれ30点満点(計60点満点)に換算	①66.7% ②83.3% (45点)	①70% ②85% (47点)	①発言しやすい雰囲気 66.7%(16件/24件) ②分かりやすさ 83.3%(20件/24件)

※7【経団連1%クラブ】「経常利益の1%以上を社会貢献活動に支出するように努め、 幅広い分野で社会に貢献する活動を推進する企業」を支援する日本経団連が設立 した組織です。当社グループは2008年1月に「1%クラブ」へ入会しました。

### 環境※8

<2009年度に向けた考察>

当社グループの環境行動計画(エンドレス グリーン プログラム 2010)の一部 をCSR自己評価指標の指標として取り入れています。2009年度は、一部の指 標の目標を上方修正し、より一層の環境負荷低減に取り組んでいきます。

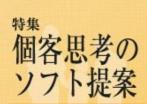


			20 0			
社会的課題	具体的指標 (★は重点実施指標 new は新規指標)	各指標の 配点(満点)	評価方法 (2008年度実績が該当する箇所を <mark>赤字</mark> で示しています)	2008年度 実績	2009年度 目標	補足
地球温暖化防止	●CO2削減貢献度★	100点	年度目標(エンドレス グリーン プログラム2010)の達成度を点数に換算	117.1% (100点)	100% (100点)	2008年度目標 2.16倍に対し、 実績 2.53倍
廃棄物削減	●建設系廃棄物排出量★	100点	4	349.9% (100点)	100% (100点)	2007年度実績(182,624 t)に対して、 2008年度目標 176,536 t (3,3%削減)・ 実績 161,320 t (11.7%削減)
有害化学物質削減	●PRTR対象有害化学物質 使用量	60点	"	284.3% (60点)	100% (60点)	2007年度実績(264,779kg)に対して、 2008年度目標 254,348kg(3.9%削減)・ 実績 235,121kg (11.2%削減)
自然環境との調和	●環境共生住宅認定率 (分譲住宅)	60点	4	92.7% (56点)	100% (60点)	2008年度目標 60.0%に対し、 実績 55.6%
環境活動の輪の拡大	new ●グリーン購入比率 (主要6品目)	60点	"	100.7% (60点)	100% (60点)	2008年度目標 85.0%に対し、 実績 85.6%

<sup>※8</sup> 環境分野は「エンドレス グリーン プログラム2010」の年度目標の達成度を 点数に換算しています。

### CSRマネジメント

# お客さまとの共創共生





### **■CS理念、CS委員会**



お客様の声を大切にし、お客様から信頼される企業であるために、情報共有と適切な対応を心掛け、たゆまぬ改善を行っています。

→P61

### 品質へのこだわり



当社では設計・施工時に独自の確認システムや第三者機関の検査により品質の信頼性を高めています。社会に「安全・安心」な建物を供給するため、設計・施工の両面から品質の向上に取り組んでいます。

→P62 `

### **長期保証とアフターサービス**



住宅・マンション・商業施設等における資産価値を維持し、いつまでも安全に、そして快適に建物をご使用いただくために定期点検やメンテナンスを行い、建物の健康を永きにわたってサポートします。

### ▋お客様とのリレーション体制



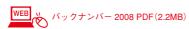
戸建住宅・集合住宅・流通店舗の各オーナーさまとのリレーション活動として、WEBや機関紙を通じ、最新情報のご提供やシーズンイベント、オーナーさまのための各種セミナーを開催しています。

→P69

### ■特集バックナンバー 2008



■人と環境にやさしい住まい





■個客思考の商品

WEB バックナンバー 2008 PDF(2.0MB)

# 「お客さま」との 共創共生

### 考え方と 今後の課題

商品開発プロセスを改め、 生活者の視点やニーズを 取り入れます。

当社グループのシンボルマークである「エンドレスハート」 はお客さまとの永遠の信頼を表現しており、創業以来、 お客さまに「豊かな生活空間と快適な暮らし」を提供して きました。

顧客のライフスタイルや価値観の多様化を受け、徹底的 に生活者の視点やニーズを取り入れた商品開発を行ってお り、現在の「xevo(ジーヴォ)」は耐久性、省エネ性に優れてい るだけでなく、生活者視点での進化を常に心掛けています。

また商談の場においては、個々のニーズを具現化し、 ニーズの裏にある問題点を営業だけでなく、設計・工事・ アフターの四位一体で解決していく手法を推進しています。

このような「お客さまとの共創共生 | を深めることによっ て、お客さまに喜んでいただき、その成果としてご紹介をい ただく、ということが住宅の原点だと考えています。

### 入居されてからのお客さま満足度向上に 注力していきます。

「お客さまとの共創共生」は新築時点だけではありません。 「xevo | は長期優良住宅に標準で対応しており、点検・ メンテナンスを行うことで長期に維持することができます。 今後の課題としては、お客さまの暮らしの変化に応じた リフォーム提案を行い、新築時点の喜びを継続していただ くことだと思います。またお客さまの要望に対して、住替 (Sum Stock(スムストック)の活用)や賃貸(移住住替支援 の活用)など、ソリューション解決の提案営業を強化して いくことも重要になってくると考えています。



# 個客思考の ソフト提案

~ハッピーハグモデル~

### 社会的背景と 大和ハウスグループの取り組み



お客さまの住宅への要望は多様化しており、従来の 「強くて丈夫で安心できる家」という志向に加えて、「より 自分らしく暮らせること」への欲求が高まっています。

当社グループは、「商品を起点とする提案 | から「個客 思考に基づくお薦め提案=ソフト提案」への進化を図っ ています。なかでも、(株) ベネッセコーポレーションの 「たまひよ幸せ倍増プロジェクト※2」との協働で開発され た「ハッピーハグモデル」は、子育て層に向けた当社の個 客思考商品として重要な役割を担っています。

今回の特集では、ハッピーハグモデルの要素を取り入 れた村田様のご自宅に営業担当の田中が訪問し、「理想 の暮らし方へと導くソフト提案 | についてのご感想をお 伺いしました。

### Profile

(写真:左から5人)

### 村田様ご家族とご両親

石川県羽咋市に注 文住宅を建てられ た村田様ご家族。 そしてご近所にお 住まいで、子育ての サポートをされてい るご両親。

### (写真:右端)

営業担当 金沢支店 羽咋営業所

所長 田中建 村田様の住まいづくりを

サポートした営業担当者。



考】大和ハウス独自の 造語。個々のお客さま一 りを大切にし、お客さまの立 に立ち、プロにしかできない 提案をすることによって本当に 喜んでいただけるサービスを 提供しようという考え。

※2【たまひよ幸せ倍増プロジ ェクト】妊娠、出産、育児を 応援する雑誌『たまごクラ ブ』『ひよこクラブ』『こっこ クラブ』発の赤ちゃん・子ど

もとママ、パパの幸せを応援する活動。新商品・サービス開発、企業との

コラボレーションなどを行う

### 共に創る~"ソフト提案"について~

### 生活のイメージをより具体的に 想像いただくことから始まる

田中 今年の2月に完成し、ご入居されてから4ヵ月が経ちましたね。暮らし心地はいかがでしょうか?

村田様(奥様) ハッピーハグモデルの機能の中で、特に気に入っているのは、1Fの「ファミリーライブラリー(写真下)」です。保育所からの連絡用紙や郵便物を壁面のホワイトボードに貼っておけますし、小物は上部の棚にしまっておけるので大変便利です。

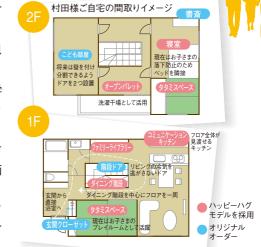
田中 このスペースは、「コミュニケーションキッチン」から目の届く場所にあり、将来はお料理をしながらお子さまの宿題を手伝うこともできそうですね。

村田様(奥様) キッチンからはリビングとタタ ミスペースを見渡すことができるため、家族がど こにいても声をかけられるんです。(写真右下) 田中 私は、村田様の暮らし方に対するご要望を伺っているうちに、きっと ハッピーハグモデルがぴったり合うと思い、モデル棟にご案内しました。

村田様(奥様) 色々なモデルハウスを見学しましたが、ハッピーハグモデルには、今までに見たことがない機能がいっぱいでした。村田様(ご主人) あと、設計担当の方が、「こういうのはどうでしょう?」と図面を広げながら次々とアイデアを出してくれたので、住まいや暮らし方に対してどんどん想像が膨らみ、プランが固まっていきました。モデル棟からの帰りには、「これにしよう」と二人で決めていましたね。

村田様(奥様) 1階は、ダイニング階段を中心に玄関から各スペースを一周できる動線にしました。実際に暮らしてみるとやはり使い勝手が良く、私たちの生活スタイルにしっくりきています。

田中 村田様との出会いは、当社の戸建て商品ブランド「xevo(ジーヴォ)」の構造見学会の時でしたね。



村田様(ご主人) 私の両親の自宅近くに 土地を用意できたので、あとはどこのハウスメーカーに頼もうか、という時期でした。見学会を通じて、「xevo」は耐震性能や環境性能などが優れていることが理解できたので興味を持ちました。

田中 ありがとうございます。「xevo」という"箱"の基本性能は、主に見学会や建築現場で工事担当者がご紹介し、住まいの"中身"については、営業と設計担当者がお客さまとコミュニケーションを重ねながら創りあげています。





住まいづくりのプロによる四位一体(営業・設計・工事・アフターサービス)の 事業活動で、多様なお客さまニーズにお応えしていきます。

金田 ハッピーハグモデルのモデル棟は「個客思考を導きだすためのコンセプトハウス」であり、「パッケージ化された商品」ではありません。あくまで、私たち専門家が考えた子育でに適した住宅をご覧いただくことをきっかけに、お客さまの子育でのニーズを聞き出し、よりお客さまにフィットするプラン(=ソフト提案)をお客さまと共に考えるものと位置づけています。

ソフト提案にあたって重要なことは円滑なコミュニケーションです。まず、営業担当者が潜在ニーズを聞き出し、設計担当者がそれに見合う住宅設計のアイデアを次々と提案しプランを固めます。また、工事担当は構造と施工の「性能面」について説明しご安心いただいた上で施工を行います。そして完成後にお客さまをサポートさせていただくアフターサービスを加えた「営業・設計・工事・アフターサービスの四位一体の住まいづくり」は、社内用語として現場に浸透させている事業活動スタイルです。「ハッピーハグモデル」モデル棟における子育て視点での提案では、特に「スタッフの説明が良い」などの反響をいただきました。今後も、各担当者の力を合わせ、お客さまの満足度を高めていきます。

営業本部 住宅事業推進部 事業戦略グループ グループ長 金田 健也 村田様(ご主人) 以前に住んでいた集合 住宅との大きな違いは、とにかく室内が あたたかいこと。早朝に気温が氷点下に なる日も、あまり寒さを感じませんね。

田中 それは、設置していただいた蓄熱暖房機が効果を発揮しているのでしょう。蓄熱暖房機の大きな特徴は、電気代が安いこと。加えて、夜間の蓄熱中にふく射暖房で室内を温めることがあげられます。「xevo」は高度な断熱気密性能を備えていますから、あたためられた空気が外へ逃げません。

村田様(奥様) 日本海側は、湿度が高く 寒いので結露が大量に発生するのですが、そんな心配は必要ありませんでした。夜に室内干しをすると翌朝には乾く ということを主人の母が知った時、「これは助かるわね」と驚いていました。

田中 蓄熱暖房機は、直接空気をあたためないので水蒸気が発生せず、結露の発生を抑えます。それと、リビングの壁材に使用した「エコカラット」(右上写真の壁材)も、湿度調節に貢献しているんです。

村田様(ご主人) 生活・地域性・経済性 などさまざまな条件を加味して提案して くださったのですね。



村田様(奥様) 壁・ドアをあえて無くし、ベッドと収納に特化したモデル棟のこども部屋のアイデアは採用しませんでした。私はこどもにもプライベートスペースを与えたいと考えているからです。

田中 そうでしたね。あれは、整理整頓など、こどものしつけを考えた機能です。しかし、「子育て」と一口で言っても、個々の家庭によって志向やそれに対する答えはさまざまです。当社は、あのモデル棟を通じて「子育て層の想いを込めたハッピーハグモデルという一つのカタチ」を実際に体感していただくことで、ご家族の「理想の暮らしを叶える住まい」をご想像いただき、そこからぴったりのプランをつくっていく、というオーダーメイド感覚の住まいづくりを心がけています。

### 共に生きる~"今後の暮らし"について~

お客さまの将来にわたって、快適な暮らしのサポートを続けます。

村田様(奥様) 田中さんからの提案は、 選択肢もあり、プランの長所・短所の 説明が分かりやすくて、納得できました。なにより私の職場復帰の時期を見 据え、家づくりを進めてくれたことが助 かりました。

田中 お二人は学校の先生で、奥様は4 月の始業式から職場復帰を考えておられました。お子さまは、お近くに住むご両親がみられるとはいえ、新しい生活に慣れるまでの期間が必要かと思いましたので。

村田様(ご主人) 全くの偶然ですが、田中さんの奥様も教師をされているんですよね。だから私たちの生活スタイルを理解していただけたのでしょうか。

田中 それはもちろんありますが、すべてのお客さまに対して、ライフスタイルや家族構成をはじめ、今どのような状況にあるのか、将来はどうなるのかなどを深く考えてご提案するよう努めています。 村田様(ご主人) 「xevo」の基本プランにはない瓦屋根を採用したのも、





### 子育て層の住まいへのニーズに応え続けていきます。

金田 ベネッセコーポレーションと大和ハウス工業がコラボレートする「ハッピーハグモデル」は、2009年7月に第2弾として日本家屋の機能を取り入れた「ハッピーハグモデルII」という新たなコンセプトを発表しました。また、多くの方のご協力により、カンボジアに「Happy Hug ロムチェック小学校\*3」を無事に建設することができました。引き続き、子育て層アンケートなどを実施し、今後の展開に活かす予定です。

※3【Happy Hug ロムチェック小学校】社会貢献活動の一環として、地元で活動しているNGO団体と連携して寄付を募り建設(2009年2月に開校)。



家族はもちろんご近所とも自然に つながるコミュニケーション空間 『きずなスペース』



空間をシェアすることで 思いやりの心をはぐくむ空間 『はぐくみスペース』



田中さんのアイデアに、"なるほど"と 思ったからですよ。

田中 このエリアの方は、気候風土的に 瓦屋根に対する志向が強いのです。これ から長くお住まいいただくわけですから、 建てる時の条件やご本人の意向だけでは なく、ご両親・ご親戚の方からも納得し てもらえる方がいいとご説明しました。

村田様(ご主人) 暮らし始めてまだ4ヶ 月ですから、今後この住まいに対してさ まざまなことを感じると思います。この 子に弟や妹ができた時には、こども部 屋の真ん中に壁をつけて2部屋に分け ようかなと、今から想像しています。

田中 それは楽しみですね。将来にわた り快適な暮らしづくりをサポートさせて いただきたいと思っていますので、今後 ともよろしくお願いいたします。

### 今後の 想い

### 「ソフト提案力 |を 強化します。

田中 村田様とは、くり返しお話をさせ ていただき、住まいのご提案をいたしま した。今後は地球規模の環境保全だけ でなく、お客さまの志向やライフスタイ ルの面においても有益だということを 分かりやすくご説明し、納得いただくよ う努力していきます。そして、多様化す るお客さまニーズへの柔軟なアプロー チはもちろん、当社の力を結集して、お 客さまの理想の暮らし方を叶える提案 を強化していきます。

### 大和ハウスグループの今後の考え方

住宅の基本性能の向上については今 まで通り業界のパイオニアとして「xevo」 のブランドのもと、積極的に取り組んで まいります。さらにソフト提案のバリエー ションを増やしていくことで、お客さま 個々のライフスタイルに適した「暮らし | のご提案を強化してまいります。

2008年度のハッピーハグモデル第1弾 に引き続き、2009年度も第2弾を発表 しており、実際に住まわれているお客さ まのご意見・ご要望も踏まえながら、 お客さまの期待以上のソフト提案がで きるように努めてまいります。

### "ライフスタイル・テーマで選ぶ"住まい方のご提案

●デザイナーズ住宅

当社では、ソフト提案の一環として、さまざま なテーマの暮らし方を住宅設計に反映した商品を 開発しています。新築や建替のプランニングのヒン トとしてもご提案しています。

### <テーマー例>

- ●子育で住宅(ハッピーハグ) ●近居・育孫

  - ●エディブルガーデン ●耐震・制震・免震
- ●二世帯住宅 ●平屋を楽しむ ●ペットと暮らす家 ●賃貸併用住宅
- ●間取りプラン
- ●インテリジェンストイレ



・ダイワハウスからの住まい方のご提案 http://www.daiwahouse.co.jp/jutaku/lifestyle/index.html

ご主人のご両親が住むお宅は、家の 窓から見えるほどの距離にありま す。ご夫婦が出勤中は、お子さまを 預けられているそうです。 ガーデニングのお花が色鮮やかに映えるお庭には畑も あります。旬の野菜を収穫するのは楽しみですね。



### お客さまの将来にわたって、ソフト提案を継続していきます。

金田 住まいとは「暮らし」の拠点です。ペットを飼う、家族が増える、家庭菜園などの趣味を持つなど、暮ら し方が変わってくれば、新築当初は満足していた住まいでも「こうだったらいいのに」という想いが生まれてく るでしょう。多様で常に変化するお客さまの暮らし方や価値観を引き出すためのコミュニケーションは、非常 にプライベートな内容にまで及びます。さまざまな想いや事情を抱えたお客さまの胸の内に飛び込み、「ソフト 提案」というカタチでお応えするには、従業員自身の公私にわたる経験の積み重ねに左右されることは否めま せん。従業員一人ひとりのソフト提案力をレベルアップするために、個々が培ったノウハウを全社に水平展開 する「ナレッジマネジメント」を構築していきます。

・お客さまとの共創共生 ・ハッピーハグモデル

ドラ・xevo (ジーヴォ) http://www.daiwahouse.co.jp/jutaku/shohin/xevo/index.html

### CS理念、CS委員会

### 大和ハウスグループCS理念

大和ハウス

### お客さまの笑顔のために

私たちは、お客さまに愛され、信頼される企業であることを 理念に、企業活動を推進しています。

そのために、お客さま一人ひとりの声を大切にし、当社の技術力とサービスの向上に反映させ、お客さまのご期待に応えられるよう取り組んでいます。

### 「お客さま志向」から「個客思考」へ

「お客さま志向」が唱えられて久しくなりますが、ともすれば「お客さまの満足」を企業側の価値観の枠内で考え、「企業の自己満足」に陥ってしまう場合があります。私たちは、CS活動をとおしてお客さまの声をあらゆる事業活動に反映し、「お客さま志向」から一歩踏み出した「個客思考」(お客さま一人ひとりの立場で考える)を行動の規範にしています。

### CS(顧客満足)の向上

お客さまのお声と建築現場からの品質データーを融合して、改善に取り組んでいます。

### CS統括部門の創設

当社は、さらなるお客さま満足度の向上を目指して、2007年にCS統括部門を 創設しました。

CS統括部門は3つの部署で構成されており、CS推進部に寄せられた「お客さまの声」、品質保証推進部に集まった「品質データ」をもとに、CS企画部で「CSへの新しい取り組み」を企画提案しています。

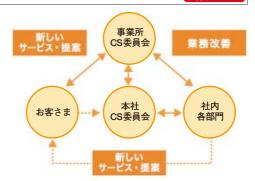


### CS委員会による改善活動の推進

お客さまの声を商品やサービスに即座に生かせるよう、本社ならびに全支店において「CS委員会」を設置し、改善活動に取り組んでいます。

これにより、お客さまの声による全社一体での改善や地域の実情に応じたきめ 細かな改善活動を継続的に行っています。

### 大和ハウス



### 品質保証体制

■品質保証体系
大和ハウス

当社は、お客さまの安全・安心を確保するため2004年から社長直轄の独立した部門として品質保証推進部を創設、運営しています。更に2007年よりCS統括部門として顧客満足の向上を推進するCS部門と情報を共有しながら、開発・設計段階から生産、施工、アフターサービスまでの全工程を対象とした品質管理を徹底しています。

当部門では、各事業所での品質管理のサポートとして、開発設計の審査、購買 仕様審査、技能検定、品質記録の確認、品質改善委員会、事業所品質監査などを実 施しています。

### 市場開査/商品企画 技術開発 設計審査 購買先選定 教育·訓練 提案・股計 設計 契約 生産設計 營業·設計·工事打合/設計審查 現地立会·着手前打合 工場生産 生産・施工 各工程にフィードバック 事業所品質監査 引達し/ご入居 お客さま満足度調査

定期点核/建物診断 苦情受付+苦情処理

■品質保証の流れ

### 品質保証に関する主な活動

大和ハウス

### 品質保証に関する主な活動

品質保証に関する主な活動は以下の通りです。

1. 開発設計の審査

商品開発段階においては、総合技術研究所の信頼性センターがあらゆる角度から検証していますが、源流の品質確保が重要と考え、 検証内容や開発設計の審査状況を品質保証推進部で確認しています。

2. 購買仕様書審査

標準購買品はその性能、仕様、品質管理体制を審査確認した上で採用しています。

3. 技能検定の実施

現場作業においては教育訓練に重点を置き、特に重要な作業は、当社の技能検定に合格した者で施工することを徹底しています。

4. 品質記録の確認

各現場の品質確認は、施工店の自主検査、工事担当者の作業指示と自主検査に加え、品質保証推進部員による工事監理で厳格な現場確認と品質記録の確認を実施しています。

5. 品質改善委員会の開催

品質上の課題については、事業所では品質管理会議、本社では品質改善委員会を開催し迅速な対応と品質改善に努めています。また 重要な品質問題については関連部署への是正要求を行い、技術改善、業務改善を図っています。

6. 品質監査の実施

事業所の品質管理体制が正しく機能しているかを品質監査で確認し、維持、改善を図っています。

### ISO9001の認証取得

大和ハウス

### 品質マネジメントシステムを構築しています。

当社では、研究開発部門(信頼性センター、生産部品設計、システム建築開発)、および全工場を含む生産購買部門において、ISO9001: 2000の認証を取得しており、この品質マネジメントシステムの国際規格に基づき、技術、業務の継続的な改善を推進しています。

### 設計品質と施工品質(戸建住宅・賃貸住宅)

### 住宅性能表示制度の活用

大和ハウス

当社の商品は、建築基準法による型式適合認定書と型式部材等製造者認証書を取得しており、それに基づき設計を行うことで、設計品質の確保を図っています。

また構造計算については専用ソフトによる耐力壁算定を行うことで、構造上の安全を確認しています。

さらに当社ではお客さまに対し、品確法に基づき性能評価機関のご利用をお勧めしています。

性能評価とは、住宅の工法・構造・施工者を問わず、共通に定められた方法を用いて第三者機関が客観的に評価する制度です。第三者機関による「住宅性能評価書」の交付を受けることで、住宅の性能が安全安心であることの証明となります。

当社の戸建住宅は、住宅性能表示制度の評価項目において、表示区分6分野・9項目の等級表示で最高等級を達成しています。(当社の独自評価によるもので、お客さまの住まいに対するご要望や建設場所・積雪条件によって、最高等級に対応できない場合があります。また「構造の安定」については、建物形状や間取りなどによって最高等級でなくなる場合があります。)

### ■自主検査確認写真システムの運用

大和ハウス

施工現場における品質確保のプロセスは、技能研修センターでの研修を修了した技能者(基礎・建方・木工)による施工を原則とし、協力会社による施工記録、工事担当者による自主検査、品質保証推進部員による現場確認と品質記録の確認によって品質管理を行っています。

また、2007年度より自主検査確認写真システムの運用を開始し、30工程434枚(職種重複有り)の記録写真で、品質の見える化、隠れる箇所の記録保管を行い、品質の確保につなげています。

### 施工品質の確保

大和ハウス

当社は、2007年4月から、品質記録の確認において、「自主検査確認写真システム」を導入しています。

営業・設計・工事の各担当者による3者打ち合わせを踏まえ、契約図書を基に要求される検査計画を立案し、工事担当者による自主検査を実施します。

また作業者は次工程に進む前に自らの自主検査のもとに品質チェックを行い、確実に 写真に残します。このシステムは見えない部分の施工品質を確保し、その証を残すことを 目的としており、適宜、内容の見直しや編集方法の改善を行い品質向上に努めています。



### ■賃貸住宅の品質基準「D-Room クオリティ」

大和ハウス

当社は、賃貸住宅経営を成功させるためには、入居者の方々に選ばれ、長期にわたる安定経営を実現することだと考えています。そのために建物から経営までトータルに高水準のクオリティを実現することを目指しています。D-Roomクオリティとはオーナー様に、住む人に、街にうれしい資産価値の高い賃貸住宅をご提供することです。



D-Roomの品質・技術・性能

(http://www.d-roomchintai.net/quality/index.html)

### 設計品質と施工品質(マンション)

### 設計住宅性能表示制度の活用

大和ハウス

基本設計時に基本性能確認表・プランチェックリストにて設計内容を確認し 実施設計に着手しています。

また、構造設計においては意匠設計事務所・構造設計事務所と当社物件担当者・地区構造担当者との間で設計の考え方・進め方を協議し構造図を作成しています。実施設計完了後は当社物件担当者が図面を確認し、地区構造担当者が構造図・構造計算書を確認しています。

あわせて、当社マンションブランド「プレミスト」においては、全物件、国土交通省が指定した評価機関に住宅の基本的な性能を設計図書を確認していただき、住宅設計評価書の交付をうけることでお客さまに安全性の情報を開示しています。



### 建設住宅性能表示制度の活用

大和ハウス

当社分譲マンションは、全物件(共同事業、再開発事業の一部物件除く)で、住宅の品質確保の促進等に関する法律(品確法)の住宅性能表示制度を採用し、設計・建設の両評価を受けています。

建設段階では、第三者機関が設計性能評価書に基づいた施工がなされている事を審査・確認(建設現場での検査)します。

品確法の審査(検査)だけでなく、施工者(建設会社)の自主検査、監理者(設計者)の検査で、設計品質を満たした施工がなされているかを併せて確認しています。

また、工程上の重要なポイントでは当社担当者による抜き取り検査や全数検 査を行うことで、施工品質確保に取り組んでいます。





WEB マンションコンセプト Quality (品質) (http://www3.daiwahouse.co.jp/mansion/concept/quality.html)

### 設計品質と施工品質(商業施設・業務施設)

### ■構造設計のダブルチェック体制

大和ハウス

耐震偽装事件を受けて、国内では改正建築基準法等の施行(2007年6月)が、構造計算ミス、偽装の抑止力になっていますが、当社は、全国に散在していた構造設計者を地区毎に集約・増員し、地区構造設計部制をとり、構造設計図書のダブルチェックを行う体制を整備しました。

さらに地区構造設計部には、昨年創設された新資格の構造設計一級建築士を数十名配置し、2009年5月より改正建築士法が求める「構造設計への関与」に対応しています。お客さまや社会に安全な構造躯体を提供するために今後も継続して取り組んでいきます。



### 

当社では、品質・価格・環境・工期・柔軟性に優れた「システム建築<sup>\*\*</sup>」を開発、改善に取り組んでいます。

システム建築の1つ『環境対応型店舗』は建物を移設できる機能を標準搭載しています。 建替えに比べて低コストなだけでなく、資源の有効活用が可能で、エコ意識が高まって いる現在、高い環境性能でお客様の環境への取り組みをお手伝いしています。

また、100年に1度と言われる不況の中でこそ、工場で多棟生産できるシステム建築にはメリットがあると考え、品質を向上させ、かつ、低価格でご提供できるよう総力を挙げて取り組んでいます。

「建築の工業化」は当社の原点であり、長年培ってきた経験と技術をもとに、今後もお客さま・社会のニーズに沿ったシステム建築商品をご提案していきます。

### ※システム建築:

当社では、設計から生産、運搬、建設まで一連の工程を標準化した建物をシステム建築と呼んでいます。物販店舗、倉庫、工場から福祉施設まで、様々な用途に対応できる商品を取り揃えています。

環境対応型店舗「リ・ストア&リ・ビルドシステム」施工例



施工例:環境対応型店舗「リ・ストア&リ・ビルドシステム」ご採用テナントのCoCo壱番 屋様

WEB お取引先との共創共生「信頼される施工品質」

WEB

、 環境保全に貢献する「環境対応型店舗リ・ストア&リ・ビルドシステム」

◇ (http://www.daiwahouse.co.jp/utilize/remodeling.html)

### ■施工段階での品質管理体制

大和ハウス

「建築施工」とは、実に多くの人がそれぞれの仕事を順序どおりに行う作業の積み重ねです。

当社では、そのひとつひとつの仕事が正しく行われるよう「技術標準」を制定し、そのなかで各仕事のやり方を定めた「施工要領」とその仕事のチェック方法を定めた「QC工程表」を作成して施工する事により、施工段階でのミスを防いでいます。

また、各々の仕事の要所で、「施工店自主検査」「工事管理者自主検査」「工事責任者検査」 を「検査記録要領」に沿って実施し、次の仕事に、正しく引継げるように施工管理を行っ ています。



### ■改善標準化委員会による継続的な改善と標準化

大和ハウス

現場では、「お客様のニーズ」、「設計者のねらい」、「周辺の環境」などを踏まえて、【安全・品質・コスト・工程・環境】の各項目について重点実施事項を定めて施工しています。

完成時には各重点実施事項について「反省会」を実施し、開発・設計にフィードバック する仕組みを取っています。

また全国各地の工事課員からなる「建築系工事改善標準化委員会」を組織し、施工現場での課題や問題点を取り上げ、継続的に【安全・品質・コスト・工程・環境】に対する改善と標準化を行っています。



### 長期保証とアフターサービス(戸建住宅・賃貸住宅)

### ■長期保証システム「保証&点検プログラム」

大和ハウス

当社は2000年7月に長期保証システム「安心のサポートシステム・21C」を導入しました。

また、2006年に新商品のxevoの発売開始とともに、前述のサポートシステムをさらに拡充した長期保証システム「保証&点検プログラム | がスタートしました。

構造躯体の初期保証は従来の「安心のサポートシステム・21C」と同じく20年ですが、防水に関する初期保証を10年から15年に延長するとともに、外壁材及び外壁塗装は2年から5年に延長し、これらは業界屈指の長期保証となっています。

「xevo保証&点検プログラム」では、防水に関する初期保証期間が満了する15年点検時に、当社指定の有料メンテナンスを行って頂ければ該当部分の保証をさらに15年間延長します。構造躯体の初期保証期間が満了する20年点検時に、有料メンテナンスを行って頂いた場合にも、該当部分の保証を10年間延長します。さらに、これら構造躯体及び防水に関する保証延長期間が満了する40年点検時に有料メンテナンスを行って頂ければ該当部分の保証を最長50年まで延長できるようになっています。

[x e v o保証&点検プログラム]ではさらに、家族構成の変化や転勤といった事情により、やむなく売却されることになった場合、購買主への保証引継ぎが可能なため、住まいの価値が高く評価され有利な条件での売却が可能です。

### ■「お客さまセンター」による相談受付

大和ハウス

以前、あるお客さまから「住まいについて、何でも気軽に相談できる窓口がほしい」というご意見をいただきました。お住まいの点検やメンテナンスには、各事業所のカスタマースタッフが対応していますが、それ以外の相談については、事業所により対応が様々でした。

そこで、当社のアフター対応を全事業所で等しくお客さまにご満足いただけるものとするべく、2005年より順次、各地区に「お客さまセンター」を設置しました。

「お客さまセンター | では、お客さまからのお問い合わせ・お申し出に、専任のオペレーターが一元的に対応。

専門知識が必要なお問い合わせには、知識を持ったスーパーバイザーが対応しています。お客さまからのお申し出を受付し、対応が必要な場合は各事業所のスタッフに依頼しますが、後日対応がきちんと実施されているかを、事業所に対し「お客さまセンター」から確認しています。

こうして、定期点検のご案内、アフターメンテナンスの受付、リフォーム、ハウスクリーニング、引越し、住み替え、賃貸など、住まいに関するあらゆるご相談・ご要望に対応し、お引渡し後のお客さまとの一生涯のお付き合いができるキーステーションを目指しています。

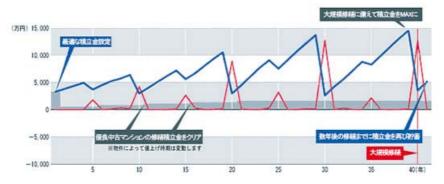
### 長期保証とアフターサービス(マンション)

40年の長期修繕計画

大和ハウス

マンションの資産価値も社会の財産ととらえ、大和ハウスでは40年の修繕計画を提案しています。マンションの老朽化を防ぐためには外壁や階段などの塗り替えや、屋上の防水工事といった修繕を定期的に行う必要があります。

また資産価値を維持するためにも長期的な維持保全計画が不可欠となります。大和ハウスでは住宅金融支援機構が独自に定める新築中古マンションの技術基準である20年を上回る40年の長期修繕計画をご提案しています。将来の負担の少ない積立金の算出や予防保全で耐用年数を延ばす考え方を採用しています。



WEB

40年の長期修繕計画

(http://www.daiwahouse.co.jp/mansion/after/40.html)

### ■24時間「マンションサポートセンター |と監視システム「ホームサット24 |

大和ハウス

予期せぬ突然の出来事などに備えた24時間暮らしを見守るセキュリティシステム[ホームサット24]は当社グループの管理会社(株式会社ダイワサービス)に直結した戸別管理システムです。各住戸と共用部分の火災・ガス漏れなど異常を監視し、万一の場合は管理会社の[ホームサット24集中監視センター]にリアルタイムで信号を送信し、警備会社や関連機関に迅速な対応を促します。侵入盗などへの対策としては全戸に防犯センサーを設置し万一防犯センサーが作動した場合は警報音による威嚇と警備員の急行によって対処します。

※ホームサット24は株式会社ダイワサービスが運営するサービスです。

### ■資産価値サポートシステム「D's Bridge(ディーズ ブリッジ)」

大和ハウス

「資産価値サポートシステムD's Bridge」とは住宅の品質確保の促進等に関する法律(品確法)の「住宅性能評価書」などの建物の性能や品質、仕様や品番、また定期点検履歴( $3 \, n \, \text{月} \cdot 1 \, \text{年} \cdot 5 \, \text{年} \cdot 10 \, \text{年} \cdot 15 \, \text{年})$ などを記録する「D-FILE(ディー・ファイル)」の情報をもとに、将来の売却時に資産価値を適正に評価する独自の価格査定システムです。またこの売却斡旋サービスの他、賃貸斡旋サービスやリフォームサービスなどがあります。

※5年目以降の定期点検は大和ハウスグループが行います。また他条件があります。



### アフターサービス体制(商業施設・業務施設)

### **■**GR(グッドリレーション)システム

大和ハウス

建物の完成お引き渡し後6ヶ月目・1年目・2年目に定期訪問を実施。建物や設備機器を定期的に点検し、不具合の早期発見・処置に努めます。LCC(ライフサイクルコスト)を低減するとともに、いつまでも快適な建物環境の維持のお手伝いを行います。さらに適時の補修・改修で建物のロングライフ化をご提案します。

また、お客さまの事業運営に活かせる最新の知識や技術などをご案内。さらに、人や企業が互いに高め合える人的交流の場を目指します。



### 24時間受付コールセンター

大和ハウス

当社では、業界に先駆けて24時間365日のサポートに取り組んでいます。建物や設備の事故・故障は、深夜、休日、正月など、いかなる時に起こるかわかりません。24時間受付コールセンターへご連絡いただくと、緊急時にはいち早くレスキューパートナーが現場に駆けつけ、異常箇所の修理を実施。緊急を要しない場合でも、翌日以降にメンテナンススタッフがスピーディーに対応します。



### ダイワファミリー倶楽部(住宅・マンション)

### ■ご契約者様とのコミュニケーションサイト「ダイワファミリー倶楽部」

大和ハウス

「ダイワファミリー倶楽部」は、当社の住宅系商品をご契約いただいたオーナー様限定のインターネットサービスです。ご自身で簡単にできる住まいのメンテナンス方法を動画でわかりやすくご紹介するコーナーや、ガーデニングやスローライフなどお住まい後の暮らし方をご提案するコーナーなどを豊富にご用意しています。

また、2009年4月には、オーナー様と当社が地球温暖化防止について共に考え、取り組む「みんなでECOチャレンジ」をスタート。ご家庭で簡単にできるエコアイデアを毎週ご紹介する「今日からのエコステップ」や、ご家庭でのCO2使用量をチェックする「我が家のCO2家計簿」など、オーナー様が楽しみながら実施いただけるエコライフをご提案しています。

今後も、さまざまなサービスやご提案情報をお届けしながら、オーナー様との末永 いお付き合いを目指します。



■ダイワファミリー倶楽部

「みんなでECOチャレンジ」もこちらから ご覧いただけます。



### お客様とのリレーション体制

### オーナー会(賃貸住宅・商業建築)

### ■ダイワハウスオーナーズクラブ

大和ハウス

当社では、賃貸住宅を建築していただいた方にご入会いただく、「ダイワハウスオーナーズクラブ」を運営しています。会では最新の情報の提供を目的とし、法律、税金、金融などの専門家によるセミナーを開催したり、賃貸住宅経営に関する個別相談も行っています。

また、オーナー様同士の情報交換や親睦の場としての交流の輪も広がっており、今後は、さまざまな分野でオーナー様だけでなく、ご家族の皆様にも満足していただける会にしていきます。

### 商業建築事業におけるお客様とのリレーション体制(オーナー会)

大和ハウス

現在、約27,000人を超える過去の成約オーナー様が全国にいらっしゃいます。そのオーナー様をサポートするために組織しているのがオーナー会(会員制)です。現在(2009/5月時点)は5,847名のオーナー様が入会され、各地区での合同オーナー会や税務研修会や懇親会、親睦旅行、各種セミナーなど各シーズンごとにイベントを開催し、活発な活動を展開しています。近年は、レディース会、ジュニア会も設けて、ご家族でのお付き合いを頂いています。またオーナー会員様に対しては、年2回「パートナー」という機関紙(情報誌)をお届けしており、今後もオーナー様のご興味・ご関心に沿ったイベントを企画します。

### ■ 2008年度全国オーナー会 会長会開催



### お客様とのリレーション体制

### テナント会(流通)

### ■商業建築事業におけるお客様とのリレーション体制(テナント編)

大和ハウス

流通店舗事業は、土地活用を希望されているオーナー様と出店計画のあるテナント様とをジョイントし、店舗の請負工事を特命でいただいています。

また、これまでお取引きいただいたテナント様は、全国に約4,000社(2009年5月現在)いらっしゃいます。そのテナント様の新規出店ニーズに応えるべく事業所と一体になり、ホットな物件情報を持ち寄り出店商談会を全国6地区で開催しています。産業用テナント様においては、産業セミナーを開催し様々なテーマでの勉強会を通じて情報交換を実施しています。また、入居されている建物の管理に関しては、コールセンターを設立し日常のメンテナンスから不慮の対応に至るまで24時間の対応ができるシステムをご用意しています。



### CSRマネジメント

# 株主との共創共生



### ■積極的なIR活動



IR室を中心に展開しているミーティング内容や情報公開のための各種ツールについてご紹介します

→P73

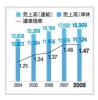
### 決算の方針



財務報告に対する考え方と仕組みを中心 に、利益配分に関する方針もあわせてご紹 介します

→P74

### ▍業績ハイライト・中期経営計画



→P227

# 「株主」との 共創共生



コミュニケーションを通じて、 経営の質を高め、長期的な 信頼関係の構築を図ります。

私たちは、適正な株価の形成やグループの企業価値の最大化を目標に、IR活動を展開しています。年に2回、東京にてアナリスト向け決算説明会を開催するほか、証券会社主催によるカンファレンス・フォーラムにも積極的に参加しています。

株主・投資家のニーズを的確に判断しながら、新たに現場見学会の開催や、スモールミーティングの実施なども行ってきました。また、IRツールの充実を図り、大和ハウスグループの考え方や取り組みを迅速かつ公平にお伝えできるよう日々取り組んでいます。

当社グループを取り巻く事業環境は、当面厳しい状況が続くと予想されます。更なる経営の効率化に取り組むことが緊急の課題であるとの認識にたち、「コア事業の構造改革」「成長市場への経営資源シフト」「財務の健全性維持と収益力の向上」をテーマに各事業の業績向上に取り組んでいます。このような取り組み・経営の状況を、さまざまなコミュニケーションを通じて、分かりやすくお伝えしたいと考えています。さらに経営者側が長期的なビジョンをお伝えすることで、株主・投資家のみなさまとの長期的な信頼関係を構築していきたいと考えています。

### 今後の取り組み

経営者側による国内外の株主・投資家に向けたIR活動に、引き続き力を注いでいきます。

特に、双方向のコミュニケーションを重視し、webサイトや電話などの各種お問い合わせ、説明会などでいただいたご意見・ご感想は、真摯に受け止め経営に活かしていきたいと考えています。



取締役 常務執行役員 経営管理本部 管理部門担当

武田 英一



# IR活動を 推進するための コミュニケーション 強化 ~IR室の取り組み~

### IRの役割と基本的な考え方

当社グループは、事業の構造改革による生産性向上、財務の健全性と事業の収益力強化、成長市場にある事業への経営資源シフトなど、時代の流れを読み解きながら、「変化」に挑戦しつづけています。そうした経営計画への理解促進と国内外の株主・投資家ニーズに適切・公平に対応するため、2008年4月にIR室を新設しました。正確・迅速な開示手法を追求するとともに、株主・投資家の声を経営にフィードバックしています。





column

投資家向けスモールミーティング 終了後アンケート結果報告(一部を抜粋)

○ 印象に残ったことは?

今後も参加を Q 希望されますか?

A はい。 35件中**35件** 

▲ ●経営者の生の声・本音・考えが聞けてよかった。

●ミーティングを四半期ベースで開催してほしい。

- ●長期的な話・将来のビジョンが伺えてよかった。
- ●資料が良くなった。
- ●もう少し質問がしたかった。

~アンケート結果を受けて~ 「スモールミーティング」では、経営者側の 想いを説得力をもってお伝えすることができたと考えます。

共に生きる~双方向コミュニケーション~

## 株主・投資家からの貴重なご意見を経営に反映していく。

土田 2009年5月、決算説明会の翌日 に当社主催の「スモールミーティング」 を初めて開催しました。

鈴木 決算説明会には、約150名の機 関投資家・アナリスト・マスコミ関係者 にご出席いただきましたが、さらにオー プンで緊密なコミュニケーションを図る ため、機関投資家やアナリストを対象 に、経営トップによるFace to Face形 式の場を新たに設けることにしました。

土田 事業への考え方や長期的な経 営ビジョンは、やはり経営トップにしか 語ることはできません。今回初めてこ のようなミーティングを開催しました が、参加された方からの評判もよく、 非常に手ごたえを感じています。ご参 加いただいたすべての方に「また参加 したい」とのご意見もいただきました (上記コラム参照)。今後も、経営者側 との直接対話の機会を拡大していきた いと考えています。

鈴木 また、2008年には、一部の機関 投資家やアナリストの方々を対象に「現 場見学会 | を開催しました。住宅・中高 層の賃貸マンション・商業施設などを 巡り、当社の事業について、より理解を 深めていただくことができました。

土田 特に好評だったのは、移動時の バス内で各事業部担当者による事前説 明です。営業部門の生の声や、今の市 場環境、それに基づくマーケット戦略な ど、当社グループの成長性を感じること ができたと参加者から大変喜んでいた だきました。

関 webサイトを生かしたIR情報の開 示にも注力しています。より多くの方 に、より分かりやすく、プラスアルファ の情報・ツールをご提供していきます。 また、当社株主の約3割を占める海外 投資家の方々に対しては、タイムリーに 情報をご提供するため、財務・経営情 報の日英同時配信を行うなど、国内外 の情報格差を少なくすることにも努力 を続けています。

# 想い

# 投資家ニーズへの 対応力を高めて いきます。

土田 IR活動には、経営数値だけでな く、その背景にある要因や事業環境を 明確に開示することが求められていま す。IR室は、各部署との連携を強化し、 情報の共有化を促進することで、投資 家のニーズに的確に対応していきたい と考えています。

#### 大和ハウスグループの今後の考え方

既存の株主・投資家に留まらず、こ れから投資をお考えの方々にも広く当 社グループの取り組みを知り、理解し ていただけるよう、より積極的な情報 開示を目指します。

詳しくは、アニュアルレポート2009を ご覧ください。

当社グループの現状や 財務情報、考え方や今 後のビジョンについて詳 しくご紹介しています。



今回の特集では、IR室の土田・関と 財務部の鈴木が、株主・投資家との コミュニケーションについて語り合いました。

共に創る~IR室の役割~

## IR室は、市場と経営をつなぐ パイプ役。

土田 以前から株主・投資家とのコ ミュニケーションを重要視していました が、IR室が新設されたことにより、さら に意識するようになりました。当社グ ループの考え方や長期的なビジョンの 効果的な発信、株主・投資家の声を経 営に反映する仕組みづくりなど、「市場 と経営をつなぐパイプ役」として、さまざ まな取り組みを展開しています。

鈴木 IRにおいては、株主・投資家に 正確な情報をスピーディに伝えるため、 他部署との連携も大切にしています。

土田 株主とのコミュニケーションは、 直接面談の場を設けたり、電話での応 対や、冊子の配布、webを使っての情報 開示など、その手段は多岐にわたりま す。それぞれの特性を使い分け、いかに 分かりやすく情報を提供していくか、 日々改善に取り組んでいます。また、証 券会社主催のカンファレンス・フォーラ ムなどにも積極的に参加し、既存の株 主に留まらず、これから投資を検討され ている方々ともコミュニケーションを 図っています。

# 積極的なIR活動

#### ■積極的なIR活動の推進

大和ハウス

当社では、適正な株価の形成や企業価値の向上を目的として、IR室を中心にIR活動を推進し ています。アナリスト向け決算説明会の実施、ファイナンシャルファクトブック・アニュアルレ ポート·事業報告書などのIRツールを用いた情報公開に加え、2008年度は3点の取り組みを実 施しました。

#### (1)アナリスト・機関投資家向けの現場見学会を実施

住宅・アパートだけでなく商業施設やマンションの現場を実際に見学していただく機会を 設け、当社の多角化している事業について理解を深めていただきました。

#### (2)決算説明会翌日にスモールミーティングを実施

経営者がそれぞれ5~6名のアナリスト・機関投資家を受け持ち、ミーティングを実施しま した。

#### (3)WEBサイトの内容充実

決算短信や有価証券報告書といった法令上の開示情報に留まらず、グラフを多用した財務 ハイライトページを新設し、財務数値の推移をわかりやすく見せる工夫を加えたほか、ア ナリスト説明会の動画配信・配布資料の掲載なども実施しました。当社の理解を深めてい ただく上で、必要な情報については積極的に開示していくよう努めています。



アニュアルレポート



事業報告書



企業情報・IR情報サイト

企業情報・IR情報ッコト (http://www.daiwahouse.co.jp/company/index.html)

#### ■IRカレンダー

イベント		2009			2010									
		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2009年3月期決算発表·決算説明会		>												
定時株主総会			)											
2010年3月期第1四半期決算発表					>									
アニュアルレポート発行						>								
2010年3月期第2四半期決算発表・決算説明会								>						
2010年3月期第3四半期決算発表											)			
2010年3月期決算発表・決算説明会														)

注:上記の予定は、予告なく変更する場合があります。

# 決算の方針

#### 財務報告と利益還元に関する方針

大和ハウス

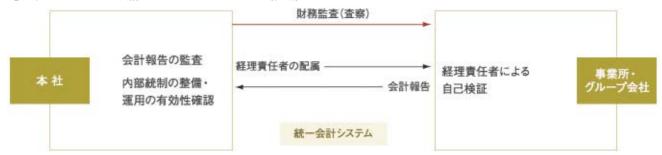
当社では、従来から事業所・グループ会社において統一された独自の会計システムを使って決算を行っています。経理担当責任者を各拠点に配属して会計報告前の自己検証の徹底する一方で、本社では、システムの運用状況のチェックや財務監査を実施するほか、提出された会計報告の精査を行って会計面での全社統制を図っています。

金融商品取引法(J-SOX法)への対応策として、専門部署を設置し内部統制ルールや子会社を含めた各部門での自主検査内容を記録・保存する内部検査システムを構築して、専門部署において遠隔で評価できる体制とし、財務報告における内部統制を整備しました。2008年度末に作成した内部統制報告書については、四半期決算ごとに問題点を是正する改善活動を徹底したことにより、独立監査法人より適正評価を得ることができました。

今後も配慮すべきリスクへの内部統制の運用状況を専門部署を中心にモニタリングするとともに、会計基準の変更などにも適宜対応して、円滑かつ効果的に対応できるよう改善活動に努めていきます。

また、当社では株主の皆様への利益還元と、将来への事業展開及び経営基盤の強化に必要な内部留保とのバランスを考慮した配当を 実施することを基本方針としています。競争力強化・収益向上のための研究開発および生産設備への投資、営業拠点の拡充など企業基 盤拡大のために、財務体質の強化を図りながら、配当性向の目標を30%に定め、あわせて状況に応じて自己株式の取得を実施すること により、柔軟な利益還元を心掛けていきます。

#### ■大和ハウスグループ会計システムのフローチャート(概略)



# 決算の方針

# SRI(社会的責任投資)※インデックス組み入れ状況

2009年3月現在、 当社は以下のSRIインデックスに 銘柄登録されています。





モーニングスター社会的責任投資株価指数 Morningstar Socially Responsible Investment Index

※SRI (社会的責任投資):企業の収益性だけでなく環境配慮や社会活動などを考慮して行う投資手法のこと

# CSRマネジメント

# 取引先との共創共生



#### ▋資材調達先との関係



互いに協力しあいながら、環境負荷低減の ための活動に取り組んでいます。

→P81 `

#### ■施工協力先との関係



商品の品質にも深くかかわる施工に協力いただく各社様と、共存共栄を実現しながら、 法令遵守を基本に、業務改善に取り組んでいます。

→P82

#### 設備機器調達先との関係



顧客満足度に大きく影響する設備機器の品質向上に各社様と共に取り組んでいます。

→P83

#### 作業環境の労働安全



作業現場における労働安全の確保は、当社 が取り組む重要課題の一つです。

『安全は社会との約束』という基本理念のもと、労働者の健康と安全を確保するさまざまな活動を行っています。
→P84

適正な支払い



工事下請負基本契約書により透明な支払い 条件・形態を明示しています。

→P85

#### |特集バックナンバー 2008



▋信頼される施工品質

WEB バックナンバー 2008 PDF(2.4MB)

# 「取引先」との共創共生

# 考え方と 今後の課題

「品質はお客さまとの約束 安全は社会との約束」という 基本理念をベースに取り組み を推進しています。

大和ハウスグループは、お取引先とよりよいパートナー シップを継続・強化し、質の高い建物を共につくり続ける ことで共存共栄の実現を目指しています。

特に作業現場における労働安全の確保は、当社グループが取り組むべき重要課題の一つです。そのため、『品質はお客さまとの約束 安全は社会との約束』という基本理念のもと、労働者の健康と安全を確保するさまざまな活動を継続的に行っています。2008年度の労災件数の前年度増減率は、施工現場では12%減、工場では58%減となりました。

私は中央安全委員長として、これらの数値結果を診断しています。結果の良し悪しはもとより、前年度結果をチェックし、今年度にどう活かしたのかを具体的に洗い出しています。これこそが「安全面の改善」だと考えています。

# 「信頼と挑戦」をキーワードに協働し、より高い個客満足を追求していきます。

大和ハウス工業では、お取引先との協働体制として「資材調達先」「施工協力先」「設備機器調達先」「事務用品・機器調達先」からなる4つのサプライチェーンの会を組成しており、各会ごとに重点課題を抽出し、それらに基づく取り組みを推進しています。

昨今の厳しい経済環境を背景に、工事の平準化が求められています。現在、当社では、受注した仕事をエリア内で調整・配分し、そこから施工会社への発注を平準化するという仕組みの導入を実験的に行なっています。

今後も、「信頼と挑戦」をキーワードに、お取引先と共に 真に価値ある商品・サービスを創出していく考えです。そし て、改善を重ねることで、個客満足を高いレベルで実現し ていきます。



代表取締役 専務執行役員 技術本部長

# 取引先との Win-Winの 関係を深める

~大和ハウス工業 協力会連合会~



信澤 勝三様

鍋田 安伸糕

77

CSR レポート 2009 詳細版 CSR マネジメント (取引先

協力会連合会

#### 社会背景と大和ハウスグループの取り組み

急変する経済環境や住宅着工件数の減少を背景に、景気の先行きが不透明ななか、 競争力の向上に向けたお取引先との連携強化は、当社グループにとっての重要 課題の一つとなっています。

当社では、施工会社を統括した「大和ハウス工業協力会連合会(会員数4,856社/ 2009年3月末時点)」を設置し、お取引先とのWin-Winの関係づくりを進めています。

今回の特集では、協力会連合会会長・住宅部会部会長・建築部会部会長と、 当社の担当者が「改善」「パートナーシップ」といったテーマについて話し合いました。

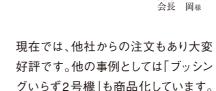


#### 共に創る~改善活動~

### 現場の職方さん※からの アイデアが改善を牽引する。

岡様 大和ハウス工業協力会連合会 (以下、協力会連合会)は、高い施工品 質を実現するために、4M(マン=人、マシ ン=機械、マテリアル=モノ、メソッド= 工法)に重点を置いた現場発信の改善 活動に注力しています。

森本 その中の「マテリアル=モノ」の 改善活動の一つに「改善事例報告会 | が あります。支部から地区、そして全国とい う流れで現場改善のアイデアを発表し、 優秀賞に選ばれたものについては、実用 化・商品化して社会に還元しています。 信澤様 2008年度の建築部会から出 たアイデアを基に「KS-壁つなぎ控え | を商品化しました。これは足場設営の 作業効率を高める部品で、安全面の向 上にも大きく寄与しています。



(下部参照)

※【職方】建設作業員

森本 施工会社の職方さんのアイデア をサポートし具現化していくのは当社の 役割です。そのために「改善提案取扱 規程 | を制定し、商品開発への出資・共 同出願・出願費の負担・売上のロイヤ リティ配分などを細かく定め、発案者の 権利を保護しています。また、他社権利 の抵触確認や改善提案の実現性につい ての審査会もきっちりと行っています。 信澤様 改善アイデアの商品化は、会 社の成長だけではなく、発案者個人に よる社会貢献にもつながりますからね。



1,295件

510件



優秀賞5件

M



78 CSR レポート 2009 詳細版 CSR マネジメント (取引先)



ブッシングいらず2号機 部会長信澤様 照明器具を取り付ける際に、天井に穴を開 け配線保護用のゴム「ブッシング」を取り付 けるのですが、この工法ではブッシングが外 れたり、ブッシングを取り付けなければ配線 が軽鉄とこすれて火災につながる可能性な どがありました。現在は同機器を使用する ことで穴あけ作業の効率化と品質面(貫通 穴・ツバの形状)及び安全性が保たれ、良 い評価が得られています。



技術太部 統括管理部 大和ハウス工業 協力会連合会事務局 森本 稔彦





鍋田様 住宅部会の2008年度のアイデアは、一般家庭のゴミ箱にビニール袋を入れる要領をヒントにした「ダンボールの袋詰め用器具」です。これを導入したことにより、現場で多量に発生するダンボールを効率よく分別・収集できるようになりました。(上部参照)その他にはハンガーパイプの取り付けを一人でも楽な体勢でできる工具を実用化しています。

岡様 改善活動においては解決にまで 至らなかった課題もありますね。

森本 残された課題については協力会連合会のwebサイト"WEB Ren"で公開し、会員間で情報共有を図っています。また、現場の職方さんからの生の意見を本社にダイレクトに提案していただく「フィードバックシート」というものがあります。関連部門にその情報を迅速に伝え、提案者に対して適切な回答をする。ぜひこれをどんどん活用していただき、活発な改善活動にしたいですね。

信澤様 一職方さんの改善アイデアを、 地区や部会全体の取り組みへと発展させるなど、ヨコのつながりを活かしなが ら完成度を上げていく考えです。

鍋田様 「改善事例報告会のための業務」ではなく、どんな小さなことでも吸い上げる仕組みの構築が今後は重要になってくるでしょう。

岡様 財産ともいえる職方さんからの 情報を共有化し、より一層競争力を高め ていきます。



ダンボールの袋詰め用器具 部会長 鍋田様 施工現場で不要となったダンボールは大きさや形が異なることから、ビニール袋1枚に詰められる量や大きさがまばらで作業スペースを圧迫していました。そこで、(ビニール袋をセットした)同器具にダンボールを集め、大きさや形・重さを統一することで整理がしやすくなり、作業スペースを圧迫することなく円滑に作業を行えるようになりました。

#### 共に生きる ~大和ハウス工業のパートナーとして~

## 大和ハウス工業の仕事に 誇りを持ち取り組んで いただくために

森本 パートナーとして結束を強めるため、会員会社を対象とする福利厚生制度の充実に努めています。職方さんは身体が資本ですし、施工会社が優秀な人財を確保するためにも、年金保険などにはしっかり加入していただいています。「建設業退職金共済制度」の掛金についても当社の基準を満たした被共済者に対して当社が負担するなど、独自のサポート体制を敷いています。



#### ↓協力会連合会 web サイト "WEB Ren"

2009年4月、会員が閲覧できるweb サイト"WEB Ren"が掲載内容の充実 と情報共有の迅速化を目指しバージョ ンアップしました。

各地区ごとのCSR活動への参加の呼びかけも行っています。



(写真) 協力会連合会 活動の一例



岡様 協力会連合会の入会には審査があり、基準は厳しいものです。

森本 技術・ノウハウを共有する関係ですから、互いの信頼を高めるためにも基準は必要です。技術面では当社独自の施工主任技能者検定を入会基準としており、そのための技術研修も提供しています。協力会連合会の会員会社は技術力が高く事故率が低いと数字に出ています。これは協力会連合会内の工場部会や、青年部会など各機能部会の自発的な活動が人財の能力を高めているのでしょう。

年部会など各機能部会の自発的な活動が 人財の能力を高めているのでしょう。 信澤様 私は、施工会社自身が安全や マナーの向上についても率先して取り 組むべきだと考えます。会員の名刺や







ユニフォームにも「エンドレスハート」のマークが入っていますから、お客さまや周辺住民の方にとっては施工会社も"大和ハウスグループの一員"なのです。それにアフターメンテナンスを継続するのは地元の施工会社の役割でもあるので、地域社会とのコミュニケーションの機会にも積極的に参加しています。

森本 施工会社の後継者を育てる青年 部会の「後継者塾」では、「雨水の活用」 「マイ水筒持参」などの環境保全活動も 浸透してきています。

鍋田様 かつて現場の職方さんに必要な要素として「KKD(経験・勘・度胸)」という言葉がありました。現在はそれに加えて、マナーや安全を職方さんの心根に浸透させ、お客さまの期待を超える感動を追求しなければ今の時代に取り残されてしまうでしょう。

信澤様 大和ハウス工業は「xevo」の 例をとっても進化のスピードが速いです から、それに応えていきたいですね。

鍋田様 私は部会や自身の会社で、「何事も感謝が必要」だと言い続けています。お客さまが家を建ててくださることで、施工会社に仕事が入ります。それにより自分の家族を養っていけるという「感謝」の気持ちがあれば、現場の美化・周辺地域への配慮・作業の確実性など、すべてが向上するものと考えています。

# column

#### お取引先アンケートの実施

当社従業員のお取引先との関わりにおける問題点を顕在化し、クリーンな企業体質を醸成するために、2006年度より協力会連合会の会員会社を対象にアンケート調査を実施しています。年1回の調査結果は協力会連合会webサイト"WEB Ren"にて公開し、いただいたご意見を社内の業務改善に活かしています。

また、今後は協力会連合会会員会社からのご意見に適宜対応するための仕組みづくりとして、協力会連合会会員会社を含むお取引先からの通報制度「パートナーズ・ホットライン」を開設をしました。



今後の想い

協力会連合会との絆を強化します。

森本 協力会連合会のスケールメリット を活かした会員会社へのサポート体制の 強化はもちろん、発注量の平準化を進め、共に発展していくことを目指します。 また、会員会社は、強い絆で結ばれた パートナーであるという意識を当社の全 従業員に根付かせていきます。

岡様 CSRもそうですが、それぞれの立場の人が「品格」をあげ、感性を養っていくことが大切です。協力会連合会のさまざまな活動を通じて「品格」をグレードアップさせ、世間から高く評価される組織として団結を強めていきます。

#### 大和ハウスグループの今後の考え方

品質の高い商品・サービスをお客さまに提供し、信頼を得るためには、「改善」という挑戦が必要だと考えます。社会の要請やお客さまのニーズは多様で変化するものですから、それらに応えていく改善を終わりなき道と捉え、お取引先と共に切磋琢磨しながら努力を続けていきます。

#### お取引先アンケート調査 設問(抜粋)

- ・弊社担当からの値下げの要求で 度が過ぎることはありましたか?
- ・弊社担当の工事代金その他の支払いに おいて支払遅延はありましたか?
- ・弊社担当より各現場における環境保全に 向けての取り組みは推進されましたか?
- ・貴社との共存共栄の精神に反する 要求行為はありましたか? など11の設問にて調査

08年度結果 のベ1,82**7**通

# 資材調達先との関係

#### お取引先とのよりよいパートナーシップを築くための方針

大和ハウス

#### 大切なパートナーとして

お取引先は私たちにとって欠かすことのできない大切なパートナーと考え、共存共栄の精神をもって常に対等・公正な立場で接します。また、お取引先との関係は常に透明かつ公正なものにいたします。

#### お取引先へのCSR推進

お取引先に向けた行動規範を策定し、基本三原則(人権の尊重・法令の遵守・環境保全)に基づいた事業活動をお取引先と一体となって推進します。

#### ■資材調達先の会~トリリオン会の活動

大和ハウス

当社の資材調達先240社(2009年5月現在)で組織する「トリリオン会」では、当社のグループ行動指針に基づき、会員各社と健全な関係を築くとともに、共同で環境負荷の低減や啓発活動などに取り組んでいます。

2008年度は、大阪府流入車規制(2009年1月から大阪府下において実施された)に伴い、排出基準を満たさないトラック・バス等の府域の対策地域内への発着を行わない旨の誓約書を各会員企業に提出していただき、法令遵守および環境負荷低減の徹底を図りました。

また、屋上緑化に関して、2004年3月の工場立地法の改正により、屋上・壁面の緑化面積を敷地の緑地面積として算入出来るようになったこと、建物の表面温度低下による空調等の電力使用量の削減が図れること等を会員企業に周知し、温室効果ガスの排出削減による環境負荷低減を啓蒙しました。

人権に関する当社の取り組みを会員企業に紹介し、各社内での人権啓発にお役立ていただく活動を2007年から実施しています。この活動は今後も継続していきます。

#### 取引先選定基準について

大和ハウス

新規のサプライヤー様に対しては、当社の材料購買先管理規定に基づき、品質・価格・納期・経営・環境の5 つの分野に対して総合的に評価を行っています。

また、適宜、必要に応じて品質監査を行ない、品質評価チェックシートを用いて点数評価し、合否を判断しています。

契約中のサプライヤー様に対しても、同様の評価を年2回(半期毎に)フォローアップ評価として実施しています。不具合の発生に際してもフォローアップを行ない、常に適正なお取引が出来る体制を整えています。

# 施工協力先との関係

#### ■施工協力会社の会~協力会連合会の活動

**大和ハウス** 

当社は会社設立時から施工協力会社の皆さまと共存共栄の精神で共に歩んでいます。

1987年には協力会社の技術技能の向上を目指し相互研鑽と互助親睦を図ることを目的に「協力会連合会」を発足しました。

協力会連合会の会員数は、現在(2009/3月現在)約4.856社にのぼり、全国81カ所の支部と、8部会の組織で活動しています。

2008年度の活動基本方針として、『信頼と挑戦』をキーワードに、「安全」「品質」「工期」「環境」「販売促進」「教育」の6つのテーマを掲げ、協力会活動を推進しました。

また、協力会社各社が強固な経営基盤を構築し、常に新しいスキルや効率の良い技術・技能を提供しあえるパートナーとなるよう、当社と共に様々なサポートを実施しました。

会員との情報共有の手段として連合会季刊誌(4回/年)と併せて、WEB上で毎月情報発信することで、協力会社へスピーディかつタイムリーな情報の共有を図ることで会員との相互信頼を深めています。

BCPの取り組み 大和ハウス

BCP(事業継続活動)\*への取り組みとして、協力会会員会社向けに「協力会社安否確認システム」の導入を推進しています。これは当社の安否確認システムとの連携を図ることで、災害発生時に事務所及び事業主・作業員の安否状況を当社が迅速に把握し、安全確保の支援および災害復興の支援体制を早急に整えるものです。

また、新型インフルエンザの感染予防対策として抗ウイルスマスクを備蓄用として協力会社へ斡旋しています。

#### **\*\*BCP**(Business Continuity Plan):

企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法・手段を取り決めておく計画のこと。

#### ■お取引先アンケート調査の実施

【大和ハウス】

当社グループでは「大和ハウスグループ企業倫理綱領」を策定し、その中で 「調達先等との適切な関係構築」について定めています。

その観点において、当社社員のお取引先との関わりにおける問題点を顕在化するとともにクリーンな企業体質を醸成するために、2006年度より協力会連合会会員会社様を対象にアンケート調査(お取引先アンケート)を実施しています。(年1回)

当調査はインターネットを使った匿名のアンケートで、2008年度は1,827件の回答を得ました。また、2008年度より設問ごとに自由記入欄を設けることで、各社様からの率直なご意見をいただきました。調査結果は協力会連合会ホームページにて公開するとともに、当社関連部門および各事業所にフィードバックし、いただいたご意見を社内の業務改善に活かしています。

CSR自己評価指標 →P54

#### ■お取引先アンケート調査 設問(抜粋)

- ・弊社担当からの値下げの要求で度が過ぎることはありましたか?
- ・弊社担当の工事代金その他の支払いにおいて 支払遅延はありましたか?
- ・弊社担当より各現場における環境保全に向けての取り組みは推進されましたか?
- ・貴社との共存共栄の精神に反する要求行為は ありましたか?

など11の設問にて調査

# 設備機器調達先との関係

#### ■設備機器調達先の会~設和会の活動

大和ハウス

当社の取引先の設備機器・材料メーカーと販売会社などで構成される「設和会」は、1999年に設立され、その後関東支部、中部支部を設け、現在122社(2009年3月時点)で構成されています。

会員企業は、設備専門分野における品質および技術の改善・向上に関する情報交換や技術セミナーを当社の事業所で開催しています。

毎年7月に大阪および東京会場で開催している商品技術展示会も本年度は「福祉」「環境」の二つのテーマで実施しました。両会場合わせて70を超えるブースに各社の最新の技術を展示し、グループ会社を含め、協力会社の方も多数ご参加いただきました。



商品技術展示会のようす

# 作業環境の労働安全

#### ■安全パトロールの実施

大和ハウス

建設現場における労働環境の維持・向上のため、年間計画に基づき毎月現場の巡回を実施しています。

現場巡回は協力会社の月担当の皆さま 及び、支店長、営業所長、工事責任者等が 参加し、実施しています。

#### ■ 安全パトロール現場説明風景







場内巡回後の即時是正内容の指導風景

#### ■安全衛生協議会の実施

大和ハウス

安全パトロール後に実施する、「安全衛生協議会」の場において、当日の安全パトロール結果報告・安全衛生委員会報告・ヒヤリハット体験報告等により、安全情報の共有化を図ることにより、施工現場における安全活動の推進を図っています。

#### ■ 安全衛生協議会風景



安全パトロール結果による不安全状態・ 不安全行動を参加関係者に周知する

安全教育

協力会社及び従業員個々の安全知識・認識・意識向上を図るため、「新規入場者教育」「事業主研修」「職長教育」「職長能力向上教育」「新 KYT教育\*」「特別教育」等を、年間計画に基づき実施しています。

※KYT: 危険予知トレーニング

#### ■住宅系新規入場者教育風景



住宅系協力会社を対象に半年に 一度教育を行う

#### ■研削砥石特別教育の実技風景



法定資格取得の一環として協力 会社を対象に特別教育を実施

#### ■現場KY研修



建築系の大きな現場の一角を借りて、 臨場感を持ってKY※研修を行なう ※危険予知

# 作業環境の労働安全

安全大会の開催大和ハウス

毎年7月に実施される「全国安全週間」(7月1日~7日)に合わせて、安全に対する「知識」「認識」「意識」の向上・高揚を図るため、準備月間の6月より、全事業所にて「安全大会 | を実施しています。

「安全大会」では、社内外からの講師による安全講話、昨年度安全に功労のあった当社社員、協力会社並びに協力会社社員の表彰を行い、会の締めとして、協力会代表者から事業所長に向けての「安全宣言」が発表され、この一年間の作業現場における安全作業・安全活動を誓います。

#### 安全大会講習風景



社内外講師による安全講話の受講

#### ■安全優秀社員・協力会社・協力会社社員表彰



安全表彰状・記念品の授与

#### ■作業現場での労働災害の防止

大和ハウス

毎年発行する当社の「安全衛生推進基本方針」に基づき、全国事業所では安全衛生管理計画を策定しています。その管理活動の中で、 労働安全衛生におけるさまざまなリスクの低減に向け、P・D・C・Aサイクルによる改善活動を行っています。

災害発生に対し、そのさまざま改善活動を試みた結果、2008年度は2007年度に比較し、発生件数で約20%の削減となりました。 2009年度も2008年度に効果のあった改善活動を基に、より一層の改善活動を推進し、更なる災害発生件数の削減に努めて行きたいと 考えています。

# 適正な支払い

#### ■公正な取引契約の実施(建設業法・下請法への対応)

大和ハウス

当社では「工事下請負基本契約書」にて基本的内容を定めており、条項には個別契約および個別工事の施工方法、損害の負担、瑕疵担保、請負代金等の支払い、損害賠償・契約解除、履行の確保・その他の条項等の基本契約事項を記載しています。協力会社からの工事代金請求に対しての支払額は、工事の出来高によるものとし、現場責任者が出来高査定を行います。

個別工事の検査に合格し、工事目的物の引渡しを受けると、注文書または基本契約書に定めた支払を行います。支払条件は、基本契約書または、注文書に記載された条件・支払日としています。

また、支払については、個別契約および個別工事の「支払通知書」を協力会社に発送し、双方が支払内容について確認できるようにしています。

なお、当該書面の記載内容の確実性維持・向上や事務処理の軽減を図るために、EDI(電子データ交換)※を近畿地区で先行運用を実施しています。

※EDI (Electronic Data Interchange):企業間をネットワークでつなぎ、標準化した取引伝票や文書の電子データを交換すること。

# CSRマネジメント

# 従業員との共創共生



#### 雇用と処遇



さまざまな人財の雇用や処遇の改善・向上 を進めています。

→P91

#### 人権の尊重



一人ひとりの多様性・人格・個性・人権を 尊重し、誰もが能力を発揮できる差別のな い安全で働き易い職場環境づくりに取り組 んでいます。

→P92

#### |健康への配慮



メンタルヘルスや健康管理に配慮した施策を進めています。

→P94

#### | 人財育成



人財=人(従業員)を財産であると捉え、意欲のある人財が活躍できる制度と支援により、従業員のモチベーションを高めています。

→P94

#### ▮働きやすい職場



社員の事情を考慮した勤務地の選択や子育 て休暇など新制度導入を進めています。

→P95

#### 特集バックナンバー 2008



■家族・自分に誇りを持てる会社

WEB バックナンバー 2008 PDF (2.0MB)

# 「従業員」との共創共生

## 考え方と 今後の課題

経営戦略の一環として 「ワークライフバランス」を 推進しています。

加速する少子高齢化により国内の労働人口は年々減少し、企業にとって組織の労働生産性を高めることは 喫緊の課題となっています。今後、事業活動を継続・拡大していくには、限られた人員と限られた時間で今まで 以上の成果を出すことが必要であり、従業員一人ひとりの業務効率(生産性)を高め、仕事の付加価値を上げることが不可欠となります。

大和ハウスグループでは、従業員を事業活動の担い手であるとともにステークホルダーの一員であることを認識し、CSR自己評価指標の導入当初(2006年4月)から「従業員」に関する指標をCSR活動の管理項目として取り入れています。2009年度からは、「ダイバーシティの推進」、「人財の育成」、「ワークライフバランスの推進」などを社会的課題と捉え、従業員に関する具体的指標を設定しました。

また、従業員に対する「CSR意識調査\*1」や「View Research  $100^{*2}$ 」により、従業員の意識や職場の現状を定期的に調査し、働きやすい職場環境づくりの推進を図っています。

今後も各種制度の制定や職場環境の整備を行うことで、従業員の多様な価値観やライフスタイルに柔軟に 対応できる社内風土を醸成していきます。

- ※1【CSR意識調査】社内アンケートで人権意識、法令遵守、環境保全など 48の設問項目で構成。結果を独自に点数化し、設問項目ごとに分析しています。(毎年実施)
- ※2 【View Research 100】社内アンケートで職場環境、人事制度、労務問題など100の設問項目で構成。結果を分析し、人事制度の改定などに活かしています。(大和ハウス工業のみ。4年ごとに実施)



取締役 上席執行役員 経営管理本部人事部長 河合 克友



# 社会背景と大和ハウスグループの取り組み

21世紀は「個の時代」とも呼ばれ、従来の仕事中心型社会からワーク(仕事)とライフ(生活)のバランスを考慮した働き方へと転換が進んでいます。ワークとライフのいずれに重きを置くかは働き手の価値観やライフスタイルによって変化するものであるため、企業が従業員の働き方に対する想いに応えていくことが一層求められています。

大和ハウス工業では「Waveはあと推進室\*3」を設置し、"ワークライフバランス"の視点から制度策定や人財育成を推進しています。

今回の特集では、集合住宅を建築する際のエピソード を通じて、工事監督を担当した当社の女性社員・小部 とその上司・同僚・お取引先が、仕事と生活の両立につ いて話し合いました。

#### Profile

#### 小部 慶美

1995年4月、大和ハウス工業に入 社、戸建住宅工事担当、相談セン ター等を経て、現在集合住宅工事 担当として勤務。家族構成は、夫・ 娘(5歳)・義母、そして第二子(取 材時 妊娠5ヶ月)。現在も体調を 第一に考えながら、現場に立ち続 けています。

※3【Wave はあと推進室】経営を支える人財の確保と育成の更なる強化を基本方針に、女性社員の能力開発と働き続けられる職場環境づくりからスタートし、ダイバーシティの推進とワークライフバランスの向上を目指す組織



共に創る~"ワーク"について~

# 「仕事を退く」という選択肢ははじめから持たなかった。

小部 お客さまと対話をしながら建物を作っていきたい。それが私の入社動機でした。配属の第一希望は設計でしたが、先輩方から「現場でも建てる喜びをお客さまと一緒に感じられるよ」というアドバイスを受け、第二希望に現場の仕事を挙げました。そして今では工事監督として働き始め15年目になります。私は新入社員の頃から「仕事を辞める」という考えはありませんでしたが、実際に結婚・出産を経験して感じたことは、社内の理解や協力が大きな支えになったということです。

で、監督の性別に関係なく、納得のいく 要求にはきちんと応えてくれます。

小野様 小部さんとは今回初めて現場で一緒に仕事をしましたが、現場の一体感や穏やかな雰囲気を生み出すなど、私たち取引先の心をつかむのがうまいと思いましたね。

大宮 お取引先から工事担当の良い評判を聞くと信頼されていることが分かり、営業担当としても安心できます。

河村 2008年10月から上司として彼女 を見ていますが、細やかな気配りには感心 させられます。例えば現場事務所に大き な鏡を置くことで、職方さんに身だしなみ を意識してもらうといった、単純だけど大 切なことに目が行き届いているのです。

地に誤ってトラックを停めないよう、ご 了承をいただいた上でカラーコーンを設 置するなど、監督として近隣のお叱りや 事故の発生を未然に防ぐ方法はたくさ んあります。

河村 新しく現場に入っていただくお取引先への説明会「新規入場者教育」において、小部は400人程の参加者を前に講演をしました。堂々としていて非常に頼もしい。あれは刺激になりましたよ。

小部 以前、第一子の妊娠で、現場を離れる時期がありました。しかしその間に協力会連合会(P.77~P.80参照)を通じて得た安全教育の知識が、今では私の武器になっています。まだまだ仕事面で成長を図りたいですね。



#### 「ワークライフバランス」とは、男女を問わず、働く社員全員のためのもの。

**上田** 当社では、「ワークライフバランス」の推進にあたり、まずは出産・育児などさまざまな事情を抱えながら働く「女性」に目を向けています。それは単なる女性活躍の意味だけではなく、少子高齢化が進む社会で、将来的には男性も育児や介護に関わる機会が増えていくことを見据えており、女性が活躍できる場の提供は男性の働きやすい職場環境にもつながると考えるからです。

2005年度より営業・設計・工事職といった女性が少なかった職種への配属を開始し、性別を問わず多様な人財を活かす職場風土を作るとともに、時間的制約があっても能力が発揮できる働き方の改革を目指しています。



お取引先から、小部の評判はよく聞いて いました。現場から信頼を得ていたので、 安心して任せられましたよ。 営業担当 大宮

社内外からの信頼獲得まで、 大変な苦労があったでしょう。 周囲に対して「早く帰らせて!」ばかりでは 理解を得ることはできませんから。 上司 河村



共に生きる~"ライフ"について~

今は、重心を「少し家庭寄り」に バランスをとっている期間。

小部 夫は現場で共に試行錯誤を重ね てきたお取引先の職方で、私の仕事内 容をそばで見ていた良き理解者です。 それに同居する義母からのサポートや、 「お母さん、仕事がんばってね! |と出勤 を見送ってくれる5歳の娘の励ましにも 毎日感謝しています。

多くの働く女性にとって、出産は喜び と同時に「今の仕事を続けられるのだろ うか | という不安もあるでしょう。しかし 私は仕事と生活においては"バランス" が重要だと考えています。これからの長 い会社生活を踏まえたうえで、30代の 今は「ライフ | の方に少し重点を置いて います。そのために、与えられた仕事を 効率よく終わらせる工夫を行い、周囲の 協力を得ることで、よい結果を出すこと を目指しています。また、後輩に仕事を 任せるということは、人の成長も見守る ことができ、進捗をチェックし、フォロー することで自身の管理能力を高めるこ とにもつながります。

河村 常に"無制限一本勝負"では、心 身ともに疲れてしまい、従業員にとっても 会社にとっても大きな損失となります。 当社では近年、長時間労働の抑制に向 けた制度が整備されてきましたが、一人 ひとりが時間内に成果を上げ、その上で チームが助け合い、新たな価値を生み出 していくことが重要になるでしょう。

小部 河村課長は、仕事を一人で抱え 込まずにみんなで完成させていこうとい う、チームワークを尊重した職場づくり を進めてくださっています。

河村 ここ1~2年でずいぶん事業所内 の働き方が変わってきたなと感じていま す。一人ひとりがワークとライフのバラ ンスを大事にしながら、組織として高品 質の施工を実践する。それがチームを率 いるリーダーとして常に心がけているこ とです。

小部 私は、機会があれば娘を現場の 近くに連れて行くことがあります。娘は、

当社グループの赤いマーク(=エンドレ スハート) を見ると「ママの会社だ! |と 喜ぶので、そうした姿を見ると、働くこ とに対して誇らしく、また身が引き締ま る思いがします。

小野様 社会では、女の人は家の中の ことを何でもしなければいけない、男の 人は職場で夜遅くまで仕事をするという 暗黙の常識のようなものがありますが、 実際にはそんな単純に役割を分担でき ないのではないでしょうか。

大宮 そうですね。小部は家庭と仕事 のバランスをうまく保っているため、家 庭のことを仕事に持ち込むことが無く、 男性との違いは感じませんよ。

小部 これからは男性も子育てに限ら ず、介護や自己啓発のために、「ライフト に時間をかける時代になります。社内外 の方や家族、いろいろな人の支えがあっ てこそ私は仕事を続けていられます。バ ランスをとりながら個々が力を発揮し合 うチームになれば、「もっといい会社 |へ と発展していくのではと思います。



はじめは「女性が現場に立つのは難しいのでは?」 という不安がありましたが、小部さんの働きぶりに 触れて、「女性ならではの良さをもっと現場に 活かしてほしい」という期待に変わりました。 お取引先 小野様

職方さんがたくさんいる中で、 小部さんはとてもしっかりしているな、 働く女性はすてき、と感じました。 敷地内に残した畑の野菜を笑顔いっぱいで 受け取ってくれました。 オーナー様 岡島様





互いのワークライフバランスを尊重できるような"企業風土"を、従業員から生み出していきたい。

**上田** 「ライフ」を充実させるためには「ワーク」の効率化が不可欠です。実際に制度を利用して いる人の多くが、効率的に時間を生み出しているようです。「育児休業制度」を利用した男性社員 は「育児休業の取得を通じて、自分自身が何のために働くのかを客観的に考えることができまし た」と語っていました。とはいえ仕事を「人生」の一部として捉える自立した考えを持ちながらも、 上司・同僚などを気遣って制度を利用しない人が多いのではと憂慮しています。

「ライフ=仕事以外の生活面」を大切にする社員は、暮らし方における経験の引き出しを幅広く持つこ 充実だけでなく年齢・性別の枠を超えたワークライフバランスの理解促進を強化し、働きやすい組織風 『くるみん』を取得 土の確立を目指していきます。





# 今後の想い

## 女性工事監督という道を後輩に 残していきたい。

小部 実は今、第二子を妊娠中ながらも労働基準監督署に確認した上で現場に出ています。妊婦も社会との接点を持ちながら働くことができるんだということを自身でやり遂げたいからです。また、同僚や現場のお取引先にその姿を見てもらい今の働く女性の一端を感じてほしいですね。また、全国の女性工事担当者に対しては「ずっと仕事ができるんだ」という安心感を伝えていけたらと思っています。

#### 大和ハウスグループの今後の考え方

政府は2007年に「仕事と生活の調和(ワークライフバランス)」に関する憲章と行動指針を制定し、「仕事と生活の調和」の重要性を示しました。

企業としても、従業員の「健康保持」・「充実した生活時間の確保」・「地域活動への参加」などのため、ワークライフバランスに対し積極的に取り組むことが一層求められています。従業員がワーク(仕事)とライフ(生活)の双方を充実させることは、豊かな「人財」を育むことにもつながります。当社グループは、ワークライフバランスを推進することは人財確保や効率経営といった経営課題の解決や企業の継続的発展のための戦略であると考えています。ワークライフバランスに関連する諸制度を整備するとともに、制度が有効に利用できる職場づくりを行い、従業員にとっての「モデルケース」を増やし、従業員一人ひとりの意識向上を図っていきます。

# column

#### ワークライフバランス支援制度の利用状況

当社では、2007年4月よりワークライフバランス支援制度を導入した結果、結婚や出産を理由に退職する女性社員の数が少なくなってきました。また、家族の看護休暇やホームホリデーなど、育児以外でも多くの社員がワークライフバランスを実現できるような制度設計を目指しています。今後は制度を利用しやすい環境作りが課題です。

■ワークライフバランス支援制度の利用状況(2008年度)

制度	利用人数	前年度比
育児休業制度	153名	+36名
妊娠·育児短時間勤務制度	115名	+26名
家族の看護休暇	555名	+70名
ハローパパ休暇 ※1	191名	+21名
ホームホリデー ※2	13,309名	+908名
次世代育成一時金制度 ※3	(年度内の出生児数) 724名	+41名

- ※1 出産した配偶者をもつ男性社員が出生日から連続5日間の休暇を 取得できる制度。
- ※2 有給休暇を四半期に1日、計画的に取得する制度。
- ※3 誕生したこども一子に対し、100万円を支給する制度。

#### Waveはあと通信

Wave はあと推進室では2ヶ月に1回、 社内報としてワークライフバランス支援制度を利用している社員の声や、いきいきと働いている社員の紹介、ダイバーシティやワークライフバランスを推進するための取り組みなどについて情報発信を行っています。一人でも多くの従業員に読まれるような紙面づくりを心がけています。





# 雇用と処遇

#### 人財・雇用・職場環境に関する方針

大和ハウス

当社は、「自主選択」「自立」という考え方のもと、社員一人ひとりが自らのキャリア・デザインを意識できるように、また、多様化する職業観の中でより働きやすい環境づくりをめざし、各種人事制度の改定を進めています。

2007年度より「育児休業制度」をこれまで法定水準であったものを『3歳』まで延長。男性の育児休業制度利用も促進し、2007年度と 2008年度に各1名が利用しました。

また、労働環境の改善にも力を入れており、長時間労働の是正を基本として、休日の確保、年次有給休暇の計画的取得など、健康への配慮と同時に家庭生活の充実へ向けた支援を強化しています。今後も「労働環境整備」「人財育成」に重点を置き、持続的発展に努めていきます。

雇用の状況
大和ハウス

2009年4月1日現在、当社には、正社員14,127名、有期契約社員2,159名の合計16,286名がいます。

2008年度の正社員採用数は 936名(新卒採用者794名、キャリア採用者142名)で、2009年度は4月に新卒採用者を493名(男性373名[76%]、女性120名[24%])採用しています。

#### ■ 従業員数(2009年4月1日現在)

	全体	男性	女性
正社員	14,127名	11,885名	2,242名
有期契約社員	2,159名	1,461名	698名
合計	16,286名	13,346名	2,940名

#### ■高年齢者再雇用の推進

大和ハウス

当社は、改正高年齢者雇用安定法の施行にともない、従来の定年後の再雇用制度を2006年4月に見直しました。

これまで、管理職クラスに限定していた再雇用の対象者を一般職クラスにまで拡大。報酬体系についても、一律設定から個々人の成果実績に基づいて設定する仕組みに変更しています。

さらに、2007年4月からは、定年退職日を誕生日月の月末から年度末へ変更することにより、事業年度を通して業務に専念できる体制へ切り替え、2009年4月は65名(定年者の59%)が再雇用されました。そして、再雇用者には4月の1ヶ月間はリフレッシュ休暇を付与。また、寮や社宅などの福利厚生面においても見直しを行い、再雇用により手厚い待遇を実施しています。

#### 

当社の障がい者雇用率は1.83%(2009年6月1日現在)であり、法定雇用率を上回っています。また当社では、障がい者の方を特定の職場に配属するのではなく、健常者と同じく個人の適性に応じて営業・設計・工事・管理などの職種に配属しています。障がいを持つ方にとって、やりがいのある処遇の実現と、健常者の理解の醸成に努めています。

#### 女性の登用の拡大大和ハウス

女性の役職登用も積極的に行っています。2009年4月現在の女性の主任・係 長職は240名(全正社員の1.69%)と、2005年の約3.5倍に増加しています。女 性の管理職は2009年4月現在14名となっており、今後は現在の主任・係長職を 将来の管理職候補として、積極的に育成を進めていきます。

#### ■女性の主任・係長職



# 人権の尊重

人権啓発活動方針 グルーフ

#### 人権に対する基本的な考え方

●基本的人権を尊重し、人種、民族、国籍、出生、性別、社会的身分、宗教、信条、性的 指向、障がいの有無などに基づく差別を行いません。

また、雇用における機会均等に努め、児童労働、強制労働を認めません。

- ●従業員の多様性、人格、個性、人権を尊重し、雇用および処遇における差別や個 人の尊厳を傷つける行為(セクシャルハラスメントやパワーハラスメント等) を禁止し、安全で働きやすい職場環境を確保します。
- ●従業員の人権意識の維持向上を図るため、計画的、継続的な教育・啓発活動を 推進します。

#### 基本方針

人権の尊重と良好な職場環境の構築

#### 活動目標

- 一,体系的、計画的な教育啓発活動の推進
- -.日常業務活動への実践と定着化
- 一, 社外関係団体との連携を通じた活動の推進

#### ■人権教育・啓発への取り組み

当社は1988年に「人権啓発組織設置規程」を定めて以来「基本的人権の尊 ▮ 啓発研修の内容及び実施状況(2008年度実績) 重と良好な職場環境の構築」という基本方針のもと、グループ全体で人権啓 発活動に取り組んでいます。

現在も、全社員に対する年2回の研修をはじめ、役員・管理職などを対象と した階層別・目的別研修など、計画的・継続的な社内研修を通じて「差別をし ない、させない、許さない」意識と行動の醸成に努めています。

また、外部の諸団体との連携のもと、社会啓発活動にも取り組んでいます。

研修名	対象者	回数	延べ受講人数
事業所別研修	全社員	423回	25,424名
階層別・目的別	管理職・主任・係長・新入社員	28回	1,211名
推進リーダー育成	推進員	8回	344名
グループ会社(支援)	グループ会社社員	16回	595名

#### ■セクハラ・パワハラ教育の積極的な推進と相談窓口機能の充実

**グループ** 

当社では、良好な職場環境を構築するため、セクハラ・パワハラ未然防止を重点にワークシートやグループ討議を取り入れた参加型 研修を実施しています。

また、1998年10月に「人権問題の相談窓口」を人事部人権啓発室に設置し、セクハラ・パワハラ・同和問題など、人権問題に関する全 ての相談を受け付けています。

更に、各事業所にも相談窓口を設けています。2004年9月にはセクハラの早期対応と、より相談しやすい体制を構築するために、女性 の相談担当者を選任し、男女2名体制としました。本社の相談窓口だけでなく、社員の身近に相談窓口を設けて連携を図り、相談窓口機 能の充実を図っています。

#### ■グループ会社人権意識調査の実施

グループ

2008年7月、グループ会社の人権問題に関する理解・認識度の把握と課題を明確にするために、「グループ会社人権意識調査」を実施 し、26社9.182 名の回答がありました。人権問題に取り組む意義について「企業の社会的責任として当然である」と考える人が82%と、 人権啓発活動をグループ会社にも水平展開している成果が表れています。この調査結果を元に、人権啓発研修の企画指導や講師派遣な ど、更なる人権啓発活動を推進し、グループ全体の人権意識向上に努めていきます。

# 人権の尊重

#### ■人権標語コンクールの実施とポスターの掲示

グループ

当社グループでは人権啓発活動の一環として、一人ひとりが具体的に人権について考え実践することを目的に、年1回の人権標語コンクールを実施しています。2008年度は当社及びグループ会社や協力会社より19,870点の応募があり、前年比937点増と、過去最高の応募数となりました。その中から優秀作品37点を選び、表彰しました。また、最優秀作品4点を掲載したポスターを作製し、大和ハウスグループの社内に掲示しています。

#### ■人権標語ポスター



#### ■社内イントラネットに情報の提供

グループ

2カ月に1回、人権問題に関する情報(セクハラやパワハラ、同和問題をはじめ時事問題など)をイントラネット上に「人権のひろば」として掲載し、グループ全体で人権啓発を推進しています。2008年度は約65,000件のアクセスがあり、更なる人権意識向上のきっかけとなっています。

#### ■人権のひろば



# 健康への配慮

#### メンタルヘルスケア

大和ハウス

昨年5月に導入したEAPサービス・従業員支援プログラムは、プライバシーを完全に保護し、会社に知られることなく仕事や家族・自分のことなど、公私にわたる悩みや心配事を専用ダイヤルにでき、電話や全国の本人が希望する場所で、専門のカウンセラーによるカウンセリングを受けることが可能です。

また、休職者の職場復帰時には当初1ヶ月の半日勤務から徐々に職場にならしていき、6ヶ月間をならし勤務期間と位置づける「職場復帰支援サポートプログラム」の運用を開始し、本人と周囲が協力して職場復帰のサポートを行っています。

さらに、管理職層への専門家によるメンタルヘルス研修を継続して実施するとともに、EAPサービスを活用し、心の不健康な社員との接し方に対するコンサルテーションも行い、予防と早期発見に努めています。

#### ■定期健康診断の実施

グループ

2008年度の定期健康診断のグループ社員の受診率は94.1%で昨年の93.7%を上回りました。

また「高齢者の医療の確保に関する法律」が制定され2008年度より特定健診・特定保健指導が義務付けられました。4年後の2012年には「特定健康診断実施率95%」、「特定保健指導率45%」、「メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少率10%」を目標に定めています。

2008 年度は特定健康診断の実施率91.0%の目標に対し、結果は90.5%でした。特定保健指導については、社員では「積極的支援」が2,500名、「動機付け支援」が1,044名該当し、そのうちの積極的支援該当者」860名、「動機付け支援該当者」120名、計980名について「健康改善研修「特定保健指導)」を実施することで社員の主体的な健康改善を促進しています。

# 人財育成

#### ||自主選択・自立型の人財育成

大和ハウス

当社は、意欲のある者が自らの意思によってチャレンジできる人事制度を構築しています。

2006年4月に、会社の経営に対して意欲のある人、チャレンジ精神のある人を経営幹部 (支店長)として積極的に登用する「支店長公募育成研修制度」を設置。これまでに本制度 より26名を支店長に登用しました。

2006年8月には「職種選択(FA)制度」を設置。2009年春の定期異動では12名が希望する部門・職種に異動しました。

そして、1998年11月から行っている「社内公募制度」においては、2008年度は9名が合格し、希望の職務に就いています。

また、若手社員が実務能力を高め、より自信をもってお客さまと接することができるよう、実務能力認定制度(Di-Q検定)を2006年7月に試験導入し、2007年7月より本格導入をしています。さらに2008年5月から、次世代経営者の育成を目指した「大和ハウス塾\*」を開講し、グループ横断で経営者を目指して切磋琢磨できる場を設けています。

こうして、従業員一人ひとりの自立を促しつつ、モチベーションが高められる各種制度 を整え、人財育成を着実に進めています。

※大和ハウス塾はグループ全体の取り組み

#### ■制度利用状況

	回数	人数
支店長公募育成研修制度	-	26名
職種選択(FA)制度	-	12名
社内公募制度	9回	9名

# 働きやすい職場

#### 労働環境の整備

大和ハウス

当社は、深夜労働を無くし、心身への負担軽減を図るとともに、業務のあり方を見直すなど長時間労働の是正に努めています。2004年度から夜10時以降事業所を閉鎖するロックアウトを実施してきましたが、2009年2月からは夜9時に時間を変更しました。2005年11月には、パソコンによる日々の勤怠管理を全事業所で運用開始。出社・退社の時刻管理や有給休暇などの届け出管理、時間外勤務の命令から承認までの管理などをシステムで把握しています。

そして、2007年4月、年次有給休暇を計画的に取得する「ホームホリデー制度」を導入。こどもの参観日や家庭サービスあるいは自身のリフレッシュのためなどを目的として、3ヶ月に1日の有休取得を促進しています。2008年度の制度利用者は13,309名となっており、大半の社員が制度を活用しています。今後、更に社員が健康に日々の業務にあたることができるよう、ワークライフバランスにも配慮した労働環境の整備に努めます。



ホームホリデー制度を利用し、家族とのふれあいを楽しむ社員

#### 働きやすい職場環境づくり

大和ハウス

当社は、2005年度から「勤務地選択制度」を導入し、中長期的な経営を見据えた人財確保と少子高齢化を視野に入れ、やむを得ず転勤ができない社員も「地域社員」として能力を発揮できる仕組みを作っています。これは、「全国勤務でない=補助職」という考え方から、「基幹職のまま、自らの生活拠点となる居住地を指定できる」考え方へ変更したものです。この制度により、2008年度は46名が基幹職のまま「地域社員」へ切り替わり、希望された地域で活躍しています。また、2005年4月に導入した「有給休暇積立制度」\*\*については、2008年度は積み立てた有給休暇を所定の目的で利用した社員が98名、総使用日数が2,479日となっており、制度が社員の間に浸透しています。

住居に関しても、持家の取得促進とローン返済の負担軽減を目的として「持家取得者住宅手当制度」を2005年10月に導入しており、2009年4月現在で5,574名に対して月額2万円の住宅手当を支給しています。

※有給休暇積立制度:法定上執行する有給休暇を最大100日まで積み立て、必要に応じて使用できる制度。

#### 次世代育成の推進 大和ハウス

当社は、2005年4月に「次世代育成一時金制度」を設置しました。これは、社員にこどもが産まれた場合、扶養の有無にかかわらず、一子につき 100万円(双子の場合は200万円、三つ子の場合は300万円)を支給する制度で、2008年度には724名(前年比6.0%増)のこどもの出生に適用しています。

2007年4月には、出産した配偶者をもつ男性社員が、出生日から連続5営業日の休暇を取得できる「子育で休暇(ハローパパ)制度」を導入。男性の育児と家庭への参加を意識付け、男女がともに仕事と家庭の両立を考える機会ができるよう制度化しています。また、福利厚生代行会社との提携により各種サービスが受けられる「育児支援サービス」を導入し、保育施設の利用料を割引するなど、育児を経済的に支援しています。

その他、「再雇用機会優先制度」を導入しており、性別に関わらず結婚・妊娠・出産・育児・配偶者の転勤・介護を理由に退職した社員に対し、本人の希望を踏まえて、欠員補充時などに優先して採用選考を行います。

#### ■各種人事制度の利用状況

		2007年度実績	2008年度実績
育児休業制度	新規利用者数	69名	80名
短時間勤務制度	適用者数	89名	115名
介護休業制度	新規利用者数	7名	0名
次世代育成一時金	人数(こども)	683名	724名
有給休暇積立制度	利用者人数	100名	98名
	日数	2,088日	2,479日
勤務地選択制度※	適用者数	50名	46名

※地域社員・全国社員の選択ができる制度

# CSRマネジメント

# 社会との共創共生





#### 社会貢献活動の総括

大和ハウスグループにおける2008年度の社会貢献活動件数や活動内訳、活動事例などをご紹介しています。企業市民としてさまざまな社会貢献活動を通じ、社会全般の発展と生活環境の向上に貢献します。

→P99

#### ■社会貢献活動【環境】



環境保全や地球温暖化防止を目的として、取 り組んだ社会貢献活動をご紹介しています。

→P101

#### 社会貢献活動【福祉】



少子高齢社会に対応し、より地域に密着した活動を目指しています。当社が施工した 高齢者施設へ訪問し、活動した事例等をご 紹介しています。

→P102

#### ■ 社会貢献活動【教育】



次世代育成の一環として環境に配慮した住宅や働くことの大切さを学習することを目的に、小中高校生を対象にした授業や学習プログラムを実施しています。

→P104

#### ■社会貢献活動【その他】



学ぶ機会を奪われた発展途上国のこどもたちに「絵本を届ける運動」や、家族が従業員の仕事ぶりを見学する「こども参観日」、水難事故から尊い命を守る「着衣水泳教室」など、さまざまな活動を行っています。

→P108

#### 義援金·募金活動



2005年より、社員が身近に参加でき、かつ継続的に行える社会貢献活動として、社員を対象とした募金システムを導入・運用しています。

→P110

#### 今後に向けて

(CSR意識調査における)今年度の社会貢献活動の目標値や、 目標達成に対する今後の活動予定を掲載しています。

→P111

#### 特集バックナンバー 2008



未来の豊かな環境・社会

WEB バックナンバー 2008 PDF(2.3MB)

# 「社会」との共創共生

# 考え方と 今後の課題

「社会」にまつわる 昨今の社会的背景に 関する問題点

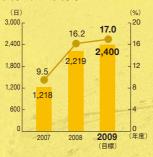
昨今の社会的背景を振り返りますと、「ニートやフリーターといった若年層の就労意欲に関する問題」や「地球温暖化や生物多様性をはじめとする環境問題」あるいは「難民問題や食料不足といった地球規模での問題」など、ビジネスのアプローチだけでは解決の難しい問題点が散見されます。

大和ハウスグループでは、こういった社会的背景を踏まえて、活動によっては本業のノウハウや経験を活かしながらも、決して自己満足に留まることなく、地域の皆さまやお取引先やNPO・NGOといった方たちの意見を取り入れながら、あるいは活動そのものに一緒に取り組んでいます。従業員一人ひとりのレベルで「できることから、できる範囲で続けていける」社会貢献活動を活発化させるため、社内の各種制度を整え「社長表彰制度」で活動の顕彰も行っています。

# 今後の課題について

各事業所での社会貢献活動は年々広がりを見せていますが、会社全体で取り組める内容の活動も推進していこうと考えています。「一部の従業員だけが活動に取り組む」というスタンスから脱却し、一人でも多くの従業員が参画できる社会貢献活動を目指していきます。

また、活動が活発 化している事業所では、一段のレベルアップを目指して社会的 背景を意識した活動 に積極的にチャレン ジしていきます。 ボランティア休暇の 取得日数と取得率



代表取締役副社長 CSR担当 石橋 民生

# 地域密着型の 社会貢献活動

~浜松支店の取り組み~

社会背景と大和ハウスグループの取り組み

当社グループは、全国の各地に事業所を配置して事業を展開しています。わたしたち各事業所では本業だけでなく、地域社会の一員としての役割も担っていくべきだと考え、社会貢献活動に取り組んでいます。

静岡県にある大和ハウス工業の浜松支店では、従業員とその家族が、協力会社や周辺住民の皆さまと一緒になって社会貢献活動を継続して実施しています。





共に創る~参加しやすい活動~

### 多くの方が気持ちよく参加 できる活動を目指しています。

井上 浜松支店では、地域に根ざした独自の社会貢献活動に取り組んでいます。私たちの活動のポリシーは、「一人でも多くの方と心を通わせながら、長く続けること」です。そして、「全員活動」を基本方針とし、従業員の家族・協力会社・周辺住民の方々が気軽に活動に参加でき、楽しい思い出として心に残していただけるよう努めています。

永野 2008年度に配布された社内啓発用DVD「私たちにもできる社会貢献活動~入門編~」をきっかけに、自主的に活動に参加する「事業所風土」がよりいっそう高まりましたね。

井上 そのDVDは、"地域貢献活動は業績向上と並ぶ全社的ミッションである"という内容で、浜松支店の活動が特徴的な事例として取り上げられていました。会社の想いや方針、社会貢献活動の意義を見える化したことで、従業員の胸にダイレクトに届いたのでしょう。

永野 協力会社の方々にもそのDVDをご 覧いただき、積極的なイベント参加につなげ ることができたのも良かったと思います。 共に生きる~活動の継続~

## 活動を継続した結果、 うれしい反響を いただきました。

井上 浜松支店独自の活動「浜名湖クリーン作戦」と「アカウミガメの放流会」は今年で5年目です。ここにきて地域社会からの反響を感じるようになりました。 永野 この活動が地元新聞に掲載された時は、初めてお会いするお客さまから話題にあげていただいたと、営業担当が喜びの報告をしてくれましたね。

井上 私は、NPO法人「青少年を育てる会・浜松」(右上囲み参照)の幹事をしています。そこで知り合った浜松に本拠を置く有力企業の方に「大和ハウスが地元企業以上に地域のために活動しているようだから、我が社もがんばらなければ」と賛辞をいただいたことは大変嬉しく誇らしいことでした。

永野 そういった反響が、従業員の仕事のやりがいや喜びにつながり、本業に対する意識にもつながっていくのだと感じています。



↑社長との記念写真 浜松支店 支店長 井上(写真右)と永野(左) ↓三重工場 工場長 平戸幸広(写真右)と 社会貢献推進委員 松原建明(左)



CSR レポート 2009 詳細版 CSR マネジメント (社会)

### Stakeholder's Voice



青少年健全育成への支店を挙げた サポートに感謝しています。

NPO法人青少年を育てる会・浜松幹事長 TKC全国会中央研修所所長 TKC全国政経研究会幹事長 坂本 孝司 様

当会は、青少年のみずみずしい生活感覚を育て、その情操を豊かにし、明るい未来に導いていくことを目的に、静岡県西部地域の企業・経営者を中心に活動を推進しているNPO法人です。幹事の井上支店長には主要事業であるミュージカルやコンサートの開催に参画していただいています。浜松支店の皆さまには、イベント当日の運営や動員のご協力をしていただき大変感謝しています。皆さまの地域社会に対する無償の奉仕には感激しており、地域密着とはこのような行動から始まるものと改めて実感しました。今後も変わらず継続していかれることを期待しています。

# 今後の 想い

## 地域での存在感を 高めていきます。

永野 従業員とその家族、協力会社に限定していた「アカウミガメの放流会」ですが、2008年度実施後、他の事業所から「ぜひ参加したい」という声がありました。活動の裾野はこのような反響の積み重ねで一歩一歩広がっていくものだと思います。地道な活動ながらも信念を持ち続け、社会貢献の輪を地域全体に拡大していくことを目指します。

井上 今後も、支店長として、活動の リーダーシップを取り、地域社会との絆 を深めるという職責を果たしていきま す。そして、この浜松エリアにおいて当 社グループのさらなる信頼獲得に貢献し ていきます。

#### 大和ハウスグループの今後の考え方

本業を通じて「快適な住まいと暮らし」を提供し、社会に貢献する私たちにとって「地域密着」は欠かせないキーポイントです。全国の各事業所で社会貢献推進委員を中心に活動していますが、一人でも多くの従業員が社会貢献活動を通して、ビジネスでの関わりだけでは得ることのできない「新しい気づき」や「地域社会とのコミュニケーション」を深めていけるような活動の推進と実施に努めていきます。

# column

#### 社会貢献活動優秀事業所·社長表彰

当社では、事業所での社会貢献活動をより活発化するために、2007年度から「社長表彰制度」を実施しています。2008年度の優秀事業所には、従業員や社外のステークホルダーの参加人数が多いことが評価された「浜松支店」と、地元自治会との連携を図りながら、幅広い分野で数多くの活動を展開したことが評価された「三重工場」が選ばれました。

# 社会貢献活動の総括

#### 社会貢献活動理念・社会貢献活動スローガン・社会貢献活動の「社長表彰制度」

当社では2007年4月に従来の「社会貢献活動理念」に加え、「社会貢献活動スローガン」を策定し、「環境」・「福祉」・「教育」の三分野(三本柱)を中心に活動に取り組んできました。また、2007年9月には社会貢献活動の「社長表彰制度」を新たに導入し、各事業所における活動をより活発に推進しました。

■社会貢献活動理念

大和ハウスグループは、環境・社会との共生を念頭におき、企業市民としてさまざまな社会貢献活動を継続的に行い、社会全般の発展 と生活環境の向上に貢献します。

#### 社会貢献活動スローガン

グループ

私たちは、環境・福祉・教育の三分野を中心として、地域や社会が望んでいる社会貢献活動に積極的に取り組みます。 また、社会貢献活動を通じて、私たちひとりひとりの自己成長に努めます。

- ・「環境」 私たちは、自然環境との共生を目指し、様々な環境保全活動に取り組みます。
- ・「福祉」 私たちは、福祉施設などの支援を通じて、地域の方々との交流を図ります。
- ・「教育」 私たちは、こどもたちが自主的・自発的に考え、学ぶ機会を提供します。

#### 社会貢献活動の「社長表彰制度」

【大和ハウス】

各事業所の対象期間一年間(10月1日~翌9月30日)におけるトータルでの活動状況を下記の基準で評価

項目	内容
地域密着度	活動によって地元のコミュニティとの共生がいかに深まっているか
オリジナリティ	活動内容のアイデア・自主性・自発性がいかに優れているか
地元団体との協働状況	地元のNPO・NGOといった組織との連携がどの程度進んでいるか
幅広い参加状況	活動ごとの従業員の参加率がいかに高まっているか
活動バリエーション	環境・福祉・教育を中心に広範囲な分野の活動を実施しているか

2008年度(第二回)の優秀事業所には、二事業所が選ばれました。

#### 「浜松支店」

従業員や社外のステークホルダーの参加人数が多い点を評価

#### 「三重工場」

地元自治会との連携を図りながら、幅広い分野で数多くの活動を展開した点を評価

#### ■ 受賞した二つの事業所



浜松支店 支店長 井上清貴(写真右)と 社会貢献推進委員 永野雅照(左)



三重工場 工場長 平戸幸広(写真右)と 社会貢献推進委員 松原建明(左)

# 社会貢献活動の総括

社会貢献活動の総括

当社事業所での2008年度の活動件数は合計516件であり、2007年度の383件に比べて34.7%の増加となりました。またグループ全体でも、2008年度の合計件数が1,145件となり前年比で11.5%の増加となりました。

2008年度の活動件数を分野別に比較してみると、「絵本を届ける運動」やエコキャップ収集による「海外のこどもたちにワクチンを送る運動」の取り組みが進んでいることから、「国際協力」分野の活動が大幅に増加しています。

これまでは各事業所周辺での清掃活動の比率が高い傾向が見られましたが、他の分野での活動が広がってきており、バリエーションに富んだ活動を実施している事業所が増えています。

各事業所での活動に参加する従業員の人数も増加しており、ボランティア休暇の取得日数(年5日付与)も2007年度を大幅に上回る 2.219日(対前年比82%増)となりました。

また、2008年度には新たに事業所での社会貢献活動を促進するための「費用負担制度」の開始や、これまで年一回だけの開催だった「全国社会貢献推進委員会」を上期・下期の合計二回実施するなど、全社的な取り組みの推進を進めています。

項	項目		2008年度実績
	ハウス事業所	383件	516件
社会貢献活動件数	ハウス本社	41件	41件
14公貝臥/03川女	グループ会社	603件	588件
合計		1,027件	1,145件
ボランティア休暇取得日数 (ボランティア休暇取得率 <sup>※</sup> )		1,218日 (9.5%)	2,219日 (16.2%)
エンドレス募	金 合計金額	¥8,319,081	¥8,651,557

※ボランティア休暇取得率は、取得日数を当期末人員で除して算出。

#### 2007年度の社会貢献活動内訳 (大和ハウス 事業所での活動:383件)



#### 2008年度の社会貢献活動内訳 (大和ハウス 事業所での活動:516件)



#### 2007年度の社会貢献活動内訳 (大和ハウス グループ全社での活動:1,027件)



#### 2008年度の社会貢献活動内訳 (大和ハウス グループ全社での活動:1,145件)



# 社会貢献活動【環境】

#### 六甲山で森林保全活動を実施

当社は2008年11月から、「六甲山系グリーンベルトの森づくり」に参加して います。これは六甲砂防事務所の呼びかけによる活動で、六甲山の土砂崩れを 防ぐ"雑木林"の管理・育成を行うものです。

手入れされていない木々の伐採や整地などの活動に、当社グループ各社から 社員がボランティアスタッフとして参加しています。NPO法人日本森林ボラ ンティア協会様に作業の指導を頂きながら、1回目はヒノキ人工林の伐採、2回 目に植樹のための地ならし作業、3回目にコナラなど落葉広葉樹の苗木100本 を植樹しました。今後は苗木の育成と同時に、ハイキング道沿いの見通し確保 の活動も進めていきます。



グループ

間伐作業の様子

#### VOICE 参加者の声

森に入るのも、木を切る作業も初めてでしたが、とても 楽しい体験ができました。とにかく一度参加してみると、 「次回も参加したい」という気持ちになるので、支店でも 積極的に参加を呼びかけていきたいです。



阪神支店 総務課 前田和美





六甲SABO(国土交通省近畿地方整備局 六甲砂防事務所)

# 社会貢献活動【福祉】

#### 当社建設の「老人保健施設への訪問ボランティア |を実施

当社はこれまでに全国約1,800ヶ所に老人保健施設を建設しています。こうした施設とのつながりを一層強め、当社ならではの活動を行うため、2007年5月より自社建設の老人保健施設への訪問ボランティアを実施しています。

今年度は、京都支店が施工した介護老人保健施設「萌木の村」様を社員9名で訪問しました。今回はデイサービス利用の方(約30名)を対象に、歌やゲームによる交流会を企画、訪問しました。

今後も施設利用者の方や施設職員の方に喜ばれるような企画を考え、継続的 に訪問ボランティアを実施していきます。

#### VOICE 参加者の声

訪問前は、どんなことをすれば利用者の方に喜んでいただけるかわからず不安でした。

今回、初めて老健施設へ訪問しました。利用者の方々と一緒に歌ったり、ゲームをしたり、短い時間でしたがとても楽しく過ごさせていただきました。施設スタッフの方々もとても活気があり、一緒に盛り上げていただき、私達まで元気をいただいたようでした。

また、この施設は当支店の施工物件ですが、多くの方に利用され地元になくてはならない貴重な施設になっていることを実感することができました。利用者の方々の笑顔が心に残る交流会に参加でき良かったです。

京都支店 総務課 今田陽子







#### 大和ハウス&高松ボランティア協会主催 『きらきらクリスマスパーティー』

大和ハウス

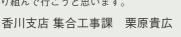
当社の香川支店では、支店内の社会貢献推進委員会が中心となり同支店と高松ボランティア協会主催で、『きらきらクリスマスパーティー』を開催しました。従来の「協力」とは異なり「主催」は初の試みであることから、準備には3ヶ月以上の月日がかかりました。

当日は、障がいを持つ方やヘルパーの方、日頃ボランティアをしている学生たちを招待し、ゲーム大会では30名程のお客様も参加されました。その他、サンタクロースやトナカイ、王様、マジシャン等も登場し、チーム対抗ゲームではチームワークも深まり、会話も弾んで笑い声が響く楽しい会となりました。

香川支店では今後もこの会を継続し、地域社会との交流を深めていきたいと考えています。

#### VOICE 参加者の声

今回の活動は、大和ハウスと高松ボランティア協会様とダブルでクリスマス会を『主催』しました。より多くの社員に活動に参加してもらおうと呼びかけたところ、事前の準備や当日の準備、スタッフ参加などで約30名の社員が参加してくれました。また、クリスマス会に招待した皆さまにも大変喜んで頂けました。今後も、多くの社員が参加できるような社会貢献活動に取り組んで行こうと思います。









WEB

高松ボランティア協会

(http://www8.ocn.ne.jp/~takabora/index.html)

# 社会貢献活動【福祉】

#### 地域密着の訪問ボランティア

グループ会社

ロイヤルホームセンター (株)では従来から各店舗で地元中学校や特別支援 学校等から生徒の職場体験受入などに積極的に協力してきました。そして、 2008年度からは、さらに積極的な取り組みとして自らが地域に出向き「何かお 手伝いできることはないか」と検討を始めました。

その結果、地元の児童養護施設等で施設の修繕が不十分であることから、自社のノウハウを活かし、網戸の張替え、自転車の修理、壁紙の貼替え、塗装作業などを行いました。また、2008年度は、36店舗(のべ147名)の従業員が施設を訪問し、施設内の修繕等を行いました。

今後も積極的な姿勢を持って自社のノウハウを活かした活動を継続してい きます。



ロイヤルホームセンター枚方店(大阪府)では、地元の知的障がい者施設を、従業員7名で訪問し、草刈り、高枝切りと施設内催事の準備のお手伝いをさせていただきました。

施設内の環境を整えたことで、施設職員の皆様から大変喜ばれ、また、枚方市の社会福祉協議会の広報誌に活動の様子を取り上げていただきました。

#### VOICE 参加した従業員のコメント

今後もホームセンターの専門性を活かしたボランティア活動を継続していきたいです。まだ、内装の修理など協力できることはいろいろあります。



草刈機による作業



高枝切りの作業



切り落とした枝の整理作業

#### 『職場体験学習」を実施

グループ

当社船橋支店では、千葉県にある中学校の生徒4名を迎え、職場体験学習を実施しました。

従業員が住宅の探客から建築、引渡しまでの流れを説明し、免震、防犯ガラス割り体験などを生徒たちが直接体感することで、住宅の地震対策や防犯対策の大切さ、また住まいへの興味・関心を深めてもらいました。

\*当社グループ各社においても、全国の自社施設(ホテル、ホームセンター、体育施設など)での児童・生徒の見学や職場体験受入を行い、グループー体となって地域のキャリア教育\*実施に寄与しています。

※キャリア教育:児童・生徒に職業観や勤労観を育む教育のこと。





大和ハウスグループの教育支援活動(職場体験・インターンシップ)

従業員による設計プランの説明 防犯ガラス割り体験

#### ■「出張授業」D'sスクールを実施

当社グループでは従業員が小学校・中学校に訪問し、「住環境 | や「環境 | に関する出張授業を実施しています。

2002年よりWEBサイト「総合的な学習のネタ.net」に住環境をテーマにしたコンテンツを掲載し、住まいについての冊子(「人にも地球にもやさしい住まい」「環境住宅読本」など)を教材として希望校に無償で提供しています。

また、2005年度からは毎年10数校を訪問し、住宅ペーパークラフトの作成などを通じて、生徒たちが楽しみながら学べるよう工夫しています。 そして、上記とは別に、当社仙台支店では2007年度から「社会人講師活用型教育支援プロジェクト」※の一環として、地域のNPO団体等と協力し、仙台市内やその周辺の小学校を対象に授業を行っています。

2008年度はこれらの取り組みにより、20校(1.677名)に出張授業を行いました。

今後は、出張授業への社員参加と事業所での取り組みを広げ、各地における住まいや建築、 環境についての教育行うことで、より一層の教育支援を目指します。

#### ※社会人講師活用型教育支援プロジェクト:

経済産業省が文部科学省と連携し2007年度から取り組んでいる事業であり、地域企業の技術者や専門家等の外部人材を活用することで、こどもたちの「理科ばなれ」を防ぐことを目的としている。

#### 出張授業 仙台支店での取り組み

#### <授業テーマ>

「大地のつくり」土の性質を知ろう(ボーリング編)

#### <授業内容>

- 1. 会社紹介と地層のでき方についての説明
- 2. 軟弱地盤に建物を建てるとどうなるかの実験、説明
- 3. ボーリング試料(粘土、礫、砂)の観察、ボーリング調査の説明
- 4. ボーリング結果の活用と建物建築の流れの説明

当社仙台支店では、仙台市内とその周辺の小学校で、2008年度 5校332名の児童を対象に、上記内容の授業を行いました。授業作りは、地域コーディネーターのハリウコミュニケーションズ株式会社様の他、仙台市教育委員会、理科教育支援員、実施校の先生方に協力いただいています。授業内容や実施体制など、詳細はハリウコミュニケーションズ株式会社様の以下のホームページをご覧下さい。

WEB 、 仙台・ハリウコミュニケーションズ株式会社(「社会人講師活用型教育支援プロジェクト」のHP) (http://www.zundanet.co.jp/rika/index.html)

#### 出張授業の取り組み (大和ハウス工業・仙台支店)



軟弱地盤に何もしないで建物を 建てた場合の説明



ボーリング試料をもとにした 地層のでき方を説明

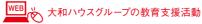
#### VOICE ご担当の先生の声

- ○専門的なことを詳しく教えていただけ良かった。
- ○企業独自の技術を子どもたちに伝えてもらうことにより、子どもたちは理科と日常生活との結びつきについて理解が深まった。
- ○実物のにおいや触感を体感することにより、理科への興味が増し、 関心を広げていくことにつながった。

#### VOICE 児童の反応 実施校から

- ○大和ハウスの人に親切に教えてもらって、ボーリングのことなどがわかった。
- ○地層のことも考えて、建物を建てていることがわかった。
- ○どんなにやわらかい土でも、杭を打てば、強い建物が建てられることがわかった。
- ○粘土や砂をさわれ、とても良い経験になった。また、来てほしい。





#### 「ドリカムスクール |を実施

大和ハウス

当社は2005年度より大阪市内のNPO法人日本教育開発協会(JAE)、小・中学校と協働し、「ドリカムスクール\*」を実施しています。

#### ※ドリカムスクール:

NPO法人日本教育開発協会(JAE)が地元企業・地域と学校現場で連携し、こども・若者の夢をはぐくむために行っている授業のことです。 こどもたちは企業の商品・サービスの企画、プレゼンテーションまでをグループで体験することにより、チームワークやコミュニケーション、 課題解決について学び、自身の将来プラン作成を経験することができます。

2008年度は、大阪市内の小・中学校のうち3校(210名)の生徒を対象に実施しました。今後も実施件数は同程度を維持しながら、社員ボラン ティアの参加を増やし、生徒へのサポートを充実することで、満足度を高めたいと考えています。また、実施テーマを地域の問題解決にリンク し、地域全体の取り組みに発展させることを目指します。

なお、2008年度の実施事例から、十三小学校(5年生28名)を対象に実施した授業内容を紹介します。

#### <実施テーマ> みんなの笑顔あふれる夢の家をつくろう!

- 1.当社の奈良市内の研究所で、世界の環境配慮型の住まいの模型や住まいのユニバーサルデザインを見学、体験。
- 2.生徒によるグループワーク(家の企画)と実施テーマの「みんな」は身近な家族から地球環境まで、幅広い対象の中から生徒が選び、 班毎に、その「みんな」が笑顔になる家を企画してもらいました。
- 3.生徒による上記テーマのプレゼンと当社従業員による審査、講評、表彰



世界の環境に優しい家(模型)の 見学



児童のグループワークと 従業員によるアドバイス



児童のプレゼン (SAFECONハウス)



最優秀作品(HAPPYハウス)

#### <児童のアイデア例>

○HAPPYハウス

幅広い年齢の人が楽に暮らせる家を提案。声を認識して開くドア、浴槽の底が上下する風呂など安全で使いやすい設備が特長。

○スライダーハウス

ベランダに避難用のすべり台がついているが、こどもも安全に滑っていけるよう緩やかな傾斜になっている。防犯対策で普段は鍵 がかかっている。

OWater House

自分の好きな場所に行ける家で、太陽光発電、地震を抑える設備がついている。ドアの開閉や電灯のオンオフもスイッチーつででき 便利な家。

#### VOICE ご担当の先生の声

- ○実際に社会で活躍されている人の話をお聞き したり、アドバイスをいただけることは、こど もたちにとって非常に有効だと思います。
- ○企業の方に直接話を聞けたことはこどもたち にとって色々と実りがあり、貴重な経験になり ました。
- ○施設見学も温かい雰囲気で行っていただきあ りがとうございました。

#### VOICE 生徒アンケート結果

- ○授業後のアンケートでは、9割超の生徒がドリカムスクールが「面白く、今や将来の自分 に役立つ」と答え、特に、「研究所の見学が楽しかった」という声が多数ありました。
- ○グループワークについて、実施後は6割強の生徒が「自分の思いや考えをはっきり伝え られるようになった」「相手の意見を否定せずに聞いて話し合える」と答えています。
- ○仕事に対するイメージで、実施前はお金や不景気などマイナスイメージが多かったが、 実施後「人の役に立つこと」、「家族などを支える大切なこと」などプラスイメージが増 えました。
- ○その他に、当社へのメッセージでは、「はじめ家のことは全くわからなかったけど、大和 ハウスの人が教えてくれ、よくわかった「大和ハウスを多くの人に知ってもらうため、 色々な学校で教えていってほしい | など多くのご意見を頂きました。

なお、ドリカムスクールの2005年度からの当社の取り組み実績は、以下の一覧表をご覧下さい。

#### ■ドリカムスクール 実施一覧

実施時期	実施校	対象	実施テーマ
2006年 1月	大阪市立十三中学校	1年生/5クラス161名	2025年の未来の「家」を企画しよう!
2006年 12月	追手門学院大手前中学校	3年生/ベンチャーコース37名	大阪城を活用して、大阪を元気にする再開発プランを考えよう!
2007年 1月	大阪市立東中学校	1年生/4クラス141名	一番大切な人に捧げる、世界でたった一つの家をつくろう!
2007年 6月	大阪市立茨田(まった)中学校	2年生/8クラス314名	○○さんのための、世界でたった一つの家をつくろう!
2008年 1月	大阪市立木川南小学校	5年生/1クラス22名	○○さんのために、おうちをつくろう!
2008年 10月	大阪市立西中島小学校	6年生/1クラス24名	(自然の力をいかして)世界一快適な学校をつくろう!
2009年 1月	大阪市立十三小学校	5年生/1クラス28名	みんなの笑顔あふれる夢の家をつくろう!
2009年 2月	大阪市立十三中学校	1年生/5クラス158名	災害に強い家のCMを作ろう!

#### ■「クエストエデュケーションプログラム(コーポレートアクセスコース) |に参加

大和ハウス

当社は2007年度より「教育」をテーマとしたCSR活動の一環として、株式会社教育と探求社様が主催する「クエストエデュケー ション\*プログラム」に参加し、一年間を通じて生徒たちの学びを支援しています。

#### 【2008年度 大和ハウスのミッション】

今の日本にこそ絶対なくてはならない、全てのイノチにやさしい"夢の街"を提案せよ!

当プログラムには、全国60校の中学校・高等学校が参加され、大和ハウスのミッションに取り組んだ130チームから応募がありまし た。その中から企業賞(大和ハウス)に入賞した作品は以下の8チームです。

#### 2008年度 入賞校

学校名	チーム名	作品名
千葉明徳高等学校	大和ファミリー	Daiwaふぁみりぃ
明星学園高等学校	都市開発実行委員	全てのイノチになくてはならない夢の街
埼玉県立岩槻商業高等学校	チーム大和ハウス	DAIWA'S MISSION!
小野学園女子中学校	チームNYN	愛とやすらぎの街 MARINE TOWN
埼玉県立新座総合技術高等学校	らいふ	共に暮らす。共に生きる。
長野県立上田千曲高等学校	冷凍マンモ	REVOLUTION by 冷凍マンモ
逗子開成高等学校	G 4	世界水上都市計画
仁川学院高等学校	XEVO	一期一会 みんなが家族の街

#### ※クエストエデュケーションプログラム:

中学生・高校生を対象にした学習プログラム で、一般的なインターンシップが短期間で少人 数の生徒を対象としているのに対し、このプラ グラムでは一年間を通じて全生徒が通常の学校 授業の中で企業活動を体験することができま す。生徒は実際の企業活動の一端に触れなが ら、働くことの意義や企業活動についての理解 を深めます。生徒は数名のチームに分かれ、 フィールドワークやアンケート調査などの企業 研究を行った後、企業から提示されたミッショ ン(課題)に取り組み、成果発表を行います。

#### ■ クエストエデュケーションプログラムの実施風景



従業員が学校訪問し、グ 生徒は数名のチームに分 チーム内の意見をまとめ 取り組んだ成果を、学校内 全国大会でプレゼンする



ループワークに励む生徒 かれ、ミッションに取り ます。 の相談に対応しました。組みました。





で各チーム発表方法まで工 企業代表校の生徒 夫してプレゼンしました。



大和ハウス

#### ■「科学の祭典」富士山大会inごてんば に出展

当社の沼津支店は、御殿場市で行なわれた「第3回青少年のための科学の祭典 |に出展し、10名が 講師及び実験の補助のため参加しました。

実験のテーマは、「暖かさ、涼しさのヒミツ! |という住宅にちなんだ実験で、私たちが感じる「暖 かい」、「涼しい」という感覚は、手で触れるほかに素材を通して感じたり、触れなくても感じるとい う様子を再現しました。

当日は644名(総来場者数 約5400名)の方に当社のブースにお越し頂き、実験して頂きました。

#### 実験内容 すだれと霧吹きの実験

植物の作り出す涼しさのヒミツを感じるものです。まず電球の前にすだれをかけ、顔を近づけ てみます。次にすだれに霧吹きで水をかけつつ、ウチワで扇いでみたときに、すだれの表面温度 が下がり、そこを通る風が冷やされて涼しさを感じます。これは植物の蒸散作用※によるもので す。住宅においても、すだれの代わりに窓の外に植物で緑のカーテンをつくれば、日射を防ぐだ けでなく、植物の葉の蒸散作用で緑のカーテンの表面温度が下がり、そこを通る風が冷やされて 部屋が涼しくなります。

#### ※ 蒸散作用:

光合成の際に植物が根から吸収した水を、葉の気孔という穴から水蒸気として出していること



#### | VOICE | 一般消費者の方から頂いたご意見

御殿場の「科学の祭典 INごてんば」を見てきました。大和ハウス工業さんの前にもいつもこども(6歳位から小学校高学年位まで)が張 り付いて、目を輝かせ、スタッフの方が投げかけたクイズにそーっと手を伸ばして答えはこれかな?とドキドキしながら回答している姿が とてもほほえましかったです。様々な企業活動がありますが、子供たちが夢をはせるきっかけとなるような貴社の活動に感謝いたします。 こんなに素敵なCSR活動に取り組む貴社のことを機会があるごとに紹介をさせていただきます。

#### ■キッザニア甲子園へのパビリオン出展

当社は、2006年10月にオープンした『キッザニア東京』に引き続いて、2009年3月に『キッザニア甲子園』にパビリオンを出展しました。

次代を担うこども達に、広く住まいに対する考え方や取り組みを伝えるとともに、パビリオンでの体験を通じて豊かな創造力と柔軟な思考力を育むことを目的としています。

キッザニアは、こども達が好きな仕事にチャレンジし、楽しみながら社会のしくみを学ぶことができる『職業・社会体験施設』です。色々な仕事を体験することで専用通貨「キッゾ」を受け取り、買い物や習い事に使うことができます。

#### VOICE 担当者の声

住宅が実際にどのような構造で、どのように組み立てられているかということを、お仕事 を通して楽しみながら理解してほしいと思います。

使用した部材は、こども達には少し重く感じる重量感をあえて残しました。みんなで協力、 分担して仕事をすることの大切さを理解してもらい、「仲間と協力して大きな仕事を成し遂 げる」という感覚に繋がることを期待しています。実際の住宅現場でも、工程に応じて様々 な専門業者の方が入れ替わり、お互いに協力しながらひとつの家を作り上げていきます。協 力して完成した"家"を見て、ものづくりの達成感を感じてほしいと思います。

技術本部 住宅商品開発部 吉永美紀





大和ハウス

こども達が協力しながら 取り組んでいる様子



当社パビリオンで使用している ユニフォーム



# 社会貢献活動【その他】

#### ■「大阪シンフォニカー交響楽団」を支援

大和ハウス

2006年4月から、在阪オーケストラのひとつである「大阪シンフォニカー交響楽 団 |のメインスポンサーとして支援をしています。

「大阪シンフォニカー交響楽団」は1980年に設立された楽団で、定期演奏会や名曲 コンサートなどさまざまな公演を行うほか、独自のCDを製作・販売するなど、その 活動は多岐にわたります。

地域のオーケストラの支援を通じて、メセナ活動にも積極的に取り組んでいきます。

大阪シンフォニカー交響楽団 WEB (http://www.sym.jp/)



#### ■「絵本を届ける運動 |に参加

大和ハウス

当社では、社団法人シャンティ国際ボランティア会様が実施している「絵本を届ける運動」に 参加しています。これはカンボジア・ラオスなどの子どもたちに、現地語の訳文を貼った日本の 絵本を届ける運動です。

カンボジアは永年に渡る内戦の間、教育者が虐殺されるなど国家による「教育の排斥」が行われ、 全国民の識字率が約50%という現状で、こどもたちにも満足な教育環境が与えられていません。

こうした状況を改善すべく、当社は2007年度より「絵本を届ける運動」に参加しています。 2008年度は、福岡・仙台・名古屋・東京の各事業所でワークショップ※を開催し、従業員やその家 族も絵本を作成するなど、多くの参加がありました。1年間の目標である400冊を大幅に上回り 総計570冊の絵本を作成し、たくさんの絵本を届けることができました。

※ワークショップ:参加者が自発的に問題意識を持って作業に参加する体験型講座のこと。

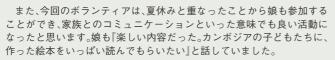


ワークショップの様子

#### VOICE 参加者の声

#### 「夏休み期間なのでこどもと一緒に参加しました!」

ボランティア活動として社員が取り組めた事が評価できると思いま す。また、講師の方のお話を伺いながら、『本』の持つコミュニケーション 力を改めて理解することができ、自身にとって大変プラスになりました。





完成した絵本



訳文シールを貼っている様子

## 仙台支店 建築営業所 所長 岡山甲秀 VOICE ステークホルダーの声

今年度、4回にわたって開かれた絵本作りのワークショップでは、参加者のみなさんが就業後にも関わらず、 アジアの子どもたちの現状に熱心に耳を傾けてくださりました。また、ハサミ片手にシールを貼る姿は緊張そ のもの。そんな中で、懐かしい絵本・初めて見る絵本を前にして話に花が咲きました。

『アジアの大地に絵本のタネまき』は、これからゆっくりと芽を出し、子どもたちと一緒に大きく育っていき ます。ご協力いただき心より御礼申し上げます。

(社)シャンティ国際ボランティア会 林 飛鳥 様



#### ■「なら燈花会へのボランティア」に参加

NPO法人なら燈花会(とうかえ)の会様が主催する「なら 燈花会」は、「奈良の夏を彩る新しい観光名物を」と1999年に 市民発案型で始まったイベントです。イベント開催中は午後 7時ごろから約3時間にわたり、猿沢池や興福寺など奈良公 園一帯の会場が計約2万本のろうそくの灯りで彩られます。

当社では2006年から本活動に参加しており、2008年度は 8月7日から11日の5日間に当社および奈良県下のグループ 各社の従業員や家族(のべ300名)が参加しました。





# 社会貢献活動【その他】

#### 「こども参観日」を実施

大和ハウス

日常の中で、こどもたちが「お父さんやお母さんが仕事をしている場面」に触れる機会は極めて少ないことから、当社では親子のコミュニケーションを深めることを目的に、両親の職場をこどもたちが見学する「こども参観日」を実施しています。

こどもたちへの教育的観点での取り組みであると同時に、親側(当社社員)の仕事へのモチベーションを刺激する効果も狙います。(2008年度の実施事業所: 札幌、多摩、長野、本社)

また、多摩支店では、3歳から14歳のこども達(18組57名)が参加し、父母が仕事をしている職場や現場の見学やxevoのペーパークラフトを組み立てたりと、親子で楽しい時間を過ごしました。



お父さんの席でパソコンを操作

こどもたちのアンケートから「パパは凄いところで仕事をしている」、「机が広くてびっくりした」「大和ハウスの工場を見学したい」「もっと大和ハウスの家を見てみたい」など、多くの声を聞くことが出来ました。

多摩支店では初めての開催ということもあり、スタッフも戸惑うことがありましたが、この経験とこどもたちの感想を大切にし、継続的に開催できる体制作りを整えます。

#### VOICE 参加者の声

「夏休み期間なのでこどもと一緒に参加しました!」 子供2名と共に参加させていただきました。第一回ということで不安なスタートでしたが、職場・現場を見学することで父親の仕事が体感できたこと、ペーパークラフトで楽しい時間が過ごせたこと、などで子供たちは大変喜んでいました。スタッフの方々、ありがとうございました。



多摩支店 経理課 大石岳史

#### ▋「水中安全(着衣水泳)教室」を開催

グループ会社

毎年夏になると児童の水難事故のニュースが後を絶ちませんが、現在の小学校では服を着たままでの泳法指導を行うことは指導者のスキル不足等の問題などから困難な状況となっています。

そこでNAS光が丘では夏の水難事故を防ぐため小学生を対象に「夏の水中安全教室(着衣水泳)」を開催し、2008年度は10名のこどもたちが参加しました。スタッフによる1時間30分の実技の後、こどもたちも服を着たまま泳ぎ、着衣水泳の大変さを経験しました。溺れた場合にはどのような泳ぎをすれば良いのか?溺れている人を発見したら何をしなくてはいけないのか?など水難事故を防ぐための方法をNASスタッフと共に学びました。

尊い命を守るために、今後も継続して着衣水泳教室を行います。

▋着衣水泳

公開医療講座



服を着たままでの浮き方(泳法)に ついての指導

WEB NAS キッズスクール

(http://www.nas-kids.net/science/001/index.html)

#### 地域社会との交流

グループ会社

高齢社会が進む中で、疾患に対する関心は益々高くなっています。

NAS高蔵寺では地域社会との有意義な交流について模索した結果、高齢者が増加している地域を中心に医療に関する講座の提供を実施することが有意義な交流に繋がると考えました。

そこで、NASホールにて専門医の方にお越し頂き、「循環器の救急疾患について」、「皮膚の乾燥とかゆみについて」、「胃の痛みについて」、「めまいの話」、「くも膜下出血と脳動脈瘤について」等を解説して頂きました。5回の開催で合計169名の参加者があり、大いに成果の上がる結果となりました。

特に「めまいの話」や「循環器の救急疾患について」の参加者が多く、疾患への意識の高さがうかがえました。

疾患の早期発見のきっかけづくりをこれからも支援していきます。



NAS高蔵寺のNASホールに於ける、専門医に よる講座の状況

# 義援金·募金活動

#### 義援金システムの運用・管理

大和ハウス

当社は、社員が身近に参加でき、かつ継続的に行える社会貢献活動として、2005年10月より社員を対象とした募金システムを導入・ 運用しています。

このシステムは社内イントラネットから任意の金額を登録すると、給与から自動的に登録金額が募金できるものです。

登録項目は2種類あり、登録した一定額を毎月募金する「エンドレス募金」と、災害等が発生した時に被災地支援として募金する「ハート募金」があります。

※「エンドレス募金」・「ハート募金」の名称は、当社グループのシンボル「エンドレスハート」から命名したものです。

#### (1)エンドレス募金

大和ハウス

「福祉」「環境」「教育」の3分野に対して毎月継続して 社員からの義援金を募るもの。(100円未満の端数金額 を登録することも可能)

\*分野ごとに半期単位で集計し、関係団体への寄付を行う。

#### ■ エンドレス募金(2008年度実績)

分野	募金総額	募金先
福祉	¥ 3,865,054	世界のこどもにワクチンを / 日本障害者スポーツ協会 日本レスキュー協会 / 日本対がん協会 ハビタット フォー ヒューマニティ ジャパン 全日本聴覚障害スキー指導員会
環境	¥ 2,623,207	WWFジャパン / 緑の地球ネットワーク / 日本ユネスコ協会連盟
教育	¥2,163,296	あしなが育英会 / シャンティ国際ボランティア会 日本教育開発協会

#### (2)ハート募金

グループ

社会的に深刻な被害のあった災害等に対して緊急に社員からの義援金を募るもの。

#### ■ ハート募金(2008年度実績)

災害など	大和ハウスグループからの 義援金額(マッチングギフト)	募金総額	募金先
カンボジアに学校を 建てよう募金	¥1,762,400(¥3,000,000)	¥4,762,400	NPO法人 風の会
ミャンマーサイクロン	¥4,979,972(¥5,020,028)	¥10,000,000	日本赤十字社
中国四川大地震	¥5,648,148(¥5,648,148)	¥11,296,296	日本赤十字社 中国政府

#### TOPICS 「カンボジアに学校を建てよう!」 募金

大和ハウス

2008年4月、当社は(株)ベネッセコーポレーション様とコラボレーションした「ハッピー ハグ モデル」のキャンペーンの一環として、「カンボジアに学校を建てよう!募金」を実施しました。

これは展示場にご来場頂いたお客さまの賛同署名1組につき100円を当社が負担し、校舎が不足しているカンボジアのこども達のために、当社が建設資金を寄付するというチャリティー企画です。同時に、社員からも寄付を募り(ハート募金システムを利用)、総額476万2400円を現地のNGO団体に寄付しました。

また、学校は2009年2月に竣工し、カンボジア・バッタンバン州に「ハッピーハグ ロムチェック小学校」を開校しました。

現地では、学校の数が少なく多くのこども達は初等教育を満足に受けられない現状があります。今回の学校建設は、このような環境を少しでも改善し、現地の子どもたちが教育を受けられるようになることで、教育を基礎として生活の改善・町の発展に寄与してほしいという思いが込められています。







WEB

「カンボジアに学校を建てよう!」募金 募金結果ご報告サイト

(http://www.daiwahouse.co.jp/jutaku/about/keyword/happyhug/cambodia/)

# 今後に向けて

#### 社会貢献活動に関する数値目標

大和ハウス

CSR自己評価指標(CSRマネジメント)の社会分野において、

- 1「社会貢献活動の件数 NPO・NGOとの協働件数 社会貢献活動活動費用」、
- 2「社員のボランティア休暇取得率」、
- 3「寄付・募金への社員参加率」、
- 4「個人情報関連の事故件数の増減率」、
- 5「企業倫理ヘルプラインへの通報対応解決率」、
- 6「ステークホルダーミーティングの参加者満足度」
- の6項目について目標設定をしています。
- ※詳細は、CSR自己評価指標(CSRマネジメント)を参照してください。 →P55

#### 今後に向けて

グループ

- 1. 当社では、2008年4月に従業員を対象とした社会貢献活動促進のための啓蒙DVDを作成し、全事業所に配付しました。また定期的な 「全国社会貢献推進委員会 | の実施による情報交換の推進や「活動費用負担制度 | も開始しました。2009年度もより多くの従業員が参 加できるような活動メニューを増やし、「できることからできる範囲で」を目指して全社的なボトムアップにつなげていきます。
- 2. 当社グループでは2008年度の活動件数が昨年と比較して増加しています。また社員が活動に参加する際の制度として設けた「ボラ ンティア休暇」の取得率も大幅に増加しています。2009年度も引き続き、各エリアの特色や要望をふまえながら「地域密着型の社会 貢献活動」を推進していくと共に、グループ会社と連携を図りながらグループの強みを活かした活動を進めていきます。
- 3.2008年度も社員募金の寄付先であるNPO団体を中心に訪問を行い情報交換を実施しました。今後も単純な寄付による支援だけで なく、情報交換を行いながら協働活動につなげていくプロセスを重要視していきます。

# CSRマネジメント

# 環境との共創共生





#### ▋環境マネジメント



環境経営の範囲を段階的に拡大し、グループ 全体での環境マネジメントシステムの構築を 進めています。2008年度からは、第2ステップ として、環境負荷の大きい主要グループ会社 へ対象範囲を拡大しました。

#### 地球温暖化防止への取り組み



事業活動プロセス、商品・サービスの両面か ら地球温暖化防止に取り組んだ結果、2008年 度のCO2削減貢献度は2.53倍となり、『CO2 ダブルスコア』を達成することができました。

#### 資源保護(水)への取り組み



グループ全体の水使用量の7割以上を占め る、リゾートホテル・都市型ホテル・スポー ツクラブの3部門での水資源保護を最重要 テーマに、それぞれに削減目標を設定し、 改善活動を進めています。 •P181

#### 購入・調達への取り組み



トリリオン会・設和会・総和会の各サプライヤー 組織と連携し、オフィス用品等を対象としたグ リーン購入、工場・建設現場で使用する原材料・ 部品・住設機器等を対象としたグリーン調達 活動を展開しています。



環境コミュニケーション活動として、環境情報 の発信や対話機会の充実に努めています。その ー環として、次代を担うこどもたちと「考え・感 じ・発見する | ワークショップを2005年度から 継続して実施しています。 →P205

#### グリーン プログラム 2010



環境ビジョンの実現に向け、中長期的な環境 戦略を立て、その具体的な計画を『エンドレス グリーンプログラム」として3ヵ年毎に策定、 実績の評価と改善を繰り返すことで環境活動 を推進しています。

#### **碁物削減への取り組み**



工場及び住宅新築現場でゼロエミッション を達成・継続している当社では、廃棄物を 製品の原材料として再利用する資源循環シス テムの構築に取り組んでいます。

+P171

#### 化学物質削減への取り組み



人や生態系への化学物質によるリスクを 最小化するため、有害化学物質の削減、代替や 適正管理を推進しています。2008年度は、 商業建築部門において、鉛・クロムフリー塗 料への代替を進めました。

#### この調和(生物多様性保全)



生物多様性保全の重要性が社会共通の認識と なるなか、事業を通じた取り組みとして「自然と 調和した街づくり |を進めています。2008年度 は、こうした取り組みが評価され「第18回地球環 境大賞」の「大賞」を受賞しました。

#### スク低減への取り組み



産業廃棄物の不法投棄や土壌汚染などの 環境リスクは、当社の事業活動にも密接に関連 した問題です。法令遵守はもちろん、環境 リスクの未然防止に向けた取り組みを進め ています。 →P210

#### ■特集バックナンバー 2008



人と環境に やさしい住まい



■自然と調和した街



未来の豊かな 環境·社会



WEB バックナンバー 2008 PDF(2.2MB)



バックナンバー 2008 PDF(1.9MB)



バックナンバー 2008 PDF(2.3MB)

# 「環境」との 共創共生

## 考え方と 今後の課題

全事業プロセス、全事業領域で、地球温暖化防止への取り組みを推進しています。

大和ハウスグループは、2008年に環境行動計画「エンドレス グリーン プログラム 2010 (P.125 参照)」を策定。地球温暖化防止を最重要テーマに、「CO2 ダブルスコアの達成」の中核目標に向けて取り組みを進めています。これは、2010年度までに、当社グループが提供する商品・サービスを通じたCO2削減貢献量を、事業活動プロセスで発生するCO2排出量の2倍以上(=ダブルスコア)にすることで、地球環境にかけた負担の2倍以上地球に貢献しようという計画です。

2008年度は事業活動プロセスにおけるCO2排出量が 42.9万トン(前年度比7.3%削減)、商品・サービスによるCO2

削減貢献量が108.7万トン (前年度比23.2%増加)で、CO2 削減貢献度(詳細はP.125~P.130) は2.53倍となり、2009年度の 目標を前倒しで達成しました。



環境に配慮した建築を通じて、持続可能な 都市基盤の形成を目指します。

国内における業務部門のCO2排出量は著しく増加\*\*1しています。当社グループは、店舗・オフィスをはじめ、工場や倉庫、ショッピングセンターなど、幅広い用途の施設を全国で提供する立場から、より環境に配慮した省エネ型建築の普



及を推進し、持続可能な都市基盤の形成に貢献していくことが、当社の社会的使命であると考えています。

今後は、お客さまの省エネニーズを先取りし、これまで以上に最適な提案を行っていくとともに、数多くある既存建築物に対しても、省エネリフォームを通じて積極的にCO2削減に取り組んでいきます。

※1 2007年度の国内における業務部門のCO2排出量は、1990年比43.8%増加



取締役 常務執行役員環境エネルギー事業担当

# 持続可能な都市基盤のために一環境に配慮した。

## 社会背景と大和ハウスグループの取り組み

国内の地球温暖化対策において、「業務部門における CO2排出量の削減 |が最大の課題とされています。

当社グループは、住宅のみならず、多様な業務用施設の提供を行うグループ\*2として、環境に配慮した建築の普及に向けた取り組みを進めています。

今回の特集では、大和ハウス工業の担当者が、2008年度に取り組んだ環境配慮型プロジェクトを中心に、持続可能な都市基盤の形成について話し合いました。

※2 独自の土地活用提案システムと自社工場によるシステム建築を軸に、店舗から 工場まで幅広い用途の施設を提供しています。住宅を除く、商業建築事業の 2008年度の売上高は、5,451億円でした。



Q:国内業務部門のCO<sub>2</sub>排出量が 増加しています。その課題は何ですか。

A:斉藤 近年、大企業を中心にCO2 削減対策が進んでいますが、中小規模 事業者の業務施設や、全国展開してい る物販・飲食店舗の多くは一つひとつが 小規模なため、省エネ法の規制対象では なく、対策が進んでいません。また、数 多くある既存建築物への対策も大きな 課題の一つと言えます。

中小規模事業者の業務施設 への対策

全国展開している小規模店舗 課題2 への対策

既存建築物への対策

しかし、改正省エネ法の施行により、 より多くの事業主様に省エネ規制が課せ られることになり、今後はお客さまからの 省エネニーズの高まりが予想されます。 当社では、そのような動向を先取りし、 2009年1月に「環境配慮設計ガイドラ イン」を策定。これまで設計担当者が 個別に対応していた環境配慮設計のノ ウハウを集約し、省エネルギー設計の手 法やグリーン調達基準などをまとめ、全 国の事業所で運用を開始しました。

・当社が建設した環境配慮施設の一例



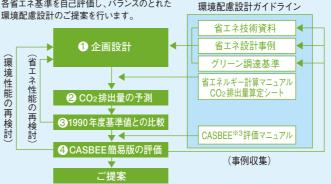
自動車整備丁場(福岡県)





設計業務フロー

各省エネ基準を自己評価し、バランスのとれた 環境配慮設計のご提案を行います。







#### 中小規模事業者の 業務施設への対策

Q:2009年6月に竣工した「京都銀行 門真支店」は、どのようなコンセプトで 建設されたのでしょうか。

A: 加藤 「京都銀行門真支店」のコン セプトは『森の中の銀行』です。建築主 さまの"住民の方に憩いと潤いをご提供 したい"という強い想いを取り入れてい ます。

1階ロビー前には鎮守の森をイメー ジした庭園(写真1)、そして2階の一部と 屋上にも緑地(写真2)を設け、敷地全体 の約36%を緑化しています。

A:加治木 樹種は地域在来種の常緑 樹を中心に選定しました。4.5m以上の 高木を植えるなど、野趣のある「森」の 造形と、緑の存在感にあふれる銀行を 目指しました。

114

CSR レポート 2009 詳細版 CSR マネジメント (環境)

#### Q:自然エネルギーを活用した環境 配慮技術などはありますか?

A:加藤 「屋上緑化(写真3)」による断熱 性の向上に加え、外観を特徴づけてい る「ファサードのカーテンウォール(次ペー ジ写真6)」には、熱線吸収ガラスを採用し、 年間の空調負荷の削減に配慮していま す。また、「太陽光発電パネル(写真5)」を 設置し、施設の電力使用量の一部をま かなうとともに、お客さまが目にしやす い1階のロビーに「太陽光発電システム のモニター(写真4)」を設け、発電状況をリ アルタイムに掲示することで、お客さま の環境意識の啓発に役立てています。

こうしたさまざまな環境配慮技術の 導入により、CASBEE\*3評価ではAラ ンクの評価となりました。

※3【CASBEE】建築物総合環境性能評価システム。国土 交通省が主導し開発された建築物の環境性能評価シス テム。ランクは、S・A・B+・B-・Cの5段階評価。



#### Q:コスト面など課題もあったと思いま すが?

A:加藤 確かにコスト面が大きな課題で、太陽光発電など単体では初期コストを数年で回収することが難しいものもありますが、運用コストを含めたライフサイクルコストの観点から建物・設備のトータル提案を行えば、ご理解いただける感触はあります。何よりも、建築主様と「建築物は社会的資産の一部」というビジョンを共有して創り上げていくことが重要だと思います。

幸い、京都銀行様には今回の取り組 みを高く評価していただき、他の支店で も、環境配慮型店舗の計画がスタート しています。

# 課題2 全国展開している 小規模店舗への対策

#### Q:次に、全国に展開されている物販や 飲食店舗の環境配慮はどうでしょう?

A:中根 ロードサイドに建つこれらの施設は、市場環境の変化に伴い、使用可能な状態でも解体・新築を繰り返す場合があります。そこで、当社では廃棄物削減と資源の有効利用を同時に実現する「リ・ストア&リ・ビルドシステム」を開発、その普及を進めています(詳細右)。また、2008年度は改正省エネ法\*4の施行に伴う顧客ニーズを先取りし、この躯体システムに別途開発した白色LED照明システム『グレースルミノ』を組み合わせた省エネ型店舗を開発、2009年3月から販売を開始しました。

A:宇野 『グレース ルミノ』は、「ECO モニタリングシステム」といって、照明 器具の電力消費量・CO2排出量などを一元管理できるシステムを備えています (詳細右)。さらに今後、「エネルギーの見える化」や「エネルギーの分析および 改善」「エネルギー調達から運用に至るトータルマネジメント」など、事業者様の幅広いニーズに対応していきます。

#### Q:企業様の反応はいかがですか?

A:中根 省エネ型店舗のモデル棟は、 完成以来10社以上、延べ約50名の企 業担当者様にご見学いただいています。 ご見学者の方からはさまざまなご意見を いただいており、改良を加えながら個別 の顧客ニーズへの対応を進めているとこ ろです。

CSR マネジメント (環境)

しかしながら、「商業施設は短期での 資金回収が鉄則であり、初期費用の増 加は受け入れがたい」というご意見が多 いのも確かです。

#### Q:そのようなご意見に対する解決策は?

A: 宇野 「LED照明」は、省エネ・省 CO2効果がありますが、高い初期費用 が課題となっています。そのため、省エネ・省 CO2の設備機器をシステム化し リース会社で一括管理することで、初期費用をかけずに月々のサービス使用 料だけで導入していただけるモデルを検討中です。本サービスが普及すれば、初期費用負担の軽減に大きく貢献できると考えています。

次世代型



・廃棄物削減への取り組み>再生・再建築可能な

「リ・ストア&リ・ビルドシステム」の開発・普及 →P172

コンビニは利用者が多いので、省エ ネ型店舗が全国に普及すれば、利用者 の環境意識やその他の施設への波及 効果も大きいと思います。

#### 課題3

#### 既存建築物への対策

Q:最後に、圧倒的なボリュームを占め る既存建築物への対策についてお聞 かせください。

A: 宇野 当社は、2009年4月に「環境 エネルギー事業部」を立ち上げ、全国 25事業所、総勢約200名の人員を配置 しました。この事業部では、改正省エネ 法による企業単位でのエネルギー管理 が求められる事業所などをターゲットと し、『グレースルミノ』や、高効率反射板 『reFbo(レフボ)』を中心に、既存施設 の省エネ改修の普及を進めています。 今後は、太陽光発電システムや電力貯 蔵システム(リチウムイオン電池)など、 民生部門の省CO2対策に資する商品・ サービスの拡充を図り、既存事業との 連携を強化することで、事業の拡大を 目指します。



設計業務を通じて、 環境保全に貢献して いきます。

加藤 近年、お客さまの環境へのニー ズは確実に高まってきていますが、初期 コストの増加が大きな壁となっているよ うです。これまで、設計を進める上で、 「CO2削減」への意識はあまり高くはあ りませんでしたが、環境問題が注目され るなか、省コストと省CO2を合わせて 積極的に提案していけば、お客さまに必 ず受け入れていただけると感じました。 今後も設計業務を通じて、持続可能な 都市基盤の形成に貢献していきたいと 考えています。

#### 次世代型省CO2店舗の開発

# 再生・再建築可能な 「リ・ストア&リ・ビルドシステム |

「リ・ストア&リ・ビルドシステム」は、資源循環型の 物販・飲食店舗向けの躯体システムです。建てて間もな いにもかかわらず、使用されなくなった建物を廃棄する のではなく、分解して移設・再建築することで、廃棄物 削減に貢献しています。

設計段階から解体時のことを考慮し、基礎や外壁、 屋根など建物を構成する主要な部材は全て工場で生産 しています。解体後も一つひとつの部材を検査、再生処 理をして、次の新しい建物の一部として利用します。

このシステムでは建物全体で約7割(金額比)\*5の部 分がリユース(再利用)でき、ライフサイクルCO2を在 来工法に比べて約25%削減できます。

2005年より全国展開のコンビニエンスストアなどを 中心に普及を進め、2009年3月現在、全国で121棟の 建設実績があります。

※5 当社試作棟での検証結果



●ライフサイクルCO₂の比較



- \*建て替え周期15年、評価期間45年での 比較(物販店舗167m²)
- \*建物使用時のエネルギーは含みません

# 長寿命の白色LED照明システム 「グレース ルミノー

コンビニエンスストアでは、店舗のエネルギー 消費のうち電力が半分以上を占めます。そのため、 室内の照度レベルを落とさずに、いかに照明の消 費電力を抑えられるかが大きな課題の一つでした。

当社が販売している「白色LED照明システム | は、現在市販されているLED照明に比べ約2.5倍 となる約10万時間※6の長寿命化を実現しています。 また、世界的な照明家・豊久将三様の監修を得て、 店舗用途に応じた照明配置や制御方法を徹底的に 検証し、最適な室内照度を保ちつつ省エネルギー効果の 高いシステムを構築しました。

その結果、照明の消費電力やそれにかかるCO2排出量は、蛍光灯と比べて 最大53%\*\*7削減でき、ランニングコストも抑えることができました。

●「白色LED照明システム」の仕組み

「照度センサー」が、天候・時間帯・ 地域にあわせ自動でLED照明を制御



※6 促進試験で期待寿命時間10万時間を確認しています。

※7 コンビニ既存店舗(約200㎡)の店舗内照明の蛍光灯を今回のシステムに置き換え、70%点灯した場合。

当社提案のコンビニエンスストア向け 次世代型省CO2モデルが

平成21年度(第1回) 住宅·建築物省CO2推進 モデル事業※8に採択されました ※8 国土交通省が推進する事業で、住宅・建築物における リーディングプロジェクトを公募し、省CO2の推進に向けた モデル性、先導性が高いものが選定されます

当社の「コンビニエンスストア向け次世代型省CO2モデ ル | におけるエネルギーマネジメント・太陽光発電システム・ LED照明システム・蓄電池のトータルシステムによる提案 は、省CO2推進に向けた新たなビジネスモデルであること その他の建築物への波及に対する期待が大きいことなどが 評価され、マネジメント部門で唯一採択されました。

# 環境ビジョン

当社の考え方

「人・街・暮らしの価値共創グループ | として、環境と共生し人が心豊かに生きる社会の実現を目指します。

大和ハウスグループは、2005年に環境ビジョンを策定し、その達成に向けグループー丸となって取り組んでいます。

環境ビジョンは、環境理念・環境活動重点テーマ・環境行動指針の3つで構成され、具体的な計画を3か年ごとに「エンドレス グリーン プログラム」として策定し、環境活動を推進しています。



#### 環境理念

私たちは、「人・街・暮らしの価値共創グループ」として、未来を見据えた環境思考に努め、より環境に配慮した商品・サービスの提供を通じて、環境と共生し人が心豊かに生きる社会の実現を目指します。



環境活動

400

重点テーマ

#### 環境活動重点テーマ

「環境と共生し人が心豊かに生きる社会」の実現のために、次の4つのカテゴリーを環境活動の重点テーマとして、取り組んでいきます。

#### 1.地球環境温暖化防止

低炭素社会を目指して、お客さまへ提供する商品・サービス ならびにその事業活動プロセスにおいて、省エネルギー を推進します。

また、太陽光、風力などの新エネルギーの活用に 努めます。

#### 3.自然環境との調和

豊かな自然環境を将来世代に継承できる社会を 目指して、森林の保護など地球規模の自然環境保護に 努めます。

また、周辺環境との調和に配慮した街づくりや緑化を推進します。

#### 2.資源保護

循環型社会を目指して、3R\*活動を推進します。 また、商品のライフサイクルに配慮して、 省資源・長寿命化・資源循環を推進します。

> ※3R:リデュース (Reduce)、リユース (Reuse)、 リサイクル (Recycle) の3つのRをさします。

#### 4.有害化学物質による汚染の防止

人や生態系が化学物質などによる悪影響を 受けることのない社会を目指し、有害化学物質の削減、 代替、および適正管理を推進します。

#### 環境行動指針

- 1. 商品・サービスにおける環境負荷の低減
- 2. 事業活動プロセスにおける環境負荷の低減
- 3. 法規制等の遵守
- 4. 教育・訓練の充実

- 5. 環境コミュニケーションの推進
- 6. グリーン調達の推進
- 7. 環境技術・環境ビジネスの開拓

エンドレス グリーン プログラム 2010 (2008~2010年後)

→P123

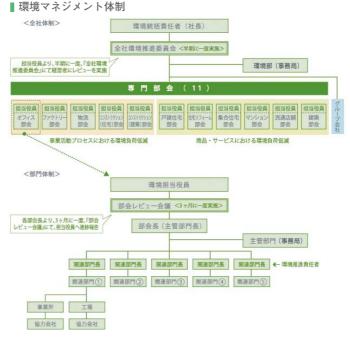
# 環境マネジメント

#### ■環境マネジメント体系

**゙** グループ

当社は、環境ビジョンに定めた「環境理念」、「環境活動重点 ■環境マネジメント体制 テーマ」、「環境行動指針」をもとに、策定した中期環境行動計 画「エンドレス グリーン プログラム 2010」を確実に達成す るため、各部門・各事業所で、それぞれ半期毎に計画を策定し、 活動を推進しています。その実績と自己評価を経営者に報告、 レビューし、継続的な改善につなげています。また、事業所の 環境パフォーマンスデータをイントラネット上で収集・集計 できる環境情報システム[ei-system]を構築し、活動実施状 況を把握・管理しています。

環境担当役員を委員長とする全社環境推進委員会(常任委 員約20名、非常任委員約20名で構成)では、年2回、当社が取 り組むべき環境活動の方向性について審議・決定しています。 その委員会での決定事項に基づき、委員会下部組織である担 当役員をトップとした11の専門部会にて活動を展開してい ます。この専門部会では、3ヶ月に一度部会レビュー会議を実 施することにより、きめ細かなPDCAサイクルに基づく改善 を実施しています。



#### ■環境優秀事例 社長表彰制度を創設

大和ハウス

当社では、新しい中期環境行動計画のスタートにあたり、各事業所で取り組む環境活動を顕彰する『環境優秀事例 社長表彰制度』を 創設しました。

第1回となる2008年度は、全国の事業所から応募のあった117件の改善事例のなかから、「カラーベストのフルプレカット工法の試 行(長野支店) |と「iias(イーアス) 札幌における環境配慮設計への取り組み(札幌支店) |の2事例を最優秀事例に選出しました。

2009年度も社長表彰制度を継続するとともに、優秀事例の水平展開を進めていきます。

#### 最優秀事例(1)「カラーベストのフルプレカット工法の試行」

戸建住宅新築現場の屋根工事において、カラーベストのフ ルプレカットによる廃棄物削減の試行に取り組みました。 その結果、住宅1棟あたり約200~ 400kgの資材の現場搬入 を削減、物流のコストダウンを図るとともにCO2排出量削減 にもつながっています。

「カラーベストのフルプレカット」の詳細はこちら
→P175

工場でプレカットされた カラーベスト



長野支店 顧客室 室長 宮澤 奈津生

#### 最優秀事例(2)「iias(イーアス)札幌における環境配慮設計への取り組み」

「iias(イーアス)札幌」では、企画段階から建築・設備が一体 となって、環境配慮設計に取り組みました。

この商業施設では、井水浄化システムや生ごみ処理機、 効果的な植栽計画などと共に、クールヒートチューブや地中 熱ヒートポンプ冷暖房設備の導入といった先進的な環境技 術も取り入れました。

「CASBEE札幌※ において、Sランクの評価となりました。

※建築物総合環境性能評価システムの札幌版

「iias(イーアス)札幌 | の詳細はこちら →P148



「iias(イーアス)札幌」外観



(右)東京支社 建築事業部 主任 小倉 純 (左)仙台支店 北日本設備技術部

(札,幌駐在) 主任 佐藤 啓

# 環境マネジメント

#### ■環境マネジメントシステムの拡大

グループ

当社は、2000年に環境マネジメントシステムを構築し、環境改善活動に取り組んできましたが、その範囲は当社および当社の事業と特に関係の深い一部のグループ会社に限られていました。しかし、近年では、「連結経営」が求められているように、環境経営についてもグループ全体を範囲とすることが要求されています。当社はこうした要求に応えるため、環境経営の範囲を段階的に拡大し、グループ全体での環境マネジメントシステムの構築を計画しています。

2008年度から第2ステップとして、大和物流や大和リース、ダイワラクダ工業など環境負荷の大きい主要グループ会社へ対象範囲を拡大し、2009年度からは、グループ会社の業績評価に「環境経営」の項目を追加、グループ会社の環境活動の進捗を評価する「グループ環境経営評価」をスタートさせました。



環境教育
大和ハウス

当社では、全従業員の環境意識向上のため、定期配信している「環境だより」などを通じて意識啓発に努めるとともに、全従業員を対象とした一般教育、特定の環境リスクに焦点を当てた専門研修を実施しています。

専門研修では本社部門が中心となり、住宅部門や建築部門などの部門別に、当社の環境リスクである廃棄物管理、土壌汚染対策に重点を置き実施し、一般教育では全従業員を対象として階層別に温暖化対策等を含めた環境一般の教育を実施しています。2008年度からは、限られた時間の集合研修では制約があるため、それを補完する「eラーニング研修」も行っています。

#### ■ 2008年度環境教育実施状況

	研修名	形態	人数
	廃棄物管理研修	集合	80
専門研修		eラーニング	3,996
母 1101111111111111111111111111111111111	土壌汚染対策研修	集合	641
	工場污染的來机修	eラーニング	_
	管理職•中堅社員対象	集合	384
一般教育	新入社員対象	集合	795
	全従業員対象	eラーニング	16,122

#### ISO14001認証取得状況

グループ

当社では、1998年4月から段階的に生産購買本部(購買部除く)と全11 工場において環境マネジメントシステム(国際規格ISO14001)の認証を 取得し、継続的に環境負荷低減の活動を続けています。

また、一部のグループ会社でも同規格の認証を取得し、活動を行っています。

社名	認証取得範囲
大和ハウス	生産購買本部(購買部除く)及び全11工場
大和リース	全社
大和物流	三重営業所・奈良営業所・ 環境管理室・関西配送センター

(2009年3月31日現在)

#### 環境影響評価

グループ

当社では、全11工場において環境マネジメントシステム(国際規格ISO14001)の要求事項にそって当社独自の環境影響評価基準を作成し「著しい環境影響」を特定しています。特定された「著しい環境影響」はその原因である「環境側面」に対し、目標を定め継続的に管理・改善を行っています。

また、一部のグループ各社(大和リース、大和物流)についても独自の基準を定め、 継続的に管理・改善活動を行っています。

#### ■環境影響評価のフロー

#### サイト影響評価 (工場)

各工場が、環境に与えている影響を、項目ごとに評価し、 著しい環境影響の項目を特定する。

#### ac age age

#### 側面影響評価

著しい環境側面単位に、その影響を評価し、著しい 環境影響の原因となる(なりうる)環境側面を特定する。



#### 目標設定

著しい環境側面を情報のひとつとして配慮事項の フィルターをかけ、目標を設定する。

# 環境マネジメント

環境監査

当社では、年一回、本社部門で全11工場に対して、環境マネジメントシステムの要求事項を満たしているか、環境改善状況は良好か等の確認を目的とした内部監査と環境リスク回避を目的とした順法監査を実施しています。その内容については、経営層へ報告し、レビューのためのインプット情報にしています。

また、環境リスクの高いグループ会社に対しては、リスク回避を目的とした相互監査(指導含む)を実施しています。(当社と大和リース、ダイワラクダの生産部門間など)

#### ■場内での環境監査の様子





奈良工場・再資源センター

奈良工場・外壁フレーム生産ライン

緊急時の対応

自然災害や事故等が起こった場合、環境汚染物質の漏洩など周辺環境を汚染して しまう可能性があります。

当社では、そうした緊急事態を未然に防ぐために考えられる予防処置を実施するとともに、万が一そのような事態が発生した場合にその影響を最小限に抑える対応の手順を定め、定期的に教育訓練を実施しています。



PCB漏洩時を想定した緊急時訓練 (奈良工場)

# 環境負荷マテリアルフロー

#### ■大和ハウスグループの環境負荷総量(2008年度)

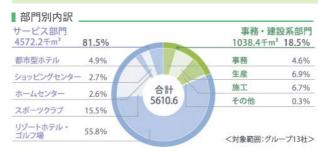
グループ





**※GJ:**G(ギガ)は10の9乗(=10億倍)を表す接頭辞。J(ジュール)はエネルギー・熱量の国際単位。

#### 水使用量(千m3)





#### 廃棄物排出量(千t)





#### ■ 処理別内訳 最終処分 リサイクル 41 Tt 8.6% 430ft 91.4% マテリアルリサイクル 88.0% 埋め立て 7.7% 単純焼却 0.6% サーマルリサイクル 3.3% 合計 その他 0.3% 中和処理 0.1%

#### CO2排出量・エネルギー使用量・水使用量の対象範囲:グループ13社

大和ハウス工業(株) 大和リゾート(株) ロイヤルホームセンター(株) 大和物流(株) 大和リース(株) ダイワラクダ工業(株) ダイワハウス・リニュー(株) 大和エネルギー(株) 大和情報サービス(株) ダイワロイヤル(株) (株) 大阪マルビル 日本体育施設運営(株) ダイワロイヤルゴルフ(株)

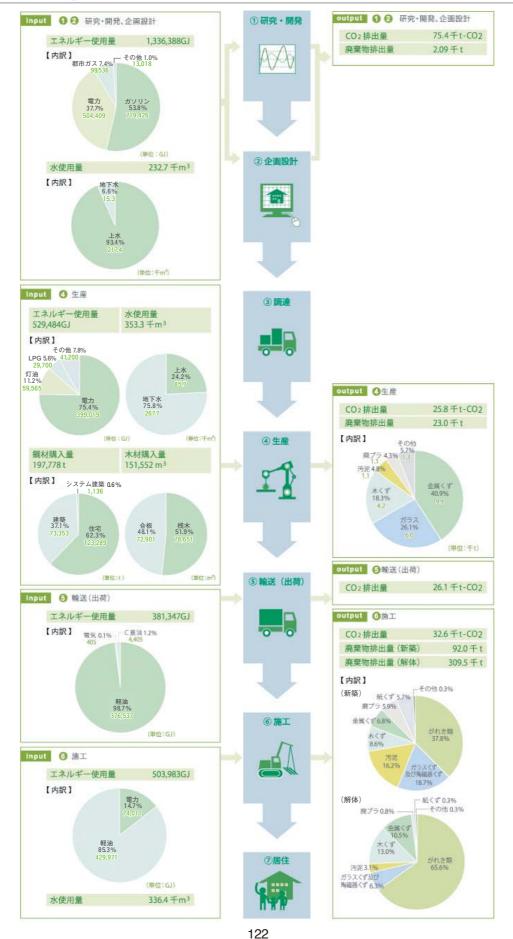
#### 廃棄物排出量の対象範囲:グループ3社

大和ハウス工業(株) 大和リース(株) ダイワラクダ工業(株)

# 環境負荷マテリアルフロー

#### ■大和ハウスの環境負荷マテリアルフロー

大和ハウス



I ZZ CSR レポート 2009 詳細版 CSR マネジメント (環境)

#### 環境負荷マテリアルフローと環境会計

# 環境負荷マテリアルフロー

#### ■環境負荷マテリアルフローの算出根拠について

大和ハウス

#### CO2排出量について(共通)

各エネルギー使用量×CO2排出量原単位※

- ※CO2排出量原単位:電力については、電気事業連合会公表値(2006年度実績 0.410kg-CO2/kWh)を使用。
- その他燃料の消費に伴うCO2排出係数については、「地球温暖化対策の推進に関する法律」施行令第三条に基づく値、または、特定排出者の事業活動にともなう温室効果ガスの排出量の算定に関する省令(平成18年経済産業省・環境省令第三号)のデフォルト値を使用。

#### ●研究・開発、②企画設計

#### [In]エネルギー・水、[Out]廃棄物

2008年度における本社、支社、支店、営業所、総合技術研究所、研修センター、モデルルーム\*・展示場\*の実績値 \*\*ただし、モデルルーム・展示場については、サンプルデータより算出

#### ③調達

調達時の環境負荷は、当社のマテリアルフローからは除外していますが、その環境負荷低減については、サプライヤーとの共同輸送など、積極的な取り組みを進めています。

#### 4生産

#### [In]エネルギー・水・資材、[Out]廃棄物

2008年度における自社11工場の実績値

#### ⑤輸送(出荷)

#### [In]エネルギー

2008年度における工場~工場間輸送、工場~施工現場間輸送、住宅系新築現場からの廃棄物回収、工場からの廃棄物の排出にかかる輸送における燃料使用量※

※燃料使用量=配車台数×輸送距離÷燃費実績

#### 6施工

#### [In]エネルギー・水

2008年度に施工したすべての住宅(集合住宅含む)・建築現場で使用したエネルギー、水をサンプルデータにより算出※

※住宅・集合住宅・建築それぞれのサンプル現場調査によって把握したm2あたりの仮設電力量、仮設水道使用量、建設重機による軽油使用量 (作業時間×重機の燃費)に、それぞれの供給床面積を乗じて算出。

#### [Out]廃棄物

【新築】2008年度に新築したすべての住宅(集合住宅含む)・建築現場における実績値(既存建物の解体によるものは除く) 【解体】2008年度に新築したすべての住宅(集合住宅含む)・建築現場における既存建物等の解体工事における実績値

#### 7居住

居住時の環境負荷は、居住者のライフスタイルに大きく依存し、正確なデータを把握することが困難なため、当社のマテリアルフローからは除外しています。

#### 環境負荷マテリアルフローと環境会計

# 環境会計

#### ■(1)環境保全コスト

		2005年度 投資額(千円)	2006年度 投資額(千円)	2007年度 投資額(千円)	2008年度 投資額(千円)
	大気・水質・騒音等の公害防止対策費	2,108	908	4,040	1,822
事業エリア内コスト	地球温暖化の防止(省エネ)対策費	71,411	68,165	99,757	156,931
争未エリア内コヘト	廃棄物削減対策費	7,114	13,607	30,810	13,111
	水資源使用量削減対策費	15	13,496	470	1,947
上下流コスト	グリーン購入費、通い箱購入費	0	693	3,698	4,937
管理活動コスト	環境教育費、EMS維持費等	0	470	1,090	1,707
		80,648	97,339	139,865	180,455

#### ■(2)環境保全効果

効:	果の内容	項目	単位	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
	投入資源に関する効果	エネルギー使用量	GJ/年	1,128,781	1,141,312	1,078,572	910,831
	投入貝/派に関 9 る 別未	水資源使用量	m <sup>3</sup> /年	457,339	447,607	447,607 419,960	
事業エリア内効果	環境負荷及び廃棄物に 関する効果	廃棄物発生量	t/年	26,159	25,412	25,032	23,018
		初に CO2排出量(生産系) kg		34,300,909	32,261,706	31,538,412	25,797,593
		CO <sub>2</sub> 排出量(物流系)	kg-CO <sub>2</sub> /年	35,385,284	34,938,902	29,561,000	26,130,000

<sup>※</sup>CO<sub>2</sub>排出量(物流系)は、2007年度から対象範囲を拡大し、集計方法を往復距離から片道距離の基準へ変更した。

#### ■(3)環境保全効果に伴う経済効果

		2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
収益	有価物売却費(千円/年)	0	2,425	10,899	11,812
	小計(実質的効果、推測的効果)	0	2,425	10,899	11,812
	省エネルギー活動によるコスト削減額(千円/年)	14,768	58,303	24,789	48,562
費用節減	廃棄物削減活動によるコスト削減額(千円/年)	17,278	35,445	29,333	48,594
	水資源使用量削減活動によるコスト削減額(千円/年)	1,423	375	76	2,580
	33,469	94,123	54,198	99,736	
	合計(千円/年)	33,469	96,548	65,097	111,548

#### エンドレス グリーン プログラム 2010

## 基本方針

2008年度から、新たな中期環境行動計画をスタート。グループ13社で数値目標を設定し、 取り組みを推進しています。

#### ■エンドレス グリーン プログラム とは?

環境ビジョンである「環境と共生し人が心豊かに生きる社会」の実現には、環境負荷の削減と暮らしの快適性を両立させることが必要です。

当社グループでは、その実現に向け、中長期的な環境戦略を立て、その具体的な計画を『エンドレス グリーン プログラム』として3ヵ年毎に策定しています。

2008年度より、新たな中期環境行動計画「エンドレス グリーン プログラム 2010」をスタート。部門ごとに数値目標を設定し、実績の評価と改善を繰り返す ことで環境活動を推進しています。

#### ■「エンドレス グリーン プログラム 2010」の基本方針

環境課題の観点から建設業の主な事業特性をあげると、「商品(建築物)が長期間にわたり使用されること」、「資源消費が多く廃棄物も多いこと」、「自然環境を直接改変すること | などが考えられます。

そこで当社グループでは、これらの事業特性をふまえ、「地球温暖化防止」、 「資源保護」、「自然環境との調和」、「有害化学物質による汚染の防止」という4つ

のカテゴリーを「環境活動重点テーマ |とし、環境に配慮した商品・サービスの開発と普及を継続的に進めています。

「エンドレス グリーン プログラム 2010」では、これまでの活動の成果をふまえ、4つの基本方針を策定しました。

#### ∞ ▲・住み継がれる住宅 ・長持ちする建築 ·フレンドリーデザ・ 緑あふれる町並み 健康な暮らし 暮ら 世創 地球温暖化防止 資源循環 ・ 有害化学物質による 汚染防山 環境負荷 ●環境活動重点テ ●車業特性 1. 地球温暖化防止 商品(建築物)が長期間にわたり使用される。 2. 資源保護 資源消費が多く、廃棄物の発生量も多い。 ■ 3. 自然環境との調和 4. 有害化学物質による 土地などの自然を直接改変することがある。 ①グループ連携によるさらなる取り組みの拡大 ②地球温暖化防止対策の強化 基本方針 ③環境・エネルギー分野の先行技術開発の推進 ④生態系保全への取り組み推進

#### | 基本方針1| グループ連携によるさらなる取り組みの拡大

#### 環境マネジメントシステムの拡大

行動計画の対象範囲を環境負荷の大きい主要グループ会社へ拡大、これまでの3社に10社を加え、合計13社で数値目標を設定し、取り組みを推進します。

#### グループの総合力を活かした推進体制の構築

当社グループ内の「環境エネルギー事業」のノウハウを活用、グループの総合力を活かし、グループ保有施設の省エネを推進するとともに、住宅・建築事業での省エネ型サービスを拡大します。



#### |基本方針2| 地球温暖化防止対策の強化「CO2 ダブルスコアの達成」

大和ハウスグループの既に取り組んでいる4つの環境活動重点テーマのうち「地球温暖化防止」を最重要テーマに、『CO2ダブルスコアの達成』をグループ全体目標の中核として、全事業活動プロセス・全事業領域での取り組みを強化します。

#### CO2ダブルスコアの達成に向けて

「エンドレス グリーン プログラム 2010」では、「地球温暖化防止」を最重要テーマに、「私たちの事業で地球にかけた負担(CO2排出量)以上に地球に貢献(CO2削減量)しよう」という思いから、当社グループの事業が地球温暖化防止に貢献できた度合いを測る指標として、『CO2削減貢献度\*』を導入、2010年度の目標を2倍以上(CO2ダブルスコア)に設定しました。

この目標達成に向け、当社グループのオフィス・工場・ホテル等での省エネ対策によりCO₂排出量を削減するとともに、住宅や建築物における省エネ対策を積極的にお客さまへ提案、全事業領域で取り組みを推進していきます。



# 基本方針

#### 基本方針3 環境・エネルギー分野の先行技術開発の推進

環境・エネルギー技術、ストック社会対応技術を当社グループの第2次中期経営計画の基本方針の一つである 「先行技術開発」の重点領域に設定、革新的技術の開発を推進し、早期の実用化を目指します。

#### ■「先行技術開発」の重点4領域



※ ICT:情報通信技術 (Information and Communication Technology) IRT:情報ロボット技術 (Information Robot Technology)

#### 基本方針4 生態系保全への取り組み推進

#### 自然環境と調和した街づくり

造成段階から外構デザインまで、豊かな生態系に配慮した街づくりを推進し、 人にも自然にも快適な環境の創出に取り組みます。

の周山に、取り、組のより。
地域性に配慮した樹種を多用し、外来種を極力遊けることで、地域の原風景を取り戻します。

地域の原風景を取り戻します。

は地域合種の採用
自然環境
と調和した
街づくり
環境資材
の活用
間伐材やリサイクル材、自然素材を多用するなど、環境に配慮した資材の採用を進めます。

#### サプライチェーンを通じた森林育成

持続可能な森林育成の観点から、独自のグリーン購入基準を策定し、カタログ・名刺・帳票類に「森林育成紙™」を導入します。

「森林育成紙™」とは、製紙原料について当社が独自に定めた購入基準を満たす紙の呼称。森林認証機関によって認証された紙製品を購入することで、森林育成に貢献します。



適切な管理がなされていない森林の例

適切な管理がなされている森林の例

# 実績と自己評価

#### 地球温暖化防止~ CO2ダブルスコア達成への取り組み~

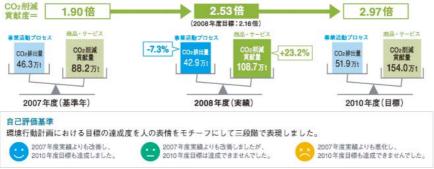
グループ

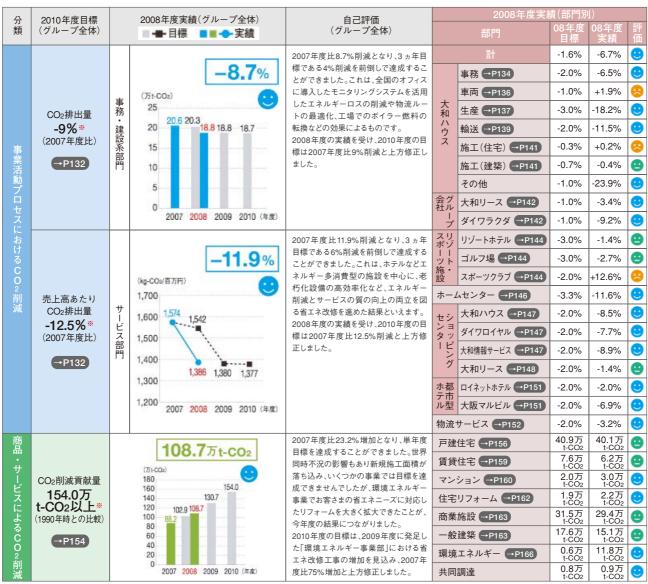
#### 2008年度のCO2削減貢献度

2008年度は、事業活動プロセスにおける $CO_2$ 排出量は $42.9万t-CO_2$ 、環境配慮型商品・サービスの提供による $CO_2$ 削減貢献量は $108.7万t-CO_2$ 、 $CO_2$ 排出量に対する $CO_2$ 削減貢献量( $=CO_2$ 削減貢献度)は2.53倍となり、2008年度の目標を達成しました。

これは、事務所やホームセンターでのエネルギーの「見える化」による運用改善の徹底、ホテル・工場での熱源改修工事など、全部門においてCO2削減の取り組みを推進した結果です。

一方、CO2削減貢献量については、戸建商品「xevo(ジーヴォ)」の高断熱や太陽光発電システムの設置、リフォーム事業での断熱改修や高効率給湯器の設置、環境エネルギー事業における高効率照明器具の設置などを進めたことがこの結果につながりました。

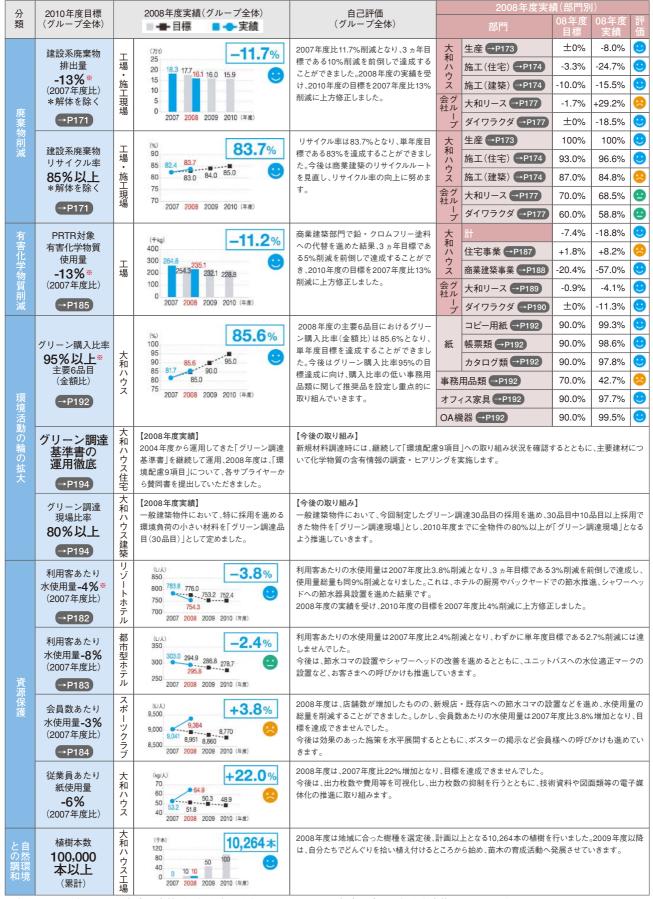




※印をつけた目標は、2008年度の実績が目標を大きく上回ったため、2009年度以降の目標を上方修正しています。 (土は2007年度比増減率)

## 実績と自己評価

#### 事業活動プロセスにおける環境負荷低減



# 実績と自己評価

#### 商品・サービスにおける環境負荷低減

分類	2010年度目標 (グループ全体)		2008年度実績(グループ全体)	自己評価			
(高耐久・資源循環	高耐久商品 <mark>**1</mark> の採用率 <b>100%</b>	戸建鉄骨商品	98.9 % 98.9 95.0 100.0 90.0 95.0 100.0 00.0 90.0 95.0 100.0	2008年度の鉄骨商品における高耐久商品(xevo)の普及率は、98.9%となり目標を達成することができました。「長期優良住宅認定制度」が始まるなど高耐久住宅に対する関心が高まるなか、今後も高耐久商品の販売を積極的に推進していきます。			
『保護 の	資源循環商品 <sup>※2</sup> の採用棟数 年間 150棟以上	小規模店舗	150 150 150 150 2007 2008 2009 2010 (年底)	2008年度は、全国に多店舗展開されているコンビニエンスストアや飲食店舗などのテナント様を中心 提案を行い、12のテナント様にご採用いただき、2007年度比30%増となる57棟を建設しましたが、目の80棟には達しませんでした。 今後は、店舗内の省エネシステムとのパッケージ化を図り、環境配慮型店舗としてテナント様への積く 的な提案を行い、2010年度には年間150棟の建設を目指します。			
	環境共生住宅 <sup>※3</sup> 認定率 100% →P198	戸建分譲住宅	(%) 100.0 <b>55.6%</b> 80 60 75.0 <b>55.6</b> 40 2007 2008 2009 2010 (年度)	2008年度の戸建分譲住宅における環境共生住宅認定率は55.6%となり、2007年度比2.6ポイント増加しましたが、目標の60%にはわずかながら達しませんでした。しかしながら、分譲住宅以外の請負住宅についても認定取得を進めた結果、分譲・請負住宅を合わせた認定戸数は、昨年度の1,458戸から1,788戸に増加し、過去最高となりました。今後は認定率の低い木造住宅での認定取得を推進し、2010年度までに分譲住宅での100%認定取得を目指します。			
自然環境との(緑化の推進)	自主緑化指針 <sup>*4</sup> 適合率 70%以上 →P201	賃貸住宅	(%) 100 80 60 40 200 200 2007 2008 2009 2010 (#:#)	2008年度は、設計担当者への外構計画研修を実施、大型開発案件を中心に敷地内の緑化の充実に努めた結果、「自社緑化指針」適合率は43.2%となり、目標の30%を達成できました。 今後は、大型開発案件での取り組みを継続・強化するとともに、小規模物件においても緑化の推進を図ります。			
との調和	自主緑化指針*5 適合率 50%以上	マンション	【2008年度実績】 2008年度は、緑化に関する過去の施工事例を収集し、「自主緑化指針」を策定。設計 基準書に追加しました。	【今後の取り組み】 今回策定した「自主緑化指針」を新規着工する分譲マンションの計画に活用、全国の分譲マンションで 緑化を進め、2010年度までに分譲マンションでの適合率を50%以上とすることを目指します。			
	グリーンモデル プロジェクト <sup>※6</sup> 年間 <b>15件以上</b> →P203	商業建築	【2008年度実績】 2008年度は、商業建築事業での「自然環境 との調和」への取り組みの実態を把握する ため、2000m <sup>2</sup> 超物件においてCASBEE簡 易版による自己評価を実施し、[Q3室外環境(敷地内)]評価点の現状調査を行いました。調査の結果、評価対象プロジェクト35 件のうち、評価点3.5以上となる物件は2件 (5.7%)でした。	【今後の取り組み】 2009年度以降、商業建築事業での「自然環境との調和」への取り組みを測る指標としてCASBEE自己評価における[Q3室外環境(敷地内)]評価点を採用、評価点が3.5点以上の物件を「グリーンモデルプロジェクト」とし、2010年度までに年間15件以上の実施を目標に掲げ、推進を図ります。			

- ※1 躯体保証:20年、防水保証:15年
- ※2 システム建築商品「フレスト」の小規模タイプ(リ・ストア&リ・ビルドシステム含む)
- ※3 人と住まいをとりまく[環境]をより良いものにしていくために、「地球環境を保全する」「周辺環境に親しむ」「健康で快適な居住環境」とい
- う3つの考え方に基づいた住まいづくりのことで、(財)建築環境・省エネルギー機構が認定するもの。 \*\*4 法定緑化面積の1.1倍以上の緑地面積を確保すること。法定緑化面積の定めが無い場合は敷地面積の3%以上とする。 \*\*5 マンションの玄関周りに「シンボルツリー」として高木を配置し、敷地面積に応じた「接道部緑化率」の指標に基づいて街路に面した箇所を 緑化する。
- ※6 CASBEE(建築物総合環境性能評価システム)における[Q3室外環境(敷地内)]の評価点SQ3が3.5以上のプロジェクト。

#### 環境経営の基盤強化

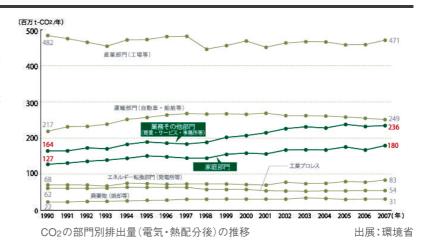
	項目	2008年度実績 (グループ全体)	自己評価
環境	グループ環境マネジメント 体制の構築 →P118	環境データの集計体制の整備、グループ 環境推進責任者による委員会活動、グ ループ環境経営評価制度の導入	グループ13社の環境パフォーマンスデータの集計体制が整い、課題と対策の抽出が可能となりました。2009年度は、グループ環境経営評価制度の運用を開始し、環境マネジメント体制の強化を図ります。
スマネジメン	環境教育の充実 →P119	環境eラーニングの実施(大和ハウス) グループ環境研修の実施(マルビル他)	2008年度より、限られた時間での集合研修を補完するため、環境eラーニングを実施、計3回の受講者は延べ2万人となりました。また、大阪マルビルなど、グループ会社への環境教育も継続的に実施しています。
<b>F</b>	環境業績評価の実施 →P118	社長表彰制度の創設(大和ハウス)	2008年度は、各事業所における環境への取り組みを評価するため「事業所評価」の見直し に着手しました。また、各事業所で取り組む環境活動を顕彰するため、「環境優秀事例社長 表彰制度」を創設し、117件の応募事例から最優秀2事例を選出、水平展開を進めています。
コミ境ニニ	情報発信・対話機会の充実 →P205	グループ環境データの情報開示、サイトレポートの発行、環境行動スローガンの 策定、環境リーフレットの発行	当社の環境への取り組み姿勢を示す「環境行動スローガン」を策定、リーフレットを発行し、社内外への情報発信を強化しました。加えて、グループ13社の環境報告書をWEBサイトで公開しました。
ーケーション	社会貢献活動の充実 →P209	「こどもエコ・ワークショップ」の継続開催 (全国で5回・参加者数215人)、環境出張 授業の実施(15校・参加者数1,345人)	2008年度はこれまで実施してきた「こどもエコ・ワークショップ」を、事業所単位での開催へシフトし、計5ヶ所で試行しました。今後は、事業所での展開をより一層進めていきます。

# 考え方、実績・自己評価

#### 社会背景

#### 国内のCO2排出量は、 業務部門と家庭部門で増加しています。

2007年度の日本のCO2排出量は13億400万t-CO2。1990年と比較して14.0%増加しています。なかでもオフィス・商業施設などの業務部門では43.8%、戸建住宅・マンションなどの家庭部門では41.2%の増加となっており、これらの施設におけるCO2排出量削減が喫緊の課題となっています。



## 大和ハウスグループの考え方

#### 事業活動プロセスと商品・サービス、両面からの取り組みで 『CO2ダブルスコアの達成』を目指します。

「エンドレス グリーン プログラム 2010」では、「地球温暖化防止」を最重要テーマに、「私たちの事業で地球にかけた負担(CO2排出量)以上に地球に貢献(CO2削減量)しよう」という思いから、当社グループの事業が地球温暖化防止に貢献できた度合いを測る指標として、「CO2削減貢献度\*」を導入、2010年度の目標を2倍以上(CO2ダブルスコア)に設定しました。

この目標達成に向け、当社グループのオフィス・工場・ホテル等での省エネ対策によりCO2排出量を削減するとともに、住宅や建築物における省エネ対策を積極的にお客さまへ提案、全事業領域で取り組みを推進していきます。



※CO<sub>2</sub>削減貢献度 = 商品・サービスにおける ÷ 事業活動プロセスにおける CO<sub>2</sub>削減貢献量 ÷ CO<sub>2</sub>排出量

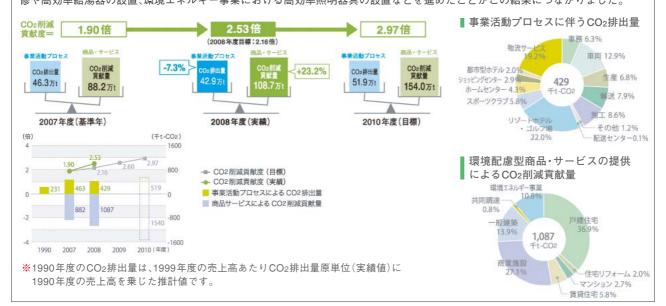
商品・サービスにおけるCO2削減貢献量の詳細(算定方法など) →P153 事業活動プロセスにおけるCO2排出量の詳細 →P132

#### 実績と自己評価

2008年度は、事業活動プロセスにおけるCO2排出量は42.9万t-CO2、環境配慮型商品・サービスの提供によるCO2削減貢献量は108.7万t-CO2、CO2排出量に対するCO2削減貢献量(=CO2削減貢献度)は2.53倍となり、2008年度の目標を達成しました。

これは、事務所やホームセンターでのエネルギーの「見える化」による運用改善の徹底、ホテル・工場での熱源改修工事など、全部門においてCO2削減の取り組みを推進した結果です。

一方、CO2削減貢献量については、戸建商品「xevo(ジーヴォ)」の高断熱や太陽光発電システムの設置、リフォーム事業での断熱改修や高効率給湯器の設置、環境エネルギー事業における高効率照明器具の設置などを進めたことがこの結果につながりました。



# 考え方、実績・自己評価

#### 事業活動プロセス

→P132

#### 事務・建設系部門



#### 務部門 →P134

全国の支店でクールビズ/ウォームビズの継続、月1回の「ライトダウン活動」の実施を行うとともに、さらなる省エネ活動の推進のためエネルギーの「見える化」を進めています。



#### 車両部門 →P136

「エコ自動車手当」制度の導入により、社員に燃費の良い車の利用を進めるとともに、ノーマイカーデーの試行を始めています。



#### 生産部門

→P137

電着塗装ラインの燃料のLPG化や「明る さの見える化」による照明エネルギーの 削減など各工場で様々な省エネ活動を 行っています。



#### 輸送部門

→P139

トラック輸送から鉄道輸送へのモーダルシフト、集中生産拠点や出荷エリアの見直しによる物流ルートの最適化などを進めています。



#### 施工部門

→P141

住宅現場での効率的な建て方の改善や建 設現場における建設重機のアイドリング ストップ活動など、施工現場の省エネ活動を進めています。



#### グループ会社

→P142

生産・施工部門を有する大和リース、ダイワラクダを中心に、社内の環境管理体制の確立と各拠点での省エネ活動の徹底を推進しています。

#### サービス部門



#### リゾート・スポーツ施設 →P144

老朽化設備の高効率化などエネルギー削減とサービスの質の向上の両立を図る施策を推進しています。



#### ホームセンター

→P146

クールビズ/ウォームビズの実施に加え、 各店舗にエネルギードクターサービスを 導入し、電気の使用状況の「見える化」を 進めています。



#### ショッピングセンター →P147

照明点灯時間の見直しや空調の温度設定 の適正化など、既存店舗でのエネルギー 管理の徹底を図っています。



#### 都市型ホテル

→P151

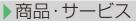
既存施設については空調機などを省エネタイプに更新、新しくオープンする施設については設計段階から省エネ設備の導入を推進しています。



#### 物流サービス

→P152

新規導入車両へのアイドリングストップ 装置・エコロジー装置の装着をはじめ、全 国7ブロックでのエコドライブ指導会を 実施、燃費の向上を図っています。



→P153



#### 戸建住宅

→P15

外張り断熱通気外壁による高断熱仕様の 普及とともに、太陽光発電システムや高 効率給湯器の設置などを推進していま す。



#### 賃貸住宅

→P159

新省エネルギー基準を満たす高断熱仕様 の普及とともに、高効率エアコン、高効率 給湯器の設置を推進しています。



#### マンション

→P160

自然エネルギーを利用した太陽熱利用給 湯システムや高効率エアコン、高効率給 湯器の採用を推進しています。



#### 住宅リフォーム

→P162

省エネを訴求したキャンペーンを継続的 に実施し、開口部断熱工事や高効率給湯 器、太陽光発電システムの設置を推進し ています。



#### 商業建築

→P163

コンビニエンスストア向けの省CO<sub>2</sub>店舗の開発を進めるとともに、工場・倉庫などの大空間施設向けの省CO<sub>2</sub>対策の提案を推進しています。



#### 環境エネルギー

→P166

エネルギードクターサービスや空調熱源 機器の更新、照明の高効率化など運用改 善から設備改善までトータルな省エネソ リューションを提供しています。

# 事業活動プロセスの取り組み

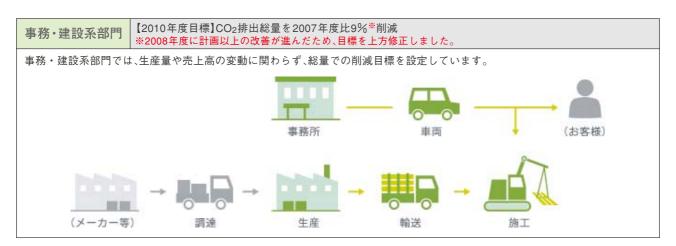
#### 大和ハウスグループの考え方

グループ

#### 事務・建設系部門、サービス部門、それぞれに目標を設定し、全事業活動プロセスでの取り組みを推進しています。

当社グループでは、多様な事業領域を踏まえ、全事業活動プロセスにおけるCO2削減活動を進めるにあたり、各グループ会社の活動領域を次の2つに分類、それぞれの業務特性や活動レベルに応じて、グループ全体目標を設定し取り組みを推進しています。一つ目は各社のオフィスにおけるエネルギー使用や営業・工事管理等に伴う車両の業務使用といった <オフィス活動>、そして工場での生産、部材の輸送、施工現場での重機の使用といった<ものづくり>を対象とした【事務・建設系部門】。二つ目は、ホテル・ショッピングセンター・物流サービスといった"サービス業務"などを対象とした【サービス部門】です。





#### サービス部門 【2010年度目標】売上高あたりのCO2排出量を2007年度比12.5%\*削減 \*\*2008年度に計画以上の改善が進んだため、目標を上方修正しました。

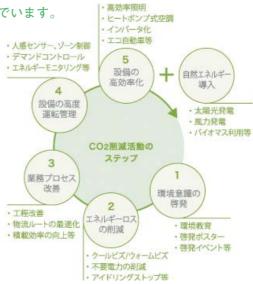
サービス部門では、大幅な事業の拡大、拠点数の増加を考慮し、取り組みの改善度を測る指標を「売上高あたりのCO2排出量」とし、 原単位での目標を設定しています。



#### 活動レベルを段階的に引き上げながら効率的にCO2削減に取り組んでいます。

事業活動プロセスにおけるCO2削減には、環境意識の啓発から、業務プロセスの改善、設備の高効率化、自然エネルギーの導入など、幅広い取り組みが必要です。当社グループでは、CO2削減活動を5+1のステップに分類、段階的に活動レベルを引き上げることで効率的なCO2削減活動を進めています。

以前より取り組みを進めてきた【事務・建設系部門】では、ステップ(3)~(5)を中心に、設備の高度運転管理や高効率化を進めています。一方、新たに活動を開始した【サービス部門】では、ステップ(1)~(3)を中心に、運用改善によるエネルギーロスの改善や業務プロセスの見直しを進めています。



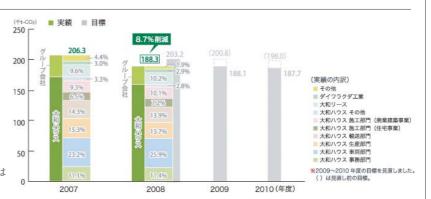
# 事業活動プロセスの取り組み

実績と自己評価グループ

#### 事務·建設系部門

事務・建設系部門の2008年度のCO2排出量は、188.3千t-CO2(2007年度比8.7%削減)となり、3ヵ年目標である4%削減を前倒しで達成することができました。これは、全国のオフィスに導入したモニタリングシステムを活用したエネルギーロスの削減や物流ルートの最適化、工場でのボイラー燃料の転換などの効果によるものです。

2008年度の実績を受け、2010年度の目標は2007年度比9%削減と上方修正しました。



#### サービス部門

サービス部門の2008年度の売上高あたり CO2排出量は、1,386kg-CO2/百万円(2007年度比11.9%削減)となり、3ヵ年目標である6%削減を前倒しで達成することができました。ホテルなどエネルギー多消費型の施設を中心に、老朽化設備の高効率化など、エネルギー削減とサービスの質の向上の両立を図る省エネ改修を進めた結果といえます。

2008年度の実績を受け、2010年度の目標は2007年度比12.5%削減と上方修正しました。



## COLUMN 自社施設への自然エネルギーの導入を進めています。

当社グループでは、グループをあげて地球に優しいクリーンエネルギーである風力発電・太陽光発電システムの自社施設への導入を推進しています。2000年、大型風力発電(600kW)の1号機を沖縄残波岬ロイヤルホテルに設置したのをはじめ、2005年には微風でも効率よく発電する10kW小型風力発電機「風流鯨(かぜながすくじら)」をメーカーと共同開発し、全国の工場やショッピングセンター、ホテルなどに設置を進めてきました。また、太陽光発電システムについても、新設のオフィスビルや工場で導入をすすめ、2008年度には、新しくオープンしたショッピングセンター「iias(イーアス)つくば「に27.98kWの太陽光発電システムを設置しました。

その結果、2009年3月末現在、風力発電・太陽光発電システム合わせて、約896kWの自然エネルギーが稼動しています。





沖縄残波岬ロイヤルホテル (大型風力発電機600kW)



りんくうプレジャータウン "シークル" (小型風力発電機10kW)



中部工場食堂棟 (太陽光発電システム30kW)



グループ

iias(イーアス)つくば (太陽光発電システム27.98kW)

ショッピングセンター「iias (イーアス) つくば」の詳細はこちら →P149

# 事務部門の取り組み

#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

大和ハウス

国内全事業所(本社(1)、支社・支店(81)、総合技術研究所(1))

※()内は2008年3月末現在の拠点数



#### 活動事例

#### ■エネルギードクターサービスを全国58事業所に導入

大和ハウス

エネルギードクターサービスは、省エネ診断から運用改善、設備改善までをトータルにサポートするサービスです。いわゆる省エネ提案との違いは、既存設備の細かな計測と実証に基づき、既存機器の効率的な使い方のアドバイスにより、徹底的な運用改善を図るところにあります。

当社では、2007年に本サービスを一部の事業所に導入、大きな改善効果がみられたため、2008年度は全国58事業所への導入を進めました。これにより、エネルギーの「見える化」ができ、徐々に運用改善の効果が出てきています。今後は、非効率的な設備について、順次、設備改善のステップへと進み、効果的かつ効率の良い省エネ対策を推進していきます。

#### 従来省エネのご提案



従来の省エネ提案と「エネルギードクターサービス」とのちがい



エネルギードクターサービスの「週間レポート | (イメージ図)

web 大和エネルギーのホームページ(エネルギードクターサービス) (http://www.daiwa-energy.com/endoc/index.html)

#### ■エネルギードクターサービスの活用で、CO2排出量を26.8%削減(青森支店)

大和ハウス

当社青森支店では、エネルギードクターサービスを導入し、事業所内のエリア別に消費エネルギーをモニタリングして「週間レポート」を作成し、無駄なエネルギー使用を把握、運用方法を見直すことで、電力、灯油、LPGの使用量削減につなげています。例えば、事務所のロックアウト\*\*や冬季20℃・夏季28℃の設定温度の徹底はもちろん、室内温度に応じて細かく空調稼働を制御することで、空調に使用しているLPG使用量を前年度比 14.8%削減することができました。また、駐車場の融雪に使っている灯油は、従来自動運転にしていましたが、積雪状況に応じた手動運転とすることで、灯油使用量を前年度比71.7%削減することができました。さらに、電力では、看板照明のタイマー設定時間の短縮、通路照明の間引きなどにより、電力使用量を前年度比13.0%削減することができました。これらの結果、当支店の年間 $CO_2$ 排出量は、前年度比26.8%削減となりました。

※ロックアウト:事務所への入館時刻を7時30分以降にし、退館時刻を21時に設定

# 事務部門の取り組み

# ■真夏及び真冬を除く中間期の外気導入により、電力使用量を11.7%削減(滋賀支店)

大和ハウス

当社滋賀支店では、中間期の外気導入により、空調運転時間を削減、電力使用量を前年度比11.7%削減することができました。原則として、真夏及び真冬を除いては外気導入により気温の調節と換気を行うとともに、冬季好天時はブラインドを開けて太陽光を取り込むなど、運用上の工夫を徹底しています。クールビズ・ウォームビズに正面から取り組むようになってから、特に中間期に大きな成果が現れてきました。

#### 今後の取り組み

今年度、全国事業所に導入した「エネルギードクターサービス」を活用し、運用改善や設備改善を推進します。各事業所で効果の出ている運用上の工夫(ノウハウ)を集約し、事業所に水平展開することで、全社的な省エネ活動をより堅実なものとし、使用エネルギーの削減をさらに進めるとともに、次ステップとして、事務所の省エネ診断を通じた設備改修などに取り組みます。また、新築事務所については、建物の設計段階からCASBEE\*を活用し、省エネや環境配慮を推進していきます。

※CASBEE:建築物総合環境性能評価システム



経営管理本部 プロパティマネジメント室 室長 岩本 富男

# 車両部門の取り組み

#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

大和ハウス

社用車十マイカー 1種許可車※

**※マイカー1種許可車:**自家用車を常時業務用に使用することを許可された車両(通勤分を含む)



#### 活動事例

#### ■「エコ自動車手当」制度の導入による燃費の良い車両の使用促進

【大和ハウス

当社では、車両によるCO2排出量の削減を促進させるために、2008年度より、燃費のよい車両を使用している社員に対して、燃費に応じて手当を割り増しして支給する「エコ自動車手当」制度を導入しました。当制度の該当車は、2009年3月現在、743台です。

今後、当制度を普及させるために、引き続き社員への啓発を行い、CO2排出量削減に努めます。



「エコ自動車手当」制度を使用している社員(横浜支店)

#### ■ノーマイカーデーの導入によるCO2排出量削減(武蔵野支店)

大和ハウス

当社武蔵野支店では、営業日の異なる課ごとに週1回のノーマイカーデーを設定し、該当する従業員は電車・バス等の $CO_2$ 排出量の少ない公共交通機関を利用することで、通勤及び業務中の移動における $CO_2$ 排出量削減に取り組んでいます。これにより、2008年度7月~9月のガソリン使用量は支店平均で4.4%削減することができました。

#### 今後の取り組み

2009年度は年3~4回発行している「安全運転だより」を通じて、「エコ自動車手当」の活用を呼びかけるとともに、ハイブリッド車等のマイカーリースを斡旋することで、「エコ自動車手当」の対象車両台数の増加を図ります。

また、社用車についてもより環境にやさしい車両の導入を促進します。

さらに社内のネットワークシステムを整備し、ガソリン使用量の「見える化」を行い、車両運行におけるガソリンの適正使用を促すとともに、事業所間での比較を可能とすることでエコドライブ意識の向上を図り、ガソリン使用量の削減に努めます。



経営管理本部 総務部 部長 君島 道明

# 生産部門の取り組み

#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

国内生産拠点(全11工場)

大和ハウス



#### 活動事例

#### ■「照度の見える化」による工場内水銀灯の電力使用量削減(奈良工場)

大和ハウス

大和ハウス

当社奈良工場では工場棟内の天井照明(水銀灯)の消灯を作業者の感覚に任せていた為、日中明るい時でも常時点灯している傾向にありました。そこで、工場棟内の「照度の見える化」の1つとして電光掲示型の照度表示板を設置しました。

照度70lx以下で、各エリアの照明管理者が照明のスイッチを入れるようにしました。

改善後の期待効果として、電力使用量 20,832kW h/年削減、CO<sub>2</sub>排出量8,541kg-CO<sub>2</sub>/年 削減でき、他の工場へも水平展開しています。



電光掲示型の照度表示板



照明のエリア管理マップ

#### ■電着塗装ラインの燃料のLPG化 (栃木二宮工場)

当社栃木二宮工場では、環境省の「自主参加型国内排出量取引制度」\*\*に参加し、国とCO2の排出削減[ベンチマーク(2004~2006年度の平均値)比の10%削減]を約束し、工場全体で取り組みを進めてきました。

2008年度は、電着塗装ラインのボイラーと乾燥炉の燃焼設備を更新するにあたり、燃料を現在使用しているA重油と灯油に代えて、環境負荷(CO2排出量)の少ないLPGを採用しました。その結果、CO2排出量を146t-CO2/年削減できました。



LPGタンク



電着塗装ラインのボイラー

※「自主参加型国内排出量取引制度」:温室効果ガスの排出削減に自主的・積極的に取り組もうとする事業者が、一定量の排出削減を約束、その約束達成に排出量の取引という柔軟措置の活用を可能にしたもの

# 生産部門の取り組み

#### 今後の取り組み

2008年度、九州工場で導入したエネルギー監視システム、奈良工場で導入した「照度の見える化」システムを他の工場へ展開していきます。また、2008年度から継続している工場改善事例の水平展開や、生産ラインの手元照明化(LED等の高効率照明を導入)も実施していきます。それ以外でも、岡山工場の排水処理装置を省エネ型へ切り替えることでCO2排出量を削減していきます。

2009年度は、特にエネルギー監視システム導入によりエネルギー消費における問題点を発掘し改善を進めていきます。



工場環境推進部 主任 船田 陽一

#### COLUMN 環境省「自主参加型国内排出量取引制度 |※に参加

大和ハウス

当社では、排出量取引に関する知見と経験の蓄積を目的として、環境省の「自主参加型国内排出量取引制度」に積極的に参加しています。また、温室効果ガスの算定についても、第三者機関の検証を受けることで、より信頼性の高い排出量の把握を目指しています。 2007年度は栃木二宮工場と三重工場、2008年度は奈良工場と九州工場の計4工場が本制度の採択を受けました。また、今年度検証予定の栃木二宮工場、三重工場とも目標年度排出量を達成する予定です。(2009.5末時点)

	採択時期	基準年度 排出量	目標年度 排出量	削減 予測量	削減率	実績値	削減率	
栃木二宮工場	2007年5月	5,385t-CO <sub>2</sub> (2004 ~ 2006年度の平均値)	4,811t-CO <sub>2</sub> (2008年度)	574t-CO <sub>2</sub>	10.7%	4,807t-CO <sub>2</sub>	10.7%	環境省による審査中 2009年5月末時点
三重工場	2007年5月	3,767t-CO <sub>2</sub> (2004 ~ 2006年度の平均値)	3,575t-CO <sub>2</sub> (2008年度)	192t-CO <sub>2</sub>	5.0%	3,274t-CO <sub>2</sub>	13.1%	環境省による審査中 2009年5月末時点
奈良工場	2008年5月	3,475t-CO <sub>2</sub> (2005 ~ 2007年度の平均値)	3,345t-CO <sub>2</sub> (2009年度)	130t-CO <sub>2</sub>	3.7%			
九州工場	2008年5月	3,696t-CO <sub>2</sub> (2005 ~ 2007年度の平均値)	3,413t-CO <sub>2</sub> (2009年度)	283t-CO <sub>2</sub>	7.7%			

※本制度は、温室効果ガスの排出削減に自主的・積極的に取り組もうとする事業者が、一定量の排出削減を約束、その約束達成に 排出量の取引という柔軟措置の活用を可能にしたもの。

#### VOICE 担当者の声

「自主参加型排出量取引制度」に参加することにより、この制度で要求されているエネルギーの管理方法および管理体制について、これまでのやり方を見直して改善を行いました。このことにより、エネルギー管理のレベルアップを図ることができました。

今後も、目標達成に向けて全員参加で着実にエネルギー削減活動に取り組んでいきます。



九州工場 システム管理課 課長 北村 秋広

奈良工場は、自主参加型国内排出量取引制度(目標保有参加者タイプB)に参加し、 基準年度(2005~2007年度)の3.7%(130 t)を削減目標としています。

2008年度はこの目標の達成を目指して、工場照明の電力使用量低減など知恵と工夫を凝らした数々の対策を試みていきます。



奈良工場 システム管理課 主任 林 浩之

# 輸送部門の取り組み

#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

大和ハウス

工場~各施工現場、工場~工場間における建設資材・廃棄物の輸送



#### 活動事例

#### ■工場出荷エリアの見直し

大和ハウス

2008年度も前年度に引き続き出荷物流の効率化を図るために、全国の各工場出荷エリアの見直しに取り組みました。これまで兵庫県西部(姫路支店エリア)へは奈良工場(奈良県)から出荷していましたが、これを岡山工場(岡山県)で生産し出荷することで、輸送距離を短縮し、CO2排出量30t/年の削減を図りました。

これにより、姫路エリアへの出荷に伴うCO2排出量は、2007年度比11.5%の削減となりました。

今後も、全国住宅系8工場での最適な生産・物流体制を構築し、輸送時の環境負荷低減への取り組みを、さらに進めていきます。

■工場出荷エリアの見直し



■ 出荷エリア見直しによるCO2排出量削減効果(姫路エリア)



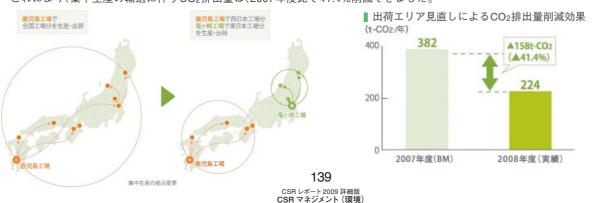
#### ■集中生産の拠点と出荷エリアの見直し

大和ハウス

当社では、各地の工場で使用する部材を安定供給するために、特定の部材について自工場の一つで集中生産し、配送する体制をとっています。

これまで全国の工場で使用する部材すべてを鹿児島工場(鹿児島県)で生産・出荷していましたが、竜ヶ崎工場(茨城県)でも生産できる体制を整備し、出荷工場を東日本と西日本に分けて輸送距離を短縮することでCO2排出量158t-CO2/年の削減を図りました。

これにより、集中生産の輸送に伴うCO2排出量は、2007年度比で41.4%削減できました。



# 輸送部門の取り組み

#### ■モーダルシフトの取り組み

グループ

2007年度まで調達物流における共同輸送の一部ルートにおいて、船舶輸送へのモーダルシフトを実施していました。さらに2008年度には、集中生産部材の生産拠点である鹿児島工場(鹿児島県)から岡山工場(岡山県)へのルートについても、これまでのトラック便での輸送から、コンテナを利用した鉄道輸送に切り替えて、CO2排出量を69t-CO2/年(2007年度比44.5%)削減しました。

今後もさらにルートの見直し、輸送距離削減に加え、モーダルシフトによるCO2排出量削減についても積極的に取り組んでいきます。

#### ■トラック輸送からコンテナを利用した鉄道輸送へ転換



コンテナへの積込み



コンテナで鉄道へ

# モーダルシフトによるCO2排出量削減効果 (鹿児島〜岡山工場間) (t-CO2/年) 200 155 100 – 469t-CO2 (▲44.5%)

2007年度(BM)

## ■エコドライブ活動と低燃費車両の導入

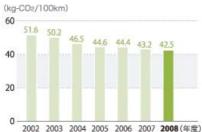
グループ会社

大和ハウスグループの物流を担当する大和物流(株)では、各工場から施工現場へ出荷する車両について、2003年6月より「エコドライブ」活動を推進しています。エコドライブとは、環境負荷の低減だけでなく、安全性と経済性の向上も実現する運転方法で、自社ドライバーだけでなく協力会社のドライバーも対象に講習を実施しています。

この結果、全工場における出荷車両の平均燃 費は2007年度比1.6%向上(エコドライブ講習開 始前の2002年度比では21.2%向上)しました。

また、アイドリングストップ車両や、新長期規制をクリアした車両などについても積極的に導入しており、今後も運転技術の向上を図るとともに、車両性能の向上も合わせて実施し、環境負荷低減を推進していきます。

#### ■ CO₂排出量(走行距離100kmあたり)





2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 (年度)

2008年度(実績)

■ 燃費向上率(全国工場平均)

#### 今後の取り組み

2008年度に着手した工場出荷エリアの見直しや、集中生産工場の出荷エリア変更とモーダルシフトについては継続して運用します。また、廃棄物処理のための回収巡回便の効率向上や、廃棄物委託先の見直しなどによる輸送距離削減の取り組みについても全国で引き続き取り組んでいく計画です。

さらに出荷製品の荷姿を見直し、積載効率を上げて出荷車両台数を削減し、CO2排出量の削減を進めていきます。

生産改革推進部 主任技術者 尾崎 学



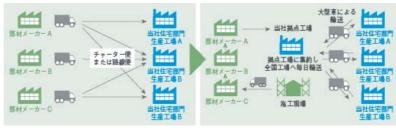
#### COLUMN 共同輸送の取り組み

グループ

当社グループの大和物流(株)と共同で、従来各メーカーから個別に当社の各工場へ運んでいた部材・建材を、巡回トラック、または各工場から施工現場へ出荷・納品を終えた帰りの空きトラックを利用して拠点工場(物流センター)まで引き取り、その後大型トラックに積み合わせをして全国工場へ配送しています。

その結果、2008年度は共同輸送の実施前(1997年度)に比べて、車両台数を53%削減し、調達物流によるCO2排出量を58%削減することができました。

#### 共同輸送の仕組み



共同輸送 実施前

共同輸送 実施後

# 施工部門(住宅事業・商業建築事業)の取り組み

#### [住宅事業]

#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

住宅事業新築現場(戸建住宅・賃貸住宅) (2008年度:272万m<sup>2</sup>)

大和ハウス



#### 「商業建築事業]

#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

商業建築事業新築現場(商業施設・一般建築) (2008年度:198万m²)

大和ハウス



#### 活動事例

#### ■現場事務所における太陽光発電の利用(商業建築事業)

大和ハウス

2008年度は、当社姫路支店のモデル現場において、現場事務所の電源として太陽光発電を利用する実証実験に取り組みました。太陽電池パネル6枚に充放電コントローラー、バッテリー、DC/ACコンバーターを組み合わせ、13m2程度の現場事務所の屋根上に取り付け、室内照明・エアコン・複写機などの電力として使用しました。これにより、年間のCO2排出量のうち、542kg-CO2が削減できたことになります。



現場事務所に設置された 太陽光発電パネル

#### 今後の取り組み

#### [住宅事業]

主な施策である一日建方の実施率は前年度比で悪化したため、今後は一日建方実施率の向上と重機のアイドリングストップの徹底に加え、現場事務所への太陽光発電設置を近畿地区で試行する等、具体的なCO2の削減策を明確にし活動していきます。



設計施工推進部 次長 大島 広志

#### 「商業建築事業」

全現場においてバックホーなどのエコ運転を実施するため、建設機械のエコ運転講習会等の受講を推進していきます。また、モデル現場においては太陽光発電付現場事務所(ソーラーハウス)の設置を推進することでCO2排出量を削減していきます。



設計施工推進部 部長 岩本 佳樹

# グループ会社の取り組み

#### 「大和リース]

#### 対象範囲:[大和リース]

事務: 国内事業所(本社(1),本店・支店(25),営業所(28),出張所(7))

車両: 社用車

生産・保管:デポ(8)・デポ工場(6)

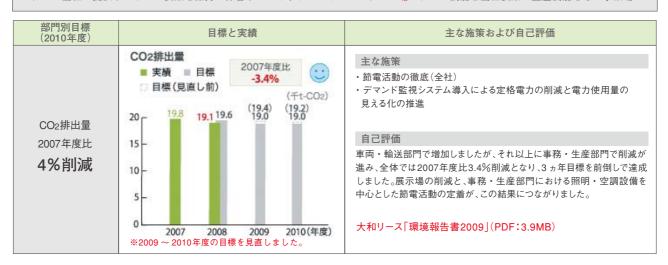
輸送:デポ・デポ工場~施工現場、デポ・デポ工場~デポ・デポ工場間における建設資材の出荷・回収

施工:仮設建築・集合住宅・一般建築の新築現場、仮設建築物(リース)の解体現場

※デポ:当社が提供するリース製品を維持・保管するストックヤード
※デポ工場:デポの機能と当社製品の生産機能をもつ事業場

グループ会社

グループ会社



#### 「ダイワラクダ工業】

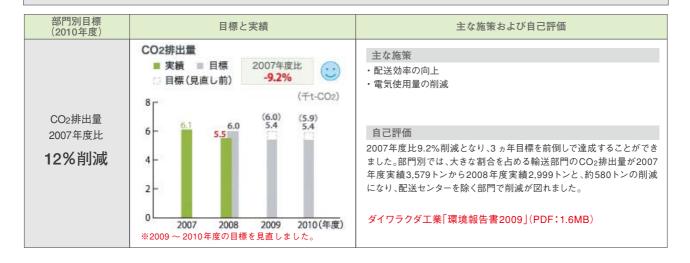
#### 対象範囲:[ダイワラクダ工業]

事務: 国内事業所(本店・支店(12),営業所(18),出張所(3))

車両:社用車 生産:全2工場

輸送:工場~配送センター間、配送センター~施工現場における建設資材の出荷・回収

配送センター:全12配送センター



# グループ会社の取り組み

#### 活動事例

#### ■(生産部門)電力のデマンド管理によるCO2排出量の削減(大和リース)

グループ会社

2007年度比で19%削減、目標を達成できました。

これは、生産量の減少も要因の一つですが、照明・空調設備を中心とした節電活動が定着した結果といえます。特に、専門業者による最大需要電力(デマンド)監視システムを導入したデポ工場・デポ\*は、各拠点で目標デマンド値を設定して、超過の可能性がある場合は、瞬時に専門業者から情報を得て、あらかじめ決めておいた照明・空調等を停止するといったデマンド管理を徹底し、電力使用量とコスト削減の両立を図っています。

※デポ:当社が提供するリース製品を維持・保管するストックヤード

※デポ工場:デポの機能と当社製品の生産機能をもつ事業場

#### ■(輸送部門)配送効率の向上によるCO2排出量の削減(ダイワラクダ工業)

グループ会社

当社では、納品先ごとに納品曜日を固定することで無駄な配送をなくしたり、同じ方面への出荷を他の部材と混載にすることで配送 効率を高める取り組みを進めています。

また、同じ方面への出荷であっても同じ日時で納品が指定され、やむを得ず2台に分けて配送していたものを、納品時間を調整することで1台での配送に変更するなど、配送効率を向上させる工夫を重ねています。

その結果、輸送部門のCO2排出量は、2007年度実績3.579トンから2008年度実績2.999トンと、約580トンの削減になりました。

今後も引き続き部材の混載を増やし、配送効率を向上させることでCO2排出量の削減につなげていきます。

#### ■(生産部門)電気使用量の削減(ダイワラクダ工業)

グループ会社

当社三重工場では、照度が基準以下になると照明が自動的に点灯する照度感知自動点滅器を導入し、無駄な照明電力の削減に取り組んでいます。



照度感知自動点滅器



場内での未使用箇所の消灯徹底

#### 今後の取り組み

#### [大和リース]

今後も引き続き節電活動を実施するとともに、工場を中心としたデマンド監視システム活用による定格電力の削減と電力使用量の見える化の推進(本店・支店(5)、デポ工場、・デポ(8))を行っていきます。

また、高効率照明設備を積極的に導入していきます。増加している車両・物流・施工については、それぞれ(1)社員向け低燃費車の導入促進 (2)積載効率向上による出荷、入荷台数の削減 (3)建設機械・重機の効率的運転による工期短縮を図り、全部門でのCO2排出量の削減に取り組みます。

#### [ダイワラクダ工業]

今後は、配送効率の向上、照明ゾーニングによる未使用箇所の消灯徹底、照明装置の改善を継続するとともに、新たな施策に取り組みます。事務部門においては、19時以降に消灯する「ライトダウンの日」を月1回設けて夜間の電気使用を削減します。車両部門においては、今後の社用車導入の際は環境負荷の少ない車種を選定していきます。また、輸送部門においてはモーダルシフトへの取り組みを検討していきます。

大和リース(株) 環境・ISO推進部 部長 岡野 純



ダイワラクダ工業(株) 生産部 ■

上库部 山下 文生

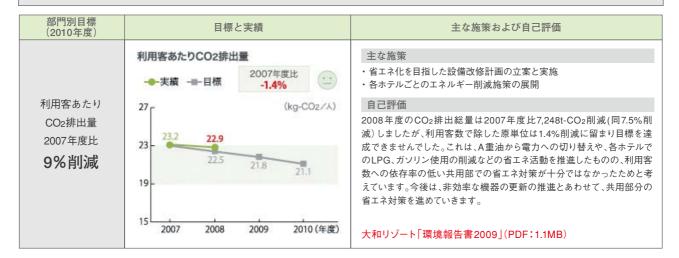


# リゾート・スポーツ施設の取り組み

#### 対象範囲:[大和リゾート、大和ハウス工業]

グループ会社

全31ホテル(ダイワロイヤルホテルズ(27), その他の運営ホテル(4))



#### 対象範囲:[ダイワロイヤルゴルフ]

全10ゴルフ場

グループ会社

部門別目標 (2010年度)	目標と実績		主な施策および自己評価
利用客あたり CO2排出量 2007年度比 <b>9%削減</b>	利用客あたりCO2排出量 - 実績 - 目標 2007年 -2.76 15 13 12.8 11 - 12.8		主な施策 ・老朽化した空調設備の省エネタイプへの更新 ・電灯スイッチゾーンの見える化 自己評価 利用客1人あたりCO2排出量は2007年度比2.7%削減できましたが、目標の3%削減には達しませんでした。これはタートルエースゴルフ倶楽部を中心に省エネ活動推進を進めましたが、他のゴルフ場への水平展開が不十分であったためと考えています。
	2007 2008 2009	2010 (年度)	ダイワロイヤルゴルフ「環境報告書2009」(PDF:0.8MB)

#### 対象範囲:[日本体育施設運営]

全スポーツクラブ(45店舗)

グループ会社



# リゾート:スポーツ施設の取り組み

#### 活動事例

#### ■冷温水発生機を台数制御方式へ更新(大和リゾート)

グループ会社

リゾートホテルでは、空調に多くのエネルギーを使っています。当社が運営するリゾートホテルの多くは、空調熱源として、夏は冷水を冬には温水を用いており、その冷温水発生機には従来重油を使用し、大型のものを利用していました。これを順次電力を使ったモジュラーチラータイプへの切り替えを実施しています。これは大きな能力を一つの機械でまかなうのではなく、いくつかの小さな機械を並べて負荷に応じて運転台数を制御できるものです。2007年度橿原ロイヤルホテルで実施したのをはじめとして、2008年度は、伊勢志摩ロイヤルホテル、能登ロイヤルホテル、浜名湖ロイヤルホテルの3ホテルで更新を実施しました。



モジュラータイプの空冷ヒートポンプ チラー(浜名湖口イヤルホテル)

#### ■電灯スイッチゾーニングの「見える化 | (ダイワロイヤルゴルフ)

グループ会社

当社が運営するタートルエースゴルフ倶楽部では、まず従業員一人一人の省エネ意識を 高めようと、電灯スイッチゾーニングの「見える化」を行い、照明の無駄な点灯を徹底的に 削減しました。電灯スイッチゾーニングの「見える化」を行うことで、事務所にいる誰でも 気がついた人が活動を行いやすくなり、消費電力を年間3,472kWh、約5%削減することが できました。



電灯スイッチゾーニングの「見える化」の 一例

#### 今後の取り組み

#### [大和リゾート]

空調熱源として、2007年度から行ってきたモジュラーチラータイプへの切り替えを継続的に実施していきます。今年度の計画としては、大山ロイヤルホテル・富浦ロイヤルホテル・砺波ロイヤルホテルなど、更新した場合の省エネルギー効果の高い7ホテルで導入を計画しています。これらの年間の省エネルギー効果はCO2換算で、約4,000トン/年以上と推定しています。その他、設備機器更新の際には省エネルギータイプへの転換を図るとともに、継続的に重油、ガソリンなどのホテルでの消費量を削減するよう推進していきます。

大和リゾート(株) 施設部 次長 吉川 祐三



#### [ダイワロイヤルゴルフ]

今回タートルエースゴルフ倶楽部で行った取り組みの一つである電灯スイッチゾーニングの「見える化」を全国のゴルフ場に水平展開し、電力量の削減を図ると共に、事務所、キャディ室、コース管理棟の電灯・クーラー等の運転時間を決めて、不要時間帯での運転を控える活動を行っていきます。

ダイワロイヤルゴルフ(株) タートルエース

ゴルフ倶楽部課長 嶋田 敬二



#### [日本体育施設運営]

今後は、既存店での省エネ改善を進めるとともに、新規出店時には建設段階から省エネ対応への配慮に努めます。

日本体育施設運営(株) 開発部

開発部 マネージャー 赤星 克比古

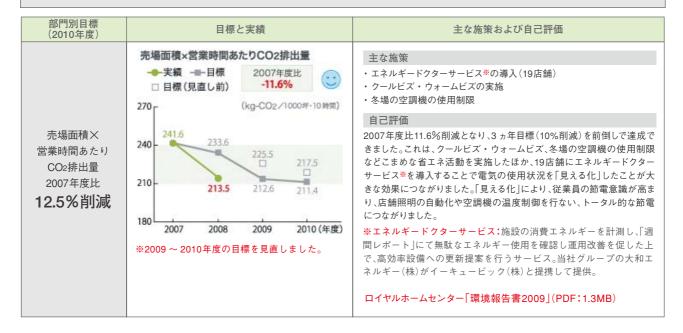


# ホームセンターの取り組み

#### 対象範囲:[ロイヤルホームセンター]

グループ会社

全国のロイヤルホームセンター(47店舗) ※2009年3月末現在



#### 活動事例

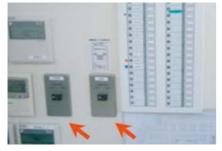
#### ■エネルギードクターサービスの導入

グループ会社

店舗における電気使用量は、照明と空調が大半を占めます。そのエネルギーを無駄なく使うために19の店舗にエネルギードクターサービスを導入しました。

このシステムにより、照明は開店前と閉店後を自動ON/OFF し、消し忘れや準備灯以外の点灯などの無駄を防止。また、空調機は店内の人の居る高さに温度センサーを4箇所取り付け、より正確な室温検知を行い、温度の制御をするとともに、店舗の部位別の使用状況をパソコンで「見える化」を行い、従業員の意識改善につなげています。

このようなシステムの導入により、ホームセンター全体で、電気使用量を1,507,520kWh 3.4%削減することができ、目標達成に大きく貢献しました。



冷房/暖房切替スイッチ (空調機のリモコン付近に設置)



温度センサー(店内主要箇所に設置)

#### 今後の取り組み

2008年度にエネルギードクターサービスを導入した19店舗については導入したシステムの効果検証を引き続き行うとともに、新たに7店舗で最新の「見える化 | システムの導入を計画しています。

ロイヤルホームセンター(株) 店舗開発部 施設・営繕課 大瀧 圭介

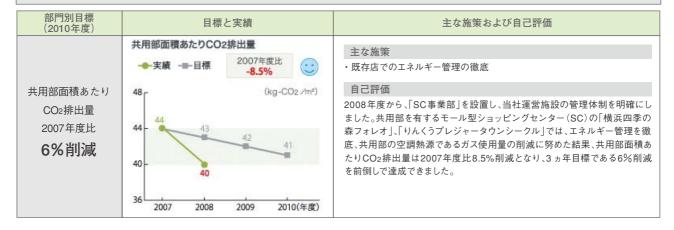


#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

モール型ショッピングセンター(2ヶ所)

横浜四季の森フォレオ、りんくうプレジャータウン シークル

大和ハウス



#### 対象範囲:[ダイワロイヤル]

グループ会社

モール型ショッピングセンター(5ヶ所)

サザンモールセカンドストリート、ボックスタウン箱崎、グランパレッタ熊本、ステップガーデン藤原台、モンディグレ

部門別目標 (2010年度)	目標と実績	主な施策および自己評価
共用部面積あたり CO2排出量 2007年度比 6%削減	あたりCO2排出量 2007年度比 -7.7% (kg-CO2 /m²) 53.1 51.1 50.9 50 2008 2009 2010(年度)	主な施策 ・ 薄暮時の外灯の点灯方式・時間の見直し ・ 照明器具更新時に省エネタイプを採用 自己評価 商業施設全体の共用部面積あたりCO2排出量は、2007年度比7.7%削減となり、3ヵ年の目標を前倒しで達成できました。しかし、今年度の結果は、テナントの入替えに伴う営業時間の短縮が要因の一つと考えられるため、2009年度以降の目標は据え置くものとしました。 2009年度は各施設ごとに推進体制を明確化し、より積極的に省エネ活動を行っていきます。また、取り組んだ内容が各施設管理者に水平展開できるような仕組みづくりに取り組む計画です。 ダイワロイヤル「環境報告書2009   (PDF: 1.2MB)

#### 対象範囲:「大和情報サービス]

グループ会社

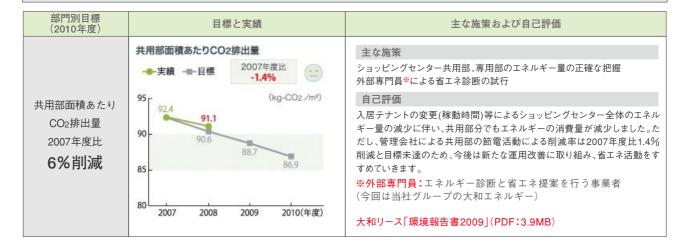
モール型ショッピングセンター(5ヶ所)

沖縄アウトレットモールあしびなー、湘南モールフィル、アクロスモール新鎌ヶ谷、アクロスモール八王子みなみ野、アクロスモール守谷



#### 対象範囲: 「大和リース]

モール型ショッピングセンター(4ヶ所) BiVi沼津、BiVi二条、BiVi福岡、ジョイフルタウン鳥栖 グループ会社



#### 活動事例

#### ■風力発電機(10kW)の設置 ~りんくうプレジャータウンシークル~(大和ハウス)

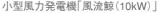
大和ハウス

2007年にオープンした、りんくうプレジャータウンシークル(泉佐野市)では、地球環境にやさしい施設づくりを心掛けました。施設 を開発するにあたっては、海岸沿いという比較的風が強い立地特性を活かし、当社グループの大和エネルギーがメーカーと共同開発

した10kW小型風力発電機「風流鯨(かぜながすくじ ら)」を駐車場の一角に設置しました。(2008年度の 年間発電量は約 1,600kWh)

現在、施設のシンボルとして、ゆるやかにその羽根 を回し、施設で使用する電力の一部を賄っていま す。また、足元に設置された表示パネルには、現在の 風速、発電電力量を表示し、訪れたお客様に自然エ ネルギーの効果を実感していただいています。







風速、発電電力量の表示パネル

#### ■地中熱を利用した空調換気システムを導入 ~ iias(イーアス)札幌~(大和ハウス)

外気 (屋外より)

2008年11月にオープンした「iias (イーアス) 札幌 | (札幌市) では、環境配慮をコンセプトに、カルチャー、趣味、雑貨、ファション等の 店舗を集めたAタウン、スーパーなどのデイリー性の高い店舗や、フィットネスクラブ、飲食店等を集めたBタウンで施設が構成され ています。全熱交換器を全館に採用するほか、Aタウンに「クール/ヒートチューブ」、Bタウンに「地中熱利用ヒートポンプ冷暖房設備」 を導入し、館内の空調に利用することで熱源負荷の低減を図っています。

「クール/ヒートチューブ」とは、 地中に設けた"トンネル"のこと で、地中内温度が外気と比べ年間 を通じて安定しているという特 性を活かし、外気の予冷・予暖に 利用します。一方、「地中熱利用 ヒートポンプ冷暖房設備 は、冷 媒の吸放熱に温度の安定してい る地中を利用した空調設備です。

これらの導入により、一般的な 商業施設に比べ、年間260トンの CO2排出量の削減を計画してい ます。

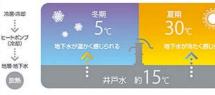


iias(イーアス)札幌の外観

#### ■地中熱利用ヒートポンプ冷暖房設備







#### 活動事例

#### ■太陽光発電システムの導入 ~ iias(イーアス)つくば~(大和ハウス)

大和ハウス

2008年10月にオープンした「iias (イーアス) つくば」(つくば市) では、南側大型ルーバー上部のガラス一体型タイプと、アウトモール棟屋上のパネルタイプ、2種類の太陽光発電装置を導入、年間24,000kWhの電力を発電し、CO2排出量の削減に貢献しています。また、敷地南西角に建つエコハイブリッドタワー(太陽光発電&風力発電)は、降り注ぐ太陽の光と吹き渡る風の力を活かして電力を生み出しています。これにより年間約460,000kWhの電気使用量、188tのCO2排出量の削減を図っています。

さらに、夜の間に氷を蓄えておき昼間の冷房に使う、「氷蓄熱冷房システム」を採用 し、昼間の空調負荷を夜間電力を利用した蓄熱でまかなうことで電力の平準化を図っ ています。



iias(イーアス)つくばの外観







パネルタイプの太陽光発電と屋上緑化



エコハイブリッドタワー

#### ■照明点灯時間の見直し(大和情報サービス)

グループ会社

2008年度は電力で前年度比 6%削減をすることができました。これは当社が運営する5つの商業施設すべてにおいて、照明点灯時間の見直しを行った結果です。照明を点灯する時間を細かく設定し、無駄な範囲のOFF、開業時間5分前に点灯する箇所、全消灯・半消灯・全灯の3段階を工夫することでエネルギー消費を抑えることができました。

今後も運用を工夫することで、無駄な点灯を抑える改善を継続していきたいと考えます。

#### ■共用部空調サーモスタットによる室温設定の変更 〜湘南モールフィル〜(大和情報サービス) グループ会社

当社が運営する「湘南モールフィル」(藤沢市)では、共用部の空調システムの改善として、温度設定をより細やかに調節可能とするために共用部複数箇所のサーモスタット\*での室温設定に変更しました。その結果、空調エネルギーの無駄な使用を避けることができ、年間CO2排出量を2.5%削減できました。

※サーモスタット:一定温度を保つための自動温度調節装置

#### ■自動販売機の省電カタイプへの切り替え(大和情報サービス)

グループ会社

当社が運営するモール型ショッピングセンター(5ヶ所)の自動販売機について、調光機能および冷却運転制御機能、ピークカット機能がついた省電力タイプのものに切り替えました。さらに、バックヤードに設置した自動販売機の照明ライトの完全OFF、省エネ仕様になっていない機器の変更を実施することで効果が得られました。今後も、照明点灯時間の細かい調整と機器の入れ替え時期を管理して古い機器の交換を実施していきたいと考えます。



省電力タイプの自動販売機

#### 今後の取り組み

#### [大和ハウス]

2009年度からは、昨年オープンした「iias (イーアス) つくば」、「iias (イーアス) 札幌」、「フォレオ大津一里山」、「クイズモール博多」の4施設も含めて、計6ヶ所の自社運営ショッピングセンターでエネルギー管理を実施していくことになります。一部新規の施設に関しては、太陽光発電システム、クール/ヒートチューブ、地中熱利用ヒートポンプ冷暖房設備等、施設建設時から省CO2に配慮した設備を導入していますが、改めて施設における設備機器の使用状況を把握し、それぞれの施設の規模に応じたエネルギー管理方針を定め、CO2排出の削減とコスト削減に取り組みます。

大和ハウス工業(株) 営業本部 SC事業部 事業部長 高柳春介



#### [大和情報サービス]

今後は、照明、空調、水関係の身近な省エネ活動を継続して行うと共に、最適な省エネシステムの導入も検討、実施を進めていきます。また、運営面での組織的な管理体制を確立し、継続的なCO2削減活動の定着を図ります。

大和情報サービス(株) 施設管理本部 環境部 部長 犬伏 孝司



#### [ダイワロイヤル]

今後は、管理会社との連携を強化し、ダイワロイヤル主導で管理基準を作成し展開していく計画です。特に、オープン前30分、閉店後30分の点灯方式、空調の温度設定及び営業時間に合わせた運転方式、外灯の点灯時間と点灯方式のルールなど、基準を明確化して取り組みを強化します。

中長期にわたっては、エネルギーコスト、メンテナンスコスト、CO2排出量を含め総合的な比較検討を行い、空調機や外灯の機器の改善を行っていきます。

ダイワロイヤル(株) 不動産事業部 施設部 部長 長瀬 金次



#### 「大和リース]

外部専門員による省エネ診断の内容を活用して、テナント様への改正省エネルギー対応及び省エネ意識の啓発を推進し、共用部照明器具の不要時消灯、節電型自動販売機への交換、省エネ型ランプへの交換、街灯・看板照明の高効率化等、具体的な運用改善による省エネ活動を実践していきます。

大和リース(株) 環境・ISO推進部 部長 岡野 純



# 都市型ホテルの取り組み

#### 対象範囲:[ダイワロイヤル]

全ダイワロイネットホテル(9ヶ所)

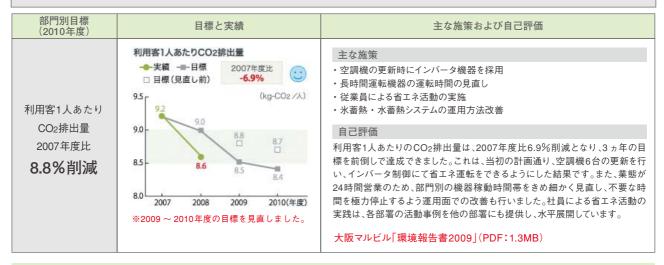
グループ会社



#### 対象範囲:[大阪マルビル]

ホテル部門、宴会・レストラン部門

「グループ会社



#### 活動事例

#### ■社員による省エネ活動「チーム・大阪マルビル マイナス6%」(大阪マルビル)

グループ会社

当社では、2008年4月に社内で「チーム・大阪マルビルマイナス6%」を結成し、5月から部署ごとに省エネ活動の立案と実践に取り組みました。省エネ活動の立案にあたっては、部署ごとに実施する活動による省エネ効果をあらかじめ試算し、効果の高そうな活動39項目(年間約48 t -CO2削減)を抽出しました。活動の実施後は、効果を「見える化」し、共有することによって、従業員一人一人の省エネ意識も高まり、「湯沸室に設置している電気温水器をクールビズ期間中は電源OFFにしよう」という提案等が出るようになりました。

またホテル部門では、従来、お客さまのチェックアウト後、客室の照明器具を9時半から清掃終了時まで、平均約4時間点灯していましたが、2008年度から清掃時の20分のみ点灯することにした結果、照明電力の削減に大きな効果が出ています。

#### 今後の取り組み

#### [ダイワロイヤル]

今後は、照明(サイン・廊下・フロント)の点灯時間・共用空調の温度設定等の見直し、不必要な空調のOFF、ブラインドを利用した昼光利用に取り組んでいきます。そして、各ホテル従業員の省エネへの取り組み意識の向上を図り、一人一人が計画を立てて省エネ活動に参加できるようにしていきたいと考えます。

中長期的には、機器更新時の省エネ機器の選定、LED照明の検討を始め成功事例を他のホテルに水平展開できる仕組みを作っていきます。

ダイワロイヤル(株) 不動産事業部 施設部 部長 長瀬 金次



#### [大阪マルビル]

2009年度も5台の空調機器の省エネ機器への更新を計画しています。また、「チーム・大阪マルビル マイナス6%」の活動も5名の新メンバーを加え、2008年度の実践項目を継続するとともに、「もったいない」の考えで行う4R\*活動、新規省エネ実践項目に取り組んでいきます。いずれも継続しないと効果は得られないため、定期的に委員会を開催して効果の確認を行う予定です。

また、省エネ型照明器具についても、省エネ効果の大きい照明器具への変更、内照式看板の省エネ化などを検討していきます。

※4R: Reduce(低減)、 Reuse(再使用)、 Recycle(再資源化)、 Refuse(断る)

(株)大阪マルビル 管理部管理課 部長付 松永 俊夫



# 物流サービスの取り組み

#### 対象範囲:[大和物流]

物流業務における全輸送

グループ会社



#### 活動事例

#### ■エコドライブ活動と低燃費車両の導入(大和物流)

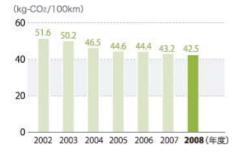
グループ会社

当社では、2003年6月より「エコドライブ」活動を推進しています。エコドライブとは、環境負荷の低減だけでなく、安全性と経済性の向上も実現する運転方法で、自社ドライバーだけでなく協力会社ドライバーも対象に加え、講習を実施しています。

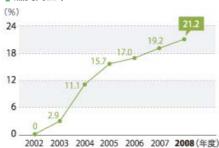
この結果、出荷車両の平均燃費は2007年度比1.6%向上(エコドライブ講習開始前の2002年度比では21.2%向上)しています。

また、アイドリングストップ車両や、新長期規制をクリアした車両などについても積極的に導入しており、今後も運転技術の向上とともに、車両性能の向上も合わせて環境負荷低減を図っていきます。

#### ■ CO<sub>2</sub>排出量(走行距離100kmあたり)



#### ■燃費向上率



#### ■エコドライブ支援装置の導入(大和物流)

グループ会社

当社では、エコドライブ指導会による乗務員のスキル向上とともに、新規導入車両へのアイドリングストップ装置、エコロジーヒーター\*等のエコドライブ支援装置の装着を推進しています。

**※エコロジーヒーター:**エンジンOFF時でも冷暖房が可能な空調装置

#### 今後の取り組み

当社ではエコドライブを積極的に推進しています。その施策として、継続して7地区ごとにエコドライブ指導会を実施していきます。また、車両付属機器であるエコドライブ支援装置、新長期規制適合車両についても、継続して導入を推進していきます。

安全品質推進本部 業務統括部 環境管理課 課長 赤野 裕士



## 商品・サービスの取り組み

#### 大和ハウスグループの考え方

グループ

# 戸建住宅、マンション、商業建築など事業領域ごとにCO2削減貢献量の目標を設定し、全事業領域での取り組みを推進しています。

当社グループでは、戸建住宅から一般建築まで幅広い用途の建物の建設を手がけています。全事業領域で環境に配慮した商品・サービスの提供を通じたCO2削減を進めるにあたり、当社事業を戸建・賃貸・マンション・住宅リフォーム・商業施設・一般建築・環境エネルギーの7つに分類、それぞれの事業特性や普及レベルに応じて、事業単位でCO2削減貢献量の目標を設定し取り組みを推進しています。



#### 戸建住宅事業

#### 【2010年度目標】CO2削減貢献量を474千t-CO2以上

→P155



戸建住宅では、住宅でのエネルギー消費に占める割合の高い、「暖房」、「給湯」、「照明・コンセント」に焦点を当て、それぞれ高断熱仕様、高効率給湯器、太陽光発電の普及によってCO2削減を進めています。それにより、2010年度までに、当社が提供する戸建住宅における年間CO2排出量(平均)を、1990年当時と比べて35%以上削減、CO2削減貢献量を474千t-CO2以上にすることを目指しています。

#### 賃貸住宅事業

#### 【2010年度目標】CO2削減貢献量を112千t-CO2以上

→P159



賃貸住宅では、建築主であるオーナー様と住まい手である入居者様が異なるため、初期コストの増加する省エネ住宅の普及が戸建住宅ほどには進んでいませんでした。当社では、戸建住宅との部材の共通化など初期コストの負担を抑えつつ、高断熱仕様や高効率エアコン、高効率給湯器の普及によってCO2削減を進めています。それにより、2010年度までに、当社が提供する賃貸住宅における年間CO2排出量(平均)を、1990年当時と比べて5%以上削減、CO2削減貢献量を112千t-CO2以上にすることを目指しています。

#### マンション事業

#### 【2010年度目標】CO2削減貢献量を10千t-CO2以上

→P160



マンションでは、高断熱仕様や高効率エアコン、高効率給湯器の普及によって $CO_2$ 削減を進めています。それにより、2010年度までに、当社が提供するマンションにおける年間 $CO_2$ 排出量(平均) を、1990年当時と比べて10%以上削減、 $CO_2$ 削減貢献量を10千t- $CO_2$ 以上にすることを目指しています。

#### 住宅リフォーム事業

#### 【2010年度目標】CO2削減貢献量を35千t-CO2以上

→P162



住宅の省エネ基準が現在ほど厳しくなかった頃に建設された住宅は、現在新築される住宅に比べると格段に断熱性能が劣り、特に単板ガラスの窓からは多くの熱損失がみられます。そこで、ガラスの二重化やインナーサッシの設置を進めるとともに、設備更新に合せた高効率給湯器への更新など、省エネリフォームを積極的に提案しています。それにより、2010年度までに、当社が行なった省エネリフォームによる $CO_2$ 削減貢献量を35千t- $CO_2$ 以上にすることを目指しています。

#### 商業建築事業(商業施設・一般建築)

#### 【2010年度目標】CO2削減貢献量を700千t-CO2以上

(→P163)



商業施設や一般建築では、大規模物件を中心に、省エネ法で義務付けられている省エネルギー計算に加え、CO2排出量の予測、1990年度基準値との比較、CASBEE\*簡易版による自己評価を義務付け、その結果を活用してバランスの良い環境配慮設計提案を推進しています。それにより、2010年度までに、当社が提供する商業施設・一般建築における年間CO2排出量(平均)を、1990年当時と比べて30%以上削減、CO2削減貢献量を700千t-CO2以上にすることを目指しています。

#### 環境エネルギー事業

# 【2010年度目標】CO2削減貢献量を200千t-CO2以上 ※2008年度に計画以上の改善が進んだため、目標を上方修正しました。

→P166



環境エネルギー事業では、まだまだ対策の進んでいない既存建築物を重点ターゲットに、高効率照明反射板やLED照明を中心に、省エネ改修の提案を進めています。提案にあたっては、ESCO※などお客様の初期コスト負担を抑えるビジネスモデルも併用しながら、普及を図っています。それにより、2010年度までに、当社が行なった省エネ改修によるCO2削減貢献量を200千t-CO2以上にすることを目指しています。※ESCO(エスコ): 「Energy Service Company」の略称で、建物のエネルギーコストとCO2の排出を同時に削減し、経営効率と環境の問題を総合的に解決する手法。

# 商品・サービスの取り組み

#### 実績・自己評価

グループ

2008年度のCO2削減貢献量は、約1086.8千t-CO2(2007年度比23.2%増加)となり、単年度目標を達成することができました。世界同時不況の影響もあり新規施工面積が落ち込み、いくつかの事業においては目標を達成できませんでしたが、環境エネルギー事業でお客さまの省エネニーズに対応したリフォームを大きく拡大できたことが今年度の結果につながりました。

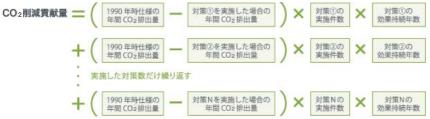
2010年度の目標は、2009年度に発足した「環境エネルギー事業部」における省エネ改修工事の増加を見込み、1,540千t-CO2削減(2007年度比75%増加)に上方修正しました。



#### CO2削減貢献量の算出方法

CO2削減貢献量とは、「当社が当該年に提供した住宅や建築物」と「1990年当時の仕様による同規模の住宅や建築物」を比較して 算出したCO2削減効果を、その想定使用期間にわたり積算したもので、算出方法は以下の通りです。

■ 戸建・賃貸・マンション・住宅リフォームの場合



(計算例) ※外張り断熱通気外壁を採用した住宅を10,000棟、高効率給湯器を5,000棟に設置した場合

- ・1990年当時(旧省エネ基準)の年間CO2排出量:4.667(t-CO2/年・棟)
- ・外張り断熱通気外壁(対策①)を採用した住宅の年間CO2排出量:3.523(t-CO2/年・棟)
- ・外張り断熱通気外壁(対策①)の効果持続年数:30(年)
- ・高効率給湯器(対策②)を採用した住宅の年間CO2排出量:4.317(t-CO2/年・棟)
- ・高効率給湯器(対策②)の効果持続年数:15(年)

CO2削減貢献量=(4.667-3.523)×10,000×30+(4.667-4.317)×5,000×15=369,450(t-CO2)

■ 商業建築・環境エネルギーの場合



#### COLUMN 佐田岬風力発電事業が「新エネ百選 に選定

グループ

当社グループで施工し運営する佐田岬風力発電事業が経済産業省の募集した「新エネ百選」に選定されました。「新エネ百選」は、稼動中の新エネルギー等の利用の取り組みに対し、全国の地域性を考慮した地産地消型の優れた事業について選定する事業です。

新聞広告や地域イベントに出展するなど風力発電の普及 啓発活動を実施している点、観光資源となっており地域に 貢献している点などが評価されました。発電開始の2006年 12月より2年を経過し、計画通りの発電実績を上げており、 発電量は一般家庭約6,500世帯の電力使用量に相当します。









「認定証」授与式の様子

佐田岬風力発電事業 (愛媛県佐田岬半島)

#### 担当者のコメント

当社初の大型売電事業である「佐田岬風力発電事業」が、日本全国の数ある新エネルギー事業の中から、 「新エネ百選」に選ばれ、大変うれしく思っています。

「地域にマッチした地産地消型の新エネルギー導入の優れた事例」として評価いただきましたが、新エネルギー事業については、地域の特性を考慮して十分な調査、計画をした上で進めることが重要です。当社グループ全体で、「創意 |「誠意 | 「熱意 | を持って、計画から運営まで取り組んだ結果だと考えています。



大阪都市開発部 グループ長 宇賀田 和巳

| |「風車まつり」への出展 (大和エネルギー) →P208

#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

大和ハウス

国内で建設した戸建住宅(2008年度:約10,300棟(うち分譲住宅は約1,700棟))

#### ■CO2を減らせる家「xevo(ジーヴォ) |

住宅は建設されてから解体・廃棄されるまで数十年という長期にわたり使用されますが、 $CO_2$ 排出量が最も多いのは居住段階で、ライフサイクル全体の約68%を占めています。

そこで当社では、2005年に $CO_2$ を減らせる家[xevo(ジーヴォ)]を開発し、普及を進めています。[xevo]は、高気密・高断熱を実現する[外張り断熱通気外壁]を標準で採用、太陽光発電システムと高効率給湯器を組み合わせることで、一般的な新省エネルギー基準の住宅と比較して、 $CO_2$ を約49%削減することができます。

家庭における用途別エネルギー消費の内訳では、冷暖房24%、給湯30%、厨房9%、 照明・家電37%となっています。

「xevo(ジーヴォ)」では冷暖房については建物そのものの断熱性を高め、給湯については高効率給湯器を採用し、照明・家電については電力会社から電気を買うのではなく、自分の家の屋根で発電することができる太陽光発電システムを設置して、その一部をまかなうことにより、家庭で使用されるエネルギーを削減しています。

#### 住宅のライフサイクル(建設〜解体)に おけるCO2排出量の割合



\*日本建築学会のLCA指針に基づいて 当社LCA委員会が算出



xevo外観



#### ■ CO2排出量の比較(kg-CO2/年・戸)



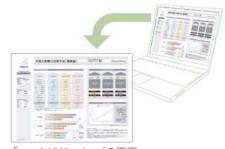
WEB

、 「平成19年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰∫受賞 ♥ (http://www.daiwahouse.co.jp/release/20071207093546.html)

#### ■エネルギーシミュレーションソフト「ecoナビゲーター」

当社では、立地条件や家族構成などを入力し、給湯・調理・空調方法、太陽光発電システムの有無を選択するだけで、年間のエネルギーコストやCO2排出量をシミュレーションすることができる独自のエネルギーシミュレーションソフト「ecoナビゲーター」を開発。各ご家庭の断熱性能や省エネルギー機器を導入した場合の年間のCO2排出量や光熱費削減効果をわかりやすくお伝えしています。

一般的な住宅や当社推奨の環境仕様との比較も、視認性を高めたグラフにより同時に行うことができ、今のお住まいと理想とされるお住まいとのエネルギー消費の状況が瞬時にイメージできるツールです。このツールを使用し、よりお客様の暮らし方に合ったエコロジー&エコノミーなプランをご提案し、CO2を減らせる家「xevo」の普及をすすめています。



「ecoナビゲーター」の画面



「第9回グリーン購入大賞」において「優秀賞」を受賞

#### ■エアコン選定ツール「エアコンナビ」

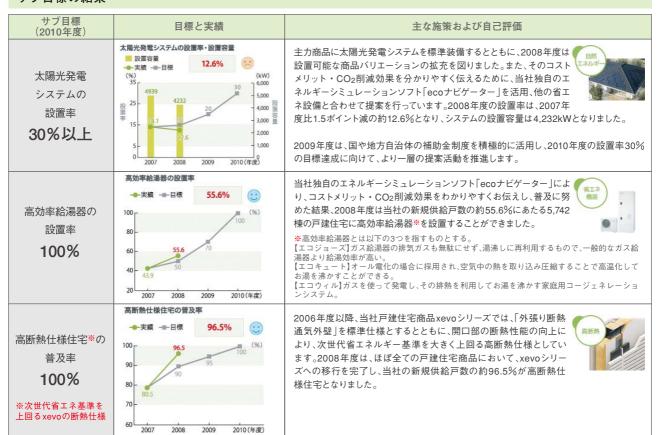
当社では、住宅を新築する際に、お客様のご要望に応じて、エアコンの設置を行います。その際、エアコンの選定は、当社が独自に開発した「エアコンナビ」を用いて、最適な機種をご提案しています。エアコンの選定にメーカーカタログを用いると「xevo」の高い断熱性能を考慮できないため、エアコンの容量を過剰に大きくすることになります。「エアコンナビ」を使うことにより、適正な容量・能力のエアコンを設置いただくことができ、年間の冷暖房エネルギー、ランニングコストともに削減することができます。



「エアコンナビ |の画面



#### サブ目標の結果



#### 活動事例

#### ■オリジナル排熱システム「涼なび」の開発、普及

当社では自然の風を活かして最上階の熱気を排出する技術「涼なび」を開発しました。「家の作りようは夏を旨とすべし」と言われた日本古来の民家の知恵を、現代の高断熱高気密住宅に採用。自然の力(パッシブ排熱)と機械の力(アクティブ排熱)を併用して最上階に溜まる熱気を排出する技術です。冷房が必要な時間が約半減し、できるだけエアコンに頼らない、「人・住まい・地球に優しい暮らし」が実現できます。

#### VOICE お客様の声

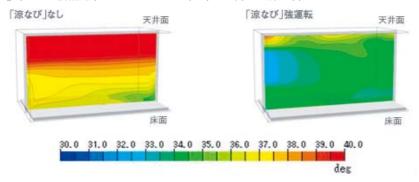
- ・涼なびのおかげか、夜あまり暑くなかったように感じます。また窓を開けるとすごく風が通って涼しいので、できるだけエアコンに頼らず通風を心がけています。(50代女性)
- ・日中会社にいると冷房で冷えるので、家にいるときぐらいは自然の風で暮らしたいと思っていますが、この家はどの部屋もよく風が通ります。(30代ご夫婦)
- ・風通しがすごくいいです。特に縦すべり窓\*1は風が入りやすく、外側も清掃しやすいです。風がよく通るように欄間ウィンドウ\*2はいつも開けていますが、トップライトを開けるとさらに風通しがよくなります。もう無理と感じるまでは、通風ですごすようにしてます。(30代ご夫婦)
- ※1 回転軸が端から少し中心側にずれた上下にあり、ハンドルを押して回転するように開閉する窓
  ※2 天井と鴨居の間に通風や採光を目的に作られた窓

# 演坛也

大和ハウス

涼なびによる空気の流れ

#### ■ 涼なびの排熱効果シミュレーション(日中の室内の温度分布)



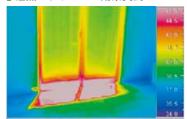
#### ■遮熱スクリーンの開発、普及

戸建住宅商品「xevo(ジーヴォ)」の省エネ性をさらに高めるため、夏と冬で上手に日差しを調節し、窓の外側に設置できる「遮熱スクリーン」を開発しました。夏を快適に過ごすためには窓からの日差しを防ぐことが重要ですが、それには、窓の内側で遮るカーテンやブラインドよりも窓の外側で遮るスクリーンが有効です。日差しを遮ることで、夏の室温を約2℃程度低く抑えることができ、逆に冬にはスクリーンを開けることで窓からの日差しを取り入れ部屋を暖めることができます。太陽の光や熱を上手に調節することで、快適でエコな暮らしが可能になります。

#### VOICE お客様の声

- ・とてもいいです。天気のいい日の日中はスクリーンを下ろして過ごします。目隠しにもなるので、他の窓にも欲しいです。(40代女性)
- ・室内でペットを飼っていますが、スクリーンを下ろすとあまり暑くならないので、外出する時も安心です。(40代女性)

#### ■遮熱スクリーンの効果実測



スクリーン無し



スクリーン有り

# 大和ハウス



遮熱スクリーン

#### ■「ジーヴォでエコキャンペーン」を実施

大和ハウス

2008年5月~6月にかけて、当社では「ジーヴォでエコキャンペーン」を実施しました。このキャンペーンは、『ecoナビゲーター』を活用して、お客様の計画している住宅の年間CO2削減量(一般的な住宅と比較)をシミュレーションし、ご成約いただいた際には、契約金額に応じた「基本ポイント」とCO2削減量に応じた「環境ポイント」をマイルや当社クレジットカードのポイントにして、お客様にプレゼントするものです。このキャンペーンでは、まだあまり環境について関心のないお客様にも環境アイテムの効果について知って頂くことができました。



キャンペーン告知ポスター

#### ■分譲住宅全戸に太陽光発電を設置 ~ xevo square 森が山(四日市市)~

大和ハウス

三重県四日市市の分譲地「xevo square (ジーヴォスクエア) 森が山」では、全13戸の分譲住宅建設にあたり、CO2削減に積極的に貢献する街づくりを目指しました。

その柱の一つとして太陽光発電システムを全戸に搭載し、自然エネルギーの積極的な活用を図りました。また、当社戸建住宅「xevo」の高い断熱性能と合わせてエネルギー消費を抑える工夫として、ヒートポンプ式給湯器(エコキュート)を全戸に搭載したほか、屋外照明を含めた照明器具には全て蛍光灯を採用しました。これら各住戸の取り組みに加え、街の中心に公園を配置するなど、身近な緑を通じて環境への意識を育むことができるよう、街区計画や外構計画にも配慮しました。



全戸に太陽光発電システムを搭載した 戸建住宅の街並み



公園の緑越しの戸建住宅の街並み

#### 今後の取り組み

戸建住宅事業では、今後もCO2を減らせる家「xevo(ジーヴォ)」の販売に努め、居住段階に排出するCO2削減に貢献していきます。また、「ecoナビゲーター」を積極的に活用し、邸別のCO2削減量を提示するなど、お客さまに環境メリット・コストメリットをわかりやすくお伝えすることで、太陽光発電システムや高効率給湯器などのさらなる普及を図ります。

住宅事業推進部 部長 水谷 勲



# 賃貸住宅事業の取り組み

#### 対象範囲: [大和ハウス工業]

国内で建設した賃貸住宅(2008年度:約29,400戸)

大和ハウス



#### 活動事例

#### ■ヒートポンプ式給湯器(エコキュート)の導入

大和ハウス

千葉県船橋市の土地区画整理地に、2階建ての賃貸住宅、2棟10世帯を建設しました。家庭で消費されるエネルギーの約1/3が給湯エネルギーであることからヒートポンプ式給湯器(エコキュート)を使ったオール電化の計画を提案しました。また、外構面積の70%以上を透水性舗装、砂利敷き、植栽として、ヒートアイランド現象の抑制にも配慮しました。入居者の方には、オール電化などの最新設備とオートロックシステムの採用により快適性と安全性を提供することができ、オーナー様にとっても満足のいく建物になりました。

#### ■エアコンの消費エネルギー削減への取り組み

大和ハウス

一般的に家庭用エアコンは、オフィスや店舗のように建物性能(断熱性)や地域性などを考慮することなく、部屋の広さに合わせてメーカーが指定した機種(能力)を選定しており、そのため、能力過剰になり冷えすぎたり、逆に能力不足で不快な思いをすることも多々あります。

そこで、当社の賃貸住宅にエアコンを設置する場合は、省エネタイプのエアコンを選定することはもちろん、自社の建物性能を考慮した独自の機種(能力)選定基準を設けることで、機器がもっとも効率よく運転できる能力のエアコンを選定し、お客様に提案しています。高効率エアコンを選び、さらにそのエアコンがもっとも効率よく運転できる機種(能力)を選ぶことによって、3LDKのファミリータイプで年間約30%の電気使用量を削減することが可能になります。

■エアコンの選定によるCO2排出量の違い



試算条件: 当社xevoにて比較

メーカー基準でエアコンを設置した場合

(LDK:5.6kW、主寝室:4.0kW、 洋室1:2.5kW、洋室2:2.2kW)

オリジナル基準でエアコンを設置した場合 (LDK: 2.2kW×2台、主寝室: 4.0kW、

洋室1:2.2kW、洋室2:2.2kW

#### 今後の取り組み

2010年4月からの改正省エネ法の施行に備え、賃貸住宅(低層)についての省エネ性能を整理、見直しを行う予定です。今回の規制を機に、賃貸住宅(低層)としても全地域での新省エネ基準の標準化及び次世代省エネ基準への対応を可能にするとともに、今後も【環境】に特化した賃貸住宅商品を開発・販売し、「エンドレスグリーンプログラム2010」の目標達成につなげる考えです。オーナー様にも入居者の方にも環境にも配慮した賃貸住宅を積極的に提案していきたいと考えています。

集合住宅事業推進部 部長

山下 正記

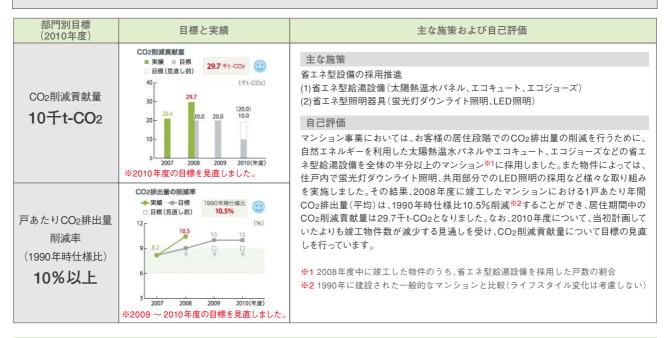


# マンション事業の取り組み

#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

大和ハウス

国内で建設した分譲マンション(2008年度:約3,200戸※) ※共同事業物件と再開発物件のうち、一部を除く



#### 活動事例

#### ■環境配慮計画書(CO2削減計画書)の運用

大和ハウス

当社の分譲マンションでは物件ごとに「環境配慮計画書」(CO2削減計画書)を作成して、事業化フローの節目ごとに環境配慮項目と CO2削減貢献量を確認しています。

全国のマンション営業所では、個々の物件において土地を購入前の計画段階から省エネ対策と省エネ型設備の採用で $CO_2$ 排出量がどの程度削減できるかを計算し、具体的な削減計画を立てて管理しています。また、全体計画を達成するため、年間の $CO_2$ 削減貢献量の最低基準を地域ごとに定め、全社をあげて $CO_2$ 排出量の削減に取り組んでいます。

#### ■省エネ設備の採用ープレミスト港北サウスヒルズ(神奈川県)ー

大和ハウス

2008年8月に竣工した神奈川県横浜市都筑区の「プレミスト港北サウスヒルズ」では、用地購入段階から、お客様にとって入居後にメリットがある省エネルギーかつ省ランニングコストのマンションを目指しました。最もエネルギーを使う給湯の省エネ対策として、高効率給湯器(エコジョーズ)・高断熱浴槽・食器洗浄機を採用し、冷暖房の省エネ対策として、新省エネルギー基準に適合した断熱仕様にするとともに、複層ガラスを採用するなど断熱効果を高めました。その結果、年間CO2排出量を1990年時仕様比で16%以上削減※3することができました。

※3 1990年に建設された一般的なマンションと比較(ライフスタイル変化は考慮しない)



プレミスト港北サウスヒルズの外観

#### ■太陽熱温水パネルの採用ー D'グラフォートレイクタウン(埼玉県)ー

大和ハウス

2008年3月および5月に竣工した埼玉県越谷市越谷レイクタウンのマンション街区「D'グラフォートレイクタウン」では、日本最大規模の住宅用太陽熱利用給湯システムを導入し、CO2排出削減・地球温暖化防止に取り組みました。これは屋上に配した太陽熱温水パネルで暖めたお湯を貯め、各戸の給湯や床暖房に利用するもので、街区全体でCO2排出量を約20%以上削減できます。本事業はこうした取り組みが評価され、環境省から日本初の「街区まるごとCO2 20%削減事業」に採択されました。



D'グラフォートレイクタウンの外観



屋上に設置された太陽熱温水パネル

# マンション事業の取り組み

#### 今後の取り組み

「街区まるごとCO2 20%削減事業」の第一号に採択された越谷レイクタウンの「D'グラフォートレイクタウン」にて採用した住棟セントラル方式の太陽熱利用給湯システムを、今後他のマンションにも展開し、CO2排出量の削減に貢献していきます。また、引き続き全国のマンションに省エネ型機器の採用を推進し、地域単位、物件単位でのCO2削減計画に基づき、居住段階のCO2排出量の削減を推進していきます。

マンション事業推進部 部長 板平 誠



# 住宅リフォーム事業の取り組み

#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

大和ハウス

国内で実施した住宅リフォーム(2008年度:約23,000件)



#### 活動事例

#### ■リフォーム用省エネシミュレーションソフトの開発と運用

大和ハウス

リフォームをすることにより、美観の向上だけでなく、生活に必要なエネルギー消費量や光熱費がどの程度削減できるかを、お客様によりよく理解していただくためにリフォーム専用の「省エネシミュレーションソフト」を独自に開発し、運用を開始しました。

また、省エネリフォームへの取り組みを推進するため「リフォームでエコキャンペーン」を実施し、太陽光発電システム・断熱サッシ・エコキュート・節水トイレなど省エネ性の高いアイテムの普及を進めています。

■ リフォーム用省エネシミュレーション■ ソフト



#### ■古民家のまるごとリフォーム

大和ハウス

築100年を超える古民家を明るく開放的な空間にリフォームしました。デザインだけでなく、開口部には複層ガラスの高断熱サッシを採用し、床や壁にも断熱材を施工するなど、断熱性能の向上を図ることで、冷暖房エネルギーを削減するとともに快適性を向上させました。



リフォーム後のリビング・ ダイニングの様子

#### 今後の取り組み

エコキュートなどの高効率給湯器や太陽光発電システムは、補助金などの活用で需要はさらに高まると考えられます。2009年度も省エネリフォームを推進するキャンペーンを継続的に実施し、CO2削減貢献量を25千t-CO2以上にすることを目指します。また、今後は戸建住宅のリフォームだけでなく、賃貸住宅やマンション等の省エネリフォームにも積極的に取り組んでいきます。

リフォーム事業推進部 部長 藤井 秀夫



# 商業建築事業の取り組み

#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

大和ハウス

延床面積2,000m<sup>2</sup>以上の一般建築物件(省エネ法の対象物件) 2008年度:【商業施設】25.3万m<sup>2</sup>/50件、【一般建築】59.1万m<sup>2</sup>/75件

#### 「商業施設」



#### 「一般建築」



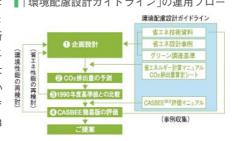
# 商業建築事業の取り組み

#### 活動事例

#### ■環境配慮設計ガイドラインの策定と教育研修の充実

大和ハウス

これまで、商業建築事業における環境配慮設計は、各担当者による個別対応が中心でした ■「環境配慮設計ガイドライン」の運用フロー が、そうしたノウハウを集約し省エネルギー設計の手法やグリーン調達基準などをまとめた 「環境配慮設計ガイドライン」を策定、半年間の仮運用を経て、2009年1月より、全国事業所 で運用を開始しました。併せて、対象物件については、省エネ法※で義務付けられている省エ ネルギー計算に加え、CO2排出量の予測、1990年度基準値との比較、CASBEE※簡易版によ る自己評価を義務付け、その結果を活用してバランスの良い環境配慮設計提案を推進してい ます。また、2008年度は、「環境配慮設計ガイドライン」の運用に先立ち、設計部門への教育 研修を実施、集合研修は建築・設備合わせて計36回、延べ931名が受講、eラーニングは計3 回、約1000名が受講しました。



#### ※省エネ法:

エネルギーの使用の合理化に関する法律。2000m2以上の建築物を新築・増築・改修する場合には、省エネルギー計画書の提出が義務付けられている。 **\*CASBEE**:

建築物総合環境性能評価システム。建物を環境性能で格付けする手法で、格付けは上位からS・A・B+・B・・Cの5段階。

#### ■「省エネ型コンビニエンスストア |のモデル棟を建設

大和ハウス

当社では、2005年、廃棄物削減と資源の有効利用を同時に実現する、「リ・ストア&リ・ビルドシステム ※1 | を開発、コンビニエンスストアや飲食店舗などを中心に普及を進めています。2008年度は、改正省エネ 法
\*2に伴う顧客ニーズを先取りし、別途開発を進めてきた白色LED照明システム
\*3とエネルギーモニタリ ング機能\*3を、この躯体システムに組合せたパッケージ商品『省エネ型コンビニエンスストア』の開発に着 手、当社工場内にモデル棟を建設しました。

モデル棟では、実際の店舗で使用されている商品棚・冷蔵庫等を忠実に再現し、省エネ性能のみならず、 商品をより魅力的に見せる照明配置など、さまざまな角度から検証を行いました。



「省エネ型コンビニエンスストア」 モデル棟(当社工場内)

今後は、地球温暖化防止と資源循環の同時実現を目指し、個別テナント様のニーズを反映しながら、本 パッケージ商品の普及を進めるとともに、さらなる省エネ性能の向上に向けた技術開発に取り組みます。

※1:省資源をテーマに開発した店舗向け商品。移設できる仕組みを標準搭載し、店舗移転の際にも部材の約7割をリユース(再使用)できる。 ※2: これまで大規模工場など一定規模以上の事業所単位での報告が義務付けられていたが、2010年4月より、フランチャイズチェーンなど 合算して年間のエネルギー使用量が原油換算で1.500kL以上となる事業者は報告が義務付けられることになる。 ※3:商品名「grace lumino(グレース ルミノ)」。当社と(株)ナベショーが京セラ(株)と共同で開発。

#### 特集.環境との共創共生

「持続可能な都市基盤のために ~環境に配慮した建築~ | →P113

再生・再建築可能な 「リ・ストア&リ・ビルドシステム」の開発・普及

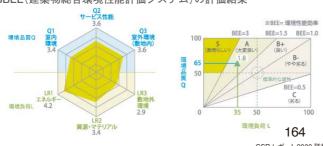
#### ■先端省エネ技術でCASBEEのAランクを実現 ーサイバーダインつくば研究開発センター

身体機能補助を目的としたロボットスーツを研究開発するサイバーダイン(株)のつくば研究開発センター(茨城県つくば市)は、本社機能を 備えると共に、研究開発・フラグシップモデルの生産拠点として、つくばエクスプレス研究学園駅前に当社の設計・施工で、2008年9月に竣工 しました。計画に際しては、CO2排出量の削減を中心に、環境に配慮した省エネ提案を行い、採用いただきました。

外壁に近未来をイメージさせる金属断熱サンドイッチパネルを採用し、断熱性能を高めるとともに、 ファサードのカーテンウォールを含め日射負荷の大きいガラス面には高遮蔽性能熱線反射ガラスを採 用し、年間の空調負荷を削減しています。照明に関しては、アトリウムにデザイン性も高い長寿命・高効 率のLED照明を採用するとともに、執務室・共用スペースには照明のゾーン制御システムや人感セン サーを採用し、作業単位での照明制御により、消費電力の削減を実現しました。

こうした建築・設備の省エネ提案により、CASBEEのAランク(BEE値1.8)を達成しました。

#### ■ CASBEE(建築物総合環境性能評価システム)の評価結果





研究開発センター外観



アトリウムのLED照明

CSR レポート 2009 詳細版 CSR マネジメント (環境)

# 商業建築事業の取り組み

#### ■大空間施設での快適な作業環境と省エネを両立 ー(株)ショーワ御殿場第一工場ー

大和ハウス

当社が設計・施工を請け負い、2008年10月に竣工した自動車部品製作工場「(株)ショーワ御殿場第一工場(静岡県御殿場市)」では、大空間における快適な作業環境と省エネルギーの両立をテーマに取り組みました。従来から導入されていた全体空調方式では、階高9mという大空間において作業域以外も空調を行なうことになり非効率的であったため、作業域のみを効率よく空調できる居住域成層(置換)空調システムを提案、採用いただきました。居住域成層(置換)空調システムとは、人が活動する床面近くのエリアに向けて冷風を吹き出し、人や稼動中の機械から発生する熱による自然な上昇気流を利用して、温度が高くなった空気を室外に排出するものです。

本システムの導入により、従来方式に比べ、夏季6  $\tau$ 月間(5月~ 10月)の電気使用量は約315,000kWh削減できる見込みであり、約130t-CO2を削減することができます。



工場外観

# 9,000 | 吹出口 | 大男気流 | 大男気流 | 大男気流 | 大男気流

居住域成層(置換)空調 システムの場合



居住域成層(置換)空調システム

#### ■工場における高効率照明システムの導入 ーヤマトオートワークス(株)スーパーワークス福岡工場ー

大和ハウス

当社が設計・施工を請け負い、2008年9月に竣工した自動車整備工場「ヤマトオートワークス(株)スーパーワークス福岡工場(福岡県久山町)」では、エネルギー使用割合の多い照明用電力に着目。整備工場エリアの照明器具に高輝度反射板を採用するなど、高効率照明システムを提案、採用いただきました。当初、整備工場エリアだけで合計51台の照明器具を計画していたものを、高輝度反射板器具に変更することで、作業面での照度を確保しつつ、約半分の29台まで台数を減らすことができました。

一般的な空調システムの場合



排気

Î 居住域

工場外観



高輝度反射板を採用した照明器具

24時間365日稼動している工場のため、照明用電力の削減効果は大きく、竣工後の $6 \circ$ 月間  $(9 \sim 3 \uparrow)$  における電力使用量は 47,000kWh削減でき、約19t-CO<sub>2</sub>を削減することができました。

#### 今後の取り組み

- ・2008年度策定した「環境配慮設計ガイドライン」に基づき、2,000m<sup>2</sup>以上の物件全てにおいて、CO<sub>2</sub>排出量の予測を行なうとともに、CASBEE(簡易版)による自己評価を実施し、バランスの良い環境配慮建築の提案を推進します。また、2008年度の環境配慮設計事例を収集、効果検証の上、技術資料の拡充を継続します。
- ・小規模店舗においては、LED照明や太陽光発電などをシステム化し、全国展開のテナント様を中心に積極的に提案、普及を図ります。
- ・グループホーム、デイサービスなど、医療介護施設における環境配慮仕様を標準化し、全国展開のテナント様を中心に積極的に提案、 普及を図ります。
- ・大規模建築においては、LED照明や高効率照明反射板に加え、大空間での置換空調システムなど、省エネ・ランニングコスト削減双方に効果の高い設備について、導入後の効果検証を行ない、水平展開を図ります。

営業本部 流通店舗事業推進部 部長 板倉 寿景



営業本部 建築事業推進部 部長 広瀬 元紀



165ポート 2009 詳細版

#### 対象範囲:[大和エネルギー]

グループ会社

ESCO※事業、環境機器の販売(当社グループを除く)

※省エネコンサルティングサービスは、CO2削減効果を定量的に推定できないため、CO2削減貢献量には含めていません。
※ESCO(エスコ): エネルギー・サービス・カンパニーの略称。省エネルギーに関する包括的なサービスを提供し、お客さまの省エネルギー効果の一部を報酬として受取る。



#### 活動事例

#### ■佐田岬風力発電事業(大和エネルギー)

グループ会社

2007年2月、愛媛県の佐田岬半島に風力発電所(1000kW×9基)を建設し、自然エネルギーを利用した発電事業を開始しました。2008年度は、一般家庭約6,500世帯分の使用電力分に相当\*\*する29,000MWhの発電を行いました。これは、CO2換算で年間約1万tの削減効果があります。

2009年度の計画も昨年と同数値とし、安全かつ円滑な事業が行えるよう運営管理を行っていきます。

※発電する際に使用する自己使用電力量を1,400MWh/年とし、 一般家庭の平均電力消費量を4,234kWh/年とした場合。



佐田岬風力発電事業ホームページ(大和エネルギー)

(http://www.daiwa-energy.com/sadamisaki/index.html)



佐田岬風力発電所(愛媛県佐田岬半島)

#### ■小型風力発電機「風流鯨(かぜながすくじら)」の普及(大和エネルギー)

グループ会社

当社では、自然エネルギーの利用を促進するため、商業施設や公園など人々の目にふれやすく身近な場所に、メーカーと共同開発した小型風力発電機「風流鯨~かぜながすくじら~」の設置を提案しています。

これまでに、大型複合商業施設"りんくうプレジャータウンSEACLE(シークル)"(大阪府泉佐野市)や、新エネルギーの学習施設"日高港新エネルギーパーク"(和歌山県御坊市)などに設置、地球温暖化防止のシンボルとして稼働しています。



、 小型風力発電機『風流鯨〜かぜながすくじら〜』(大和エネルギー)

◇ (http://www.daiwa-energy.com/environment/pro-10winfill.html)



「風流鯨 スペシャルサイト

(http://www.daiwahouse.co.jp/ad/kazenagasukujira/)



「風流鯨(10kWタイプ)」の設置事例 (和歌山県太地町)

#### ■エネルギードクターサービスの提供(大和エネルギー)

グループ会社

当社では、省エネ診断(診察)から、運用改善(内科)、設備更新(外科)という段階的な省エネ対策をトータルにサポートする「エネルギードクターサービス\*」を提供しています。

省エネ診断から設備改善にいたる従来の省エネ提案は、いわば診察後すぐに外科手術を行なうようなものでした。

そこで、エネルギードクターサービスでは、(1)既存設備の細かな計測と実証を行い(診察)、(2)既存機器の効率的な使い方をアドバイス(処方せん)、運用改善(内科)した上で、(3)非効率的な設備を高効率・省エネ機器へ更新する(外科)、という段階的な省エネ提案を行っています。

エネルギーの「見える化」による運用改善を徹底することで、投資を伴う設備改善を効果的かつ効率よく実施することが可能となります。2008年度は、大和ハウス工業の全国58事業所に加え、ホームセンター等への導入を進めました。

今後は、当社グループ施設での知見を蓄積するとともに、エネルギー事業の柱として商業施設等へ向けた提案を行っていきます。

※エネルギードクターサービス:大和エネルギー(株)のESCO・設備改善サービスとイーキュービック(株)の運用改善サービスを組み合わせたもの。

■従来の省エネ提案と「エネルギードクターサービス」とのちがい



地球温暖化防止(事務部門)の取り組み →P134

P134 WEB

B エネルギードクターサービス (大和エネルギー) (http://www.daiwa-energy.com/endoc/index.html)

#### ■ESCO事業の推進(大和エネルギー)

グループ会社

当社では、お客さまのエネルギーコストの削減を保証することでお客さまの投資リスクを軽減、省エネ機器等の普及を通じて地球温暖 化防止に取り組んでいます。

ESCO(エスコ)とは、「Energy Service Company」の略称で、建物のエネルギーコストとCO2の排出を同時に削減し、経営効率と環境の問題を総合的に解決する手法として、すでに省エネ先進国では大きな実績を挙げています。このシステムの最大の特長は、契約に基づいて、お客さまのエネルギーコストの削減を保証し、そこから生まれる差益によって投資費用を賄うことにあります。これにより、実質的に投資負担ゼロの省エネ化が実現でき、残る差益はそのままお客さまに還元されます。 ■ ESCO事業の実施メリット

当社グループにおいても、地球温暖化防止と原油価格の高騰化対策の観点から、この ESCOの手法を活用し、グループ会社が運営するリゾートホテル等において空調熱源のエネルギー転換を推進しています。また、商業施設や工場等では照明器具の高効率化等、省エネ機器への更新に活用しています。

今後、当事業の当社グループ外への展開を拡大し、お客さまの初期負担を軽減しながら CO2削減ニーズに応えていきます。



省エネが可能になります。

ESCO事業(大和エネルギー)

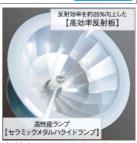
(http://www.daiwa-energy.com/esco/index.html)

#### ■高効率反射板照明器具による省エネ化事業を推進(大和エネルギー)

当社では、高効率反射板照明器具の更新による照明設備の省エネ化事業を推進しています。高効率反射板とは、アルミ母材に酸化チタンとシリコンを蒸着という方法によりコーティングしたもので、従来の金属反射板より約25%反射効率を向上します。さらに、使用する光源をメタルハライドランプからセラミックメタルハライドランプへ変更することにより、同程度の照度を確保しつつ約50%の

2008年度は、この高効率反射板照明器具をショッピングセンターに44,000台導入し、年間 11,224t-CO<sub>2</sub>の削減に貢献しました。





高効率反射板照明器具

#### ■空調熱源機器の燃料転換によるCO2削減(大和エネルギー)

グループ会社

当社では、設備の更新時期に合わせてエネルギーコストの低減と環境負荷の低減を両立する提案活動を行っています。その一つとして、空調熱源機器の燃料転換の提案を行なっています。具体的には、環境負荷が大きく、かつコスト変動も大きい油熱源を電気熱源へ変更する提案です。

2008年度の代表的な事例として、当社グループのロイヤルホテル5物件において重油焚きの吸収式冷温水発生器から電気式の空冷ヒートポンプチラーへの更新を行い、同時に操作システムの改善を行うことによって、大幅なCO2削減、エネルギーコスト削減、操作性の向上、エネルギーの見える化を行うことができました。



電気式空冷ヒートポンプチラーの導入 事例(浜名湖ロイヤルホテル)

#### 今後の取り組み

当社では、より多くのお客様に、設備改善によるエネルギーコストと環境負荷の低減に取り組んでいただけるよう、多様なニーズに応えるサービスを拡充するとともに、CO2削減に関する補助金制度の活用、CO2排出権取引も視野に入れた提案を進めていきます。また、運用改善支援として、エネルギーの「見える化」サービスの提供も推進していきます。

大和エネルギー(株) 常務取締役事業本部長 上田 貴司



#### TOPICS 環境エネルギー事業部を新設し、事業の拡大を図ります。

グルーフ

大和ハウス工業は2009年4月に、グループ全体で保有する各種の環境技術を横断的に扱い、コンサルティングから設計・施工・保守管理までを一 括して最適な提案を行なうため、「環境エネルギー事業部」を新設、全国25ヶ所に営業所を設置しました。当事業部は、グループ各社、既存事業部と の連携を強化し、事業の拡大を図ります。

2009年度は、改正省エネ法※1により企業単位でのエネルギー管理が求められる事業者や地方自治体を中心に、店舗・オフィス・庁舎・工場等の施 設を重点ターゲットとして、白色LED照明システム「grace lumino(グレースルミノ)」や高効率照明反射板「reFbo(レフボ)」の普及を進めています。

また、今後は太陽光発電システムや電力貯蔵システム(リチウムイオン電池)、エネルギーの「見える化 | サービス、電気自動車用の充電器など、省 CO2対策に資する商品・サービスの拡充を図り、既存事業との連携を強化することで、環境負荷の低減に貢献していきます。

※1 改正省エネ法: これまで大規模工場など一定規模以上の事業所単位での報告が義務付けられていたが、2010年4月より、原油換算で1,500kL 以上のエネルギーを使用する事業者は企業全体での報告が義務付けられることになる。

#### ■環境エネルギー事業の概要



特集.環境との共創共生 「持続可能な都市基盤のために ~環境に配慮した建築~」
→P113

環境エネルギー事業の紹介

(http://www.daiwahouse.co.jp/ene/index.html)

#### 白色LED照明システム「grace lumino(グレースルミノ)」の開発

当社と(株)ナベショーは、2009年4月、京セラ(株)と共同で、消費電力・CO2排出量を大幅に削減できる白色LED照明システム『grace lumino (グレース ルミノ)』を開発し、商業施設・ホテル・オフィス向けに販売を開始しました。

『grace lumino (グレース ルミノ)』は、照明家豊久将三氏((株)ナベショー顧問)による色の演出効果のノウハウと照明器具の配光・光学設計技術を活用、新たに開発したエネルギーモニタリングシステムを組み合わせて白色LED照明の一元管理を行うことにより、省エネルギー性能を高めCO2排出量と電気代を大幅に削減することができるシステムです。

今後、当社と取引実績のあるコンビニエンスストアをはじめ、ホテル・オフィスビルなどの 商業施設に対して、新築・改修工事での採用を提案していきます。

#### 【特徴】

- ●従来の蛍光灯と比較して消費電力・CO2排出量を最大で53%※カット
- ●従来のLEDと比較して2.5倍となる10万時間の長寿命設計
- ●目にやさしい白色化発光方式「紫LED+RGB蛍光体方式」を採用
- ●電力消費量やCO2排出量などを一元管理可能な「ECOモニタリングシステム」を採用
- ※コンビニ既存店舗(約200平方メートル)の店舗内照明の蛍光灯を今回のシステムに置き換え、70%点灯した場合。

### 白色LED照明システム

『grace lumino(グレース ルミノ)』



#### 大和ハウス

年間消費エネルギーの比較 (70%点灯の場合)



#### ■コンビニエンスストアでの導入例



ライン型LED照明

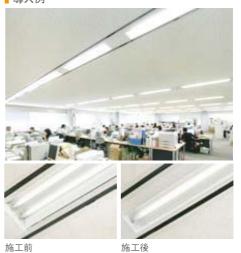
#### 高効率照明反射板「reFbo(レフボ) |の販売

当社では、優れた光学特性を有するPET樹脂系の新素材を使用した高効率照明反射板「reFbo(レフボ)」の販売を2009年5月より開始しました。レフボは、世界ではじめて商品化されたマイクロ発泡PET(ポリエチレン・テレフタレート)シートを使用しており、リサイクル可能なPET樹脂を5倍に発泡させ、可視光の全反射率99%以上、拡散反射率95%以上といった優れた光学特性を有します。

本製品は、あらゆる照明器具に設置でき、机上面の照度を維持したまま蛍光灯の本数を削減することができるため、優れた省エネ効果を発揮します。

#### 大和ハウス

高効率照明反射板「reFbo(レフボ)」の 導入例



# 考え方、実績・自己評価

#### 大和ハウスグループの考え方

グループ

私たちは、施工現場で発生する建設系廃棄物の発生抑制および再資源化を促進するとともに、 再使用可能な建築商品の開発を進め、資源循環型社会の実現を目指します。

我が国の産業廃棄物発生量は年間約4億tで、その2割近くを建設業が占めています。また、最終処分場(埋立処分場)の残余容量\*\*は新規処分場の設置が難しいことから近年横這い傾向で、残余容量を年間の最終処分量で割った残余年数は全国平均で7.7年(2006年4月現在)と依然として非常に厳しい状況にあります。

一方、資源の枯渇問題を考えると、石油由来のプラスチックや金属類などの限りある資源は少しでもムダに使わないで、使用後は再び資源として利用する必要があります。

これらの現状を踏まえ、当社グループではリデュース(発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再資源化)という3R活動を推進し、資源循環型社会の実現を目指しています。

※ 残余容量: 最終処分場にあとどれだけの廃棄物を埋め立てることができるかという容量。



#### 実績と自己評価

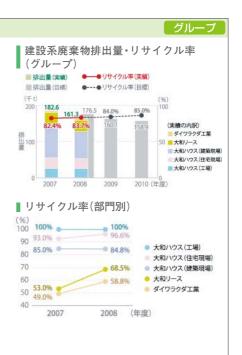
2008年度の建設系廃棄物排出量は、2007年度比11.7%削減となり、3ヵ年目標である10%削減を前倒しで達成することができました。これは、大和ハウスの住宅現場および建築現場におけるプレカットや梱包方法の改善によるリデュース活動の推進とグループのダイワラクダにおける端材の有効活用などを推進した結果です。なお、2008年度の実績を受け、2010年度の目標を2007年度比13%削減に上方修正しました。

一方、建設系廃棄物のリサイクル率については、2007年度比1.3ポイント増加の83.7%となり、2008年度の目標を達成することができました。当社の住宅現場においては、2002年度から開始した「建設副産物\*1工場デポ化プロジェクト(工場デポ)」の運用を継続、当社の工場とともにゼロエミッション\*2を維持しましたが、当社の建築現場では前年より悪化しました。

- **※1 建設副産物**:現場等より発生する建設系廃棄物、有価物(他人に有償で売却できるもの)などをいいます。
- ※2 住宅新築現場のゼロエミッションは、基礎工事から建物本体竣工までの工程を対象 範囲としており、建物本体竣工以降に実施する外構工事等で発生する廃棄物は、ゼロエミッションの対象範囲外としています。

また、地理的条件により沖縄支店における住宅新築現場もゼロエミッションの対象範囲外としています。

これらの理由により、2007年度および2008年度における住宅新築現場のリサイクル率は100%に達していません。



#### リサイクル グループ内での資源循環システムの構築

グループ

大和ハウス工業の住宅新築現場では、新築工事における建設副産物に対して「工場デポ」というシステムを導入し、2005年度末に全国91事業所においてゼロエミッションを達成しました。しかし、長期にわたり安定的な資源循環を継続していくためには、単に廃棄物をリサイクルするだけでなく、リサイクルされたものを商品に採用し、再販するシステムの構築が必要であると考えています。

今後は、住宅新築現場および工場のゼロエミッションを継続・維持するとともに、マテリアルリサイクルへのシフトをすすめ、グループ内での資源循環システムの構築を目指します。

# 

#### 新築工事の現場における建設副産物を100%リサイクル

#### 【建設副産物の集約】

建設副産物をリサイクルするには、最低でも10品目ほどに分別する必要があります。しかし、1棟あたりの建設副産物が1~1.5tしか発生しない戸建住宅の新築現場では、品目ごとの量が少なく、リサイクルが難しいとされてきました。そこで、当社ではそれを自社工場に集約することで、一定の量を確保しています。

#### 【工場のリサイクルルート・運搬ルートを活用】

すでにゼロエミッションを達成していた自社工場には、リサイクルルートが確立していました。また、工場から現場へは定期的に部材を納入するトラック便が走っています。そこで、これらの既存インフラを最大限に活用し、散在する建設副産物を自社工場へ集約し、工場のリサイクルルートを活用したゼロエミッションを実現しました。

# 考え方、実績・自己評価

#### エコマーク認定「木粉リサイクルデッキ |の開発

新築現場や工場で発生する廃木材をリサイクルし、「木粉 リサイクルデッキ」として製品化しました。重量の90%以 上が再生材料で構成されたこの製品は、天然資源の保護、廃 棄物発生削減の両面で環境保全に有効であることが評価さ

れ、2006年9月にエ コマークの認定を 受けています。



エコマーク認定「木粉リサイクルデッキ」

#### 廃プラスチック再生品「屋上緑化トレイ |を開発・販売

2006年度「国土交通省住宅・建築関連先導技術開発助成事業」の採択を 受け、廃プラスチックを当社グループ内で効率的に再生製品化するシステ ムの構築に取り組みました。これは、当社の住宅現場から分別収集された 梱包用PPバンドを、折板屋根緑化システムで使用する植栽トレイの原料

として再利用するシステムです。 2007年度からは[eco(エコ)ヤ ネ」の商品名で、当社グループの 大和リース(株)が販売・施工し、 普及を進めており、グループ全体 の廃棄物削減とともに、ヒートア イランド対策としても環境負荷 低減に貢献しています。



リサイクル製品「eco(エコ)ヤネ|

#### 大和リース「総合緑化事業」を開始 →P202

#### | リュース 再生・再建築可能な「リ・ストア&リ・ビルドシステム | の開発・普及

大和ハウス

当社は、住宅のみならず、商業施設の建設も数多く手がけています。ロードサイドに建つこ れらの施設は、まだ使用可能な状態であるにもかかわらず、市場環境の変化に伴う出退店サ イクルに応じて、解体・新築を繰り返すケースも少なくありません。当社では、施設の建設に 携わる立場から、建物の長寿命化を図るとともに、スクラップ&ビルドに変わる「リ・ストア &リ・ビルドシステム]の提案により、資源循環型社会の実現を目指しています。

「リ・ストア&リ・ビルドシステム」は、使用可能な状態であるにもかかわらず、使われなく なった建物が短期間で廃棄処分になることを避け、資源を有効活用する物販・飲食店舗向け のシステムです。



建物を構成する主要な部材を全て工場生産し、分解・再生・再利用が容易な取り付け方法とすることにより、不要となった建物の解体後に 部材を再生・再利用し、別の場所に再建築することが可能です。このシステムでは基礎・鉄骨・外壁・屋根などの主要な部材を含め全体で約 7割※1(金額比)の部材が再利用でき、新築時の建設現場での廃棄物排出量も在来工法と比べ約84%※1削減できます。また、標準タイプの店舗 において、建替え周期15年、評価期間45年とした場合のライフサイクルCO2を在来工法に比べて約25%\*1削減できます。

「リ・ストア&リ・ビルドシステム」は、全国に多店舗展開されているコンビニエンスストアや飲食店舗などのテナント様を中心に提案を行い、 2008年度は34棟を建設、これまでの累積は121棟\*2となりました。今後もこのシステムの普及に向け、テナント様への積極的な提案とともに、 さらなるリユース率向上に向けた技術開発に取り組みます。

(†)

- ※1 当社試作棟での検証結果
- ※2 2009年3月末現在

#### [当社試作棟での検証結果]

#### ■ 新築時の現場発生廃棄物排出量の比較(物販店舗167m²)



品目	在来工法 新築時	リ・ビルド システム
廃プラスチック	0.19	0.11
コンクリート	0.99	0.02
紙くず	0.25	0.51
金属くず	1.95	0.15
タイル	1.04	0.06
ボード類	1.64	0.18
木くず	0.4	0.07
その他	0.32	_
合計	6.78	1.11

#### ■ 再建築時の部材リユース率(試作棟)



ハ <u>十</u> (叫下水)			선	
		(金額比)	外壁	付ネハ
	部位	リユース率		作材
	基礎	82%		1/2
	鉄骨	94%	基礎	分ス
	外装	88%	至证	2
	屋根	82%		Ļ
	内装仕上げ	36%	屋根	2
	合計	69%	パネル	( <u>.</u> 屋

墾	柱や建具を内蔵したパネルを使用。 パネルの接合部に分解 作業が容易な乾式目地 材を採用
	分解・運搬可能なサイ

でに分割した鉄筋コン ートと鉄骨で編成。

仕様を選択できます (メッキ銅板製の折板 量根とシート防水屋根)

(kg-CO2/植)

■ CO2排出量の比較(計算値)



(Ng 002/1%)		
	在来工法	リ・ストア& リ・ビルド システム
新築	1,496	1,439
建替	2,991	1,581
補修	0	376
廃棄処分	304	211
合計	4,791	3,607
	建替補修 廃棄処分	在来工法 新築 1,496 建替 2,991 補修 0 廃棄処分 304

※建替え周期15年、評価年数45年 での比較(物販店舗167m<sup>2</sup>) ※建物使用時のエネルギーは含まず

# 生産部門の取り組み

#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

国内生産拠点(全11工場)

大和ハウス



#### 活動事例

#### ■鋼材端材の有効活用により270tの廃棄物を削減

大和ハウス

大和ハウス

全国の工場から生産材料のロス削減のため、鋼材の端材を活用する提案を集め全国 の工場で取り組んだ結果、鋼材廃棄物発生量は2007年度比270t/年の削減となりまし た。主な事例は下記の通りです。

- (1)鋼材の端材を加工プレートに活用(▲80t/年)。
- (2)鋼製階段の側桁(がわげた)に使用した鋼材の端材を他の部材に活用(▲1.85t/年)。
- (3)鋼材を切断する際に発生していた450mmの端材を、300mmのスペーサーを利用す

ることで100mmに短縮(▲18t/年)。





事例(2) 階段の側桁の端材を活用



事例(1) 端材を加工プレートに活用

#### ■飛散塗料の再資源化への取り組み

住宅用鉄骨部材の補修塗装時、周囲に飛散した塗料の粉末についてはこれまで産業廃棄物として処理委託していましたが、塗料に再生する仕組みを構築しました。その結果、全国工場合計で、年間約81tの廃棄物の削減と、それにともなう処理コストが削減され、有価売却することができました。今後は、発生量の削減に向けて、補修塗装をしなくてもよい接合方法への変更や塗装ロボットの導入を検討しています。

# 日歌した塗料の粉末 を集めて、売却 インゴット会社 11工場 インゴット会社 芝料の原料 として売却 塗料会社

#### 今後の取り組み

2008年度からの活動を継続し、鋼材の端材活用、床合板の端材活用、外壁面材のロス削減など、効果の高い施策を全国工場で継続実施します。また、外壁面材についてはロスの少ない割付にするための情報加工の改善にも取り組みます。

工場環境推進部 主任 船田 陽一



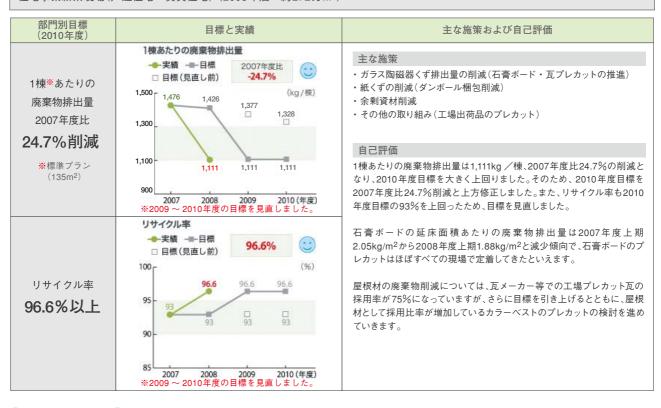
# 施工部門(住宅事業・商業建築事業)の取り組み

#### [住宅事業]

#### 対象範囲: 「大和ハウス工業]

住宅事業新築現場(戸建住宅・賃貸住宅)(2008年度:約272万m<sup>2</sup>)

大和ハウス



#### [商業建築事業]

#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

商業建築事業新築現場(商業施設·一般建築)(2008年度:約198万m²)

大和ハウス



# 施工部門(住宅事業・商業建築事業)の取り組み

#### 活動事例

#### リデュース 石膏ボードのプレカットの内製化を推進(住宅事業)

「大和ハウス)

石膏ボードのプレカットを推進し、石膏ボード廃棄物の発生量は、戸建住宅で2007年度比8%削減、賃貸住宅で同6%削減となりました。よりプレカット率を向上させ現場カット作業を減らすため、割付作業の内製化を推進し、社内での実施率を63%にまで高めました。



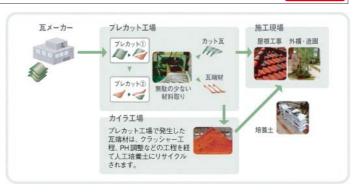
※G-PLAS:石膏ボードの割付システム

#### リデュース 瓦のプレカットを推進(住宅事業)

大和ハウス

瓦については、工場でのプレカットを実施することにより、一棟あたり613kg発生していた端材発生量を1.5kg\*に削減(削減率99.8%)できました。瓦のプレカット推進にあたり、当初メーカーでのプレカット瓦の採用率を55%以上との目標を掲げました。その後、瓦の加工専門業者によるプレカット瓦を採用する現場も増え、現在では両者を合わせたプレカット瓦の採用率は約75%に達しています(メーカー:45.8%、加工専門業者:29.2%)。今後は、この採用率の目標を80%に引き上げ、引き続き推進していきます。

※モデル現場での実測値



#### ■現場での端材発生量

(kg) 800 600 613 99.8% 削減 400 200 0 従来(現場カット) ブレカット

■必要瓦枚数



■瓦プレカットの採用率



#### リデュース カラーベストのプレカットを試行

大和ハウス

現在、カラーベストは、それぞれの現場で切断加工されていますが、これを1ヶ所の工場で行うことにより、材料ロスの削減・端材のリサイクル率の向上による廃棄物最終処分量の削減、現場における環境美化、近隣への粉塵発生削減、屋根上作業の安全性向上などを図ることができます。2008年度には、長野支店においてカラーベストのプレカット工法の試行を行い、2009年度は中部地区での試行を計画しています。なお、こうした取り組みが評価され、2008年度社内の環境改善の最優秀事例として選ばれました。

#### ■ プレカットされたカラーベスト



# 施工部門(住宅事業・商業建築事業)の取り組み

#### 今後の取り組み

#### [住宅事業]

石膏ボードの排出量は減少傾向にありますが、一部社外に委託している割付作業の内製化を 進めるとともに、排出量が多い現場の原因追及を行い、さらなる排出量の削減を図ります。

瓦のプレカット採用率は、現在、メーカーとメーカー以外のプレカット合わせて全体で75%と 増加傾向のため、合計の採用率目標を80%に上げ、引き続き未実施事業所への展開を進めます。

加えてカラーベストのプレカットも2009年度は、長野支店の事例を基に、モデル事業所での 試行を実施し、品質・施工性・コストなどの検証を行います。

また、梱包材削減のため住設機器の梱包レスやリターナブル梱包の採用に取り組みます。

技術本部 設計施工推進部 住宅系施工統括支援グループ 次長 大島 広志

#### [商業建築事業]

今後とも、廃棄物排出量の削減では、ボード類のプレカット推進や梱包材の見直しによるリデュースの推進、及びリユースの推進を図ります。一方リサイクル率の向上については、リサイクルルートの新規開拓と既存リサイクルルートの見直しを推進します。



技術本部 設計施工推進部 (近畿中部北陸地区建築系施工推 進担当) 部長 岩本 佳樹

# グループ会社の取り組み

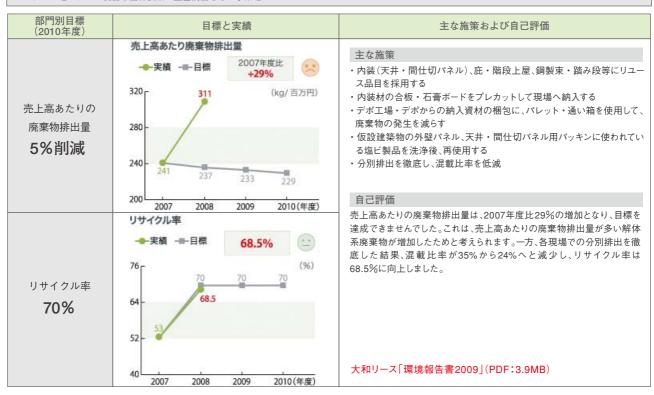
#### 対象範囲:[大和リース]

生産、保管:デポ※1(8)、デポ工場※2(6)

施工:仮設建築・集合住宅・一般建築の新築現場、仮設建築物(リース)の解体現場

**※1 デポ:**当社が提供するリース製品を維持・保管するストックヤード

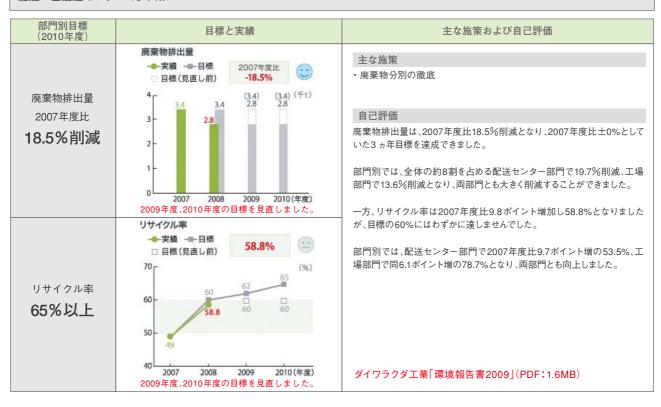
※2 デポ工場:デポの機能と当社製品の生産機能をもつ事業場



対象範囲:[ダイワラクダ工業]

生産:全2工場(三重、つくば) 配送:全配送センター13ヶ所 グループ会社

グループ会社



# グループ会社の取り組み

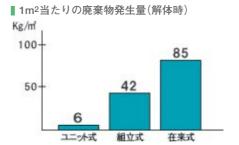
#### 活動事例

#### ■リユースによる廃棄物削減(大和リース)

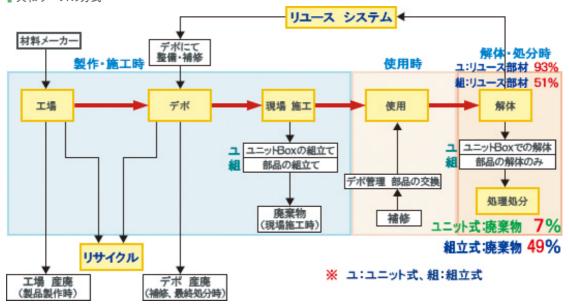
グループ会社

当社では、使い終わった商品を解体後、デポに持ち帰り整備・補修して再利用しています。そのためユニット式商品の部材では93%、組立式商品の部材では51%がリユースされています。商品解体時の廃棄物排出量は在来式の商品と比べると、ユニット式・組立式・在来式の発生比率で、1:7:14となっています。

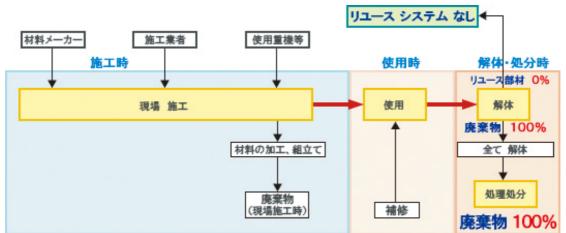
工場での製作過程やデポでの整備・補修時に発生する副産物の一部は、その場でリサイクルしており、解体時のリユースによる廃棄物の削減と合わせ、廃棄物の発生が少なくなる仕組みになっています。



#### ▶大和リースの方式



#### ■在来式



# グループ会社の取り組み

#### ■リユース基礎の普及を推進(大和リース)

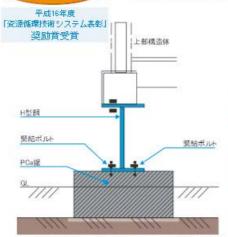
グループ会社

当社では、これまで、短期間リースの仮設建築物の基礎は木杭を使用する場合が多く、この木杭は建物の解体後、工場へ持ち帰り、選別・処理をしていました。2004年産業廃棄物の発生抑制と現場での施工工期短縮を目的として、H型鋼とPCa製(プレキャスト鉄筋コンクリート)基礎ベース部を着脱可能なボルトで接合するリユース基礎を開発、普及を進めています。リユース基礎を導入することで、木杭の使用が減少し、木くずの排出量が削減されました。

リユース基礎:仮設住宅などの基礎に使用しているリユース基礎は、砂敷の上に工場生産のプレキャスト鉄筋コンクリートをのせ、ボルトでつなぎ基礎ベースとします。次にH型鋼を載せ、H型鋼と基礎ベースを着脱可能なボルトで結合して完成です。組み立てるだけなので工期が大幅に短縮できます。

解体時には、ボルトをはずすだけ、リユース基礎のH型鋼とプレキャスト鉄筋コンクリート基礎ベースは別の現場でも使用できるので、従来の工法のように捨てコンクリートなどによる廃棄物は発生しません。

特許取得 特許第3612066号 H型鋼と基礎ペース部を着脱可能なボルトで結合するだけ。 工期を最大限に短縮し、産業廃棄物を抑制できる資源循環型「基礎」。



PCa(ブレキャストコンクリート)、H型頒複合構造



- ●H型鋼とPCa製(プレキャスト鉄筋コンクリート)基礎ペース部を着脱可能なボルト 接合にしていますので組み立て・取り外しが容易で再利用が可能です。
- ●H型鎖・PCa盤を再利用することにより、建設現場での廃材(産業廃棄物)を抑制することができます。また、地業は砂敷きですので、解体時に、従来の基礎の地業のように捨てコンクリート等による廃材もなくなります。
- ●工場生産による高品質を均一に維持した基礎。建築現場では、ボルト接合により 組み立てていく作業だけですので、工期を最大限短縮することができます。
- ●上部構造体とリユース基礎のモジュールが同じ基準寸法(1800mm)で設計されていますので、再利用時の上部構造体が異なっても、組み合わせを変えることで自由度のある対応ができます。
- ●基礎ベース部に使用するコンクリートは、従来現場で使用するコンクリート(圧縮強度Fo=18~21N/mm)に比べて高強度なもの(Fo=30N/mm)を採用し、強度面での安全性の向上を図っています。



## グループ会社の取り組み

### ■廃棄物分別の徹底によるリデュース、リユースの推進(ダイワラクダ工業)

グループ会社

当社生産部門においては、工場内から出る廃棄物の分別の徹底などにより、廃棄物排出量を2007年度:670トンから2008年度:579トンに削減することができました。

3R活動として、工場内で使用しているパレットが破損した際には社内で修繕して繰り返し使用したり、製品梱包に使用しているエアーキャップについて購入時点で芯材をなくす簡易梱包などの活動を進めた結果といえます。

今後も引き続き廃棄物を有効活用可能とするリユース策を検討するとともに、梱包材についても梱包レス化を進め廃棄物排出量を 削減していきます。

#### ■破損パレットのリユース



■エアキャップの梱包レス化



芯材テシ

今後の取り組み

### 「大和リース]

今後は、新築現場において内装材等のリユース対応品目を増やすとともに、合板・石膏ボード 等のプレカットを推進します。

また、デポ工場・デポからの納入資材の梱包に、パレット・通い箱を使用していきます。仮設建築物の外壁や内装に用いるパッキン材のリユース対応を進めます。

リサイクルについては、分別排出を徹底し、混載比率を下げ、また、リサイクルルートの新規 開拓によりリサイクル率のアップを図ります。



ダイワリース(株) 環境・ISO推進部 部長 岡野 純

### [ダイワラクダ工業]

今後も引き続き廃棄物としていたものを有効活用するリユース策を検討するとともに、梱包 材についても梱包レス化を進め、廃棄物排出量を削減していきます。

また、現在焼却処分や埋め立て処分している廃棄物のリサイクルルートを検討し、リサイクル 率の向上に努めます。



ダイワラクダ工業(株) 生産部 山下 文生

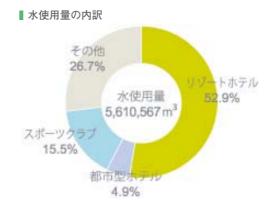
### 大和ハウスグループの考え方

**グループ** 

グループ

大和ハウスグループでは、水使用量の多いホテル、スポーツクラブを対象に節水への取り組みを進めています。

水の使用量はその業態によって大きく異なり、当社グループでは、温泉・大浴場などの施設を有するリゾートホテル、全室にユニットバスを有する都市型ホテル、プールなどの施設を有するスポーツクラブの3部門でグループ全体の7割以上を占めます。そこで、当該3部門での水資源保護を最重要テーマに、それぞれに削減目標を設定し、改善活動を進めています。



実績·自己評価

2008年度は各部門で節水器具の導入などを進めた結果、3部門合計の水使 用量は2007年度比7.0%削減し、4,112(千m³)となりました。

これは、リゾートホテルにおいて厨房やバックヤードでの節水活動に加え、 シャワーヘッドへの節水器具設置を進めるとともに、スポーツクラブにおい て節水コマの設置などを進めた結果です。



### COLUMN 節水器具の設置による事務所の節水(京都支店)

【大和ハウス】

大和ハウス工業京都支店では、事務所のトイレを中心に水道蛇口水栓の中に節水器を設置することで、水量を30% ~ 70%減少させ、 上水使用量を削減しました。使用頻度の低い水栓や、すでに節水仕様となっているトイレを除き、25 ヶ所の水栓に節水器を設置した結果、上水使用量は2007年度比25.9%削減でき、年間で338m3の水資源の節約となりました。

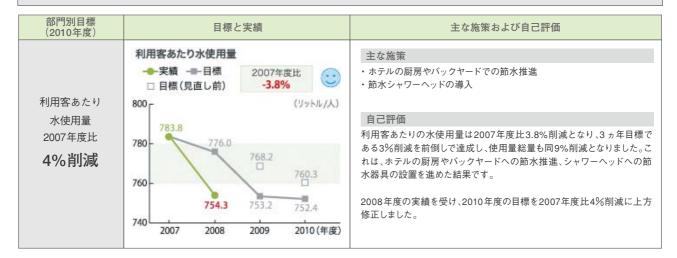
今後は、従業員の環境意識の向上による節水の徹底を継続するとともに、水使用量20% ~ 30%の削減効果のある節水コマの導入、洗浄水量13リットルから6 リットルに半減する節水便器への改修を全国事業所で検討していきます。また、事務所移転時には、新事務所が省エネ・節水仕様になるように標準化を図り、建物の設計段階から省エネ・節水化を進めることで、事務所における水資源の保護を推進していきます。

## リゾートホテルの取り組み

### 対象範囲:[大和リゾート・大和ハウス工業]

グループ会社

全31ホテル(ダイワロイヤルホテルズ(27)、その他の運営ホテル(4))



#### 今後の取り組み

今後も衛生面に配慮しつつ厨房やバックヤードでの節水活動を継続するとともに、地下水の 浄化プラントの設置や、浄化槽からの中水利用などにより節水に取り組みます。



大和リゾート株式会社 施設部 吉川 祐三

## 都市型ホテルの取り組み

### 対象範囲:[ダイワロイヤル]

全ダイワロイネットホテル(9ヶ所)

グループ会社



#### 今後の取り組み

都市型ホテルの水使用量は、バックヤード(裏方)で使う 量に比べてお客さまが客室で使われる量が圧倒的に多く、 水使用量の削減にはお客さまの使用量を適正化する工夫が ポイントとなります。

今後は、節水コマの設置やシャワーヘッドの改善を進め るとともに、ユニットバスへの水位適正マークの設置な ど、お客さまへの呼びかけも推進していきます。



節水コマ



ダイワロイヤル株式会社 施設部 長瀬 金次

## スポーツ施設の取り組み

### 対象範囲:[日本体育施設運営]

全スポーツクラブ(45店舗)

グループ会社



#### 活動事例

### ■節水コマ設置及び使用量削減の徹底

グループ会社

スポーツクラブNASでは水使用量削減のために、節水コマの設置を推進しています。新規店オープンの際は節水コマを設置する他、既存店においても設置状況を確認し、劣化等があった場合は再設置を行っています。

その他の施策として、逆洗浄回数の適正化やプール・浴槽の不要な補給水の削減を図っています。

また、会員様に対してもポスターや節水シールを施設内に掲示するなど、節水キャンペーンを 実施しています。 ■節水キャンペーンポスター



### 今後の取り組み

2009年度新規オープン予定の3店舗に節水コマの設置を行うとともに、既存店についても引き続き節水コマの設置や、逆洗浄・補給水の適正管理を継続し、2009年度は2007年度比2%削減に向け取り組みを強化します。



開発部 マネージャー 赤星 克比古

## 考え方、実績・自己評価、マテリアルバランス

### 大和ハウスグループの考え方

グループ

### 人や生態系への化学物質によるリスクを最小化するため、有害化学物質の削減、代替や適正管理を推進しています。

住宅・建築部材の製造過程では、多くの化学物質を使用します。当社グループでは、人や生態系への化学物質によるリスクを最小化するため、有害化学物質の削減、代替や適正管理を推進しています。

当社グループでは、PRTR<sup>\*1</sup>第1種指定化学物質の総量削減を目指し、VOC、重金属類、生殖毒性物質等の有害性が高く、使用量が多い物質について重点的に削減を推進しています。2008年度からは、大和リース、ダイワラクダ工業のグループ2社へ活動の対象を拡げ、取り組みを進めています。

大和ハウスでは、2007年度までに、電着塗料の鉛化合物、ニッケル化合物、電着脱脂剤のポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテル、接着剤のフタル酸ジ-n-ブチルや洗浄剤のジクロロメタンの代替を完了したほか、大和リースではトルエン含有塗料の削減を推進しています。

こうした有害化学物質の管理、削減を推進するため、当社では製品安全データシート(MSDS)のデータベースを各部門が共有、開発部門では、有害化学物質の少ない材料の採用を行い、生産部門からPRTR集計のフィードバックを受けて、評価、改善を行っています。今後、各物質のGHS※2分類結果も評価方法に取り入れてリスク評価を行い、化学物質によるリスク低減に取り組んでいきます。

※1 PRTR(Pollutant Release and Transfer Register): 化学物質の排出量・移動量を事業者が年に1回国に届出し、国が集計し、公表する制度です。 ※2 GHS(Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals): 化学品を物理化学的危険性、ヒトの健康および環境に対する有害性に応じて世界的に調和された判定基準で分類し、それらの危険有害性に関する情報の伝達を SDS(Safety Data Sheet; 安全データシート(国内の呼称; MSDS)) およびラベル等の表示により調和された方法で行うこと。

#### ■PRTR集計システムフロー(大和ハウス)



### 実績と自己評価

グループ

大和ハウス商業建築事業において、当社設計物件について、さび止め塗料をシアナミド鉛含有塗料から鉛フリー塗料への代替を完了し、鉛化合物を2007年度比93.5%削減、対象物質全体では同57.0%削減しました。

住宅事業では、電着塗装前処理液の切替により有機スズを同35.3%削減しましたが、工法変更で塗料使用量が増加し、キシレンが同36.3%増加、対象物質全体では同8.2%増加しました。

大和リースでは、塗料の切替によりトルエンを同86.3%削減し、対象物質全体では同4.1%削減しました。

ダイワラクダでは、塗装後の乾燥で問題が起きない夏季には塗料を変更しトルエンを同23.0%、全体使用量を11.3%削減しました。



※PRTR対象有害化学物質使用量 = 取扱量-除去処理量-リサイクル量

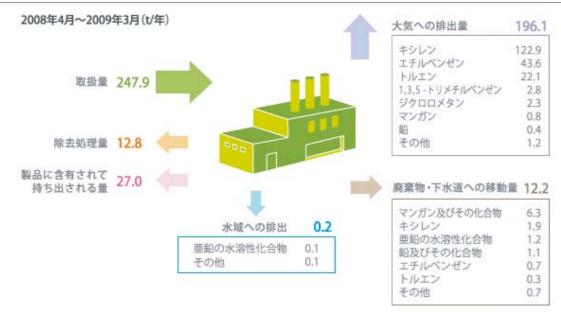
これらの取り組みの結果、グループ3社のPRTR対象有害化学物質の使用量総量は同11.2%削減となり、3ヵ年目標を前倒しで達成、2010年度目標を同13%削減へと上方修正しました。

2009年度は、大和ハウス商業建築事業では大気汚染防止法のVOC規制の自主的取り組みとしてVOC総量削減の検討を開始、住宅事業では増加したキシレン対策のため、水性塗料の採用、塗料ロス率の低減を図ります。大和リースでは、VOC削減、脱脂剤の代替化、ダイワラクダでは、トルエン等VOCの削減を行い、グループ3ヵ年目標達成を目指します。

## 考え方、実績・自己評価、マテリアルバランス

### ■PRTR対象有害化学物質のマテリアルバランス(大和ハウスグループ3社)

グループ



### ■PRTR調査結果(大和ハウスグループ3社)

グループ

(2008年度 取扱量が1,000kg以上の物質については物質名を掲載)

(単位:kg)

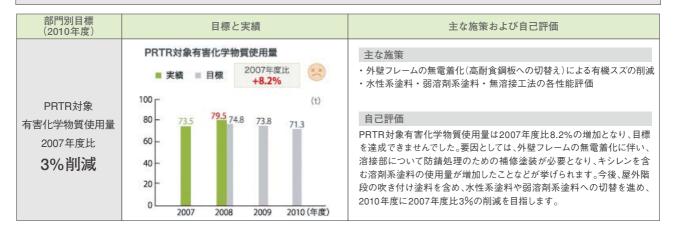
(2000-	中皮 以放星が 1,000kg以上の初貝に ついては初貝石を拘戦/								(単位:Kg)	
J/ 55	対象化学物質名	取扱量 の合計	消費量 の合計	移動量				除去		
物質 番号				下水道への 移動の合計	当該事業所の 外への(廃棄物) 移動の合計	移動量合計	大気への 排出の合計	公共用水域 への排出量 の合計	排出量合計	処理量 の合計
1	亜鉛の水溶性 化合物	6,475	5,100	18	1,223	1,241	0	134	134	0
30	ビスフェノール A型エポキシ樹脂	1,246	1,227	0	19	19	0	0	0	0
40	エチルベンゼン	44,326	18	0	671	671	43,621	0	34,217	16
63	キシレン	137,397	0	0	1,859	1,859	122,907	0	101,543	12,631
145	ジクロロメタン	2,323	0	0	0	0	2,323	0	2,323	0
176	有機スズ化合物	1,490	1,415	0	60	60	15	0	15	0
224	1,3,5-トリメチル ベンゼン	3,918	6	0	63	63	3,848	0	3,539	0
227	トルエン	22,535	0	0	313	313	22,103	0	21,721	119
230	鉛及び その化合物	2,678	1,592	0	1,086	1,086	382	0	382	0
311	マンガン及び その化合物	23,708	16,595	0	6,283	6,283	830	0	820	0
	その他21物質	1,812	1,040	0	649	649	73	60	117	9
	合計	247,906	26,994	18	12,224	12,242	196,102	194	164,810	12,775

## 生産部門の取り組み(住宅事業)

#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

大和ハウス

全11工場中、住宅部材生産工場10工場(東北、新潟、栃木二宮、竜ヶ崎、三重、奈良、堺、岡山、九州、鹿児島)



#### 活動事例

#### ■電着塗装工程における有機スズの削減

大和ハウス

当社住宅工場では、電着塗装前処理液について、有機スズ含有率を36%低減した材料への切替を実施しました。さらに、新たに、高耐食鋼板を用いることにより外壁フレームの無電着化を実現し、電着処理液の使用量を削減しました。

今回の外壁フレームの無電着化により、電着対象部材の約40%の無電着化が完了しました。これらの取り組みの結果、有機スズ使用量(生産高あたり)を2007年度比で35.6%削減できました。



### ■キシレン、トルエンの削減

大和ハウス

当社住宅工場では、無電着外壁フレームの溶接部に補修塗料による防錆処理を行っています。補修塗料には、水性系と溶剤系塗料がありますが、生産性の高い溶剤系を主に使用しています。また、スプレー方式による作業のため60%以上のロス率が推測されます。これらの影響により、キシレン使用量(生産高あたり)が2007年度比で35.7%増加しました。

一方、以前の仕様は、電着塗装完了後、熱影響部について増し塗りを行っていましたが、無電着化への切替えと共に全廃し、トルエン使用量(生産高あたり)は2007年度比で15.2%削減できました。



#### ■トルエン使用量の推移 ■ 実績 目標 -- 実績(原単位) (t) (kg/百万円) 25 10.16 19. 20 0.12 -0.12 15 0.08 10 0.04 05 2010 (年度) 2007 2008 2009

#### 今後の取り組み

2008年度に増加したキシレンの削減を最優先課題として取り組む予定です。まずは、部分的に水性系塗料へ切替え、次のステップとして、性能・作業環境への影響を検証した上で、水性系塗料でのエアーレス化を計画しています。また、トルエンについては、屋外階段の吹き付け塗料について、溶剤系から弱溶剤系への切替えを計画しており、現在は屋外暴露試験を実施中です。さらに、マンガンの削減対策として、無溶接工法にも取り組んでいきます。アーク溶接の代替として、かしめリベット接合\*1の拡大や、プロジェクション溶接\*2を導入し、2010年度までに2007年度比3%削減を目指します。

**※1 リベット接合:**溶接ではなく、リベット(鋲)で接合する方法。

※2 プロジェクション溶接:母材どおしを直接つなげて溶接ワイヤを使用しない方法。



集合商品開発部 生産部品設計グループ グループ長 森井 正人



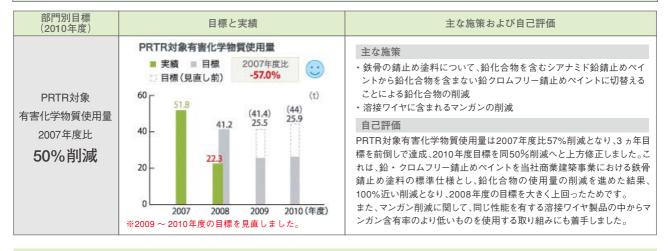
住宅商品開発部 生産部品設計グループ グループ長 池端 正一

## 生産部門の取り組み(商業建築事業)

### 対象範囲:[大和ハウス工業]

大和ハウス

全11工場中、建築部材生産工場6工場(東北、新潟、栃木二宮、中部、堺、九州)



#### 活動事例

#### ■錆止め塗料に含まれる鉛化合物の削減

大和ハウス

2008年度の鉛化合物の使用量(生産高原単位※)は、2007年度比で93.6%削減となり、目標値の60%削減を大きく上回る結果となりました。

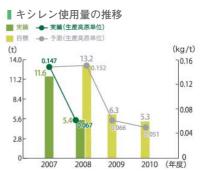
これは、自社設計物件において鉛・クロムフリー錆止めペイントを標準仕様とし、鉛化合物を含む塗料の使用を無くしただけでなく、他社設計(自社施工)物件においても、お客さまをはじめ設計事務所様にも提案、ご理解頂き、採用いただいた結果と考えています。

なお、2008年度上期の段階では、まだ仕様切替え前の設計物件の施工が残っていたため、若干、鉛化合物を含む錆止め塗料の使用がありましたが、下期においては、ほとんど鉛化合物の使用量がなくなりました。

また、波及効果として、鉛含有錆止め塗料に含まれる キシレンの削減にも繋がり、キシレンの使用量(生産 高原単位)は、2007年度比で54.1%削減となりました。

※生産高原単位:工場生産重量あたりの使用量





#### ■溶接ワイヤに含まれるマンガンの削減

大和ハウス

同じ性能を確保した溶接ワイヤの中でも、製品によってマンガン含有率に違いがあります。そこで、これまで使用してきた溶接ワイヤの中からよりマンガン含有率の少ない製品に切替える取り組みを始めました。

まず、現在使用している溶接ワイヤの製品毎のマンガン含有率を調査・リストアップし、性能毎に分類、各々の性能におけるマンガン含有率の社内基準(上限値)を定めました。

まだ取り組みを始めたばかりのため、実績数値としての効果は現れていませんが、今後は製品の絞込み等により、マンガンの削減に取り組む予定です。



### 今後の取り組み

建築工場において最も使用割合の大きい鉛化合物の大幅削減が達成できました。次の課題は、鉛化合物に次いで使用量の多いマンガン及びキシレンの削減です。

マンガンについては、昨年度より取り組みを始めたマンガン低含有溶接ワイヤの採用を継続して推進していく計画です。また、キシレンについては、既にかなりの削減を進めてきましたが、依然として錆止め塗料に多く含まれるなど、削減の余地はあるものと考えています。錆止め塗料の製品ごとにキシレンの含有率を調べ、含有率の少ない製品への切替えが可能か検討を進める予定です。

技術部 建築技術グルーフ 主任 片山 治



## グループ会社の取り組み(大和リース)

#### 対象範囲:[大和リース]

グループ会社

全デポ工場:6ヶ所(札幌、栃木二宮、長野真田、滋賀水口、四国、福岡)、全デポ:8ヶ所(三沢、仙台、千葉長南、山梨都留、三重、岡山、鹿児島、沖縄)



### 活動事例

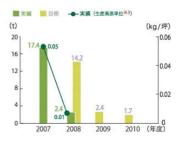
#### ■トルエン含有を抑えた溶剤への切り替え

グループ会社

トルエンについては、2007年度比で86%削減し、目標を達成できました。これは、2005年度からトルエンの含有を抑えた溶剤(塗料用シンナー)への切り替えを推進した結果です。目標は達成できましたが、まだ一部のデポ工場\*\*1・デポ\*\*2で、トルエンを含む塗料、溶剤等が使用されています。今後は、継続してノントルエンの塗料用シンナーの使用を推進するとともに、未使用デポ工場・デポの運用改善の徹底を図り、2010年までに全デポ工場・デポでノントルエン塗料・溶剤への切替を目指します。

- ※1 デポ工場:デポの機能と当社製品の生産機能をもつ事業場
- ※2 デポ: 当社が提供するリース製品を維持・保管するストックヤード
- ※3 生産高原単位: 出荷坪数あたりの使用量

#### ■トルエン使用量の推移

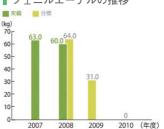


### ■ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテルの削減への取り組み

グループ会社

ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテルは、パネル等の洗浄工程に使用する洗浄液に含まれ、2008年度から代替品の試験・検証を実施しています。検証後、2009年度よりポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテルを含まない代替洗浄液への切替えを行い、2010年度までに全デポ工場・デポでの全廃を目指します。

ぱり(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテルの推移



### 今後の取り組み

吹き付け塗装工程において、トルエン、キシレン含有量の少ない塗料、溶剤等への変更を継続して実施するとともに、製品への塗装付着効率を高める設備導入により塗料 使用量を低減する計画です。

また、パネル等の洗浄工程において、ポリ(オキシエチレン)=ノニルフェニルエーテルを含まない洗剤に切り替えて、2010年度までに全廃する計画です。

大和リース(株) 環境・ISO推進部 部長 岡野 純



## グループ会社の取り組み(ダイワラクダ工業)

### 対象範囲:[ダイワラクダ工業]

全2工場(三重、つくば)

グループ会社



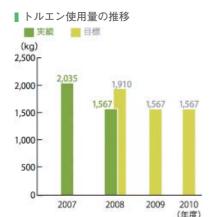
#### 活動事例

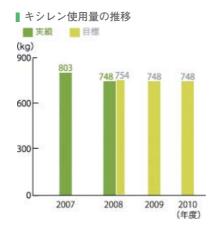
### ■有機溶剤を使用しない粉体塗装への切り替えを開始

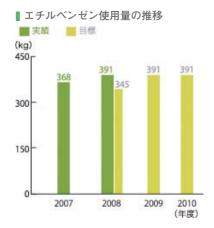
グループ会社

これまで、一部生産部材の塗装工程では有機溶剤による塗装を行っており、下塗りでは有機溶剤塗料をシンナーとの希釈率5:1で使用、上塗りでは有機溶剤塗料をシンナーとの希釈率2:1で使用していました。

そこで、環境配慮の観点から有機溶剤塗料及びシンナーを使用しない粉体塗装への変更を検討し、2009年3月に新しく粉体塗装機を 導入しました。これにより、有機溶剤塗料及びシンナーを使わない塗装が可能となり、2009年3月よりホワイト色について粉体塗装へ の切替えに着手しました。今後は、その他の色についても粉体塗装へ切り替えていく計画です。







### 今後の取り組み

エチルベンゼンの削減ができなかったため、今後はホワイト色以外の色についても順次粉体塗装への切り替えを行うとともに、有害化学物質の含有率の低い塗料への変更も並行して取り組むことで、トルエン、キシレン、エチルベンゼンの削減を目指していきます。

ダイワラクダ 工業(株) 生産部 山下 文生



## 大和ハウスグループの考え方

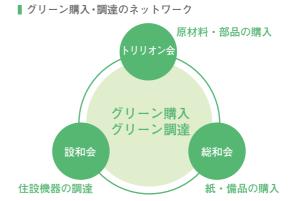
大和ハウス

社会全体の環境負荷低減を目指すためには、当社の事業活動における環境負荷低減への取り組みだけではなく、製品・サービスの購入・調達先にも積極的に働きかけていくことが大切です。

大和ハウス工業では、トリリオン会、設和会、総和会の各サプライヤー組織と連携をとりながら、オフィス用品等を対象としたグリーン購入、工場・建設現場で使用する原材料・部品・住設機器等を対象としたグリーン調達活動を展開しています。

2010年度までに、主要6品目\*1のグリーン購入比率(金額比)を95%以上に、商業建築事業におけるグリーン調達現場\*2比率を80%以上にすることを目指します。

※1:コピー用紙、帳票類、カタログ類、事務用品類、オフィス家具、OA機器※2:当社が選定した「グリーン調達品30品目」のうち10品目以上採用した現場



## グリーン購入

#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

大和ハウス

紙(コピー用紙、帳票類、カタログ類)、事務用品類、オフィス家具、OA機器



### 活動事例

### ■ガイドラインを制定し、グリーン購入を推進

大和ハウス

活動の初年度となる2008年度は、主要6品目(コピー用紙、帳票類、カタログ類、事務用品類、オフィス家具、OA機器)について、「グリーン購入ガイドライン」を制定。コピー機などのOA機器、事務机や椅子などのオフィス家具は、グリーン購入適合品のみを標準品に設定したほか、社内で使用するコピー用紙についても、「森林育成紙」のみの購入に限定し、当社で製作するカタログ類や帳票類も、原則森林育成紙を使用するなど、全社を挙げてグリーン購入を推進しています。



事務椅子は、グリーン購入法適合商品のなかから、廃棄時に分別可能な構造の商品を標準 設定しています。









※張地の素材は、ペットボトルなどの再生材。

コピー用紙

フォーム用紙

/ジアゾ感光紙

(カラー用紙を除く)

プリンタ用トナー

印刷用紙

## グリーン購入

### グリーン購入ガイドライン

(1)紙類
1)コピー用紙、
帳票類

原則:森林認証紙を使 用していること。(i) 例外:グリーン購入 法に適合する用紙を 使用していること。  $(ii) \sim (iii)$ 

i) 森林環境に配慮した「森林認証材」からつくられている(以下、森林認証紙)ものを使用していること。
11 \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \

- ii) 古紙パルプ配合率100%かつ白色度70%程度以下であること
- iii)塗工紙は、塗工量が両面で12g/m<sup>2</sup>以下であること。
- i)森林認証紙を使用していること。
  - ii)古紙パルプ配合率70%以上かつ白色度70%程度以下であること。
  - iii)塗工紙は、塗工量が両面で12g/m<sup>2</sup>以下であること。
- インクジェット i)森林認証紙を使用していること。 カラープリンター用塗工紙 ii) 古紙パルプ配合率70%以上であること。
  - iii) 塗工量が両面で20g/m2以下であること。ただし、片面の最大塗工量は12g/m2とする。
  - i) 森林認証紙を使用していること。
  - ii) 古紙パルプ配合率70%以上かつ非塗工紙は、白色度70%程度以下であること。 iii)塗工紙は、塗工量が両面で30g/m<sup>2</sup>以下であること。

i) 森林認証紙を使用していること。 印刷用紙(カラー用紙)

ii)古紙パルプ配合率70%以上であること

グリーン購入法適合品であること

iii)塗工されているものについては、塗工量が両面で30g/m2以下であること。

#### 2) カタログ等

(2) 文具類

カタログ類 森林認証紙を使用していること。

次のi~iiiのうち1つ以上の条件を満たしていること i)エコマーク※1認定品であること。 事務用品 ii)グリーン購入法適合品であること iii) GPNデータベース※2掲載品であること。

※1 エコマーク:環境保全に役立つと認められた商品につ けられる環境ラベル。(財)日本環境協会が審査している。 ※2 GPNデータベース:グリーン購入ネットワーク(GPN) が運営する環境配慮製品のデータベース。

(3)オフィス家具

いす、机、棚、収納用什器(棚以外)、ローパーテーション、 コートハンガー、傘立て、掲示板、黒板、ホワイトボード

(社)日本オフィス家具協会(JOIFA)が環境物品として推奨する商品(グリーン 購入法適合商品)であること。

#### (4) O A 機器類

コピー機等、 複合機、FAX	次の i ~ ii のうち1つ以上の条件を満たしていること。 i ) グリーン購入法適合商品であること。 ii ) 国際エネルギースターロゴ <b>*1</b> がついていること。	※1 国際エネルギースターロゴ:国際エネルギースタープログラム による省エネ基準を満たしたOA機器に表示されるロゴマーク。				
シュレッダー	グリーン購入法適合商品であること。					
パソコン、 プリンター等	次の i ~ iiiのうち1つ以上の条件を満たしていること。 i) グリーン購入法適合商品であること。 ii) 国際エネルギースターロゴ※1がついていること。 iii) PCグリーンラベル制度※2認定品であること。	<b>※2 PC グリーンラベル制度</b> : 環境に配慮したパソコン製品に関するラベリング制度。(有) パソコン3R 推進センターが実施。				

### ■「森林育成紙™ |への切替えを推進

グループ

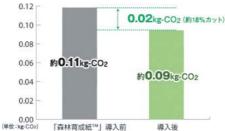
当社グループでは、環境に真に正しい行動を自ら行っていくという考えのもと、2008年4月より名刺・封筒・カタログ類に使用する紙 を、これまでの一般的に環境に良いとされていた再生紙から、製紙原料までの品質管理を求めた「森林育成紙™」に全面的に切り替えま した。「森林育成紙™」とは、当社が独自に定める環境基準を満たす紙の総称であり、適切な森林管理を第三者が認証する森林認証制度※ の認証などを受けた紙をいいます。この自主基準の策定による購買行動は住宅業界では初めての取り組みで、カタログの場合、用紙1枚 あたりのCO2排出量が、従来の再生紙と比べ約18%の削減となります。

※森林認証制度:独立した第三者機関の 定める基準に沿って、適切で持続可能な 森林の管理を審査・認証する制度。認証 された森林では、適切な間伐により下草 の栄養分を確保し、多様な生態系を育む とともに、水と土壌を守り温暖化防止に も貢献します。



#### 自主環境行動「森林育成紙™」とは

#### ■カタログに使用する紙の製造過程に おけるCO2排出量(1枚あたり)の比較





森林育成紙を使った冊子

### 今後の取り組み

グリーン購入比率が高い品目の購入水準を維持するとともに、グリーン購入比率の 低い事務用品類を最重要課題とし、購入比率の低い物品についてその原因を特定し 対策を進めていきます。

また、社員に対してグリーン購入の意義と必要性を継続して啓発するとともに、 リデュースの観点から購入量の抑制も推進していきます。

総務部 部長 君島 道明



## グリーン調達(住宅事業・商業建築事業)

### 「住宅事業」

### ■グリーン調達基準書を継続運用

大和ハウス

当社住宅事業では、2004年度から運用してきた「グリーン調達基準書」を継続して運用、2008年度は、環境負荷低減に対する当社の姿勢を示しサプライヤーとの環境への取り組みの輪をより一層拡げていくため、住宅に使用する原材料や部品・住設機器等について定めた「環境配慮9項目」について、各サプライヤーへ賛同書の提出を要請、提出していただきました。

この「グリーン調達基準」に定める「環境配慮9項目」では、省資源・省エネルギー性や再使用・リサイクル可能性などへの配慮を求め、より環境負荷の低い原材料等を調達するよう努めています。

#### 環境配慮9項目

AL SOHOWS A ME						
1. 環境汚染物質などの削減	環境や人の健康に影響を与える物質の使用や排出が少ないこと。					
2. 省資源・省エネルギー	資源やエネルギーの消費が少ないこと。					
3. 天然資源の持続可能な利用	再生可能な天然資源を利用していること。					
4. 再生材料等の利用	再生材料や再使用部品を利用していること。					
5. 長期的使用性	長期間の使用ができること。					
6. 再使用又はリサイクル可能性	再使用又はリサイクルが可能なこと。					
7. 処理処分の容易性	建物から取り外しが容易で、且つ、分別が可能なこと。					
8. 梱包材の削減	当社梱包材使用チェックシートに合格していること。					
9. その他の環境に与える影響が少ないこと。						

### 「商業建築事業」

### ■グリーン調達品目の制定

大和ハウス

当社商業建築事業では、建築物の設計・施工・運用・解体時に環境負荷の小さい材料および工法の採用を推進するため、2008年、特に採用を進める「グリーン調達品目(30品目)」を定めました。

主に設計部門が取り組む建材分野では、舗装材4品目、鋼材1品目、下地材7品目、仕上材8品目を、設備分野では、エアコン、変圧器など4品目を設定しました。一方、主に施工部門が取り組む仮設・地業分野では、土壌改良1品目、仮設材1品目、型枠材1品目、コンクリート・アスファルト類3品目を設定しました。

#### グリーン調達30品目

分類	No.	品目名	分類	No.	品目名	分類	No.	品目名
土壌	1	土壌改良材	鋼材	11	再生鋼材		21	水性塗料
仮設	2 /ンハロゲンメッシュシート (キョーワ)			12	再生木質ボード(パーティクルボード、 繊維板、木質系セメント板)		22	タイルカーペット
型枠	3	代替型枠		13	石膏ボード	仕上	23	フローリング
	4	混合セメント(高炉セメント、 フライアッシュセメント)		14	岩綿吸音板	14-4-	24	ビニル系床材
コンク	5	エコセメント・コンクリート製品	下地	15	断熱・吸音材 (グラスウール・ロックウール)		25	クロス(エコロジークロス)
リート	6	再生アスファルトコンクリート		16	製材		26	布製ブラインド
	7	再生砕石		17	合板		27	エアコン
	8	ブロック(平板、インターロッキング)		18	フリーアクセスフロア	設備	28	ガスヒートポンプ式 冷暖房機
舗装他	9	透水性舗装	仕上	19	ガラス	以加	29	変圧器
	10	屋上緑化(屋上庭園、屋上芝生広場、 屋上農園、緑化屋根等)	11-11-	20	タイル		30	蛍光灯照明器具、ランプ

#### 今後の取り組み

### [住宅事業]

新規材料調達時には「環境配慮9項目」への取り組み状況を確認するとともに、主要建材について化学物質の含有情報の調査・ヒアリングを実施していきます。

#### [商業建築事業]

今後は、今回制定したグリーン調達30品目の採用を進め、30品目中10品目以上採用できた物件を「グリーン調達現場」とし、2010年までに全物件の80%以上が「グリーン調達現場」となるよう推進していきます。

設計施工推進部 部長 岩本 佳樹



### 自然環境との調和(生物多様性保全)

### 考え方

自然界に直接手を加える建設業の責任を自覚し、自然環境と調和した住まいや街づくりを通じて、生物多様性の保全に取り組んでいます。

### 大和ハウスグループの考え方

グループ

#### 生物多様性の保全に向け、事業を通じた多角的な取り組みを進めています。

2010年10月、名古屋で開催される「生物多様性条約\*第10回締約国会議(COP10)」においても企業の生物多様性保全への取り組みがテーマの一つに予定されるなど、その重要性が広く社会共通の認識となりつつあります。このようななか、当社グループでは、2005年に制定した「環境ビジョン」において、「自然環境との調和」を環境活動重点テーマの一つに掲げ、いち早く取り組みを進めてきました。

2008年に策定した「エンドレス グリーン プログラム 2010」においても、自然界に直接手を加える事業の特性から生態系に与える影響の大きさを自覚し、「生態系保全への取り組み推進」を基本方針の一つに掲げました。豊かな自然環境の維持保全やサプライチェーンを通じた森林の育成、そして自然環境と調和した住まいや街づくりにおける緑地の創出など、生物多様性の保全に向け、事業を通じた多角的な取り組みを進めています。

■生物多様性保全の重点テーマ



※生物多様性条約:1992年5月22日に採択、同年に開催された地球サミットで署名開放(条約等に各国が署名できるよう内容を開示)され、1993年に発効。(1)多様な生物とその生息環境の保全、(2)生物資源の持続可能な利用、(3)遺伝資源の利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分を目的としている。日本は1992年に署名、翌年締結。2009年2月末現在、191の国と地域が締結している。

#### ■豊かな自然環境の維持保全

グループ会社

当社グループの大和リゾート(株)が全国30ヶ所で展開するロイヤルホテルは、国立公園等に含まれる8ヶ所をはじめ、豊かな自然に恵まれた立地環境にあり、その周辺環境の維持管理を通じて生態系保全に取り組んでいます。全国30ホテルの敷地面積の合計は約150万m2を超え、保安林にも囲まれています。

各ホテルでは、管理者による定期的な樹木の点検を行い、虫害などがみられる場合には森林管理者の指導のもと早急に対策を実施しています。また、周辺の水環境 (湖沼、河川、海)の汚染防止のため、排水の管理については、自主基準を設け定期的な測定を行なうなど、厳密な管理を行っています。



緑豊かな森林の保全 (南淡路ロイヤルホテル)

さらに、敷地内はもちろん、周辺の清掃や雑草処理なども積極的に実施し、地域の方と共に生態系保全に取組んでいます。

今後も、周辺環境の維持保全の取り組みを継続するとともに、積極的な生態系の修復に取り組んでいきます。

### ■用紙購入の自社基準「森林育成紙™」を策定

グループ

当社グループでは、環境に真に正しい行動を自ら行っていく考えのもと、2008年4月より、名刺・封筒・カタログ類に使用する紙を、これまでの一般的に環境に良いとされていた再生紙から、製紙原料までの品質管理を求めた「森林育成紙™」に全面的に切り替えました。 「森林育成紙™」とは、当社が独自に定める環境基準を満たす紙の総称であり、適切な森林管理を第三者が認証する森林認証制度※の認証などを受けた紙をいいます。

※森林認証制度:独立した第三者機関の定める 基準に沿って、適切で持続可能な森林の管理を審査・認証する制度。認証された森林では、適切な間伐により下草の栄養分を確保し、多様な生態系を育むとともに、水と土壌を守り温暖化防止に役立っています。

\_\_\_\_ グリーン購入 →P191

■「森林育成紙」を用いた名刺、封筒、カタログ



## 考え方

### ■自然と調和した住まいと街づくり

大和ハウス

建設活動は、結果的に自然界に手を加えることで社会生活の基盤を創る行為といえます。自然環境に与える影響は大きく、だからこ そ、私たちが豊かな自然環境の保全・創出に果たすべき責任も大きいと考えています。その責任を自覚し、自然を活かした快適な住ま いづくりや生態系に配慮した街づくりを進めています。

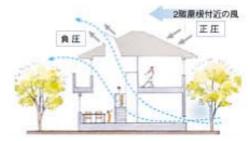


地球環境大賞の受賞について

WEB 地球境境大員の文章により、 (http://www.daiwahouse.co.jp/eco/award1/)

### ■風を活かすデザイン~昔ながらの知恵に学ぶ~

日本の民家には、夏に「越屋根」から室内の暖まった空気を効率よく排出 するなど、風と共に暮らすさまざまな工夫が施されていました。当社では、 こうした先人の知恵にならい、通風に配慮したプランニングなど、風を活 かすデザインに取り組んでいます。



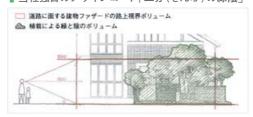
地窓から取り込んだ冷気は吹抜や階段室 を通り天窓から抜ける。

### ■緑を活かすデザイン~三分(さんぶ)の緑陰~

当社では、居住環境と周辺環境をつなぐ仕掛けとして、住まいの緑化を 効果的にデザインし、美しい外観を整えることを積極的に提案していま す。その一つが、視界に入る建物正面の1/3程度を植栽の緑とその陰で覆う 「三分(さんぶ)の緑陰 |というデザインコードです。

季節の色や花を楽しむという景観としての効果に加え、プライバシーの 確保や防犯対策、さらには陰をつくり風を呼びこむ効果もあります。

#### ■ 当社独自のデザインコード [三分(さんぶ)の緑陰」



### ■水を活かすデザイン~打ち水効果を活用~

当社では、都市部の街づくりを中心に、ヒートアイラインド対策として 保水性舗装※の採用を積極的に進めています。これは、保水された雨水が 蒸発する「打ち水効果 | を利用、昔ながらの知恵を活かした快適な環境づく りです。

また、保水性舗装には、廃材をリサイクルした舗装材やレンガチップを 使用するなど、環境に配慮した素材選びにも努めています。

※保水性舗装:舗装体内に保水された水分が蒸発し、水の気化熱により路面温 度の上昇を抑制する性能を持つ。

#### ■ 保水性舗装



## 環境共生住宅への取り組み

### 環境共生住宅認定の推進

大和ハウ

当社では、自然環境との共生を図る「自然と調和した街づくり」を進め、「環境共生住宅※ 認定制度 | をその到達度を測る指標と位置づけています。

2008年度は、全国の分譲住宅において積極的に認定取得を行ない、戸建住宅では昨年の 22.6%増となる1.788棟の認定を取得しました。また、「越谷レイクタウン」における戸建 街区(132戸)とマンション街区(500戸)の一体開発では、本制度の【団地供給型】において 日本初となる、マンション・戸建一体での認定を取得しました。

その結果、2008年度における当社の環境共生住宅認定戸数は、戸建・マンション合わせ て計1.992戸となりました。

■環境共生住宅の累積認定戸数 8,000 7,000 6,000 5.000 4.000 3,000 2,000 1,000

なお、2003年度からの累積認定戸数は、6,881戸となります。

※環境共生住宅:人と住まいをとりまく[環境]をより良いものにしていくために、「地球環境を保全する」「周辺環境に親しむ」「健康で快適な 居住環境」という3つの考え方に基づいた住まいづくりのことで、(財)建築環境・省エネルギー機構が認定するもの。

2008年度は、こうした取り組みが評価され、第18回地球環境大賞(主催:フジサンケイグループ)において『大賞』を受賞しました。

## 第18回 地球環境大賞『大賞』受賞 共和バウスは、「自然環境と興和した街づくり」などが



地球環境大賞の受賞について

(http://www.daiwahouse.co.jp/eco/award1/)

### | 事例紹介|| 越谷レイクタウン戸建街区・マンション街区(埼玉県)

大和ハウス

2008年3月に街開きを迎えた「越谷レイクタウン(埼玉県) |では、当社が進める「自然と 調和した街づくり」の先進モデルの一つとして、戸建街区(132戸)とマンション街区 (500戸)の一体開発を行ない、風・太陽・水といった自然を最大限活かし街区全体でCO2 を20%以上削減することを目指しました。

戸建街区では、地域の風と水に着目。最新の風況シミュレーション技術により、街区全 体の風況解析を行い、その結果をもとに個々の住戸にパッシブデザイン※1を採用。風環 境の良い場所にリビング、ダイニングを配置し、住戸内に風を取り込み、通風や排熱を促 進させる工夫を凝らしました。

一方、マンション街区では、日照条件の良さに注目。マンションの各住戸への給湯・暖 房用に、集合住宅としては日本最大規模の太陽熱利用システムを導入しました。

こうした取り組みが評価され、(財) 建築環境・省エネルギー機構が認定する「環境共生 住宅(団地供給型) |において、戸建・マンション一体では日本初となる認定を受けました。



越谷レイクタウンの戸建街区とマンション街区

また、同機構が認証する「CASBEE-まちづくり※2」において、最高ランクであるSラン クの評価認証を受けました。今回の認証は、「CASBEE-まちづくり」において認証第1号物件となります。

※1機械や設備に頼らず、自然の力を最大限に利用した建築デザインのこと。

※2 CASBEE - まちづくり:街区全体の環境性能を評価するために開発されたシステム。一般建築物用の環境性能評価システム「CASBEE -新築 | の概念を街区スケールに拡張したもので、格付けは上位から 「S、A、B+、B-、C | の5段階。

戸建街区「美環(みわ)の杜 | の取り組み →P199

マンション街区「D'グラフォート レイクタウン」の取り組み →P160

### 事例紹介 D' グラフォート千里中央(大阪府)

大和ハウス

「D'グラフォート千里中央」は、(財) 建築環境・省エネルギー機構が認定する「平成 19年度環境共生 住宅(個別供給型)]において、大規模な複合用途の建築としては初の認定を受けました。特に敷地内 と屋上庭園に、地域の植生に近い緑化を行い、また、日光が当たりにくいエントランスホールの植栽 は、太陽光を自動追尾するシステムで効率的な採光を可能にしています。

2009年2月には、こうした緑化への取り組みが、都市環境の改善や敷地内の魅力向上に貢献し、ま た、新たな緑化手法のモデルとして高く評価され、大阪府が実施する第2回おおさか優良緑化賞にお いて『大阪府知事賞』を受賞しました。



「第2回おおさか優良緑化賞」受賞(ニュースリリース)」 (http://www.daiwahouse.co.jp/release/20090216140042.html)



D'グラフォート千里中央 外観

## 戸建住宅事業(分譲)の取り組み

### 対象範囲:[大和ハウス工業]

分譲住宅(2008年度:約1,700戸)

大和ハウス



#### 活動事例

### ■かずさの杜 アクセブ ちはら台(千葉県)

大和ハウス

千葉県市原市にある「かずさの杜 アクセブ ちはら台(326区画)」は幅員約20m、全長約4kmに及ぶ四季の移り変わりが感じられる遊歩道「かずさの道」に隣接しています。事業者(当社を含め2社の共同事業)は、こうした美しい周辺環境との調和に配慮し、電線地中化による美しい街並みを形成し、四季の移ろいを感じる緑豊かな植栽計画を心掛けました。

また、景観を維持・発展させるため、建築物や工作物のデザイン、色彩などの制限を 定めた「景観計画」\*\*を制定予定です。

さらに、管理組合による植栽の維持管理を行うなど、美しい街並みを住民自らの手で長期に渡って維持できる仕組みづくりにも取り組んでいます。

<mark>※景観計画:</mark>景観法に基づいて作成する地域の景観形成の総合計画。届出対象行為や行為の制限に関する基準を規定するもの。



電線を地中化し、緑豊かな植栽を施した美しい街並み

### ■エコノイエ西高屋 (広島県)

大和ハウス

広島県東広島市にある「エコノイエ西高屋(175区画)」では、環境に配慮したライフスタイルを提案し、身近なエコと自然環境との調和を実感できる街づくりを行っています。

例えば、雨水タンクを各戸に設置し、溜めた雨水を庭の植栽への散水に使用していただいたり、生ゴミ処理機を推奨\*\*し、できた堆肥を 植栽に有効利用できるようにしています。

また、「街づくりガイドライン」を制定し、建物や外構・植栽に関する細かなルールや、環境共生住宅認定の取得推進などを定め、緑豊かで美しく調和した街づくりを誘導しています。

さらに、宅地開発前から育っていたケヤキ2本とクスノキ1本をそのまま公園のシンボルツリーとなるような計画とし、既存樹木の保存を図っています。

こうした取り組みが、地域全体の環境に対する意識の変化に繋がり、美しい街並みが維持・発展していくことを期待しています。

※分譲住宅には全戸に設置しています



緑豊かで潤いのある街並景観



既存樹木を公園のシンボルツリー として保存

## 戸建住宅事業(分譲)の取り組み

### ■レイクタウン 美環(みわ)の杜 (埼玉県)

大和ハウス

2008年に街開きした越谷レイクタウン内の分譲地「レイクタウン美環(みわ)の杜」では、自然環境をうまくコントロールしながら暮らす先人の知恵を現代の住宅に応用できないか検討を重ねた結果、冬の強い北風や街区東側のキャナルから吹く夏の涼風という地域条件に着目、「風」を活かすデザインに取り組みました。計画を進めるにあたっては、気まぐれな自然を最新のシミュレーション技術を用いて解析、できる限り定量的なデータに基づく設計に注力しました。まず、街区計画においては、東京大学生産技術研究所・大岡研究室の協力を得て、分譲地周辺の季節の風を調査分析、本計画地に想定される建物・植栽を配置し、街区内の風況・温熱シミュレーションを行いました。



「美環の杜 |の街並み

#### ■植栽で建物まわりの風環境をコントロール

風況・温熱シミュレーションの結果をもとに、春から秋はキャナルからの涼風を街区内に取り込む街区計画とし、冬は冷たい風が街区に侵入しないよう北と西側に高垣をはりめぐらせました。季節ごとに変化する「風」を取り入れたり、遮ったりとコントロールしながら、街全体の風環境を整えました。

#### ■生態系保全と緑がつなく地域コミュニティー

「美環の杜」では、生態系の環をコンセプトの一つに、外構に地域適合樹種を積極的に採用しました。街の随所を飾るシンボルツリーには 在来種であるソヨゴ(冬青)を選定し、各住戸には、7区画のコミュニティーエリアそれぞれにシンボルツリーを決めて植栽しています。

また、野鳥・昆虫・蝶などの小動物との共生を目指して、花置台、バードバスなどを配置しています。

#### ■住まい手とともに環境意識を育む

「美環の杜」では、地域コミュニティーを育み、緑豊かな美しい街並みを次の世代に受け継いでいくために、住民参加型のイベントを継続的に行っています。庭木のお手入れ講座から田植え体験ツアー、クリスマス装飾教室の開催などイベント内容は多岐に渡っており、住民同士の交流の場となっています。



冬の冷たい北風を防ぐ ために、街区北側に高垣 を設けています



自然の石をうまく活用した花置台



庭を訪れる野鳥たちが羽を休めることができるバードバス

## 戸建住宅事業(分譲)の取り組み

#### 今後の取り組み

街づくりにあたっては、生物的豊かさと循環性に配慮しつつ、周辺の自然環境や地域社会等との調和を念頭において進めていきたいと考えています。

また、自然の恩恵を享受できるような良好な住環境や美しい景観を創出するだけではなく、それらを維持・発展させていくために法的なルールとなる地区計画や建築協定、その街独自の「街づくりガイドライン」などを策定し、街の価値を未来につなげていきたいと思います。

技術本部 東京デザイン事務所 街づくりグループ グループ長 佐々木 裕輔



### COLUMN 間伐木のチップ利用による表土保護と自生種による自然復元

福島県猪苗代の森林住宅分譲地の造成工事において、開発に伴い間伐した木のうち、用材として利用できない木・根・葉の部分をチップ化し、土壌改良剤として堆肥化を行いました。今回このチップ堆肥を利用して郷土樹種を植樹し、自然の復元を計画しました。

造成により森林を改変した分譲地の背割り沿いに幅2mでチップ堆肥を敷きならし、植物が育つ土壌に改良したうえで、1m間隔でドングリの種まきを行いました。また、将来複合林となる様に周辺に自生していたマツ(30cm)を、5m間隔に移植しました。周辺の植生と植栽木を合わせることで、環境と調和した森林住宅地を目指しています。

### 大和ハウス



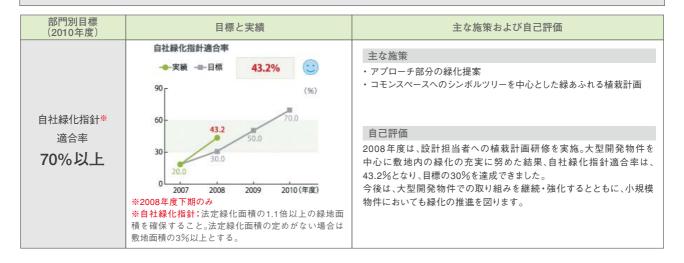
自生種による宅地内緑化の例(猪苗代)

## 賃貸住宅事業の取り組み

#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

大和ハウス

賃貸住宅事業のうち、敷地面積が1,000m2以上の大型開発物件(2008年度約220件)



#### 活動事例

### ■連取ガーデンヒルズ(群馬県)

大和ハウス

群馬県伊勢崎市の「連取ガーデンヒルズ」では、人気の住宅街に当社の賃貸住宅商品「セジュールウィルコート」6棟(12世帯)を建設しました。計画にあたっては、周辺環境への配慮をコンセプトに、敷地の中央に小川を作り、木々をたくさん植え、緑豊かな公園のような佇まいを実現しました。また、家族で楽しむことができるバーベキューコーナーを設置したり、ペットを飼うことができる建物仕様にするなど入居者の多様なニーズに対応し、人と環境にやさしい賃貸住宅を目指しました。







敷地中央に流れる小川

### ■西宮サニーヒルズ (兵庫県)

大和ハウス

兵庫県西宮市の「西宮サニーヒルズ」では、緑あふれる邸宅街の斜面地を活用して、戸建貸家を中心とした16世帯の賃貸住宅を建設しました。

建設地は、木々が多い斜面地であったこともあり、緑を多く残すように計画し、敷地面積の4割弱の緑地を確保しました。また、土留めとなる擁壁\*にも植物をはわす工夫を施すことで、周辺環境との調和に配慮しました。

さらに、省エネのためにエコキュートを用いたオール電化仕様を採用。また、メンテナンスを軽減するために、外壁にはタイルを、屋根にはフッソ樹脂塗装鋼板を採用。造成のために掘り起こした岩石を捨てずに、庭石として再利用するなど省資源化にも配慮しました。

ご入居者のためには、16世帯の賃貸住宅すべて違う規模、間取りを用意し、さまざまなお客様のニーズに応えるとともに、敷地内には防犯カメラ、各世帯にはホームセキュリティーを設置し、24時間安全な住まいを提供しています。

※擁壁:傾斜地を平らにするために盛った土を留める壁のこと



西宮サニーヒルズ 外観(1)



西宮サニーヒルズ 外観(2)

## 賃貸住宅事業の取り組み

### 今後の取り組み

賃貸住宅事業では、大規模物件を中心に敷地内に木や芝生などを植え緑化率を高めることで、オーナー様の建物の資産価値を高め、また、入居者様の満足度を向上することにより入居率の安定確保に努めてきました。現在は法定緑化面積の1.1 倍以上、または法定緑化面積の定めがない場合は敷地面積の3%以上の緑地面積を確保する自主緑化指針を定め、緑化を推進しています。

今後は、この自主緑化指針適合率をさらに高めるとともに、敷地面積が1,000m<sup>2</sup>未満の物件に対しても緑地を増やし、快適な住空間を提供したいと考えています。



営業本部 集合住宅事業推進部 部長 山下 正記

#### COLUMN 分譲マンションにおける緑化の推進(プレミスト南千里)

大和ハウス

現在開発中のプレミスト南千里(大阪府吹田市)では敷地の約20%にあたる約2,000平方メートル(テニスコート約7.5面分)を緑地化し、そこに四季を彩る様々な花や樹木を植栽して、住まい手が楽しめる環境づくりを行うとともに、開発前からその地に生きるメタセコイアの大木4本をシンボルツリーとして保存し、街の記憶を未来に継承しています。良い外構・植栽は周辺環境を向上させるとともに、資産価値向上の観点においても重要な要素となります。植栽を施し、それを育てていくことでマンションへの愛着と資産価値が育っていくような将来を見据えたマンションづくりを目指しています。



完成予想図(外観)※



庭園のイメージ

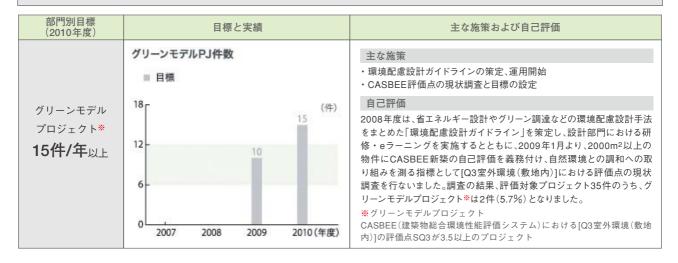
※掲載の完成予想図は、設計段階の図面を基に表現したもので、仕様・植栽等は実際と多少異なる場合があります。

## 商業建築事業の取り組み

#### 対象範囲:[大和ハウス工業]

延床面積2,000m<sup>2</sup>以上の商業施設、一般建築物件

大和ハウス



#### 活動事例

### ■緑を育むショッピングセンター ー iias(イーアス)つくば(茨城県)ー

大和ハウス

2008年10月、茨城県つくば市にオープンした「iias(イーアス)つくば」は、屋内のインモールと屋外のアウトモールを組み合わせた複合商業施設で、敷地全体に豊かな緑を育んでいます。

駐車場は樹種の異なる木でゾーニング。モール棟西側にワイヤー緑化、南面に壁面緑化、テラスやセンターコートの屋上緑化など、緑をふんだんに取り入れています。これらの緑化により、日射による熱負荷を低減するとともに、CO2の吸収を通じて地球温暖化防止にもつながっています。

また、アウトモールの「カツラギロード」は、豊かな自然と建物が融合した街並み空間を意図し、光が降り注ぎ、緑があふれ、穏やかに水が流れる計画としました。中央のイベントプラザや湧き出るミスト、滝や噴水が華やかさを演出し、花や木々の季節ごとに移り変わる景色が訪れた人たちをもてなしています。



iias(イーアス)つくば 全景(イメージ図)



壁面緑化とワイヤー緑化

### ■森の中にある銀行を目指して 一京都銀行 門真支店(大阪府)ー

2009年6月に竣工した京都銀行門真支店(大阪府門真市)では、「森の中にある銀行」をコンセプトに、1階ロビー前に鎮守の森をイメージした庭園、2階に約11坪の屋上庭園、屋上にも緑地を設け、敷地全体の約36%を緑化しました。樹種は地域在来種の常緑樹を中心に選定し、手入れされた庭園ではなく、雑木林のような野趣のある「森」の造形を目指し、4.5m以上の高木を配するなど緑の存在感にあふれた銀行を目指しました。また、太陽光発電や雨水を利用した自動潅水設備など、建築物の環境配慮にも積極的に取り組み、CASBEE\*評価においてAランクの評価となりました。

**※CASBEE:**建築物総合環境性能評価システム。建物を環境性能で格付けする手法で、格付けは上位からS・A・B+・B-・Cの5段階。



外観(イメージ図)

】 特集.環境との共創共生「持続可能な都市基盤のために ~環境に配慮した建築~」 →P113

大和ハウス

## 商業建築事業の取り組み

### ■環境に配慮した街づくり 一牧志・安里地区第一種市街地再開発事業(沖縄県)ー

大和ハウス

現在、沖縄県那覇市において事業進捗中である「牧志・安里(まきし・あさと)地区第一 種市街地再開発事業」において、当社は特定業務代行者として事業推進をしています。

その中で、組合員・行政と連携し「環境に配慮した街づくり | をコンセプトに街づくり を進めています。

施設建築物工事では、屋上緑化、LED照明、再生水の利用にてCO2の削減に取り組む 一方、河川改修工事にあたっては、親水空間の緑地化、また自然を保全・創出する観点 から魚にやさしい、安らぎのある河川づくりとして「魚巣ブロック|※の設置を計画中



完成予想図

※魚巣ブロック:河川、水路等の護岸ブロックに空孔部を設け、土砂を滞留させることにより、水草等を生育しやすくし、魚や水生動植物の保護 に適した環境をつくりだすもの。

### ■総合緑化事業をスタート(大和リース)

グループ会社

大和リース(株)では、2007年から工場などを対象に、折板屋根緑化システム「eco(エコ)ヤネ」を販売しています。「ecoヤネ」は、設置 が容易でローメンテナンス、自動潅水設備も不要のため経済性に優れた屋上緑化システムです。 2008年度は、工場などを中心に提案 を行い、40棟、約13,000m2(当社事務所・工場を除く)の施工実績となりました。

また、近年ヒートアイランド対策などの観点から工場だけでなく、商業施設・集合住宅の屋上や壁面、オフィス内にも緑化導入の ニーズが高まっており、2008年10月からは事業範囲を建物緑化全体に広げ、お客様の多様なニーズに対応しています。併せて、お客様 のコスト負担を減らし、少しでも多くの建物に緑化システムをご採用いただけるよう、リース事業も開始しました。同年には、屋上菜 園化システムとして「ecoヤネfarm(エコヤネファーム)」も販売を開始し、環境に配慮した建物の普及を積極的に推進しています。



折板屋根緑化システム『eco(エコ)ヤネ』

屋上菜園化システム『eco(エコ)ヤネfarm』

大和リース(株)「ecoヤネ」 (http://www.daiwalease.co.jp/eco/index.html)

大和リース(株)「ecoヤネfarm」 (http://www.daiwalease.co.jp/eco/farm.html)

グループ内での資源循環システムの構築 →P171

### 今後の取り組み

2009年度は、商業建築事業において「自然環境との調和」への取り組みを 推進するため、新たに「年間10件以上のグリーンモデルプロジェクトの実施| を目標に掲げ、より一層の推進を図ります。

技術太部 設計施工推進部 部長 斉藤 博之



### 大和ハウスグループの考え方

グループ

ステークホルダーとの対話を環境活動の改善につなげていくには、まず当社の環境に対する考え方や取り組み内容を正確にお伝えするとともに、対話の機会を増やしていく必要があります。

また、環境に配慮した住まいと暮らし方や持続可能な都市基盤について、共に考え共に 実践していくことも「人・街・暮らしの価値共創グループ」としての当社の社会的責任と 考えています。



### ■環境行動スローガン「未来を、つなごう We Build ECO」の策定

グループ

当社グループでは、継続して環境活動に取り組むとともに、様々な機会や媒体 を通じて環境情報を積極的に発信し、ステークホルダーのみなさまとの対話機 会の充実を図っています。



環境行動スローガン

2009年4月、当社グループの地球環境への取り組みに対する強い思いとステークホルダーのみなさまに向けたメッセージとして、環境行動スローガン「未来を、つなごう We Build ECO」※を策定し、「環境リーフレット」を発行しました。

また、このスローガンの使用にあたっては当社独自の基準を設け、環境に配慮 した商品やサービス、活動などに対してのみ使用しています。

今後は、より多くの商品やサービス、活動に使用できるよう、より環境に配慮 した商品やサービスの開発を進めるとともに、環境活動に積極的に取り組んで いきます。



環境リーフレット

※当社グループの地球環境への取り組みに対する強い思いと、ステークホルダーの皆さまに向けたメッセージとして策定した環境行動スローガンです。「未来を見据えた自主的な環境行動によって、常に社会をリードし、現在と未来をつないでいきたいということを表すため、未来「へ」ではなく、未来「を」という表現にしています。



スペシャルサイト「未来を、つなごう We Build ECO」

(http://www.daiwahouse.co.jp/eco/index.html)

#### ■環境フォトコンクールの実施

グループ

当社グループでは、社員の環境意識啓発の一環として、年一回、環境コンクールを実施しています。これまで、「環境標語コンクール」や「1人1日1kgCO2削減アイデア・コンクール」などを実施しました。2008年度は、「環境フォトコンクール」を実施し、当社の環境ビジョン「環境と共生し人が心豊かに生きる社会」の実現を目的に、「あなたの目指すエコな人・街・暮らし」をテーマとして写真を募集した結果、141作品の応募がありました。その後、環境推進責任者等で審査を行い、最優秀作品1点、優秀作品3点を選定しました。



環境フォトコンクール最優秀作品 「青空と三連水車」



#### ■最優秀賞受賞者のコメント

これは、350年ほど昔から働き続けている老齢の水車です。現役の揚水水車としては、全国で唯一の財産です。春の田植え時に、また来年も稼動してくれるでしょう。自然の力を利用したこのような財産を後世に残したいものです。

九州工場 建築生産管理課 課長香田 時彦

## 環境情報の発信

### ■CSRレポートの発行とホームページの公開

グループ

当社グループでは、環境活動の年次報告として2000年度から「環境報告書」を発行、2005年度からは名称を「CSRレポート」に変更し、ステークホルダーごとに取り組み状況を報告する等、社会的側面の報告を充実させています。

2009年度は、昨年度に引き続き、冊子(ダイジェスト版)とwebサイト(詳細版)に分けることで、それぞれの特性を活かした情報開示を目指しました。

冊子では、当社グループが特に大切であると考えているテーマにしぼり、ステークホルダーとの対話や写真等を多用することで「読みやすさ」を重視し、開示情報の質的向上を図りました。





CSRレポート2009

webサイト 「CSRへの取り組み |

他方、webサイトでは、当社グループの取り組みについて幅広く全容を報告すると

ともに、具体的な取り組み内容やデータなど、より詳しい情報を掲載することで、開示情報の量的向上を図りました。またwebサイトでは、サイトレポート(工場の取り組み)やグループ会社の環境報告書も掲載しています。



### 「第12回環境報告書賞・サステナビリティ報告書賞 | において、優良賞を受賞

「大和ハウスグループCSRレポート2008」が、(株)東洋経済新報社およびグリーンリポーティングフォーラムが主催する「第12回環境報告書賞・サステナビリティ報告書賞」の「サステナビリティ報告書部門」において、優良賞を受賞しました。受賞理由は、見開きページで話題が完結する読みやすさと、CSR自己評価指標(CSRに関する独自のKPI\*)の工夫が評価されたものです。

※KPI(Key Performance Indicator:重要業績評価指標):業務の達成度を定量的に把握するための指標のこと。

WEB V 「CSRレポ

፟<mark>፟</mark>├╮「CSRレポート」バックナンバー」



「第12回環境報告書賞・サステナビリティ報告書賞」 において優良賞を受賞(ニュースリリース)」

(http://www.daiwahouse.co.jp/release/20090513103115.html)

#### ■各種情報誌を用いたコミュニケーション

大和ハウス

当社発行の『環境住宅読本』・『ecoナビゲーター』等の読本では、地球温暖化から身近なゴミ問題までを取り上げ、地球にやさしい暮らし方や自然と一緒に暮らす"工夫"をご提案しています。また、『健康快適読本』では、健康に暮らすことが環境にも良いということを、実例を挙げてご紹介しています。

2008年度は小学生(高学年)向けに、この『健康快適読本』をよりわかりやすく説明した『人にも地球にもやさしい住まい』という冊子を作成しました。



┃情報誌「マイハッピー ファミリー」の ┃環境特集ページ



さらに、住まいをご計画中の方向けの情報誌「マイハッピーファミリー(MHF)」では、住まいづくりのノウハウや当社の技術、サービス、暮らしの情報を伝えるだけではなく、「地球にやさしい住まいと暮らし」の特集や、「エコ生活のすすめ」をシリーズで掲載するなど、エコライフの提案に取り組んでいます。

### ■環境コミュニケーションサイト『未来惑星(ミライボシ)』を公開

大和ハウス

当社では、一人でも多くの方に環境に配慮した暮らしを実践いただくことを目的として、楽しみながら環境意識の向上を図ることができる環境コミュニケーションサイト「未来惑星(ミライボシ)」を2008年4月に公開しました。

このサイトは、日々の生活で行っているエコ活動をチェックシートで登録すると、その内容が星に反映され、星が成長・衰退等の変化をしていきます。日々変化する星の状況を観察することで、自分にできるエコ活動を考えるきっかけになります。なお登録者数は、約11,900人(2009年5月10日現在)で、「日々変化していくのが楽しい」、「一人ひとりの積み重ねが、子どもたちの未来につながっていくと思う」などの声をいただきました。

2009年7月には、デザイン機能を拡充させるとともに、携帯電話からもアクセスできるようリニューアルをしました。このリニューアルの一つとして、ユーザーの方に継続して取り組んでいただけるよう、従業員が自分の身近なエコ活動などを紹介する「未来惑星ブログ」を公開しています。



[未来惑星]のトップページ



「未来惑星|のエンディングページ

WEB 未来惑星(ミライボシ)はこちら



## 環境情報の発信

### ■ご契約者様向け環境スペシャルコンテンツの開設

大和ハウス

毎日の暮らしで使用するエネルギー起因のCO2排出量を削減するためには、建物の省エネ性能だけでなく、住まい手の暮らし方が重要なポイントになります。そこで2009年4月から、ご契約者様向けホームページ「ダイワファミリー倶楽部※」内に、地球環境にやさしい暮らしの情報をご提供するスペシャルコンテンツ「みんなでECOチャレンジ」を開設しました。

このサイトは、ご契約者様(住まい手)と当社(作り手)が、地球温暖化防止について共に考え、取り組むことを目的として、簡単にできるエコアイデアを毎日1つご紹介する「今日からのエコステップ」や「我が家のCO2家計簿」など、楽しみながら継続して省エネ活動を実践していただけるコンテンツを掲載しています。

今後、より多くのご契約者様に参加していただけるよう、積極的に呼びかけていきます。

※ダイワファミリー倶楽部:ご契約者様向けに、「住まい」の資産価値を守るために自分でできるメンテナンス方法をご紹介したり、家族みんなで楽しくできるガーデニング方法やスローライフなど、より快適で地球にもやさしい暮らし方をご提案しているホームページ。

#### ■みんなでECOチャレンジ



■「今日からのエコステップ」



簡単にできるエコアイデアを、 毎日一つご紹介。

#### ■ CO₂排出量の「見える化」



ダイワファミリー倶楽部全体と個人の CO2削減量が表示されます。

WEB ダイワファミリー倶楽部 (http://www.d-family.jp/)

■環境広告

当社グループは、「共に創る。共に生きる。」を基本姿勢として事業活動に取り組んでおり、地球環境への取り組みに関してもその姿勢が変わることはありません。そこで、当社グループの広告においては、私たちの取り組みを皆さまに伝えるだけでなく、共に今できることは何かを考えていきたいと考えています。

2008年度は、継続してテレビCMや新聞等で環境広告による情報発信を実施しました。なかでも、当社のテレビCM「xevo エコバッグ 篇」では、当社の住宅xevo(ジーヴォ)に住むだけで減らせるCO2排出量を、ブナの木が吸収するCO2の量に例えてわかりやすく表現するとともに、買い物時にレジ袋を使わず、「エコバッグ」を使うことで抑制できるCO2排出量も伝え、一般の方が日常生活で身近なエコ活動に取り組むことを応援したいと考えました。

2009年3月には、このような点が評価され、環境省及び(財)地球・人間フォーラム主催の第12回環境コミュニケーション大賞テレビ CM部門「優秀賞(地球・人間環境フォーラム理事長賞)」を受賞しました。

■ 第12回環境コミュニケーション大賞テレビCM部門「優秀賞」受賞広告「xevo エコバッグ」篇



地球環境保護のために、マイバッグ (エコバッグ)を持参し、レジ袋を断 る永作博美さん



少しでも地球環境に良いことをして ブナの木を守りたい永作博美さん



、 テレビCM(xevo「エコバッグ」篇) ♥ (http://www.daiwahouse.co.jp/ad/cm/ecobag.html)



、 CO2の排出を減らせる家、xevo (ジーヴォ) のスペシャルサイト ♥ (http://www.daiwahouse.co.jp/jutaku/eco/)



、 ダブルでエコな家、ジーヴォ

◇ (http://www.daiwahouse.co.jp/jutaku/eco/w eco/)

## 展示会、環境関連イベントへの出展

### ■「びっくり!エコ100選」に出展

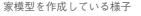
グルーブ

当社グループは、京都議定書を発効した京都市から全国に向けて、地球温暖化防止に関する知識や実践方法を伝えることを目的に、産・学・官と市民の連携により、年一回京都と東京で開催されている環境展「びっくり!エコ100選」に、2007年から出展しています。

2008 年度は、当社グループの環境への取り組みをパネル展示で紹介するとともに、小型風力発電機「風流鯨(かぜながすくじら)」など、環境をテーマにしたテレビ CMの放映等を行いました。また、当社京都支店のメンバー等が、親子参加型のワーク

#### ■親子参加型ワークショップの様子







夏涼しく過ごす工夫を説明 している様子

ショップ『夏、涼しい家をつくろう!』を実施。世界の環境共生住宅の紹介の後、家模型の工作をしていただきました。参加者からは、「いろいろと工夫するのが楽しかった」、「実際に工作してみて、説明の内容がよくわかった」などの感想が寄せられました。

### ■「青少年のための科学の祭典 富士山大会inごてんば」に出展(沼津支店)

大和ハウス

当社沼津支店では、2008年度、「青少年のための科学の祭典 富士山大会inごてんば | に参加しました。

このイベントは、青少年が科学技術に親しむ環境をつくるため、財団法人日本科学技術振興財団と静岡県御殿場市などが主催するもので、今年で3回目を迎え、今年度は御殿場市の学校・企業など49団体が出展しました。

当社のブースでは、「暖かさ、涼しさの秘密」をテーマにした実験を紹介。木・鉄・布など、さまざまな素材に触れて熱伝導の差を感じる実験や、すだれと霧吹きを使って植物による蒸発冷却の効果を体感する実験などを行い、自然を活かして"夏に涼しく、冬に暖かく"過ごす工夫をご紹介しました。



箱模型を使った実験の様子

### ■「エコプロダクツ2008」へ出展(大和リース)

グループ会社

大和リース(株)は、2008年12月に東京ビッグサイトにて開催された『エコプロダクツ2008』に出展しました。多くの来場者の方に、屋上や壁面、オフィス内での緑化など、「総合緑化事業」について知っていただきました。今後も継続して、展示会へ出展することで事業内容を知っていただくとともに、環境に配慮した建物の普及を積極的に推進していきます。



出展の様子

### ■「風車まつり」への出展(大和エネルギー)

グループ会社

大和エネルギー(株)は、2008年10月に愛媛県伊方町(佐田岬半島)にて開催された 『風車まつり』に、風力発電事業者として協賛し、風力発電機の模型にうちわで風を送 り、発電体験ができる「発電チャレンジ」コーナーを出展。こどもたちを中心に、地元 の方々と風力発電をテーマにコミュニケーションを図りました。



「発電チャレンジ」をしている様子

## 次代を担うこどもたちとの対話

### ■「こどもエコ・ワークショップ」の実施

大和ハウス

次代を担うこどもたちに地球環境の大切さを伝え、理解してもらうとともに、持続 可能な社会を実現するために親子で一緒に環境問題について、「考え・感じ・発見す る」ワークショップを2005年度から継続して実施しています。

2008年度は、「冬あたたかく気持ちいい、エコな家をつくろう!|をテーマに大阪 で、家模型を作成する親子参加型のワークショップ「第4回こどもエコ・ワーク ショップ」を開催しました。このワークショップでは、自然を活かした住まいや暮ら し方の工夫について、家模型の工作を通じて、楽しく学ぶことができます。

今後、このようなワークショップを全国に展開していきたいと考えています。



「第4回こどもエコ・ワークショップ」で、 家模型を作成している様子



「こどもエコ・ワークショップ」

(http://www.daiwahouse.co.jp/eco/event/)

### ■小学生の食育・環境教育に協力(大和リース)

グループ会社

大和リース(株)は、2008年9月に千葉県市川市で実施された「エコスクール屋上緑化プロジェクト|※で、小学校の屋上200平方メー トルを緑化栽培区画として、移動可能で軽量なスラブ緑化システム「ecoヤネスラブ」の寄付を行うとともに、野菜の栽培用に屋上緑化 トレイ「ecoヤネ |を設置し、緑化食育事業に協力しました。

子どもたちは、学校の屋上でキャベツや白菜・レタス・ブロッコリーなどの野菜を自分たちで育てることを通じて、命の大切さや地 球温暖化問題などについて、考える機会となりました。

※エコスクール屋上緑化プロジェクトは、NPO法人青少年地域ネット21が中心となり、市川市教育委員会と協働で実施している「市民協働提 案制度」です。地球温暖化対策としてのCO2削減と食育を推進するため、小中学校の屋上を緑化して野菜の栽培を行い、緑の創出とヒートア イランド対策、安心安全な食材の栽培、体験学習と給食食材としての活用、そして学校と家庭や地域との新たな連携を目指しています。



苗を植えている様子

収穫期の様子



小学校の食育・環境教育に貢献(大和リース) (http://www.daiwalease.co.jp/eco/school.html)

### 大和ハウスグループの考え方

大和ハウス

#### さらなる環境リスクの低減に取り組んでいます

近年、社会問題として取り上げられる機会の多い、産業廃棄物の不法投棄や土壌汚 染、アスベストなど化学物質の問題、さらに以前より工場等で公害問題として取り上 げられてきた大気汚染、水質汚濁等の環境リスクは、当社の事業活動にも密接に関連 した問題です。私たちは、環境保全に関する法令遵守はもちろん、当社を取り巻く環 境リスクを低減する活動の強化に取り組んでいます。

#### ■当社を取り巻く主な環境リスク



#### ■環境法令を遵守する仕組み

大和ハウス

当社では、環境に関する法管理については環境部が主管となり各部門に法令・ルー ルの徹底を促しています。また、多くの環境法令が関係する生産部門では工場環境推 進部が主管となり、法律の一元管理を行うとともに、各工場にも法管理の担当者を育 成して配置し、条例等を含めた法管理の強化を図っています。

法規制などの改正時には、主管部署から各事業所へ改正内容や対応策を発信し、問 い合わせ等にも対応しています。

また、万が一法令違反や環境に関する事故・苦情などがあった場合の対応方法につ いても手順を定め、適切に対処できる体制を整えています。

なお、2008年度は環境関連法に関して重大な違反・訴訟問題はありませんでした が、2009年3月に当社の旧札幌工場内において約57kLの重油漏洩事故がありました。

### ■法規制管理のフロー



【 】 旧札幌工場敷地内での重油漏れについて →P12

### ■地区廃棄物管理体制

大和ハウス

廃棄物の不法投棄等の不適正処理リスク低減に取り組むことは、企業に求められる責任のひとつです。当社は、2007年4月より全国 8地区に地区廃棄物管理グループを発足させ、専任のスタッフを中心に廃棄物管理体制の強化に当たっています。

地区廃棄物管理グループでは、事業所と連携しながら廃棄物の処理を委託している全ての業者をチェックし、優良な業者を調査選定 して委託することで適正処理の徹底を図っています。

社内においては、廃棄物監査によって事業所の廃棄物管理レベルを定量的に評価することで、各事業所の課題や改善度合いを明確に し、廃棄物管理レベルの底上げを図っています。2008年度は廃棄物管理に関するe-ラーニングを開始し、社員の三識(意識・認識・知識) の向上を図っています。

また、処理業者の許可情報、契約状況やマニフェストの発行、回収等については、イントラネットを活用した「環境情報システム (ei-system) |で管理することで人的ミスを防止するとともに業務の効率化を図っています。



施設調査の様子



ei-systemの画面

## 環境リスク低減

### ■事業用地の土壌汚染チェック体制

大和ハウス

当社は、土壌汚染リスクを未然に防止することを目的として、分譲用地やマンション用地を購入する際、事前に土壌汚染のリスクを評価・確認しています。 用地の調査にあたっては、右図に示した「土壌チェックフロー」に基づき、土地の利用履歴を調査し、本社の専門部門が現地確認やリスク評価を行ないます。

その結果、土壌汚染が懸念される事実があった場合には、外部の調査機関に 土壌調査を依頼し、土壌が安全かどうかを確認しています。また、土壌汚染が見 つかった場合は、土壌汚染対策法に準じた適切な対策を行い、その内容を販売 時にお客さまにご説明した上で購入をご検討いただいています。



### ■大気汚染防止への取り組み

大和ハウス

当社では未然防止の観点から大気汚染防止の管理体制の強化に努めています。近年、ばい煙の排出基準違反やデータの改ざん等が社会問題化したことを受け、2007年度には、各工場で大気汚染防止法における過去3年間の測定結果やその点検記録等を再確認し、2008年度も継続して確認を行いました。

なお、本年竜ヶ崎工場で行政の立入り調査を受けましたが、法違反となるような指導・是正はありませんでした。



ばい煙発生施設(ボイラー)(九州工場)

### ■水質汚濁防止への取り組み

大和ハウス

当社工場において公共用水域(海域・河川)への主な排出源は、電着塗装装置の前処理工程や浄化槽からの排水です。その排水処理設備については、手順に基づき維持管理をするのはもちろんのこと、施設ごとに自主的な頻度で排水測定し監視強化に努めています。また、規制基準値については、最終放流口に適用される法令の値を個々の処理施設からの排水に適用し、最終放流口での水質に異常が発生しないようにしています。



排水処理施設(九州工場)

## 環境リスク低減

### ■アスベスト問題への対応

大和ハウス

石綿問題に対する当社の取り組み状況を当社ウェブサイトに随時公開し、2005年10月には過去に販売した鉄骨系住宅(戸建・集合) 商品における石綿含有建材使用状況を検索できるシステムを公開しました。なお、現在販売している商品については石綿を使用しておりません。

また、過去に当社が建築した建物の一部に「非飛散性」や「飛散性」の石綿含有建材を使用している場合がありますが、当該部位に劣化・損傷がなければ通常の居住状態では石綿の空気中への飛散はほとんどないと考えています。

当社の従業員については、現時点では石綿による疾患の情報はありませんが、当社の元従業員の方3名が健康被害にあわれ、そのうち2名がお亡くなりになられました。

社員の健康被害状況の把握については、過去に石綿を取り扱っていた施工現場・工場で業務に携わっていた社員を対象に2006年度より石綿健康診断を継続的に実施しています。

また、吹付け石綿を使用していることが判明した5つの自社所有建物のうち3つの建物の当該部位については吹付け石綿の除去が完了し、残り2つの建物の当該部位については飛散防止措置(囲い込み)が完了しています。



石綿(アスベスト)問題への対応について

(http://www.daiwahouse.co.jp/info/asbestos.html)

### ■自社所有地の履歴調査によるリスク評価

グループ

当社では、自社所有地の土地利用履歴を取得以前も含めて調査しました。この調査は、2006年11月より実施し、所有する土地(事務所、社宅、ホテル、ゴルフ場等)の利用履歴を過去に遡って調べました。調査には、過去に遡って確認でき、公的で信頼性のある住宅地図や地形図、謄本などを資料として使用し、当社独自の「土壌チェックリスト」に基づき、「土壌汚染対策法」に定めた特定有害物質などの使用履歴を推定し、汚染の可能性を評価しました。

今後は自社所有地の履歴管理の維持・更新をするとともに、「要追加調査」と判断した土地に対して現地土壌調査の実施等、リスク回避の対応を行います。

#### ■土地履歴調査後の一覧表例





## 第三者意見

(社)日本フィランソロビー協会 理事長

### 高橋 陽子氏



### 進化するCSR自己評価指標

昨年来の経済危機に直面し、厳しい経営を強いられる今こそ、CSR経営の本領を発揮するための好機です。そうした意味においても、2006年からのCSR 自己評価指標を軸に据えた全社が一丸となっての継続的で地道な取り組みは、週刊東洋経済においても優良賞として評価されたように、「もっといい会社になる」ための積極的な実践として高く評価できます。これは、ステークホルダー別の指標になっており、項目もわかりやすい区分となり、現状と課題を明快に理解することができます。経営ビジョンにも謳われている"共創共生"に関しても、ステークホルダーごとに分けて特集しており、顔の見える、そして心のつながりを実感できるものとなっています。ただ、座談会の模様を紹介しているページがありますが、資源削減が言われる中、紙媒体で紙幅を割くよりもwebサイト上でじっくり読める記事構成にしていくほうが時機にかなっているかもしれません。議論が待たれるところです。

### 本業を核にした社会貢献に可能性

住み継がれる住宅をコンセプトとして「長期優良住宅先導的モデル事業」に採択された基幹商品「xevo(ジーヴォ)」は、ソフト面でのハッピーハグモデルを含め、子育て・介護などのライフステージに合わせた住まい方、住み継ぎ方が示され、汎用性のある提案として評価できます。これは、最近言われ始めている"住育"の視点からも重要な要素を含んでいますから、社会貢献の分野でも、本業と関わりを持ったプログラムを考えていくと、広がりも深みも出てくるように思います。

社会貢献への参加は、CSR自己評価指標の「社会」の項目にも記載されているように、79.2%と非常に高く、各事業所の従業員に広く 浸透してきたことが窺えます。グループ会社のハイライトでは、さまざまな CSR活動が紹介され、多様な広がりを感じさせ、今後に期待できるところです。さらに、事例紹介で登場する浜松支店のアカウミガメの放流プロジェクトは、従業員だけでなく、家族や地域住民も参加しているもので、各事業所でも大いに参考にできる好例でしょう。これは、支店長のリーダーシップ、担当者はじめ従業員の熱意とフットワーク、ネットワーク、チームワークが大きな要素であり、まさに仕事そのものにおいて要求されるポイントと同じです。エンドレスハートの精神を忘れず、各事業所で積極的に広げていただきたいものです。

CSR自己評価指標「社会」→P55

「 】 特集.社会との共創共生「地域密着型の社会貢献活動 ~浜松支店の取り組み~」 →P97

WEB 環境報告書2009 グループ会社

### 人・街・暮らしの価値共創グループに向けて

従業員分野の項目では、ワークライフバランスの推進が重要項目に掲げられていますが、これは、能力とやる気のある人の可能性を生かし、働きやすい基盤整備と意識改革をすることに他なりません。そういう意味でも、女性活用だけでなく、さらに昨今大きな課題となっているメンタルヘルスへの積極的な対応などを入れることが、ワークライフバランスを実効的なものにするためにも必要ではないでしょうか。

環境分野では、地球温暖化防止を最重要課題に掲げ、2010年度に向けてグループ全体で取り組みの拡大・強化を図り、部門別・目的別での細かい数字と目標が出されており、グループ全体、全従業員の取り組みとして捉えられていることに、覚悟ある姿勢を感じます。2010年10月には「生物多様性条約第10回締約国会議」(COP10)が愛知県で開催されます。「人・街・暮らしの価値共創グループ」が果たすべきミッションの一つとして、生物多様性への取り組みも不可欠な要素だと思います。

厳しい経済環境の下での果敢なCSR経営への挑戦こそ、「人・街・暮らしの価値共創グループ」としての使命を果たすための試金石です。全従業員がそれぞれの立場で創意工夫し、それを総合的に組み立てながらたゆまぬ実践を期待します。

特集.従業員との共創共生「特集:ワークライフバランスの推進 ~いきいきと働くために~」 →P87

特集.環境との共創共生「持続可能な都市基盤のために ~環境に配慮した建築~」 →P113

## 第三者意見

### CSRレポート2008にいただいたご意見を踏まえての取り組み

#### 1.自己評価指標の進化

#### 第三者意見より

CSR自己評価指標は課題達成のための強い動機付けになるが、数字だけでなく進まない理由や今後の課題などがあると、問題の所在をより明確にし、目標達成も実効的なものになると思います。

## 特集.CSR自己評価指標 →P49

#### ご意見をふまえての取り組み

今回のレポートでは、自己評価指標の分野ごとに特集を 組み、当社の考え方と今後の課題を明らかにした上で、目標達成に向けた具体的な取り組みを掲載しています。

また、2009年度からは新たに各分野の重点実施指標を定め、より実効性の高い改善に努めてまいります。

#### 2.社会貢献活動でのコミュニケーション強化

#### 第三者意見より

エンドレス・ハート募金の参加者を増やし、CSR意識の向上を図るためにも、寄付先との双方向のコミュニケーションを工夫することが人の心を起こすことにつながり、いい波及効果を生むのではないか。

#### ご意見をふまえての取り組み

従業員から集めた募金について、寄付先へただ単純に寄付するだけではなく、寄付先からの「喜びの声」や「募金の使用状況」について報告をいただいております。そして、その結果をイントラネット等で従業員にフィードバックすることにより、従業員の募金に対する意欲を高めています。今後は寄付先との協働件数を増やし、より深いコミュニケーションを目指します。

#### 第三者意見を受けて

高橋様には昨年に引き続き、当社グループのCSR活動の改善に活かすために、忌憚のないご意見を頂戴しておりますことを改めて御礼申し上げます。

今回のCSRレポートは当社のCSR活動の主軸である『CSR自己評価指標』をもとに、6つのステークホルダー(お客さま・株主・取引先・従業員・社会・環境)との関わりにおける現状と課題を明確にし、ステークホルダーとの「共創共生」を表現するよう心がけました。昨年に引き続き冊子の軽量化を図っておりますが、ご意見をいただいております掲載内容のwebサイトへの更なる移行については、2010年度版にて検討していきます。

社会貢献活動について、グループ会社を含めた各事業所での取り組みも年々進んでおり、定着してきた実感があります。今後は次のステップとして、さまざまなステークホルダーと協働した活動、本業と関わりをもった独自性のある活動の推進など、「量」だけではなく「質」にもこだわった、より社会から求められる活動を模索していきたいと考えています。

ワークライフバランスに関しては、女性活用だけでなく多様な人財による新しい価値の創造を目指した各種取り組みを進めていますが、それらを包含した「働きやすい職場環境づくり」が欠かせないと考えています。ご意見いただきましたように、「働きやすい職場環境」を実効あるものにするには、メンタルヘルスへの取り組みも不可欠です。そのため、「予防策」を中心とした積極的な取り組みが重要だと考え、従業員アンケートや相談窓口の設置だけでなく、メンタルヘルスやコミュニケーションに関する研修などを継続して行っていきます。

環境分野では、生物多様性への取り組みとして「自然環境と調和した街づくり」を推進しています。2009年2月には、このような取り組みが評価され、第18回「地球環境大賞」を受賞し、あらためて「人・街・暮らしの価値共創グループ」として、私たちの役割と責任の大きさを再認識しました。今後、既存事業と環境エネルギー事業が連携し、より一層、環境に配慮した住まいと街づくりを推進していきます。

今後もなお一層、CSR活動を発展させることにより、社会から必要とされる会社を目指します。何卒ご理解、ご支援の程、お願いいたします。

代表取締役副社長 CSR担当 石橋 民牛

# 大和ハウスグループの概要

当社グループは、「人・街・暮らしの価値共創グループ」として、すべての人が心豊かに生きる暮らしと社会の実現を目指し、「ハウジング」「ビジネス」「ライフ」の3つの分野をベースに、「住宅」「商業建築」「リゾート・スポーツ施設」「ホームセンター」「その他」の5事業を展開しています。

## 人・街・暮らしの価値共創グループ



大和ハウス工業株式会社 コーポレートデータ

(2009年3月31日現在)

創 業 1955年4月5日

資本金 110,120,483,981円

本 社 〒530-8241 大阪市北区梅田三丁目3番5号

支社・支店 全国84箇所(本店含む)

工 場 全国11箇所

研究 所総合技術研究所(奈良市)

研修センター 大阪・東京・奈良



•財務情報

http://www.daiwahouse.co.jp/company/kessan/s\_index.html

・大和ハウスグループ

http://www.daiwahouse.com/groupbrand/index.html

住宅事業 (住宅・賃貸住宅・マンション) 9,590 億円 54.1%

- ●住宅等の企画、請負、販売 大和ハウス工業(株)
- ●賃貸住宅、マンション管理 大和リビング(株) (株)ダイワサービス ダイワマンスリー(株) 日本住宅流通(株)
- ●地盤調査、地盤改良 大和ランテック西日本(株) 大和ランテック東日本(株)
- ●リフォーム工事請負 ダイワハウス・リニュー(株)
- ●不動産の仲介、斡旋 日本住宅流通(株) 大和エステート(株)
- ●住宅部材の製造 (株)シンクローラー ダイワラクダ工業(株)

**商業建築事業** (流通店舗・建築)

**5,451**億円 **30.8**%

- ●商業施設の企画、開発、設計 大和ハウス工業(株) 大和リース(株)
- ●商業施設の管理、運営 大和ハウス工業(株) 大和リース(株) 大和情報サービス(株) ダイワロイヤル(株)
- ●店舗、事務所等の賃貸 大和情報サービス(株) ダイワロイヤル(株)
- ●産業用建物の建築請負 大和ハウス工業(株) 大和小田急建設(株) 大和リース(株)

2008年度 セグメント別 グループ会社・ 売上高・売上比率

住宅事業

Housing

**Business** 

商業建築事業

Life

リゾート・ スポーツ 施設事業

ホームセンター 事業

その他の事業

その他の事業

1,440億円 8.1%

国内

大和物流(株)【物流事業】

エネサーブ(株)【電気設備の保守点検】

(株)寿恵会【介護付有料老人ホーム経営】

(株)伸和エージェンシー【広告代理店事業】

大和エネルギー(株)【ESCO事業、エネルギー管理事業】

(株)ダイワサービス【人材派遣事業】

大和ハウスインシュアランス(株)【損害保険代理業】

大和ハウス・リート・マネジメント(株)【投資運用業】

ダイワロイヤル(株)【ビジネスホテル事業】

(株)メディアテック【情報通信サービス事業】

(株)大阪マルビル【ホテル事業】

(株)東富士【物流工業団地開発事業】

大和ハウス・モリモト・アセットマネジメント(株)【投資運用業】

大和ハウスフィナンシャル(株)【クレジットカード事業】

海外 大和事務処理中心(大連)有限公司【事務処理業務受託】 大和房屋(蘇州)房地産開発有限公司【分譲マンション開発・販売】 天津九河国際村有限公司【賃貸住宅経営】 ホームセンター事業 635億円 3.6%

●ホームセンターの経営 ロイヤルホームセンター(株) リゾート・ スポーツ施設事業

601億円 3.4%

- ●別荘地の企画、販売、管理 大和ハウス工業(株)
- ホテル、ゴルフ場等の経営、 運営管理 大和リゾート(株) ダイワロイヤルゴルフ(株)
- ●スポーツクラブの経営 日本体育施設運営(株)

### 大和ハウスグループのCSR活動

当社グループでは、各社それぞれの事業特性を活かしながら環境活動・CSR活動に取り組んでいます。

また当社グループでは、CSR活動を推進するために各グループ会社にCSR推進責任者を設け、年2回「グループミーティング」を実施しています。

このページでは、2008年度の主な取り組み事例をご紹介します。

### Housing

#### ダイワハウス・リニュー株式会社

#### 環境対応リフォーム事業の展開

オーナーさまの建物点検を通じ、住まいの資産価値を守り、長く快適にお住まいいただくために、リフォーム事業を展開しています。

塗装工事や防水工事などの推奨メンテナンス工事をはじめ、高効率給湯器などの省エネリフォームや、太陽光発電システムの設置などの環境対応リフォームを行っています。



屋根点検カメラ

#### 日本住宅流通株式会社

#### 優良ストック住宅の普及

優良ストック推進協議会によって定義された条件を満たす住宅を「スムストック」とし、その認定を受けた住宅の売却・購入をお手伝いしています。スムストックの認定には耐震性能や補修制度などの基準があり、資産価値が高く、長く安心してお住まいいただける住宅を提供しています。





### ダイワラクダ工業株式会社 環境報告書(PDF: 1.6MB)

#### 簡易梱包で廃棄物排出量の削減

建築部材を製作・販売しており、製品梱包用にエアーキャップを使用しています。今年度は、3R活動の一環として、リデュースの観点からエアーキャップの芯材やビニールの外装を取りやめる簡易梱包などに取り組み、工場での廃棄物排出量を2007年度比13.6%削減できました。

今後も引き続き、リユース策の検討や梱包レス化を推進し、廃棄物排出量の削減に取り組んでいきます。







芯材を廃止し、梱包レ スに改善したエアー キャップ

#### 大和リビング株式会社

#### ペットボトルキャップの収集

職場に回収箱を設置し、発展途上国のこどもたちに必要なワクチンを贈るためペットボトルキャップの収集活動を行っています。2008年度は約4,800個のペットボトルキャップを集めることができました。



収集した ペットボトルキャップ

### Business

#### 大和リース株式会社

#### 屋上緑化システムecoヤネの販売

夏場のヒートアイランド対策や省エネを目的とし、屋上緑化システムに取り組んでいます。屋上に植物を敷き詰めることで室内の温度が下がり、CO2削減をはじめ経費削減にもつながります。



ecoヤネ

#### ロック開発株式会社

#### 環境に配慮したショッピングセンターの運営

太陽光と風力の長所を活かした「ハイブリッド照明システム」や、植物で建物の壁面を 覆い表面温度を下げる「壁面緑化」、「氷蓄熱式空調システム」などを設置することで、環境に配慮したショッピングセンターを手掛けています。



ハイブリッド 照明システム

### 大和ハウスグループのCSR活動

#### **Business**

#### 大和情報サービス 環境報告書(PDF: 1.4MB)

#### 自動販売機の省電力タイプへの切り替え

当社が運営するモール型ショッピングセンター(5ヶ所)の自動販売機について、調光 機能および冷却運転制御機能、ピークカット機能がついた省電力タイプのものに切り 替えました。さらに、バックヤードに設置した自動販売機の照明ライトの完全OFF、省 エネ仕様になっていない機器の変更を実施することで効果が得られました。今後も、照 明点灯時間の細かい調整と機器の入れ替え時期を管理して古い機器の交換を実施して いきたいと考えます。



省電力タイプの 自動販売機

Ⅲ 地球温暖化防止への取り組み →P147

湘南モールフィル ・沖縄アウトレットモールあしびなー ※詳しくは、webページを参照して下さい。 (http://www.shonan-fill.com/) (http://www.ashibinaa.com/

#### 大和小田急建設株式会社

#### 土壌や地下水の調査・浄化

土壌・地下水浄化の「GRCシステム」は、調査から汚染の浄化対策工事に至るまでを トータルに提供。地球環境と土地という大切な資産を守るため、土地の状況に応じた最 適なご提案をするとともに、土壌・地下水汚染によるリスクの低減や環境保全、健康被 害の防止に貢献しています。



土壌試料採取

#### Life

#### 大和リゾート株式会社

#### 省エネ型空調設備の導入

リゾートホテルでは、夏は冷水を作り空調熱源としていますが、その冷却水発生機を 2007年度から省エネ型に切り替えています。今後も、設備機器更新の際には省エネ型 への転換を図るとともに、継続してエネルギーの使用量削減を推進していきます。





浜名湖口イヤルホテル 空調熱源

#### ダイワロイヤルゴルフ 環境報告書(PDF: 0.8MB)

#### 電灯スイッチゾーニングの「見える化」

当社が運営するタートルエースゴルフ倶楽部では、まず従業員一人一人の省エネ意識 を高めようと、電灯スイッチゾーニングの「見える化」を行い、照明の無駄な点灯を徹底 的に削減しました。電灯スイッチゾーニングの「見える化」を行うことで、事務所にいる 誰でも気がついた人が活動を行いやすくなり、消費電力を年間3,472kWh、約5%削減 することができました。



電灯スイッチゾーニング の「見える化」の一例

Ⅲ 地球温暖化防止への取り組み →P144

#### ロイヤルホームセンター株式会社 環境報告書(PDF: 1.3MB)

#### エネルギードクターサービスの導入

店舗における電気使用量は、照明と空調が大半を占めます。そのエネルギーをムダなく 使うために、「エネルギードクターサービス※」を導入しました。これにより、店舗照明 の自動化による電気の消し忘れや空調機の温度制御などを実施した結果、2008年度は 電気使用量を約1,508千kWh削減できました。

また、その結果をパソコンで「見える化」することで従業員の省エネ意識が高まり、さら なる省エネ活動につながっています。



店舗内に温度センサーを 設置して室温を計り 適切に温度制御を実施

※ 既存設備の効率的な使い方のアドバイスや、運用改善の提案を行うサービス

Ⅲ 地球温暖化防止への取り組み →P146

### 日本体育施設運営株式会社 環境報告書(PDF: 1.0MB)

#### 水中安全(着衣水泳)教室の開催

水難事故を防ぐため、毎年小学生を対象に「夏の水中安全(着衣水泳)教室」を開催して います。溺れた場合の泳ぎ方や溺れている人を発見した際の対処など、簡単なノウハウ を身につけることで水難事故は防ぐことができます。尊い命を守るために、これからも 自分たちでできる事故防止方法を広く伝えていきます。



水中安全教室

### 大和ハウスグループのCSR活動

その他の 事業

#### 株式会社伸和エージェンシー

#### カンボジア井戸寄贈プロジェクトの実施

当社が企画したロイヤルツアーにおいて発展途上国のこどもたちにきれいな水を提供すべく井戸寄贈ボランティアに取り組んでおり、2008年度は22基の井戸を寄贈しました。今後もロイヤルツアーの企画・販売を通じ、きれいな水を届けていきます。



寄贈した井戸

#### 大和物流株式会社

#### エコドライブ活動の推進

2003年6月から「エコドライブ」活動を推進しています。また、アイドリングストップ車両や、新長期規制をクリアした車両などの導入も積極的に行っています。今後も運転技術の向上とともに、車両性能も向上させて環境負荷低減を図っていきます。

Ⅲ 地球温暖化防止への取り組み →P152



アイドリングストップ 車両

#### 大和エネルギー株式会社

#### 「風流鯨(かぜながすくじら)」の開発・販売

地球温暖化防止を目的に、ニッコー株式会社と共同開発した「風流鯨」(風力発電機)を開発・販売しています。2009年5月末現在、全国に11機の「風流鯨」が泳いでおり、CO2削減に貢献しています。

Ⅲ 地球温暖化防止への取り組み →P166



小型風力発電機「風流鯨」

#### 株式会社大阪マルビル 環境報告書(PDF: 1.3MB)

#### 卒園茶話会へのケーキの提供

地域に密着した社会貢献活動として、2006年より児童養護施設の卒園茶話会に参加し、ケーキ・ソフトドリンクを提供しています。2008年度もこの茶話会に参加し、15名のこどもたちの卒園をお祝いしました。今後も地域社会とのつながりを大切に、社会貢献活動を実施します。

Ⅲ 地球温暖化防止への取り組み →P151



会場をセッティングする スタッフ

#### ダイワロイヤル株式会社 環境報告書(PDF: 1.2MB)

#### こどもたちへのお話し会の実施

ホテル・書店を経営しており、地域書店のスペースを利用し地域の児童を集めて「お話し会(読み聞かせ)」などのイベントを実施しています。「心温まるストーリーで、人を思いやる心を育んで欲しい」「文字と触れあうことを通して、本の魅力を知ってもらいたい」「もっと本を好きになってもらいたい」という想いから、児童育成の一助となることを目指し活動しています。



書店でのイベント

Ⅲ 地球温暖化防止への取り組み(ショッピングセンター) →P147

Ⅲ 地球温暖化防止への取り組み(都市型ホテル) →P151 Ⅲ 資源保護(水)への取り組み →P183

#### エネサーブ株式会社

#### グリーン電力証書の発行・販売

グリーン電力証書を購入すると、証書に記載されている電力量が新エネルギー発電 (CO2の発生がゼロ)の電気を使用したとみなされ、地球温暖化防止に貢献したと評価されます。エネサーブではこの証書を発電者の方から購入し、グリーン電力証書として発行・販売を行っています。



グリーン電力証書

**プ** 安全:安心 スストック フ福祉 カ環境 ケ健康 **ツ**通信

#### ■2009年度

国内外の動き	主な施策・活動トピックス	商品・サービス(事業)
●「エネルギー供給構造高度化法」成立	環境	<b>力</b> 環境配慮型住宅[xevoFU(ジーヴォ・フー)]
●麻生首相が温室効果ガスの中期削減目標を発表"2020年までに国内の温室効果ガス排出量を2005年比15%削減"	●グループ環境経営評価制度をスタート →P119 ●環境行動スローガン「未来を、つなごう	「xevoKU(ジーヴォ・クー)」を発売  プ リサイクルプラスチック材による地盤補強工法 「D-TEC ECO+(ディーテックエコプラス)工法」
●「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」施行	We Build ECO」を策定  ●環境コミュニケーションサイト「未来惑星	を開発  カ 環境エネルギー事業部を設立 →P169
<ul><li>●改正「地球温暖化対策の推進に関する法律」施行 (事業者単位規制)</li></ul>	(ミライボシ)]をリニューアル →P206 共通	カ 大和リースが、総合緑化事業を開始 →P204
●改正「エネルギーの使用の合理化に関する法律」施行 (事業者単位規制、分譲住宅省エネ達成率など)	●パートナーズ・ホットラインを導入	

2008年度		
国内外の動き	主な施策・活動トピックス	商品・サービス(事業)
●「住宅用太陽光発電システムの設置に対する補助 制度」開始	共通 ●第5回 ステークホルダーミーティングを実施	ス優良ストック住宅推進協議会に参加
●「化学物質排出把握管理促進法」改正 ●排出量取引の国内統合市場の試行的実施スタート	<ul><li>●カンボジアの井戸建設費用に充てる 「カンボジア井戸プロジェクト」に参加</li></ul>	フロボットスーツHAL(福祉用)のリース販売を開始 カ「リフォームでエコ」キャンペーンを実施
●「低炭素社会づくり行動計画」閣議決定	●「CSRレポート2008」ダイジェスト版と詳細版を 発行	商業施設向け白色LED照明システム 『grace lumino(グレース ルミノ)』販売開始
●主要国首脳会議(北海道/洞爺湖)開催 ●福田ビジョン「低炭素社会・日本を目指して」発表	●ミャンマー連邦のサイクロン被害および中華人民 共和国の四川大地震の被災地に義援金を寄付	プ 環境にやさしい暮らし方提案 「エディブルガーデンーおいしい庭づくりー」を発表
●「京都議定書」の約束期間がスタート	●第二次中期経営計画「Challenge2010」スタート	カ「ジーヴォでエコ」キャンペーンを実施 →P158
●後期高齢者医療制度がスタート	●カンボジアの小学校建設のための寄付	力 環境配慮型ショッピングセンター 「iias (イーアス) 札幌」オープン
	環境 ●中期環境行動計画 「Endless Green Program 2010」スタート	プ 環境配慮型ショッピングセンター 「iias (イーアス) つくば Jオープン
	●「環境優秀事例社長表彰制度」を創設 →P118	大和リースが、屋上菜園化システム「ecoヤネfarm(エコヤネファーム)」を発売
	●全国事業所に「エネルギードクターサービス」を 導入 →P134	ケ 「インテリジェンストイレII」発売
	●全国事業所で月1回の「ライトダウン活動」を開始	
	●「エコ自動車手当て制度」を導入 →P136	
	●環境省「自主参加型国内排出量取引制度」に、 九州、奈良の2工場が参加 →P138	
	●商業建築部門で鉛・クロムフリーさび止め塗料 への切り替えを開始	
	<ul><li>●森林資源の持続的な発展のため、カタログ、 名刺、社封筒を「森林育成紙™」に切り替え</li></ul>	
	●「グリーン調達品目(商業建築事業)」を制定	
	●第4回こどもエコ・ワークショップを開催	
	●環境コミュニケーションサイト 「未来惑星(ミライボシ)」を公開	
	●第26回全国都市緑化おかやまフェア 「おかやま花だより2009」に出展	
	社 会 ●キッザニア甲子園をオープン(パビリオンを出展)	

**プ** 安全:安心 スストック フ福祉 カ環境 ケ健康 ツ通信

#### ■2007年度

国内外の動き	主な施策・活動トピックス	商品・サービス(事業)
■内外の動き  ●21世紀環境立国戦略を閣議決定  ●安倍首相が、「美しい星へのいざない〜 Cool Earth50」を発表	共通  ・環境技術を結集した「石橋信夫記念館」オープン  環境 ・環境省「自主参加型国内排出量取引制度」に、 栃木二宮、三重の2工場が参加  ・環境省「チームマイナス6%」が展開する 「1人、1日、1kg CO2削減」応援キャンペーンに協賛	か 環境先導都市を目指す「越谷レイクタウン」で 戸建街区、マンション街区を一体開発  カ イーキュービックと業務提携を締結、総合エネルギーサービス事業を展開  カ 再生・再建築可能な「リ・ストア&リ・ビルドシステム」を開発  → P172  カ 太陽光発電を標準装備した戸建商品「xevoE(ジーヴォ・イー)」を発売
	●自社所有地の土地利用履歴調査を実施 →P212	大和リースが、工場などを対象に折板屋根緑化システム「ecoヤネ」を発売

#### ■2006年度

国内外の動き	主な施策・活動トピックス	商品・サービス(事業)
●「住生活基本法」制定・施行 ●気候変動に関する政府間パネル(IPCC)が、 「第4次報告書」を発表	共通 ●CSR自己評価指標(CSRマネジメント)の導入	ア 民間企業として初めて「E- ディフェンス」にで 実大震動実験を実施
	●大和ハウスグループ事業継続計画(BCP)の 基本方針・行動指針を制定 →P19	耐久性と省エネルギー性に優れた戸建住宅     「xevo (ジーヴォ)」を発売 (外張り断熱通等     外壁を標準装備)
	●内部統制システム構築の基本方針を制定	方 佐田岬風力発電事業を開始
	取引先 ●取引先会社行動規範を策定	力 大和エネルギーが、災害時の非常電源対応発システム「風光MayBe(ふうこうめいび)」を発
	●取引先に当社従業員に関するアンケート調査を 実施	
	<ul><li>従業員</li><li>●全事業所に社会貢献推進委員を選任</li></ul>	
	<ul><li>●女性の活躍を目指したポジティブアクション ケースブック 発行</li></ul>	
	●Dボランティア(社員ボランティア活性化のための社内HP)を開設	
	社会  ◆大阪シンフォニカー交響楽団のメインスポンサーに就任	
	●エンドレス募金に端数募金を追加	
	●エンドレス募金運営委員会 開始	
	●キッザニア東京をオープン(パビリオンを出展)	
	環 境  ●地熱利用の空調換気システムを導入した 「東北工場管理棟」が竣工	
	<ul><li>●関東地区で産業廃棄物広域認定を取得 (竜ヶ崎工場)</li></ul>	
	●「PRTR集計システム」を導入	
	●地区廃棄物管理体制を構築 →P210	

**プ** 安全:安心 スストック フ福祉 カ環境 ケ健康 ツ通信

#### ■2005年度

国内外の動き	主な施策・活動トピックス	商品・サービス(事業)
●「石綿障害予防規則」施行	共通	力 10kW小型風力発電機
●「愛・地球博」(愛知万博)開催	●第一次中期経営計画「Challenge2005」スタート	「風流鯨(かぜながすくじら)」を発売 →P166
●京都議定書発効	●「社会貢献活動理念」を制定	
	●「環境・社会報告書」から「CSRレポート」に 名称変更し、CSR活動全般の報告を充実	
	従業員  ●「企業倫理ヘルプライン・内部通報者保護規程」 を改訂  →P14	
	●全事業所にCSR推進委員を選任	
	社 会  ●キャリア教育「ドリカムスクール」を実施	
	環 境  ●グループ「環境ビジョン」を策定 →P117	
	●「環境行動計画2005」がスタート	
	●「クールビズ」・「ウォームビズ」の実施を開始	
	●住宅系新築現場でゼロエミッションを達成	
	●こどもエコ・ワークショップ(年1回)をスタート	

#### ■2004年度

国内外の動き	主な施策・活動トピックス	商品・サービス(事業)
●「大気汚染防止法」改正(VOC関係)	共 通 ●「CSR指針」を制定	
	●「個人情報保護規程」を制定	ッ「緊急地震速報活用・IT自動防災システム」 の実証試験に参画
	●「企業倫理綱領」を制定	
	●CSR推進準備室(現CSR推進室)を設置	
	●「環境報告書」から「環境・社会報告書」に 名称変更し、社会面の報告を充実	
	<b>従業員</b> ●「社員憲章」を制定	
	●CSR意識調査(年1回)をスタート	
	●ケースブック「大和ハウスグループ行動指針 (第1版)」を発行	
	●企業倫理ヘルプライン(内部通報制度)を導入	
	社会 ●ステークホルダーミーティング (年1回) をスタート	
	環境	
	●「グリーン調達基準書(住宅)」を制定 →P194	

**ア**安全:安心 スストック フ福祉 カ環境 ケ健康 ツ通信

#### ■2003年度

国内外の動き	主な施策・活動トピックス	商品・サービス(事業)
●「土壌汚染対策法」施行	環境	ア 防犯配慮住宅仕様を標準化
●「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」改正	<ul><li>●栃木二宮工場に、太陽光発電システムと 屋上緑化を設置</li></ul>	「ダイワハウス新免震住宅」システムを開発
●「建築基準法」改正(シックハウス対策関係)	●「低公害車導入促進制度」スタート	<b>グ</b> 内装材、家具、下地材をF☆☆☆☆化(改正建築 基準法対応)
	●全13工場にてゼロエミッションを達成 →P171	
	●太陽光発電世界展示会に出展	

#### ■2002年度

国内外の動き	主な施策・活動トピックス	商品・サービス(事業)
●「建設リサイクル法」完全施行	<ul><li>共通</li><li>●体感施設「D-TECプラザ」(東京)がオープン</li><li>●リスク管理委員会を設置</li><li>社会</li><li>●総合学習への取り組みとして出張授業をスタート</li></ul>	フ 戸建商品に「フレンドリーデザイン」を導入 →P34  力 屋根材一体型太陽光発電システム標準搭載 「ソーラーマイネ」を発売

#### ■2001年度

国内外の動き	主な施策・活動トピックス	商品・サービス(事業)
	共通  ●環境・省エネ・健康・安全・品質を基本コンセプトにした「大和ハウス金沢ビル」が完成  環境  ●生産購買本部、全国工場においてISO14001の認証取得  ーア119	
	●能登ロイヤルホテルに、大型風力発電機と太陽 光発電システムを設置 ●環境情報システム(eiシステム)を導入 →P210	

#### ■2000年度

国内外の動き	主な施策・活動トピックス	商品・サービス(事業)
	環境	ア 長期保証システムを導入
	●「環境方針」・「環境管理規程」を制定	カ 環境対応住宅「環境光房(こうぼう)」を発売
	●「環境自主行動計画2000」スタート	<b>カ</b> 環境対応集合住宅「環境聚房(しゅうぼう)」
	●三重工場に、太陽光発電システムを設置	を発売
	<ul><li>●沖縄残波岬ロイヤルホテルに大型風力発電機を 設置</li></ul>	
	●「環境報告書」の発行を開始	

**ア**安全:安心 スストック フ福祉 カ環境 ケ健康 ツ通信

#### ■1999年度

国内外の動き	主な施策・活動トピックス	商品・サービス(事業)
	共通  ●執行役員制度導入  ●環境・省エネ・健康・安全・品質を基本コンセプトにした「大和ハウス大阪ビル」、「大和ハウス東京ビル」が完成	力 鉄骨戸建商品で次世代省エネルギー基準を標準採用 力 戸建商品GE型が環境共生住宅の認定を取得 か 施工用接着剤において、トルエン・キシレンのゼロ化

#### ■1998年度

国内外の動き	主な施策・活動トピックス	商品・サービス(事業)
	環境	力 「屋根一体型太陽光発電システム」を発売
	●三重工場においてISO14001の認証取得	戸建・集合全商品にて、下地材にまでホルム アルデヒド対策を施し、「健康配慮住宅仕様」 を標準化

#### ■1997年度

国内外の動き	主な施策・活動トピックス	商品・サービス(事業)
● 「気候変動枠組条約」第3回締約国会議で 京都議定書を採択	環境 ●環境推進部(現環境部)を設置 ●「環境理念」を制定 ●全社環境推進委員会を設置 →P118	クロス全品RAL基準適合品に変更および非塩 ビクロスを標準化

### 主な受賞歴

ア 安全:安心 スストック フ福祉 カ環境 ケ健康 ツ通信

#### ■2009年度

- 弊社代表取締役会長兼CEOの樋口武男が第25回「企業広報賞」企業広報経営者賞を受賞
- 日本経済新聞社主催「日経優秀製品・サービス賞」では、当社の戸建住宅商品「xevoC |が<優秀賞 日経産業新聞賞>を受賞
- ▶ 子育て層向けの住宅プラン『ハッピーハグモデルⅡ』など3部門5作品が「第3回キッズデザイン賞」を受賞
- 「CSRレポート2008 |が「第12回環境報告書賞・サステナビリティ報告書賞 |において優良賞を受賞
- 当社「アニュアルレポート2008」が事業別部門で5年連続 世界第1位
- ス「マンション情報蓄積及び流通時の情報活用」が「平成21年度第1回長期優良住宅先導的モデル事業」に採択
- ス 「住まい手実効型家づくり提案「時を育む家 | (鉄骨造/木造) | が、「平成21年度第1回長期優良住宅先導的モデル事業 | に採択
- カ 「トリプルエコ住宅」の分譲全国展開が、「平成21年度第1回住宅・建築物省CO2推進モデル事業」に採択
- **力**「コンビニエンスストア向け次世代省CO₂モデル」が、「平成21年度第1回住宅・建築物省CO₂推進モデル事業」に採択
- 力 佐田岬発電事業が「新エネ百選」に入選 →P154
- カ 環境共生住宅認定 平成20年度 建設実績1位を達成
- 🣆 越谷レイクタウン内の「レイクタウン美環の杜」「D'グラフォート レイクタウン」が「CASBEE-まちづくり」のSランク認証第一号を取得
- カ 当社のCM「xevo エコバッグ篇」が、第12回環境コミュニケーション大賞 テレビ環境CM部門「優秀賞」を受賞 → P207)

#### ■2008年度

- Newsweek[Global 500 世界企業ランキング]において、当社が世界企業500社の中で143位、日本企業の中で24位にランクイン
- 戸建住宅商品「xevo(ジーヴォ )」が2年連続グッドデザイン賞を受賞
- 子育て層向けの住宅プラン「ハッピーハグモデル」・当社独自の「フレンドリーデザイン」、共に環境について考える「こどもエコ・ワークショップ」など全4部門7作品が「第2回キッズデザイン賞」を受賞
- LACP主催のアニュアルレポートコンテストにおいて当社の「アニュアルレポート2007 |(英語版)が事業別部門で4年連続 世界第1位
- 「アニュアルレポート2007(英語版)」がアメリカの最も権威のある世界コンテストでホームコンストラクションクラス 経営者メッセージ部門・写真部門の2部門で『金賞』を受賞
- 当社の企業広告、大和ハウスの夢「暮らしの明日を。地球の未来を。」が、第7回読売関西広告賞(21世紀メルク賞)を受賞
- ス 「「住み継ぎ~第三者間~|分譲モデル棟全国展開・「住み継ぎ~家族間から|街角期間限定モデルハウス全国展開|が、「平成20年度第1回超長期住宅先進的モデル事業|に採択
- ス「体感型モデルハウス「時を愉しむ家 |提案 |が、「平成20年度第2回超長期住宅先導的モデル事業 |に採択
- **万** 当社の「自然と調和した街づくり〜街区まるごとCO2削減〜」の取り組みが第18回「地球環境大賞」の「大賞」を受賞
- 力 環境省「街区まるごとCO2 20%削減事業」に「越谷レイクタウン」の戸建住宅街区が認定
- カ 環境共生住宅認定 平成19年度 建設実績1位を達成
- 力 「D'グラフォート千里中央」が「第2回おおさか優良緑化賞」大阪府知事賞を受賞
- プロス 環境配慮建築を海外発信する「Japan Sustainable Building Database」の登録物件に、戸建商品xevoが選出
- 📆 当社Webサイトの[未来惑星(ミライボシ)」が、「第2回企業ウェブ・グランプリ]において、部門別グランプリを受賞。「風流鯨」「大和ハウスグループCSRレポート2008」の2サイトも入賞

#### ■2007年度

- ●「CSRレポート2007」が、「第11回環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門 持続可能性報告優秀賞」を受賞
- 力 当社の「居住段階におけるCO₂排出量の削減~省エネルギー住宅の開発・普及~」の取り組みが、「平成19年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞
- 力 当社独自開発のエネルギーシミュレーションソフト「ecoナビゲーター」を活用した環境配慮住宅の提案が、「第9回グリーン購入大賞」で、「優秀賞」を受賞
- 📆 「環境対応型店舗リ・ストア&リ・ビルドシステム」と「木粉リサイクルデッキ」が、平成19年度「資源循環技術・システム表彰」で、「奨励賞」を受賞

### 主な受賞歴

ア 安全:安心 ス ストック フ 福祉 カ 環境 ケ 健康 ツ 通信

#### ■2006年度

- LACP主催のアニュアルレポートコンテストにおいて当社の「アニュアルレポート2005」(英語版)が事業別部門賞で2年連続 世界第1位
- アメリカで最も権威のある世界コンテスト[2006インターナショナルARCアワード]において当社の[アニュアルレポート2005(英語版)]が3年連続で賞を受賞
- 力 独自技術による鋼管杭工法「D-TEC PILE |及び、住宅の生産・施工工程で発生する廃木材を利用した「木粉リサイクルデッキ |が、エコマークを取得
- カ 「環境共生住宅認定」で、平成17年度建設実績1位を達成
- 力 物流センターでCASBEE評価Aランクの認証を取得
- カ 小型風力発電機「風流鯨」が、「2006年度グッドデザイン賞」を受賞
- 力 小型風力発電機「風流鯨」が、「2006電設工業展」製品コンクールで「日本電設工業協会会長賞」受賞

#### ■2005年度

- カ 「環境共生住宅認定」で、平成16年度建設実績1位を達成
- カ 金沢支店が金沢市優良廃棄物排出事業所の表彰を受賞

#### ■2004年度

- カ 「環境共生住宅認定」で、平成15年度建設実績1位を達成
- カ「大和ハウス大阪ビル」が、大阪市環境事業局より「ごみ減量優良建築物」として表彰
- カ「環境共生」と「コミュニティの創造」をコンセプトにした街づくりで茨城支店が住宅金融公庫総裁賞を受賞

#### ■2002年度

🣆 「大和ハウス東京ビル」「大和ハウス大阪ビル」が、「第9回環境・省エネルギー建築賞」の「財団理事長賞」「審査委員会奨励賞」を受賞

#### ■2001年度

カ 三重・四国・札幌工場、串本ロイヤルホテルがリサイクル推進協議会会長賞を受賞

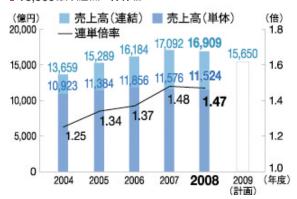
#### ■2000年度

力「大和ハウス大阪ビル」「大和ハウス東京ビル」が、日経「優秀先端事業所賞」を受賞

### 業績ハイライト・中期経営計画

#### ■業績ハイライト

■ 売上高(連結・単体)/連単倍率 ■ 16,909億円(連結) 1.47倍



経営利益/ROA(総資産利益率) 398億円 2.2%



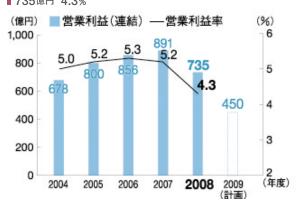
純資産/ROE(自己資本利益率) 6,074億円 0.7%



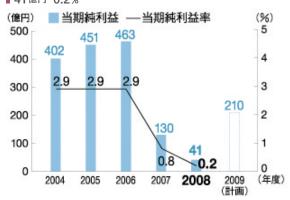
従業員数(連結・単体)正社員(連結) 23,985人



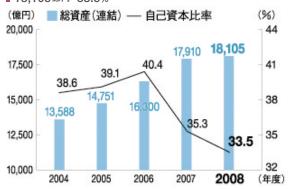
■ 営業利益/営業利益率 735億円 4.3%



当期純利益/純利益率 41億円 0.2%



純資産/自己資本比率18,105億円 33.5%



### 業績ハイライト:中期経営計画

#### ■連結財務指標

項目	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
売上高	13,659	15,289	16,184	17,092	16,909
営業利益	678	800	856	891	735
経常利益	742	1,030	893	612	398
当期純利益	402	451	463	130	41
総資産	13,588	14,751	16,300	17,910	18,105
純資産 (億円)	5,241	5,765	6,611	6,494	6,074
1株あたり 当期純利益	73.26	81.88	81.15	22.46	7.20
1株あたり 純資産	959.08	1,053.37	1,122.88	1,092.04	1,047.50
1株あたり 配当金 (円)	17.00	20.00	20.00	24.00	24.00
配当性向	23.2	24.4	24.6	106.8	333.4
ROE(自己資本利益率)	7.9	8.2	7.5	2.0	0.7
自己資本比率 (%)	38.6	39.1	40.4	35.3	33.5
住宅販売戸数(戸建)	10,410	9,641	9,309	9,070	8,586
住宅販売戸数(分譲)	2,060	1,944	1,955	1,685	1,729
住宅販売戸数(マンション)	3,727	4,391	4,981	4,253	3,511
住宅販売戸数(集合住宅)	26,658	27,656	28,738	29,021	29,413
住宅販売戸数(合計) (戸)	42,855	43,632	44,983	44,029	43,239

#### ■中期経営計画



当社グループは、2008年度(2009年3月期)を初年度とした『大和ハウスグループ第二次中期経営計画一Challenge 2010一』を策定しております。これは、国内人口・世帯数の減少や新設住宅着工戸数の減少など、ますます厳しくなる経営環境を見据え、「グループ連携によるさらなる成長の実現」「将来に向けた新たな収益源の育成」「ストック・超高齢社会に向けた研究開発と地球温暖化防止への取組み」「経営基盤の強化」を基本方針として企業価値の向上を目指すものです。

目標とする経営指標として、「売上高・営業利益・営業利益率・ROE(自己資本当期純利益率)」を採用しており、売上高および営業利益は収益力から見た成長性を判断する指標とし、営業利益率およびROEは事業における効率性を示す指標としております。 2008年度(2009年3月期)から2010年度(2011年3月期)までの3ヵ年を対象とした第二次中期経営計画におきましては、最終年度の目標を「売上高1兆8,500億円」「営業利益1,150億円」「営業利益率6.2%」「ROE9.0%」と掲げております。

しかし、今回の景気悪化の底入れが見えないなか、それに大きく影響を受けている住宅・不動産市況の今後の動向を見定めるところまでに至っておらず、最終年度の見直し数値を開示するには、さらなる時間を必要とするところです。従いまして現段階では2009年度(2010年3月期)の売上高・営業利益・営業利益率のみを開示することといたします。



#### 【基本的情報:BI】

記載する情報・指標	項目	
BI-1:経営責任者の緒言		
ア.環境経営の方針	(1)●会長から皆さまへ[冊子P.5]	
イ.環境問題の現状、事業活動における環境配慮の取組の必要性及び持続 可能な社会のあり方についての認識	(1)●会長から皆さまへ[冊子P.5]	
ウ.自らの業種、規模、事業特性あるいは海外展開等に応じた事業活動における環境配慮の方針、戦略及び事業活動に伴う環境負荷の状況(重大な環境側面)とその低減に向けた取組の内容、実績及び目標等の総括	(1)●会長から皆さまへ[冊子P.5]	
エ.これらの取組に関して、確実に実施し、目標等を明示した期限までに達成 し、その結果及び内容を公表すること、についての社会へのコミットメント	(1) ●会長から皆さまへ[冊子P.5] (2) 特集: 持続可能な都市基盤のために〜環境に配慮した建築〜[冊子P.39]	
オ.経営責任者等の署名	(1) ●会長から皆さまへ[冊子P.5] (2) ●社長から皆さまへ[冊子P.13]	
BI-2:報告にあたっての基本的要件		
BI-2-1:報告の対象組織・期間・分野		
ア.報告対象組織(過去に環境報告書を発行している場合は、直近の報告書 における報告対象組織からの変化や経緯等についても記載する。)	(1)報告対象組織[冊子P.2]	
イ.報告対象期間、発行日及び次回発行予定(なお、過去に環境報告書を発行 している場合は、直近の報告書の発行日も記載する。)	(1)報告対象期間、発行日(次回発行予定含む)[冊子P.2]	
ウ.報告対象分野(環境的側面・社会的側面・経済的側面等)	(1)大和ハウスグループのCSR活動のご報告にあたって[冊子P.1-2]	
エ.準拠あるいは参考にした環境報告等に関する基準又はガイドライン等 (業種毎のものを含む。)	(1)参考にしたガイドライン[冊子P.2]	
オ.作成部署及び連絡先	(1)本レポートについてのお問い合わせ先[冊子P.2]	
カ.ウェブサイトのURL	(1)大和ハウスグループCSRレポート2009Webサイトトップ[冊子P.2]	
BI-2-2:報告対象組織の範囲と環境負荷の捕捉状況		
ア.報告対象組織の環境負荷が事業全体(連結決算対象組織全体)の環境負荷に占める割合(「環境負荷の捕捉率」等による状況)	(1)環境負荷マテリアルフロー -P121 (2)エンドレスグリーンプログラム2010の実績と自己評価[冊子P.43~46]	
BI-3:事業の概況(経営指標を含む)		
ア.主たる事業の種類(業種・業態)	(1) 大和ハウスグループの概要[冊子P.9~P.10]	
イ.主要な製品・サービスの内容(事業分野等)	(1)大和ハウスグループの概要[冊子P.9~P.10]	
ウ.売上高又は生産額(連結決算対象組織全体及び報告事業者単独、報告対象組織)	(1)大和ハウスグループの概要[冊子P.9~P.10] (2)業績ハイライト[冊子P.9]	
エ.従業員数(連結決算対象組織全体及び報告事業者単独、報告対象組織)	(1) 大和ハウスグループの概要[冊子P.9~P.10] (2) 業績ハイライト[冊子P.9]	
オ.その他の経営関連情報(総資産、売上総利益、営業利益、経常利益、純損 益、付加価値額等)	(1)大和ハウスグループの概要[冊子P.9~P.10] (2)業績ハイライト[冊子P.9]	
カ.報告対象期間中に発生した組織構造、株主構成、製品・サービス等の重大な変化の状況(合併、分社化、子会社や事業部門の売却、新規事業分野への進出、工場等の建設等により環境負荷に大きな変化があった場合)	(1) エンドレスグリーンプログラム2010の実績と自己評価[冊子P.43~P.46] ●地球温暖化防止への取り組み (2) 考え方、実績・自己評価 →P130	
BI-4:環境報告の概要		
BI-4-1:主要な指標等の一覧		
ア.事業の概況(会社名、売上高、総資産等)(過去5 年程度、BI-3 参照)	(1)大和ハウスグループの概要[冊子P.9~P.10] (2)業績ハイライト[冊子P.9]	
イ.環境に関する規制の遵守状況(MP-2 参照)	(1)環境リスク低減への取り組み →P210	
ウ.主要な環境パフォーマンス等の推移(過去5 年程度)	(1) エンドレスグリーンプログラム2010の実績と自己評価[冊子P.43~P.46] (2) 環境負荷マテリアルフロー →P121 ●地球温暖化防止への取り組み (3) 考え方、実績・自己評価 →P130	
・総エネルギー投入量(OP-1 参照)		

### 【基本的情報:BI】

記載する情報・指標	項目	
・水資源投入量(OP-3 参照)		
・総製品生産量又は総商品販売量(OP-5 参照)		
・温室効果ガスの排出量(OP-6 参照)		
・化学物質の排出量、移動量(OP-8 参照)		
・廃棄物等総排出量及び廃棄物最終処分量(OP-9 参照)		
・総排水量等(OP-10 参照)		
・環境効率指標(EEI 参照)		
BI-4-2:事業活動における環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括		
ア.事業活動における環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績、改善策 等の総括	(1)エンドレスグリーンプログラム2010の実績と自己評価[冊子P.43~P.46]	
BI-5:事業活動のマテリアルバランス(インプット、内部循環、アウトプット)		
ア.事業活動に伴う環境負荷の全体像	(1) <b>●</b> 環境負荷マテリアルフロー →P121	

【環境マネジメント指標:MPI】	
記載する情報・指標	項目
MP-1:環境マネジメントの状況	
MP-1-1:事業活動における環境配慮の方針	
ア.事業活動における環境配慮の方針	(1) <b>●</b> 環境ビジョン <b>→P117</b>
MP-1-2:環境マネジメントシステムの状況	
ア.環境マネジメントシステムの状況	(1) <b>●</b> 環境マネジメント →P118
MP-2:環境に関する規制の遵守状況	
ア.環境に関する規制の遵守状況	(1) ●環境リスク低減への取り組み →P210
MP-3:環境会計情報	
ア.環境保全コスト	(1)環境会計 →P124
1.環境保全効果	(1)環境会計 →P124
ウ.環境保全対策に伴う経済効果	(1)環境会計 →P124
MP-4:環境に配慮した投融資の状況	
ア.投資・融資にあたっての環境配慮の方針、目標、計画、取組状況、実績等	該当する項目はありません
MP-5:サプライチェーンマネジメント等の状況	
ア.環境等に配慮したサプライチェーンマネジメントの方針、目標、計画、取組 状況、実績等	(1) ■ サプライチェーン・マネジメント
MP-6:グリーン購入・調達の状況	
ア.グリーン購入・調達の基本方針、目標、計画、取組状況、実績等	●グリーン購入・調達への取り組み (1)考え方 →P191 (2) グリーン購入 →P193 (3) グリーン調達(住宅事業・商業建築事業) →P194
MP-7:環境に配慮した新技術、DfE 等の研究開発の状況	
ア.環境に配慮した生産技術、工法、DfE等の研究開発に関する方針、目標、 計画、取組状況、実績等	(1) ●特集:持続可能な都市基盤のために~環境に配慮した建築~ [冊子P.39~P.42]
同上	●エンドレスグリーンプログラム2010 (1)基本方針[冊子P.43]
同上	●地球温暖化防止への取り組み (2) 考え方、実績・自己評価 →P130 ・商品・サービスの取り組み (3) CO2を減らせる家「xevo(ジーヴォ)」 →P155 (4) マンションにおける環境配慮計画書(CO2削減計画書)の運用 →P160 (5) リフォーム用省エネシミュレーションソフトの開発と運用 →P162 (6) 商業建築事業における環境配慮設計ガイドラインの策定と教育研修の充実 →P164 (7) 「省エネ型コンビニエンスストア」のモデル棟を建設 →P164 (8) エネルギードクターサービスの提供 →P167 (9) 白色LED照明システム「grace lumino(グレースルミノ)」の開発 [冊子P.42] →P170 (10) 高効率照明反射板「reFbo(レフボ)」の販売 →P170
同上	●廃棄物削減の取り組み (11)再生・再建築可能な「リ・ストア&リ・ビルドシステム」の開発・普及 [冊子P.42] →P172

#### 【環境マネジメント指標:MPI】

「境境マネンメント指標:MPI」	本日
記載する情報・指標 MP-8:環境に配慮した輸送に関する状況	項目
ア.環境に配慮した輸送に関する方針、目標、計画等	(1)輸送部門の取り組み (→P139)
イ.総輸送量及びその低減対策に関する取組状況、実績等	(1) 環境負荷マテリアルフロー →P121 (2) 輸送部門の取り組み →P139
ウ.輸送に伴うエネルギー起源二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )排出量及びその低減対策 に関する取組状況、実績等	(1)輸送部門の取り組み →P139 (2)物流サービスの取り組み →P152
MP-9:生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	
ア.生物多様性の保全に関する方針、目標、計画、取組状況、実績等	(1) ●環境ビジョン → P117 ●エンドレスグリーンプログラム2010 (2) 基本方針[冊子P.43] ●自然環境との調和〜生物多様性保全に向けで〜 (3) 考え方 → P195 (4) 環境共生住宅への取り組み → P197 (5) 戸建住宅事業 (分譲) の取り組み → P198 (6) 賃貸住宅事業の取り組み → P201 (7) 商業建築事業の取り組み → P203
MP-10:環境コミュニケーションの状況	
ア.環境コミュニケーションに関する方針、目標、計画、取組状況、実績等	●環境コミュニケーション (1)考え方 ←P205 (2)環境情報の発信 ←P206 (3)展示会、環境関連イベントへの出展 ←P208 (4)次代を担うこどもたちとの対話 ←P209 (5) ●ステークホルダーミーティング(第5回)
MP-11:環境に関する社会貢献活動の状況	
ア.環境に関する社会貢献活動の方針、目標、計画、取組状況、実績等	(1) ●社会貢献活動【環境】 →P101 ●環境コミュニケーション (2) 次代を担うこどもたちとの対話 →P209
MP-12:環境負荷低減に資する製品・サービスの状況	
ア.環境負荷低減に資する製品・サービス等に対する方針、目標、計画、取組 状況、実績等	(1) ●特集:持続可能な都市基盤のために~環境に配慮した建築~[冊子P.39~P.42]  ●地球温暖化防止の取り組み ・事業活動プロセスの取り組み ・商品・サービスの取り組み ・商品・サービスの取り組み ・P152 (3) 考え方、実績・自己評価 →P153 (4) 戸建住宅事業の取り組み →P155 (5) 賃貸住宅事業の取り組み →P160 (7) 住宅リフォーム事業の取り組み →P160 (7) 住宅リフォーム事業の取り組み →P162 (8) 商業建築事業の取り組み [冊子P.39~P.42] (9) 環境エネルギー事業の取り組み [冊子P.39~P.42] ●廃棄物削減への取り組み (10) 考え方、実績・自己評価[冊子P.39] (11) 再生・再建築可能な「リ・ストア&リ・ビルドシステム」の開発・普及[冊子P.42] ■中国における取り組み ●住宅の質の向上 →P47
イ.容器包装リサイクル法、家電リサイクル法及び自動車リサイクル法等に基づく再商品化の状況	該当する項目はありません

#### 【オペレーション指標:OPI】

記載する情報・指標	項目
OP-1:総エネルギー投入量及びその低減対策	
ア.総エネルギー投入量の低減対策に関する方針、目標、計画、取組状況、実 績等	●地球温暖化防止への取り組み (1)・考え方、実績・自己評価

### 【オペレーション指標:OPI】

記載する情報・指標	項目	
OP-2:総物質投入量及びその低減対策		
ア.総物質投入量(又は主要な原材料等の購入量、容器包装材を含む)の低減 対策及び再生可能資源や循環資源の有効利用に関する方針、目標、計画、 取組状況、実績等	●廃棄物削減への取り組み (1) 考え方、実績・自己評価[冊子P.39] (2) 生産部門の取り組み →P173 (3) 施工部門(住宅事業、商業建築事業)の取り組み →P174 (4) グループ会社(大和リース・ダイワラクダ工業)の取り組み →P177	
OP-3:水資源投入量及びその低減対策		
ア.水資源投入量の低減対策に関する方針、目標、計画、取組状況、実績等	●資源保護(水)への取り組み (1)考え方、実績・自己評価 →P181 (2)リゾートホテルの取り組み →P182 (3)都市型ホテルの取り組み →P183 (4)スポーツ施設の取り組み →P184	
OP-4:事業エリア内で循環的利用を行っている物質量等		
ア.事業エリア内における物質(水資源を含む)等の循環的利用に関する方針、目標、計画、取組状況、実績等	(1)廃棄物削減への取り組み→P171	
OP-5:総製品生産量又は総商品販売量		
ア.総製品生産量又は総商品販売量	(1)業績ハイライト →P227	
OP-6:温室効果ガスの排出量及びその低減対策		
ア.温室効果ガス等排出量の低減対策に関する方針、目標、計画、取組状況、 実績等	●地球温暖化防止への取り組み (1)考え方、実績・自己評価 (-P130) ・事業活動プロセスの取り組み (-P132) (事務・建設系部門) (2)事務部門の取り組み (-P134) (3)車両部門の取り組み (-P136) (4)生産部門の取り組み (-P137) (5)輸送部門の取り組み (-P139) (6)施工部門(住宅事業、商業建築事業)の取り組み (-P141) (7)グループ会社(大和リース・ダイワラクダ工業)の取り組み (-P142) (サービス部門) (8) リゾート・スポーツ施設の取り組み (-P144) (9)ホームセンターの取り組み (-P144) (10)ショッピングセンターの取り組み (-P147) (11)都市型ホテルの取り組み (-P151) (12)物流サービスの取り組み (-P151)	
OP-7:大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策		
ア.硫黄酸化物(SOx)や窒素酸化物(NOx)、揮発性有機化合物(VOC)排出量 の低減対策に関する方針、目標、計画、取組状況、実績等	(1)●環境リスク低減 <b>→P210</b> (2)サイトレポート2009(生産工場)	
OP-8:化学物質の排出量、移動量及びその低減対策		
ア.化学物質の管理方針及び管理状況	●有害化学物質削減への取り組み (1)考え方、実績・自己評価、マテリアルバランス →P185 (2)生産部門(住宅事業)の取り組み →P187 (3)生産部門(商業建築事業)の取り組み →P188 (4)グループ会社(大和リース)の取り組み →P189 (5)グループ会社(ダイワラクダ工業)の取り組み →P190	
OP-9:廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策		
ア.廃棄物等の発生抑制、削減、リサイクル対策に関する方針、目標、計画、取 組状況、実績等	●廃棄物削減への取り組み (1)考え方、実績・自己評価[冊子P.39] (2)生産部門の取り組み →P173 (3)施工部門(住宅事業、商業建築事業)の取り組み →P174 (4)グループ会社(大和リース・ダイワラクダ工業)の取り組み →P177	
OP-10:総排水量等及びその低減対策		
ア.総排水量の低減対策に関する方針、目標、計画、取組状況、実績等	●資源保護(水)への取り組み (1)考え方、実績・自己評価 ←P181 (2)リゾートホテルの取り組み ←P182 (3)都市型ホテルの取り組み ←P183 (4)スポーツ施設の取り組み ←P184	
【環境効率指標:EEI】		
環境配慮と経営との関連状況	<ul><li>●地球温暖化防止への取り組み (1)考え方、実績・自己評価 ●P130 ※当社独自の環境効率指標として「CO2ダブルスコア」を導入しています。</li></ul>	

#### 【社会パフォーマンス指標:SPI】

記載する情報・指標	項目
社会的取組の状況	
① 労働安全衛生に関する情報・指標	(1) ●作業環境の労働安全 →P84 (2) ●健康への配慮 →P94 (3) CSR自己評価指標2008年度実績-取引先-[冊子P.24]
②雇用に関する情報・指標	(1) ●特集: ワークライフバランスの推進~いきいきと働くために~[冊子P.33~36 (2) ●雇用と処遇 →P91 (3) ●人財育成 →P94 (4) ●働きやすい職場 →P95
③ 人権に関する情報・指標	(1) ●人権の尊重 (→P92)
④ 地域及び社会に対する貢献に関する情報・指標	■社会との共創共生 (1) C S R 自己評価指標2008年度実績-社会-[冊子P.24] (2) ●特集:地域密着型の社会貢献活動〜浜松支店の取り組み〜[冊子P.37〜38] (3) ●社会貢献活動の総括 →P99 (4) ●社会貢献活動[福地] →P102 (6) ●社会貢献活動[福祉] →P102 (6) ●社会貢献活動[を向し] →P108 (8) ●義援金・募金活動 →P110 (9) ●今後に向けて →P111
⑤ 企業統治(コーポレートガバナンス)・企業倫理・コンプライアンス及び公正取引に関する情報・指標	(1) ■理念体系 →P10 (2) ■ 一人ひとりが支えるコーポレート・ガバナンス [冊子P.47~P.48] (3) CSR推進組織体制 →P15 (4) ■コンプライアンス、リスクマネジメント →P16 (5) ■クライシスマネジメント →P19 (6) ■サプライチェーン・マネジメント →P20 (7) ●資材調達先との関係 →P81 (8) ●施工協力先との関係 →P82 (9) ●設備機器調達先との関係 →P83 (10) ●適正な支払い →P85 (11) 大和ハウスグループ企業倫理綱領
⑥ 個人情報保護に関する情報・指標	(1) ■コンプライアンス、リスクマネジメントP16
⑦ 広範な消費者保護及び製品安全に関する情報・指標	(1) 特集: ストック型社会の形成に向けて~長期優良住宅~[冊子P.15~18
⑧ 企業の社会的側面に関する経済的情報・指標	<ul> <li>株主・投資家との共創共生</li> <li>(1)IR活動を推進するための活動強化 →P71</li> <li>(2)積極的なIR活動 →P73</li> <li>(3)決算の方針 →P74</li> <li>(4)大和ハウスグループの概要[冊子P.9~P.10]</li> <li>(5)業績ハイライト・中期経営計画 →P227</li> </ul>
⑨ その他の社会的項目に関する情報・指標	(1) ■コンプライアンス、リスクマネジメント →P16 (2) CSR自己評価指標2008年度実績[冊子P.19~P.24] (3) CSR自己評価指標2008年度実績(詳細版) (4) 社会貢献活動の総括 →P99 (5) CSR活動のあゆみ →P220 (6) 大和ハウスグループのCSR活動 →P217 (7)主な受賞歴 →P225 (8) CSRトピックス

#### 1. 戦略および分析

	記載する情報・指標	項目
1.1	組織にとっての持続可能性の適合性とその戦略に関する組織の最高意思決定者(CEO、会長またはそれに相当する上級幹部)の声明	(1)会長から皆様へ[冊子P.5~P.6] (2)社長から皆様へ[冊子P.13~P.14]
1.2	主要な影響、リスクおよび機会の説明	(1)会長から皆様へ[冊子P.5~P.6] (2)社長から皆様へ[冊子P.13~P.14]

#### 2. 組織のプロフィール

	記載する情報・指標	項目
2.1	組織の名称	(1)大和ハウスグループの概要[冊子P.9~P.10]
2.2	主要な、ブランド、製品および/またはサービス	(1)大和ハウスグループの概要[冊子P.9~P.10]
2.3	主要部署、事業会社、子会社および共同事業などの、組織の経営構造	(1)大和ハウスグループの概要[冊子P.9~P.10]
2.4	組織の本社の所在地	(1)大和ハウスグループの概要[冊子P.9~P.10]
2.5	組織が事業展開している国の数および大規模な事業展開を行っているあるい は報告書中に掲載されているサステナビリティの課題に特に関連のある国名	(1)中国への取り組み <b>→P47</b>
2.6	所有形態の性質および法的形式	(1)2008年度 有価証券報告書 (http://www.daiwahouse.co.jp/company/shouken/pdf/70yuuhou.pdf)
2.7	参入市場(地理的内訳、参入セクター、顧客/受益者の種類を含む)	(1)大和ハウスグループの概要[冊子P.9~P.10]
2.8	報告組織の規模 ・従業員数 ・純売上高(民間組織について)あるいは純収入(公的組織について) ・負債および株主資本に区分した総資本(民間組織について) ・提供する製品またはサービスの量	(1)大和ハウスグループの概要[冊子P.9~P.10]
	推奨される追加情報 ・総資産 ・受益所有権(最大株主の身元、株式保有率など) ・以下に関して国・地域ごとの割合(総収入の5%以上を占める国/地域による売上/収入、総収入の5%以上を占める国/地域によるコスト、従業員)	(1)2008年度 有価証券報告書(P.1/P24) (http://www.daiwahouse.co.jp/company/shouken/pdf/70yuuhou.pdf)
2.9	以下の項目を含む、規模、構造または所有形態に関して報告期間中に生じた 大幅な変更 ・施設のオープン、閉鎖および拡張などを含む所在地または運営の変更 ・株式資本構造およびその資本形成における維持および変更業務(民間組 織の場合)	(1)2008年度 有価証券報告書(P.22) (http://www.daiwahouse.co.jp/company/shouken/pdf/70yuuhou.pdf)
2.10	報告期間中の受賞歴	(1)大和ハウスグループの主な受賞歴 →P225

#### 3.報告要素

#### 報告書のプロフィール

	記載する情報・指標	項目
3.1	提供する情報の報告期間	(1)報告対象期間、発行日(次回発行予定含む)[冊子P.2]
3.2	前回の報告書の発行日(該当する場合)	(1) バックナンバー
3.3	報告サイクル	(1) バックナンバー
3.4	報告書またはその内容に関する質問の窓口	(1)本レポートについてのお問い合わせ先[冊子P.2]
報告書	書のスコープおよびバウンダリー	
3.5	以下を含め、報告書の内容を確定するためのプロセス ・重要性の判断 ・報告書内のおよびテーマの優先順位付け ・組織が報告書の利用を期待するステークホルダーの特定	(1)想定している読者対象[冊子P.2]
3.6	報告書のバウンダリー	(1)報告対象組織[冊子P.2]
3.7	報告書のスコープまたはバウンダリーに関する具体的な制限事項を明記する	(1)将来の見通しに関する注意事項[冊子P.2]
3.8	共同事業、子会社、リース施設、アウトソーシングしている業務および時系列 でのおよび/または報告組織間の比較可能性に大幅な影響を与える可能性が あるその他の事業体に関する報告の理由	該当する項目はありません
3.9	報告書内での指標およびその他の情報を編集するために適用された推計の 基となる前提条件および技法を含む、データ測定技法および計算の基盤	(1)指標改定のプロセス[冊子P.19~P.22] (2) ■CSR自己評価指標2008年度実績(詳細) (3) ■CSR自己評価指標2008年度実績(要約)[冊子P.23~P.24] (4) ●環境負荷マテリアルフロー →P121 (5) ●環境会計 →P124
3.10	以前の報告書で掲載済みである情報を再度記載することの効果の説明およびそのような再記述を行う理由	該当する項目はありません
3.11	報告書に適用されているスコープ、バウンダリーまたは測定方法における前 回の報告期間からの大幅な変更	該当する項目はありません

#### 3.報告要素

### GRI内容索引

	記載する情報・指標	項目
3.12	報告書内の標準開示の所在場所を示す表	(1)GRIガイドライン対照表 (2)環境省ガイドライン対照表
保証		
3.13	報告書の外部保証添付に関する方針および現在の実務慣行。サステナビリティ報告書の添付された保証報告書内に記載がない場合は、外部保証の範囲および基盤を説明する。また、報告組織と保証の提供者との関係を説明する。	該当する項目はありません

### 4. ガバナンス、コミットメントおよび参画

#### ガバナンス

	記載する情報・指標	項目
4.1	戦略の設定または全組織的監督など、特別な業務を担当する最高統治機関 の下にある委員会を含む統治構造(ガバナンスの構造)	(1)コーポレート・ガバナンスの推進 (→P11)
4.2	最高統治機関の長が執行役員を兼ねているかどうかを示す(兼ねている場合は、組織の経営におけるその役割と、このような人事になっている理由も示す)	(1)2008年度 有価証券報告書(P.35 ~ P.37) (http://www.daiwahouse.co.jp/company/shouken/pdf/70yuuhou.pdf)
4.3	単一の理事会構造を有する組織の場合は、最高統治機関における社外メンバーおよび/または非執行メンバーの人数を明記する	該当する項目はありません
4.4	株主および従業員が最高統治機関に対して提案または指示を提供するためのメカニズム 以下のプロセスへの参照を盛り込む ・少数株主が最高統治機関に意見を表明するための株主決議またはその他 のメカニズムの利用 ・組織レベルの「労使協議会」などの正式な代表組織および最高統治機関内 の従業員代表との、職務上の関係についての従業員への通知および協議	該当する項目はありません
4.5	最高統治機関メンバー、上級管理職および執行役についての報酬(退任の取り決めを含む)と組織のパフォーマンス(社会的および環境的パフォーマンスを含む)との関係	該当する項目はありません
4.6	最高統治機関が利害相反問題の回避を確保するために実施されているプロセス	(1) コーポレート・ガバナンスの推進 →P11 (2) 2008年度 有価証券報告書 (P.35 ~ P.37) (http://www.daiwahouse.co.jp/company/shouken/pdf/70yuuhou.pdf)
4.7	経済、環境、社会的テーマに関する組織の戦略を導くための、最高統治機関のメンバーの適性および専門性を決定するためのプロセス	該当する項目はありません
4.8	経済的、環境的、社会的パフォーマンス、さらにその実践状況に関して、組織内で開発したミッション (使命) およびバリュー (価値) についての声明、行動規範および原則以下の項目についての程度を説明する・組織全体を通じて、異なる地域および部署/ユニットでどの程度適用されているか・国際的に合意された基準にどの程度関連しているか	(1)■理念体系[冊子P.7~P.8] (2)●環境ビジョン <b>→P117</b>
4.9	組織が経済的、環境的、社会的パフォーマンスを特定し、マネジメントしていることを最高統治機関が監督するためのプロセス。関連のあるリスクと機会を特定かつマネジメントしていること、さらにおよび国際的に合意された基準、行動規範および原則への支持または遵守を含む。	(1) ■ CSR推進組織体制
4.10	最高統治機関のパフォーマンスを、特に経済的、環境的、社会的パフォーマンスと いう観点で評価するためのプロセス	該当する項目はありません
外部の	ロイニシアティブへのコミットメント	
4.11	組織が予防的アプローチまたは原則取り組んでいるかどうかおよびその方法はど のようなものかについての説明	(1) <b>●</b> 環境マネジメント →P118
4.12	外部で開発された、経済的、環境的、社会的憲章、原則あるいは組織が同意または受諾するその他のイニシアティブ	(1) ●環境マネジメント <del>→P118</del>
4.13	組織が以下の項目に該当するような(企業団体などの)団体および/または国内外の提言機関における会員資格 ・統治機関内に役職を持っている ・プロジェクトまたは委員会に参加している ・通常の会員資格の義務を超える実質的な資金提供を行っている ・会員資格を戦略的なものとして捉えている	該当する項目はありません

#### 4. ガバナンス、コミットメントおよび参画

ステークホルダー参画(レポートのためでなく、普段の活動におけるステークホルダー参画を意図している)

	記載する情報・指標	項目
4.14	組織に参画したステークホルダーのリスト	(1) ステークホルダーミーティング
4.15	参画してもらうステークホルダーの特定および選定の基準	該当する項目はありません
4.16	種類ごとのおよびステークホルダー・グループごとの参画の頻度など、ステークホルダー参画へのアプローチ	(1) ステークホルダーミーティング
4.17	その報告を通じた場合も含め、ステークホルダー参画を通じて浮かび上がった 主要なテーマおよび懸案事項と、それらに対して組織がどのように対応したか	<ul><li>(1) ステークホルダーミーティング</li><li>(2) 特集2 ステークホルダーとの共創共生[冊子P.19~24]</li><li>(3) 次代を担うこどもたちとの対話 →P209</li><li>(4) 第三者意見(第三者意見を受けて)[冊子P.49]</li></ul>

#### 5. マネジメントアプローチおよびパフォーマンス指標

#### 経済

#### マネジメントアプローチに関する開示

	記載する情報・指標	項目		
		(1)業績ハイライト[冊子P.9~P.10]		
		(2) 大和ハウスグループ第2次中期経営計画 (http://www.daiwahouse.co.jp/company/challenge/)		
		(3) 2008年度有価証券報告書(http://www.daiwahouse.co.jp/company/shouken/pdf/70yuuhou.pdf)		
経済パフォーマンス指標				
/mi == . 47				

在/月/	性消ハノオーマンス指標				
側面	:経済	的パフォーマンス			
中核	EC1.	収入、事業コスト、従業員の給与、寄付およびその他のコミュニティへの投資、内部留保および資本提供者や政府に対する支払いなど、創出したおよび分配した直接的な経済価値	(1)決算情報 (http://www.daiwahouse.co.jp/company/kessan/m_index.html) (2)●義援金・募金活動 ◆P110		
中核	EC2.	気候変動による、組織の活動に対する財務上の影響およびその他のリスクと機会	該当する項目はありません		
中核	EC3.	確定給付(福利厚生)制度の組織負担の範囲	(1)2008年度有価証券報告書(P.74) (http://www.daiwahouse.co.jp/company/shouken/pdf/70yuuhou.pdf)		
中核	EC4.	政府から受けた相当の財務的支援	該当する項目はありません		
側面	:市場	での存在感			
中核	EC5.	主要事業拠点について、現地の最低賃金と比較した標準的新入社員賃金の比率の幅	該当する項目はありません		
中核	EC6.	主要事業拠点での地元のサプライヤー(供給者)についての方針、業務慣行および支出の割合	(1)資材調達先との関係 →P81		
中核	EC7.	現地採用の手順、主要事業拠点での現地のコミュニティから上級管理職となった従業員の割合	該当する項目はありません		
側面	:間接	的な経済影響			
中核	EC8.	商業活動、現物支給、または無料奉仕を通じて主に公共の利益のために提供されるインフラ投資およびサービスの展開図と影響	該当する項目はありません		
追加	EC9.	影響の程度など、著しい間接的な経済的影響の把握と記述	該当する項目はありません		

#### 環境

#### マネジメントアプローチに関する開示

(1) ●環境ビジョン →P117 (2) ●環境マネジメント →P118 (3) ●環境マテリアルフロー →P121 (4) ●環境会計 →P124 (5) ●エンドレスグリーンプログラム2010の実績と自己評価 →P127	マイン	V / I	
			(2) ●環境マネジメント →P118 (3) ●環境マテリアルフロー →P121 (4) ●環境会計 →P124

#### 環境パフォーマンス指標

側面	:原材	料	
中核	EN1.	使用原材料の重量または量	(1) <b>●</b> 環境マテリアルフロー <b>→P121</b>
中核	EN2.	リサイクル由来の使用原材料の割合	該当する項目はありません
側面	こここ	ルギー	
中核	EN3.	一次エネルギー源ごとの直接的エネルギー消費量	(1) <b>●</b> 環境マテリアルフロー <b>→P122</b>
中核	EN4.	一次エネルギー源ごとの間接的エネルギー消費量	(1) <b>●</b> 環境マテリアルフロー <b>→P122</b>
追加	EN5.	省エネルギーおよび効率改善によって節約されたエネルギー量	該当する項目はありませんが、省エネルギーに関する取り組みは、 温室効果ガス排出量削減への取り組みとしてEN18に掲載しています。
追加	EN6.	エネルギー効率の高いあるいは再生可能エネルギーに基づく製品およびサービスを 提供するための率先取り組みおよび、これらの率先取り組みの成果としてのエネル ギー必要量の削減量	●地球温暖化防止への取り組み (1)考え方、実績・自己評価 →P130 (2)商品・サービスの取り組み →P153 (3)戸建住宅事業の取り組み →P155 (4)賃貸住宅事業の取り組み →P159 (5)マンション事業の取り組み →P160 (6)住宅リフォーム事業の取り組み →P162 (7)商業建築事業の取り組み →P163 (8)環境エネルギー事業の取り組み →P166

### 5. マネジメントアプローチおよびパフォーマンス指標

	. マネシメントアプローチおよびパフォーマンス指標 記載する情報・指標 項目					
		記載する情報・指標	<b>サリーン購入・調達への取り組み →P191</b>			
追加	EN7.	間接的エネルギー消費量削減のための率先取り組みと達成された削減量	(1) 考え方 →P191 (2) グリーン購入の取り組み →P192 (3) グリーン調達(住宅事業、商業建築事業)の取り組み →P194			
側面	·····································					
中核	EN8.	水源からの総取水量	(1) ●環境マテリアルフロー →P121 (2) 資源保護(水)への取り組み →P181			
中核	EN9.	取水によって著しい影響を受ける水源	該当する項目はありません			
追加	EN10.	水のリサイクルおよび再利用が総使用水量に占める割合	該当する項目はありません			
側面	:生物	多様性				
中核	EN11.	保護地域内あるいはそれに隣接した場所および保護地域内で生物多様性の価値が 高い地域に、所有、賃借、または管理している土地の所在地および面積	●自然環境との調和(生物多様性保全) ・考え方 (→P195) (1) 豊かな自然環境の維持保全 (→P195)			
中核	EN12.	保護地域および保護地域外で生物多様性の価値が高い地域での生物多様性に対する活動、製品およびサービスの著しい影響の説明	■社会との共創共生 (1) 特集:地域密着型の社会貢献活動[冊子P.37~38] ●社会貢献活動[環境] (2) 六甲山で森林保全活動を実施 →P101  ■環境との共創共生 ●自然環境との調和(生物多様性保全) (3)環境共生住宅への取り組み →P197 (4) 戸建住宅事業(分譲)の取り組み →P198 (5) 賃貸住宅事業の取り組み →P201 (6) 商業建築事業の取り組み →P203			
追加	EN13.	保護または復元されている生息地	●自然環境との調和(生物多様性保全) ・考え方 (1)豊かな自然環境の維持保全 →P195			
追加	EN14.	生物多様性への影響をマネジメントするための戦略、現在の措置および今後の計画	●自然環境との調和(生物多様性保全) ・考え方 (1)豊かな自然環境の維持保全 →P195			
追加	EN15.	事業によって影響を受ける地区内の生息地域に生息するIUCN(国際自然保護連合)のレッドリスト種(絶滅危惧種)および国の絶滅危惧種リストの数。絶滅危険性のレベルごとに分類する	該当する項目はありません			
側面	則面:排出物、廃水および廃棄物					
中核	EN16.	重量で表記する、直接及び間接的な温室効果ガスの総排出量	(1)●環境マテリアルフロー <b>→P121</b>			
中核	EN17.	重量で表記する、その他の関連ある間接的な温室効果ガスの総排出量	該当する項目はありません			
	EN18.	温室効果ガス排出量の削減のための率先取り組みと達成された削減量	●地球温暖化防止への取り組み (1)考え方、実績・自己評価			
中核	EN19.	19. 重量で表記する、オゾン層破壊物質の排出量 該当する項目はありません				
中核	EN20.	種類別および重量で表記するNOx、SOxおよびその他の著しい影響を及ぼす排気物質	(1)サイトレポート2009(生産工場)			
	EN21.	水質および放出先ごとの総排水量	(1)サイトレポート2009(生産工場)			
	EN22.	種類および廃棄方法ごとの廃棄物の総重量	(1) ●環境マテリアルフロー →P121			
中核	EN23.	著しい影響を及ぼす漏出の総件数および漏出量	該当する項目はありません			
追加	EN24.	バーゼル条約 付属文書 I、II、IIIおよびVIIで「有害」とされる廃棄物の輸送、輸入、輸出あるいは処理の重量および国際輸送された廃棄物の割合	該当する項目はありません			
追加	EN25.	報告組織の排水および流出液により著しい影響を受ける水界の場所およびそれに関連する生息地の規模、保護状況および生物多様性の価値を特定する	該当する項目はありません			

#### 5. マネジメントアプローチおよびパフォーマンス指標

		記載する情報・指標	項目
側面	記製品	およびサービス	
			●地球温暖化防止への取り組み (1)考え方、実績・自己評価 →P130
中核	EN26.	製品およびサービスの環境影響を緩和する率先取り組みと、影響削減の程度	・事業活動プロセスの取り組み ←P132 (2)物流サービスの取り組み ←P152 ・商品・サービスの取り組み ←P154 (3)戸建住宅事業の取り組み ←P155 (4)賃貸住宅事業の取り組み ←P159 (5)マンション事業の取り組み ←P160 (6)住宅リフォーム事業の取り組み ←P162 (7)商業建築事業の取り組み ←P163 (8)環境エネルギー事業の取り組み ←P166
中核	EN27.	カテゴリー別の、再生利用される販売製品およびその梱包材の割合	●廃棄物削減への取り組み (1)再生・再建築可能な「リ・ストア&リ・ビルドシステム」 の開発・普及 →P172 (2)生産部門の取り組み →P173
側面	正遵守		
中核	EN28.	環境規制への違反に対する相当な罰金の金額および罰金以外の制裁措置の件数	該当する項目はありません
側面	1:輸送		
追加	EN29.	組織の業務に使用される製品、その他物品および原材料の輸送および従業員の移動からもたらされる著しい環境影響	(1) ●環境マテリアルフロー →P122 ●地球温暖化防止への取り組み (2)輸送部門の取り組み →P139
側面	1:総合		
追加	EN30.	種類別の環境保護目的の総支出および投資	(1)●環境会計 →P124

#### 社会

#### 労働慣行とディーセント・ワーク(公正な労働条件)

マネジメントアプローチに関する開示

				(1) ●雇用と処遇 →P91
114 PCL 100 4	 	. (	· — He Im	

#### 労働慣行とディーセント・ワーク(公正な労働条件)のパフォーマンス指標

23 1-30 1	~ 13 - 1	1 CF1 7 7 (AEC 673 MARTITY 03 1 1 1 7 1 1 1 1 M			
側面	側面:雇用				
中核	LA1.	雇用の種類、雇用契約および地域別の総労働力	(1)人材·雇用・職場環境に関する方針 →P91		
中核	LA2.	2. 従業員の総離職数および離職率の年齢、性別および地域による内訳 該当する項目はありません			
<b>追加</b> LA3.		主要な業務ごとの、派遣社員またはアルバイト従業員には提供されないが正社員には 提供される福利	(1) ●雇用と処遇 →P91 (2) ●健康への配慮 →P94 (3) ●働きやすい職場 →P95		
側面	:雇用	関係			
中核	LA4.	団体交渉協定の対象となる従業員の割合	該当する項目はありません		
中核	LA5.	労働協約に定められているかどうかも含め、著しい業務変更に関する最低通知期間	該当する項目はありません		
側面	:労働	安全衛生			
追加	LA6.	労働安全衛生プログラムについての監視および助言を行う公式の労使合同安全衛生 委員会の対象となる総従業員の割合	該当する項目はありません		
中核	LA7.	地域別の、障害、業務上疾病、損失日数、欠勤の割合及び業務上の総死亡者数	該当する項目はありません		
中核	LA8.	深刻な疾病に関して、労働者その家族またはコミュニティのメンバーを支援するため に設けられている、教育、研修、カウンセリング、予防および危機管理プログラム	(1)●健康への配慮 →P94		
中核	LA9.	労働組合との正式合意に盛り込まれている安全衛生のテーマ	該当する項目はありません		
側面	:研修	および教育			
中核	LA10.	従業員のカテゴリー別の、従業員当たり年間平均研修時間	該当する項目はありません		
追加	LA11.	従業員の継続的な雇用適性を支え、キャリアの終了計画を支援する技能管理および 生涯学習のためのプログラム	(1)●人財育成 <b>→</b> P94		
追加	LA12.	定常的にパフォーマンスおよびキャリア開発のレビューを受けている従業員の割合 該当する項目はありません			
側面	: 多様	性と機会均等			
中核	LA13.	性別、年齢、マイノリティーグループおよびその他の多様性の指標に従った、統治体 (経営管理職)の構成およびカテゴリー別の従業員の内訳	該当する項目はありません		
中核	LA14.	従業員のカテゴリー別の、基本給与の男女比	該当する項目はありません		

### 5. マネジメントアプローチおよびパフォーマンス指標

#### 人梅

マネジメントアプローチに関する開示

記載する情報・指標	項目
	(1) ●人権の尊重 (→P92) (2) 大和ハウスグループ企業倫理綱領

#### 人権パフォーマンス指標

八惟	へ惟ハノオーマンへ指標				
側面:投資および調達の慣行					
中核	HR1.	人権条項を含むあるいは人権についての適正審査を受けた、重大な投資協定の割合とその総数	該当する項目はありません		
中核	HR2.	人権に関する適正審査を受けた、主なサプライヤー(供給者)および請負業者の割合ととられた措置	該当する項目はありません		
追加	HR3.	研修を受けた従業員の割合を含め、業務に関連する人権的側面に関わる方針および 手順に関する従業員研修の時間	(1)人権教育・啓発への取り組み →P92		
側面	側面:無差別				
中核	HR4.	差別事例の総件数ととられた措置	該当する項目はありません		
側面:結社の自由					
中核	HR5.	結社の自由および団体交渉の権利行使が著しいリスクにさらされるかもしれないと判断された業務と、児童労働の防止に貢献するための対策	該当する項目はありません		
側面:児童労働					
中核	HR6.	児童労働の事例に関して著しいリスクがあると判断された業務と、児童労働の防止に 貢献するための対策	(1)●人権の尊重 →P92		
側面:強制労働					
中核	HR7.	強制労働の事例に関して著しいリスクがあると判断された業務と、強制労働の防止に 貢献するための対策	(1)●人権の尊重 (→P92)		
側面:保安慣行					
追加	HR8.	業務に関連する人権の側面に関する組織の方針もしくは手順の研修を受けた保安要員の割合	(1) ●人権の尊重 <b>→P92</b>		
側面:先住民の権利					
追加	HR9.	先住民の権利に関係する違反事例の総件数ととられた措置	該当する項目はありません		

#### 社会

#### マネジメントアプローチに関する開示

1 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4				
		下記の社会側面を参照にして、マネジメントアプローチ項目に関する簡潔な開示を提供する	(1)大和ハウスグループ企業倫理綱領	
		・コミュニティ・不正行為・公共政策・非競争的な行動・コンプライアンス(法規制遵守)	(http://www.daiwahouse.co.jp/company/csr/)	

#### 社会パフォーマンス指標

側面	側面:コミュニティ			
中核	SO1.	参入、事業展開および撤退を含む、コミュニティに対する事業の影響を評価し、管理するためのプログラムと実務慣行の性質、適用範囲および有効性	該当する項目はありません	
側面	側面:不正行為			
中核	SO2.	不正行為に関するリスクの分析を行った事業単位の割合と総数	該当する項目はありません	
中核	SO3.	組織の不正行為対策の方針および手順に関する研修を受けた従業員の割合	(1) ■コンプライアンス、リスクマネジメント →P16	
中核	SO4.	不正行為事例に対応してとられた措置	該当する項目はありません	
側面:公共政策				
中核	SO5.	公共政策の位置づけおよび公共政策開発への参加およびロビー活動	該当する項目はありません	
追加	SO6.	政党、政治家および関連機関への国別の献金および現物での寄付の総額	該当する項目はありません	
側面	側面:非競争的な行動			
追加	SO7.	非競争的な行動、反トラストおよび独占的慣行に関する法的措置の事例の総件数とその結果	該当する項目はありません	
側面	側面:遵守			
中核	SO8.	法規制の違反に対する相当の罰金の金額および罰金以外の制裁措置の件数	該当する項目はありません	

#### 5. マネジメントアプローチおよびパフォーマンス指標

#### 製品責任

マネジメントアプローチに関する開示

記載する情報・指標	項目
下記の製品責任の側面を参照にして、マネジメントアプローチ項目に関する簡素でを提供する ・顧客の健康と安全 ・製品およびサービスのラベル表示 ・マーケティング・コミュニケーション ・顧客のプライバシー・コンプライアンス(法規制遵守)	製な開  ■建物の安全と長寿命化に向けて (1) ● [地震から建物を守る] ・P27 (2) ● [物理的劣化から建物を守る] ・P28 ■防犯に配慮した住まいと街づくり (3) 防犯に配慮した住まいづくり ・P30 (4) 防犯に配慮した街づくり ・P31 ■少子高齢化に向けた体制と施設づくり (5) フレンドリーデザイン ・P34 ■健康に配慮した住まいづくり (6) ●空気環境への配慮 ・P38 (7) ●健康管理支援への取り組み ・P40 (8) ●睡眠環境の向上に向けて ・P41 ●品質へのこだわり (9) 品質保証体制 ・P62 (10) 設計品質と施工品質(戸建住宅・賃貸住宅) ・P63 (11) 設計品質と施工品質(アション) ・P64 (12) 設計品質と施工品質(商業施設・業務施設) ・P65

#### 製品責任のパフォーマンス指標

側面:顧客の安全衛生					
中核	PR1.	製品およびサービスの安全衛生の影響について、改善のために評価が行われているライフサイクルのステージ、ならびにそのような手順の対象となる主要な製品およびサービスのカテゴリーの割合	該当する項目はありません		
追加	PR2.	製品およびサービスの安全衛生の影響に関する規制および自主規範に対する違反の件数	該当する項目はありません		
側面	側面:製品およびサービスのラベリング				
中核	PR3.	各種手順により必要とされている製品およびサービス情報の種類とこのような情報 要件の対象となる主要な製品およびサービスの割合	該当する項目はありません		
追加	PR4.	製品およびサービスの情報ならびにラベリングに関する規制および自主規範に対す る違反の件数を結果別に記載	該当する項目はありません		
追加	PR5.	顧客満足度を図る調査結果を含む、顧客満足に関する実務慣行	(1) CS理念、CS委員会 →P61 (2) CSR自己評価指標 2008年度実績 →P49		
側面	側面:マーケティング・コミュニケーション				
中核	PR6.	顧客満足度を図る調査結果を含むマーケティング・コミュニケーションに関する法律、基準および自主規範の遵守のためのプログラム	該当する項目はありません		
追加	PR7.	広告、宣伝および支援行為を含むマーケティング・コミュニケーションに関する規制 および自主規範に対する違反の件数を結果別に記載	該当する項目はありません		
側面	側面:顧客のプライバシー				
追加	PR8.	顧客のプライバシー侵害および顧客データの紛失に関する正当な根拠のあるクレー ムの総件数	該当する項目はありません		
側面	側面:遵守				
中核	PR9.	製品およびサービスの提供および使用に関する法規の違反に対する相当の罰金の金額	該当する項目はありません		

※マネジメントアプローチは、まとめました。